南満洲鉄道案内



南滿洲鐵道旅行案内



南滿洲鐵道旅行案内





南滿洲鐵道旅行案內目次

一、會社の概況 …………………………… 一
沿革、事業、線路、車輛、他線との連絡
一、本線 …………………………… 七
大連驛 …………………………… 七
市街、上下水道、埠頭、貿易、航路、電氣及瓦斯、沙河口工場、中央試驗所、官公署其他、病院、旅館、交通、
名勝舊蹟等……表忠碑……西公園……北公園……松公園……電氣遊園……大廣場……星ヶ浦……小平島……凌水寺……老虎灘……柳樹屯……娛樂機關其他
臭水子驛 …………………………… 三三
老龍頭砲臺、第一聯絡所
南關嶺驛 …………………………… 三四
名勝舊蹟等
大房身驛 …………………………… 三五
金州驛 …………………………… 三六
金州城、官公署其他、旅館、交通、
名勝舊蹟等……大和尙山……肖金山……佛爺洞……南山……三崎山
二十里臺驛 …………………………… 四〇
三十里堡驛 …………………………… 四〇
石河驛 …………………………… 四〇
普蘭店驛 …………………………… 四一
官公署其他、旅館……貔子窩
田家驛 …………………………… 四二

瓦房店驛……四二
官公署其他、旅館、炸子窰炭坑、復州城
王家驛……四四
甘泉寺及龍王廟
得利寺驛……四四
名勝舊蹟等……得利寺會戰……龍潭山
松樹驛……四五
萬家嶺驛……四六
許家屯驛……四六
九寨驛……四六
熊岳城驛……四七
官公署其他、名勝舊蹟等……熊岳城温泉……咸家の梨園……黄旗山……青龍山……望小山
蘆家屯驛……四九
沙崗驛……四九
蓋平驛……五〇
蓋平城、官公署其他、柞蠶
太平山驛……五一
大石橋驛……五二
官公署其他、旅館、名勝舊蹟等……迷鎮山……盤龍山……紅旗山
分水驛……五三
他山驛……五三
海城驛……五四
官公署其他、旅館、海城、名勝舊蹟等……析木城……缸瓦塞
南臺驛……五五
湯崗子驛……五五

千山
鞍山站驛……六〇
立山驛……六一
首山
馬伊屯驛……六一
遼陽驛……六三
城壁、鐵道附屬地市街、太子河碼頭
官公署其他、旅館、名勝舊蹟等……忠魂
碑……白塔公園……東京陵
張臺子驛……六六
尾明山及蛤蟆崗炭坑、名勝舊蹟等
黑英臺……皇姑墳……燕巢城
煙臺驛……六七
煙臺炭坑、官公署其他、名勝舊蹟等
石硐山……三塊石山
沙河驛……六九
名勝舊蹟等……萬寶山……十里河……黑
溝臺
蘇家屯驛……七〇
莫家堡、官公署其他
渾河驛……七〇
奉天驛……七一
城壁、鐵道附屬地市街、開埠地、京
奉鐵道瀋陽驛、官公署其他、病院、
旅館、交通、名勝舊蹟其他……奉天大
會戰……忠魂碑……宮殿……東陵……北
陵……其他……公園……小河沿……娛樂
機關其他
文官屯驛……八三
虎石臺驛……八三
新城子驛……八五

目次

新臺子驛……八四
得勝臺驛……八四
鐵嶺驛……八五
城壁、鐵道附屬地市街、螞蜂溝、法庫門、官公署其他、旅館、交通、名勝舊蹟其他……戰蹟……名勝舊蹟
平頂堡驛……八九
中固驛……八九
開原驛……九〇
城壁、鐵道附屬地市街、掏鹿及海龍城附近、通江口、官公署其他、旅館
戰蹟
金溝子驛……九三
馬仲河驛……九三
昌圖驛……九四
昌圖縣、官公署其他
滿井驛……九五
泉頭驛……九五
雙廟子驛……九六
桓勾子驛……九六
虻牛哨驛……九六
四平街驛……九七
四鄭鐵道、官公署其他、旅館
十家堡驛……九九
郭家店驛……九九
蔡家驛……九九
大楡樹驛……九九
公主嶺驛……九九
官公署其他、旅館、產業試驗場
劉房子驛……一〇二

范家屯驛……一〇二

田村中尉の碑

大屯驛……一〇三

孟家屯驛……一〇三

長春驛……一〇三

長春城、開埠地、鐵道附屬地市街、露寛城子、東清鐵道、哈爾賓市、吉長鐵道、吉林城、官公署其他、旅館、交通

一、旅順支線……一一三

臭水子驛……一一三

夏家河子驛……一一三

營城子驛……一一三

龍頭驛……一一四

旅順驛……一一五

旅順口、東港、西港、市街、砲臺戰蹟其他……白玉山……旅順要塞戰記念品陳列所……東鷄冠山北砲壘……望臺……二龍山堡壘……松樹山砲壘……二〇三高地……露國忠魂碑……水師營

公園其他、官公署其他、旅館、交通

名產

一、營口支線……一二四

營口驛……一二四

遼河、埠頭、舊市街、新市街、牛家屯、河北驛、航路、官公署其他、旅館、交通

一、撫順支線……一三〇

撫安驛……一三〇

孤家子驛……一三〇

深井子驛……一三〇

李石寨驛……一三一
撫順驛……一三一
市街、撫順炭坑、官公署其他、旅館
名勝舊蹟等……撫順城……永安橋……興
京古城……永陵
一、安奉線……一三七
奉天驛……一三九
渾河驛……一三九
撫安驛……一三九
陳相屯驛……一三九
姚千戸屯驛……一四〇
石橋子驛……一四一
火連寨驛……一四二
本溪湖驛……一四二
炭坑及製鐵、溪城鐵道、牛心臺炭坑
太子河鐵橋ミ碼頭、官公署其他、旅
館、名勝舊蹟等……觀音寺の龍洞……龍
王廟……兜山柱山……頴王墳
福金驛……一四六
福金嶺隧道
橋頭驛……一四六
釣魚臺、官公署其他、旅館
南坟驛……一四八
廟兒溝鐵鑛
下馬塘驛……一四九
摩天嶺
連山關驛……一五〇
旅館
祁家堡驛……一五〇
分水嶺

草河口驛……………………………………一五一
通遠堡驛……………………………………一五二
劉家河驛……………………………………一五二
秋木莊驛……………………………………一五二
鷄冠山驛……………………………………一五三
鷄冠山隧道
四臺子驛……………………………………一五三
鳳凰城驛……………………………………一五四
鳳凰山
高麗門驛……………………………………一五五
湯山城驛……………………………………一五五
五龍背驛……………………………………一五五
蛤蟆塘驛……………………………………一五六
沙河鎭驛……………………………………一五七
安東驛……………………………………一五七
舊市街、新市街、鴨綠江、鴨綠江鐵橋、江岸、朝鮮鐵道、稅關、官公署其他、鴨綠江採木公司、旅館、交通、元寶山ミ鎭江山及忠魂碑、新義州ミ統軍亭
一、旅行便覽……………………………………一六三
普通列車、急行列車、割引乘車賃金、乘車券通用期限、乘繼驛、列車內物品販賣、停車場構內食堂、鐵道辨當料、携帶品一時預り、手荷物、小荷物、手小荷物保管料、手小荷物配達、朝鮮聯絡旅客手荷物及携帶品通關、旅客及手荷物聯絡運輸、市內營業所、標準時、貨幣、度量衡、滿洲の氣候、日支兩曆對照、乘車賃金表

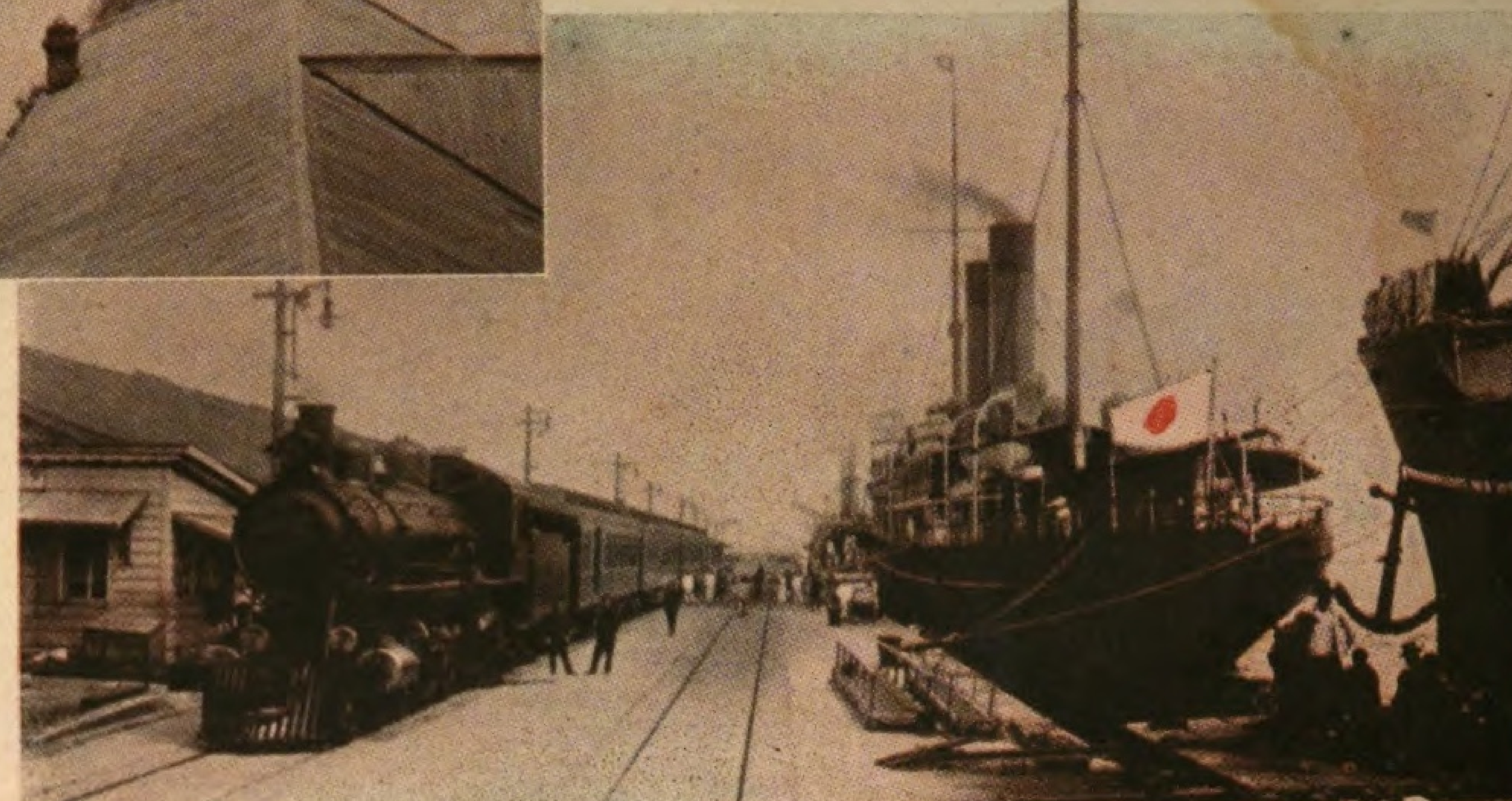
挿入地圖目次

一、南滿鐵道線路概略圖
一、大連市街
一、南山戰鬪略圖
一、千山略圖
一、遼陽戰鬪略圖
一、奉天市街圖
一、奉天戰鬪略圖
一、長春市街圖
一、旅順要塞戰略圖
一、營口市街圖
一、撫順市街圖
一、安東市街圖
一、鴨綠江戰鬪略圖

目次終

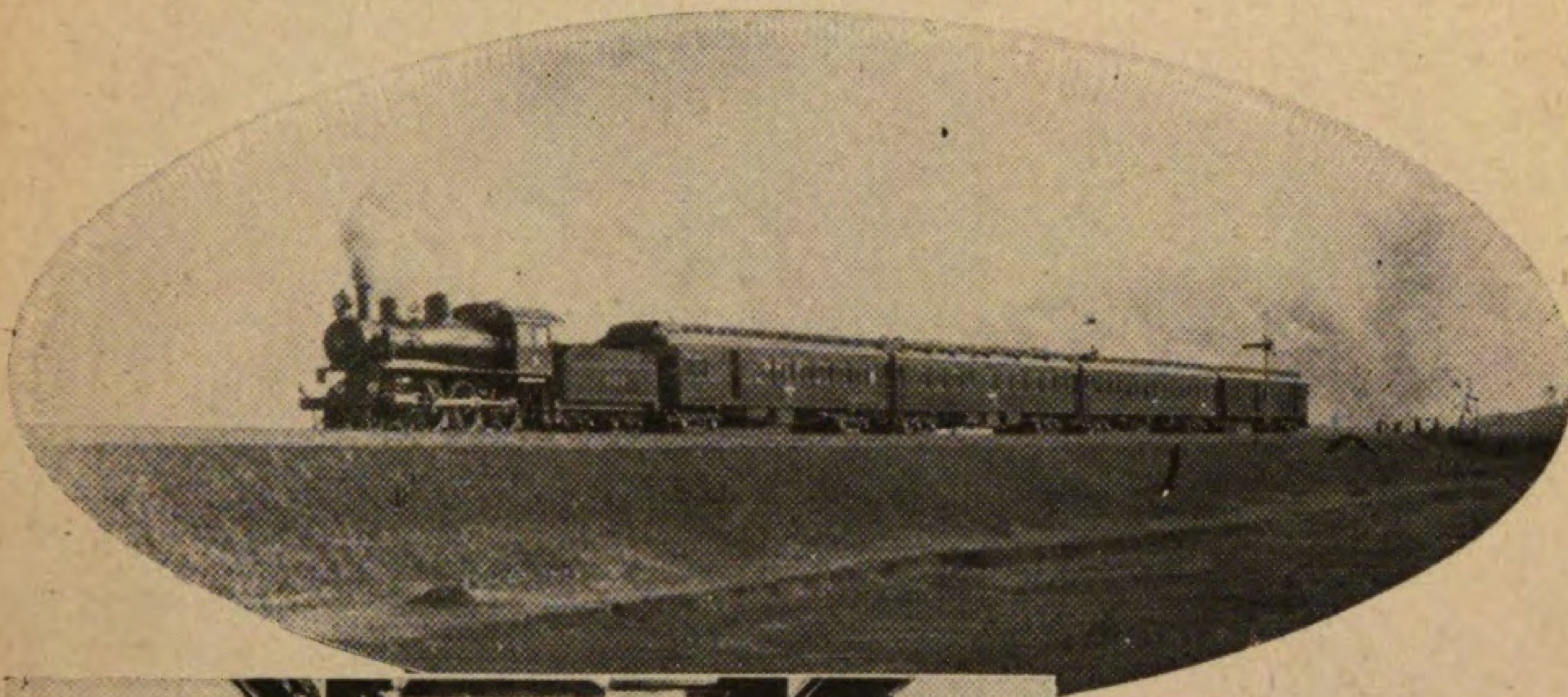


南滿洲鐵道株式會社



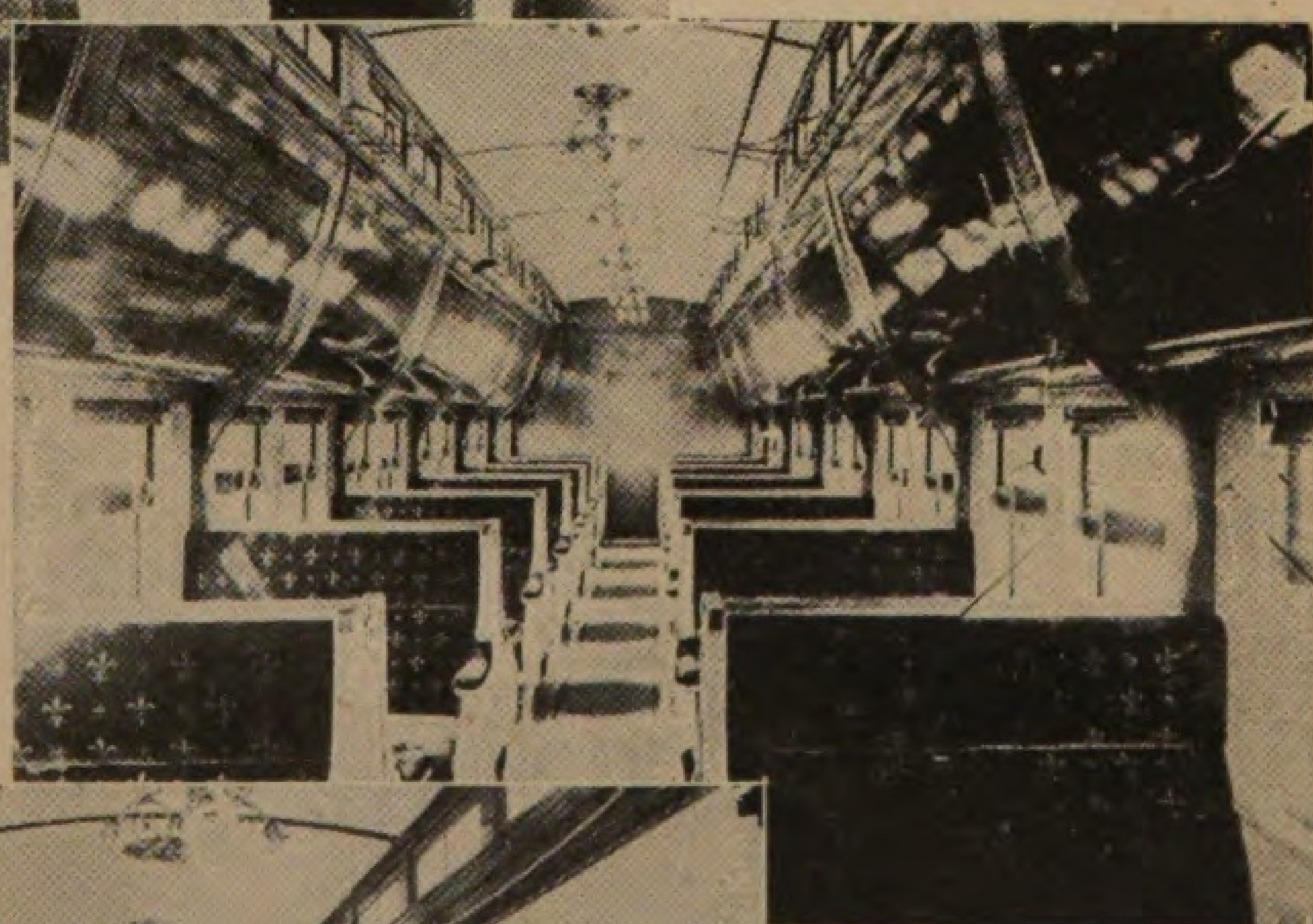
大連港ノ船車連絡

急行列車

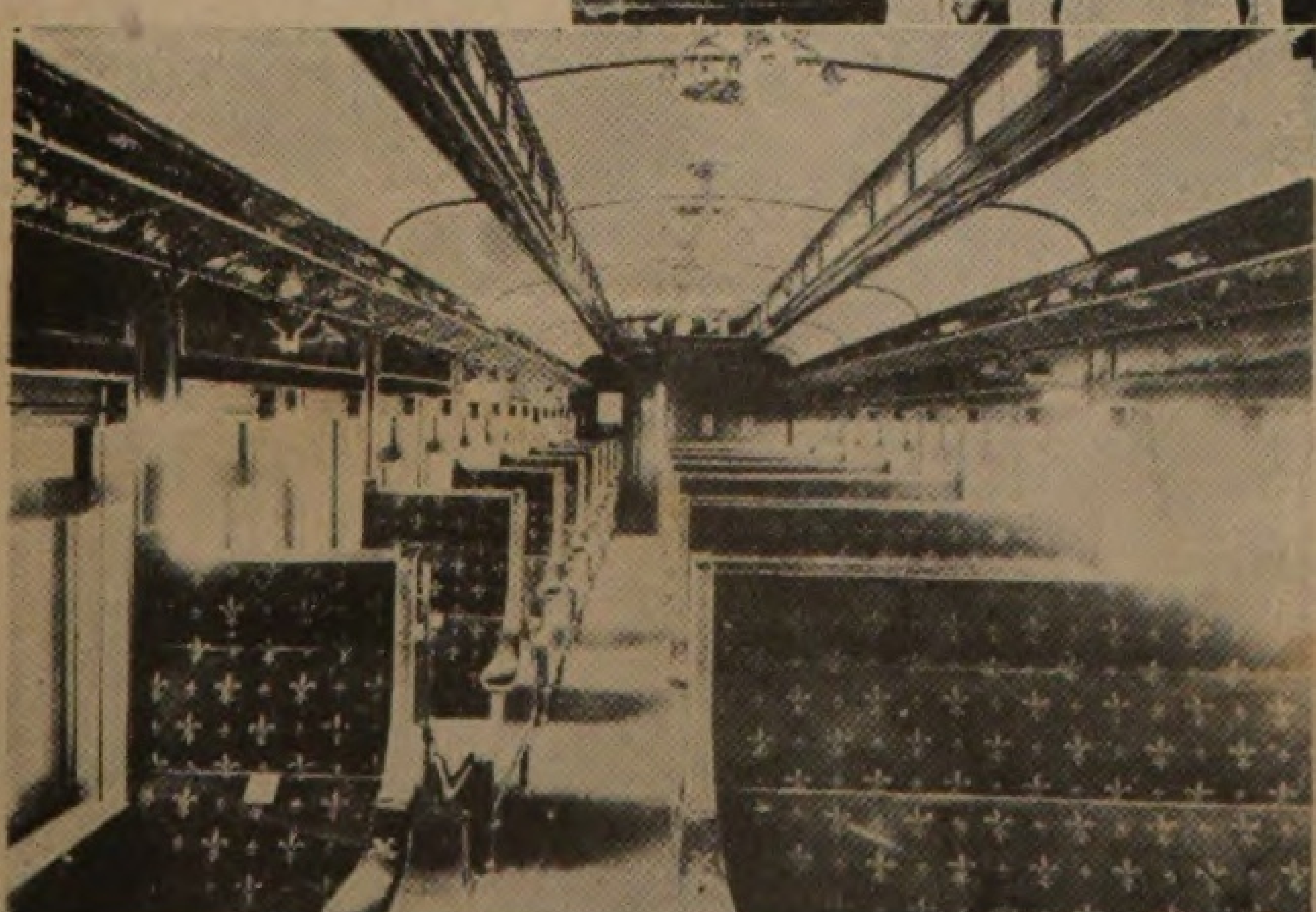




食堂車



寢臺車



一等客車

南滿洲鐵道旅行案内

會社の概況

【沿革】　當南滿洲鐵道株式會社は明治三十九年六月七日の勅令に基づき、創立したるものにして、初め同年七月設立委員八十名の任命あり、兒玉陸軍大將其委員長を仰付けられしが、間もなく同大將の薨去せらるゝに及び、寺內陸軍大臣其後を襲ひ、委員と共に前記勅令及政府命令に遵ひ、會社設立に關する事務を處理し、同年八月十七日定欵の認可を受け、九月十日より十月五日迄に第一回の株式募集を終了し、十一月一日に至り遞信大臣より會社設立の認可を得、同十二月七日設立の登記を了し、野戰鐵道提理部其他より財產の引繼を受け、本社を大連に支社を東京に置き、四十年四月一日より營業を開始したり、會社の資本金は二億圓にして之を株式百萬株(一株二百圓)に分ち、內一億圓は政府の出資に係り、滿洲に於ける既成の鐵道及之に附屬せる一切の財產竝撫順、煙臺の炭坑を以て之に充て、殘額一億圓は之を日淸兩國人より募集すべきものとし、其既に募集したる第一回募集株十萬株(二千萬圓)は全部の拂込を了し、第

二回募集株二十萬株(四千萬圓)は一株四十圓總額八百萬圓を拂込ましめたるを以て、現在の未募集株は三十萬株四千萬圓、未拂込金は三千二百萬圓なり、但し大正四年十二月一日一株の金額二百圓を金一百圓に分割せり

【事業】 會社は其主たる鐵道及炭坑業の外、大連上海間に一週二回の定期航海を開き、大連、奉天、長春、安東、撫順の五箇所に發電所を置きて電燈電力を供給し、大連及撫順に於ては電氣鐵道を經營し、又瓦斯を製造して燈熱及動力の需要に供し、大連埠頭にては著離船舶及貨物を取扱ひ、工場を沙河口に設けて車輛機械器具の製修を爲し傍ら社外註文品を引受け、旅館を大連、星ケ浦、旅順、奉天及長春に置き内外旅客の宿泊に便し、附屬地の土地建物は之を一般公衆に貸付け、中央試驗所にては殖産工業竝衞生上の試驗研究に兼ねて廣く試驗分析鑑定の依賴に應ずる等、各種の事業を經營す、其外公共的施設としては沿線鐵道附屬地樞要の場所に市街を設定し道路の築造、水道の敷設、排水溝の設備を初め公園、墓地等を設け、小學校及公學堂を置きて前者は日本人子弟を教育し後者は支那人子弟の養成に力め、外に大連に中等教育程度の南滿洲工業學校を、奉天に專門學校程度の南滿醫學堂を設置し、又大連其他沿線主要各地に醫院を設けて廣く公衆の治療を爲し其他諸般の衞生的施設及消防等の各事業に努む、以上の各種事業は今日に至りては建設殆ご完成し、且つ滿洲内地の開發こ大方各位の眷顧こに依り、

逐日好況を呈しつゝあるは會社の欣幸に堪へざる所なり

【線路】 本線は南大連驛より起り、奉天省を縦貫して遼陽、奉天、鐵嶺、開原等の都邑を過ぎ公主嶺に至り、此處に遼河、松花江流域の分水嶺を越え、進んで北吉林省の長春驛に達するものにして其延長四百三十七哩六分あり。支線には旅順線(臭水子驛より三十一哩六分)、營口線(大石橋驛より十三哩九分)、撫順線(蘇家屯驛より三十哩九分)、柳樹屯線(大房身驛より三哩六分但し運轉休止中)あり。外に炭坑専用鐵道として煙臺驛より摩腤山脚の坑口に達する約九哩の煙臺炭坑線あり、又長春驛より東折して陶家屯及石碑嶺の兩炭坑に通ずる約二十三哩の輕便鐵道線あり

以上の幹支線は日露戰役の結果、明治三十八年九月ポーツマス條約に基づき我帝國に歸屬せし線路にして、もと露國東清鐵道南部線の一部なりき、此東清鐵道南部線は西曆一八九八年三月露清間に締結せられたるパブロッフ條約に據り急設せし鐵道にして、一九〇二年一月には幹支線ともに完工せしが、爾後多く軍事輸送に使用せられ、未だ十分に一般貨物を取扱ふの運びに立ち到らざりしかば、内外の貨主其利便に浴することは能はざりき、既にして日露の國交破れ兩國の軍隊交〻鐵道を專用すること前後三年の久しきに及びたりしが、明治三十九年晩秋に至り、我野戰鐵道提理部所管の下に於て、從來の軍事輸送の傍ら公衆用として試みに客貨車を運轉し、

初めて地方的交通機關と爲れり、然れども兵馬倥偬の際軌幅五呎の露國式鐵道を三呎六吋に狹縮せしめたる狹軌鐵道は、積載力甚だ乏しく、爲めに沿道貨物に對し充分なる輸送を爲す能はざりしも、四十年四月會社が本鐵道を繼承するや、政府命令に基づき急ぎ軌幅を擴めて四呎八吋半となし、翌四十一年六月を以て早くも全線廣軌車輛を運轉し、且同時に蘇家屯大連間二百三十八哩の鐵道を複線と爲し、四十二年十月全部開通を見るに至れり、沿道の地勢概して平夷にして一の隧道なく、全線中の最急勾配は百分の一にして又曲線の最小半經は十五鎖なり、次に安奉線は日露戰役の初年八月軍需品輸送の爲め臨時鐵道大隊に依りて起工せられたる軍事專用の軌幅二呎六吋の輕便鐵道にして第一期工事安東下馬塘間百十哩は奉天會戰前に竣成し、第二期工事下馬塘奉天間七十八哩は撤兵期四箇月前即ち三十八年十二月に完成せり全長百八十八哩にして當時線路は最小半徑三十米突の曲線を描きて紆餘曲折し列車は最急勾配二十五分の一の急坂を上下し、就中荒地嶺、黑坑嶺、分水嶺、福金嶺の如き、蜿蜒として山雲に沒し、轣轆として懸崖を降るの狀、人をして覺えず肌に粟せしむ、咄嗟の間此の如き線路を建設せしは其功誠に偉なりと謂ふべし、されども延長百八十餘哩に亘る輕便鐵道は交通機關として遺憾の點甚だ多かりしかば會社は四十二年八月七日之が改築工事に著手し、四十四年十一月一日に至り全線廣軌車輛を通ずるに至れり、本鐵道の通ずる所其境多くは峰巒東西に連亘し河流縱横に縈

廻せるを以て或は隧道を鑿ちて險嶺を越え或は橋梁を架して川流を渉らざるべからず、其工事の難き世間稀に見る所なりとす、改築後線路の延長百七十哩八分全線中の最急勾配は八十分の一にして又曲線の最小半徑は十五鎖なり、橋梁の總數二百五箇所總延長二萬二千七百五十四呎にして其最も長きものを本溪湖附近太子河橋梁の一千七百八十六呎とす、隧道の總數は二十四箇所にして總延長二萬六千五百七十九呎あり其最長を福金嶺隧道の四千八百八十四呎とし鷄冠山隧道の三千二百五十四呎之に次ぐ

【車輛】 車輛は主として米國式に則り内外著名の會社に註文し或は當會社工場に於て製作す、大正五年三月末に於ける車輛數は左の如し

機關車	二百六十七輛
貨車	三千百八十六輛
客車	二百十三輛

客車乘載定員は百四人を最多とし十八人を最少とす、貨車は積載量三十噸と五十噸とあり

【他線との連絡】 當社線は大連港を控へて神戸、門司、仁川、上海諸港に連絡を有し、奉天驛に於ては京奉線に由りて天津、北京に到り更に南淸地方に達すべく、長春驛に於ては東、吉長鐵道に由りて吉林に到り、北、東淸鐵道に由りて哈爾賓に達し東すれば浦港に、西すれば後貝加

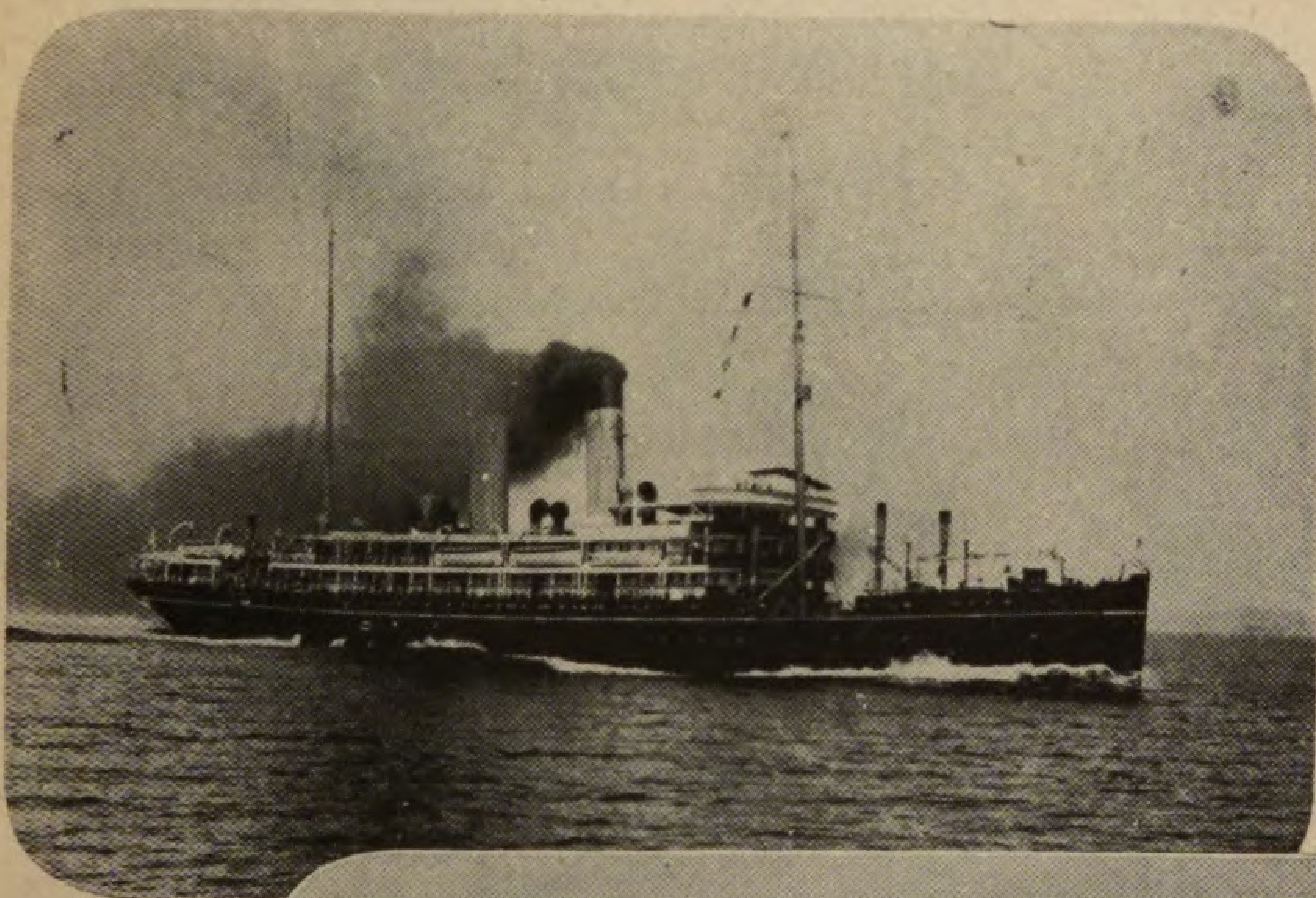
爾、西比利亞諸鐵道を經て歐露に達すべく、又安奉線を經るごきは朝鮮を貫きて釜山に達し海峽連絡船に乘じて母國に通ずるを得誠に世界交通の樞軸ご云ふべし、尙四平街鄭家屯間約五十哩の鐵道も近く之が開通を見、蒙古方面の開發に資すべし、是を以て當會社は夙に此等關係諸鐵道及汽船會社ご協定し、其連絡時刻は固より各重要驛港間に相互連絡券を發賣して旅客手小荷物連帶運輸の便を講じ居れり、されば旅客は船車乘換每に切符を購入し若くは手荷物を預け換ふるの煩なくして萬里の鵬程に上るを得、其連絡港驛其他は別項旅行便覽に詳かなり

旅行者の最も遺憾ごする所の一は、名勝舊蹟の栞なくして徒爾に山河を看過し去るにあり、大石橋の淤泥河も唐の太宗の命拾ひせし古跡なりご思へば奧床しき古の匂あり、寂しき水師營も日露兩將軍の會見せし開城談判地ご聞けば見捨て難き思ひあるべし、されば二千餘年の古き歷史を有する南滿洲の名勝古蹟に就き一々之を紹介する能はざれごも聊か記して旅の道しるべご爲さんご欲す



大連日本橋

榊丸



大連埠頭内大豆並豆粕ノ集散

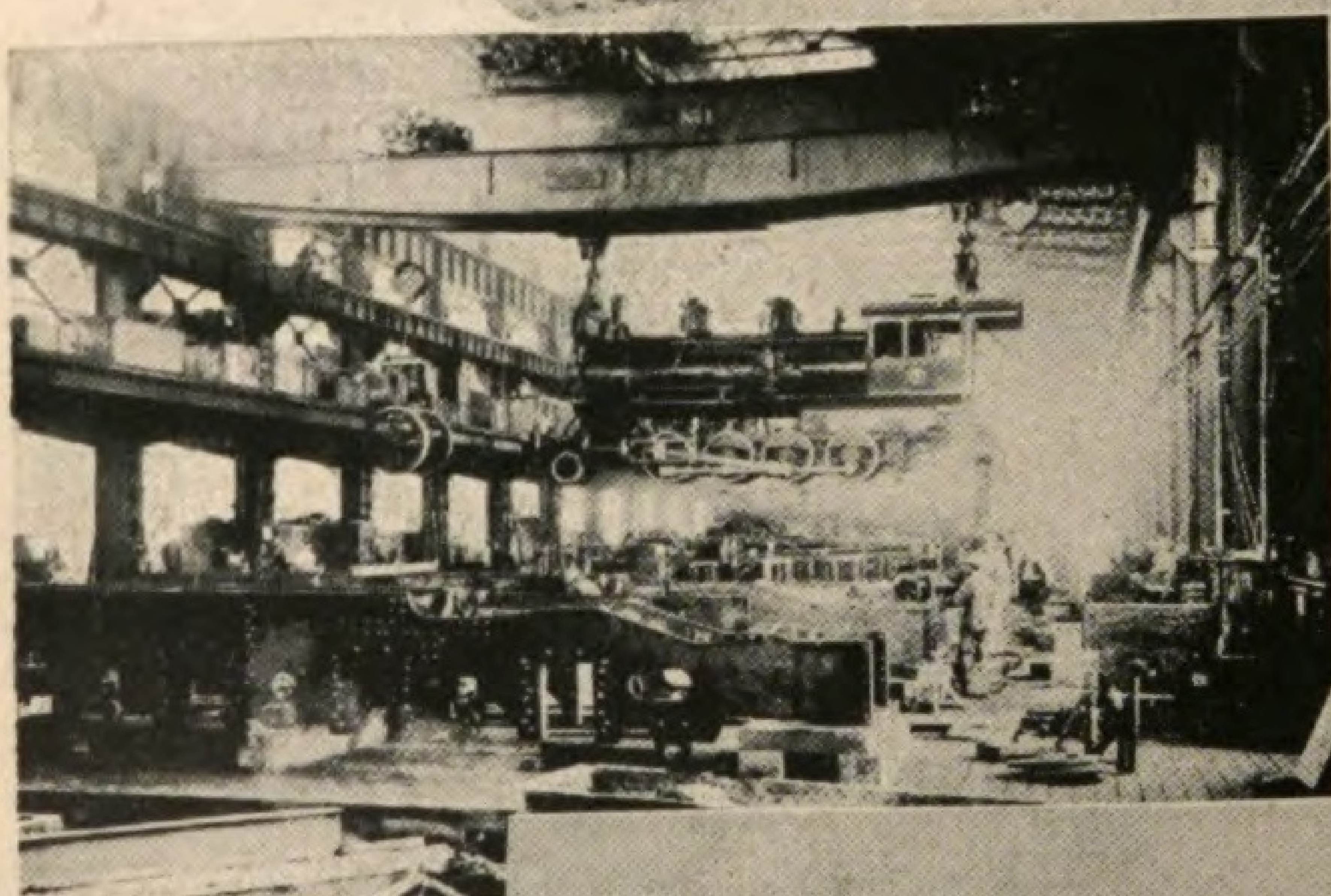




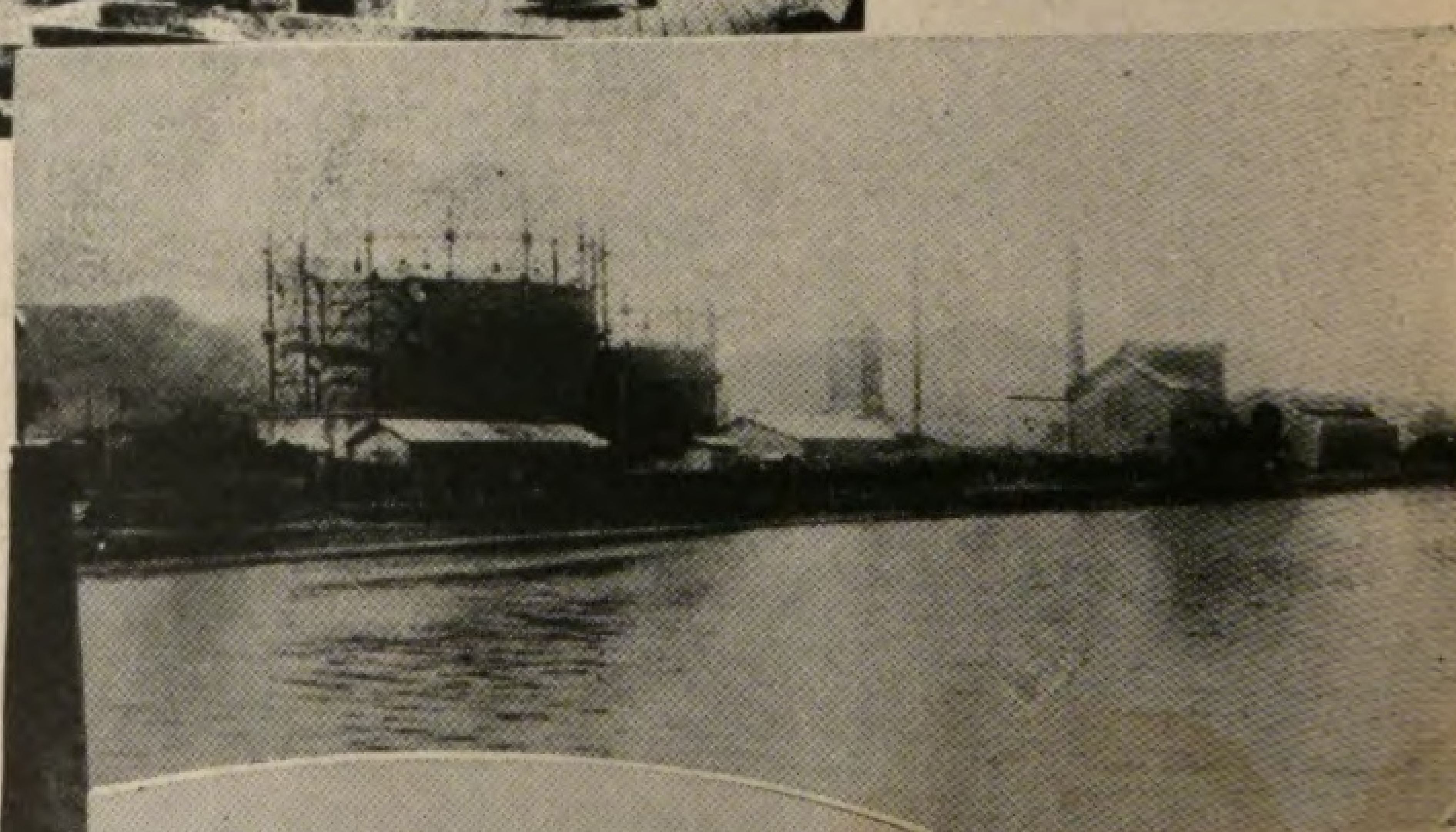
大連埠頭倉庫内大豆ノ堆積

沙河口滿鐵工場事務所

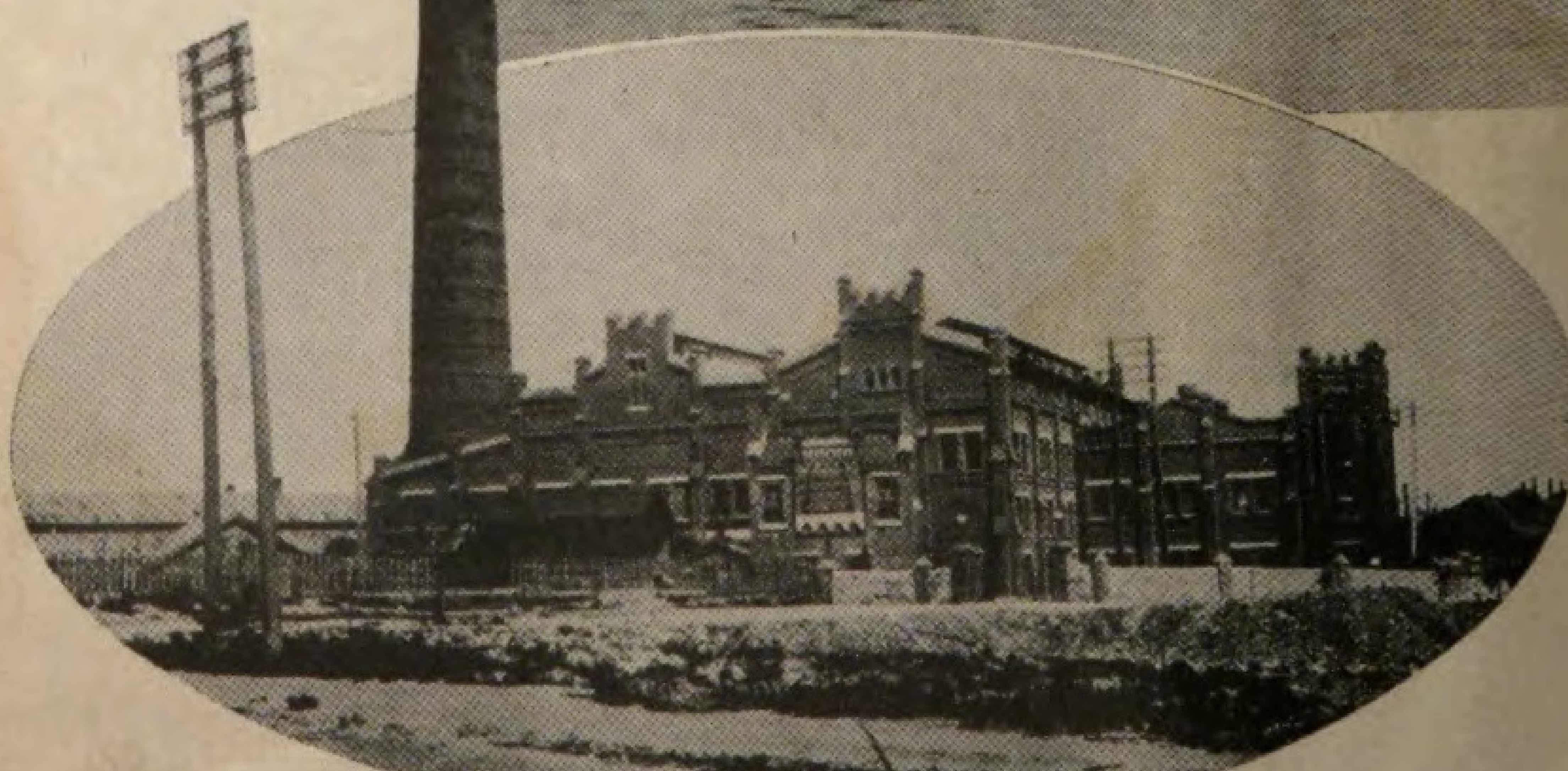




沙河口滿鐵工塲內部

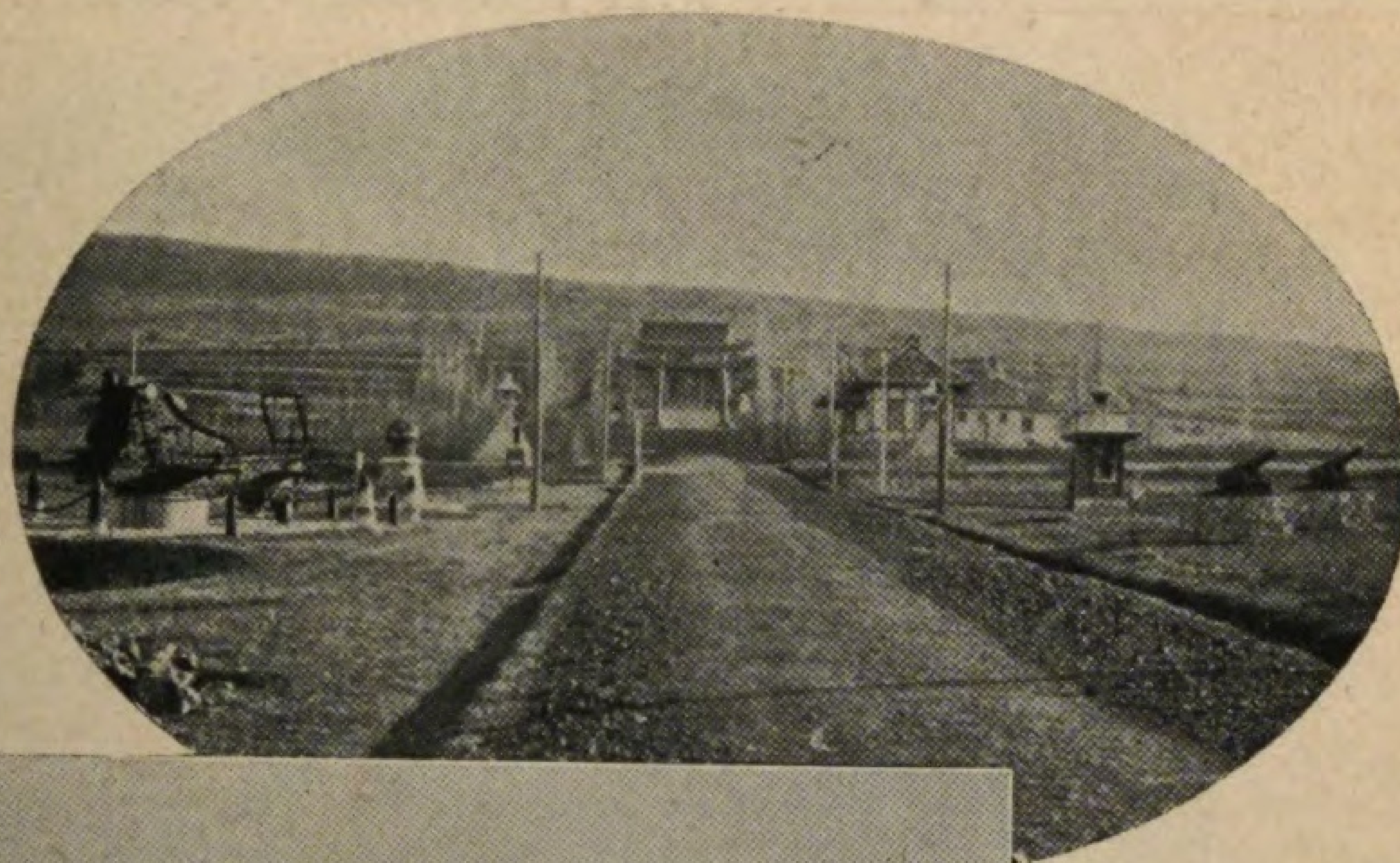


大連瓦斯作業所



大連電氣發電所

大連神社

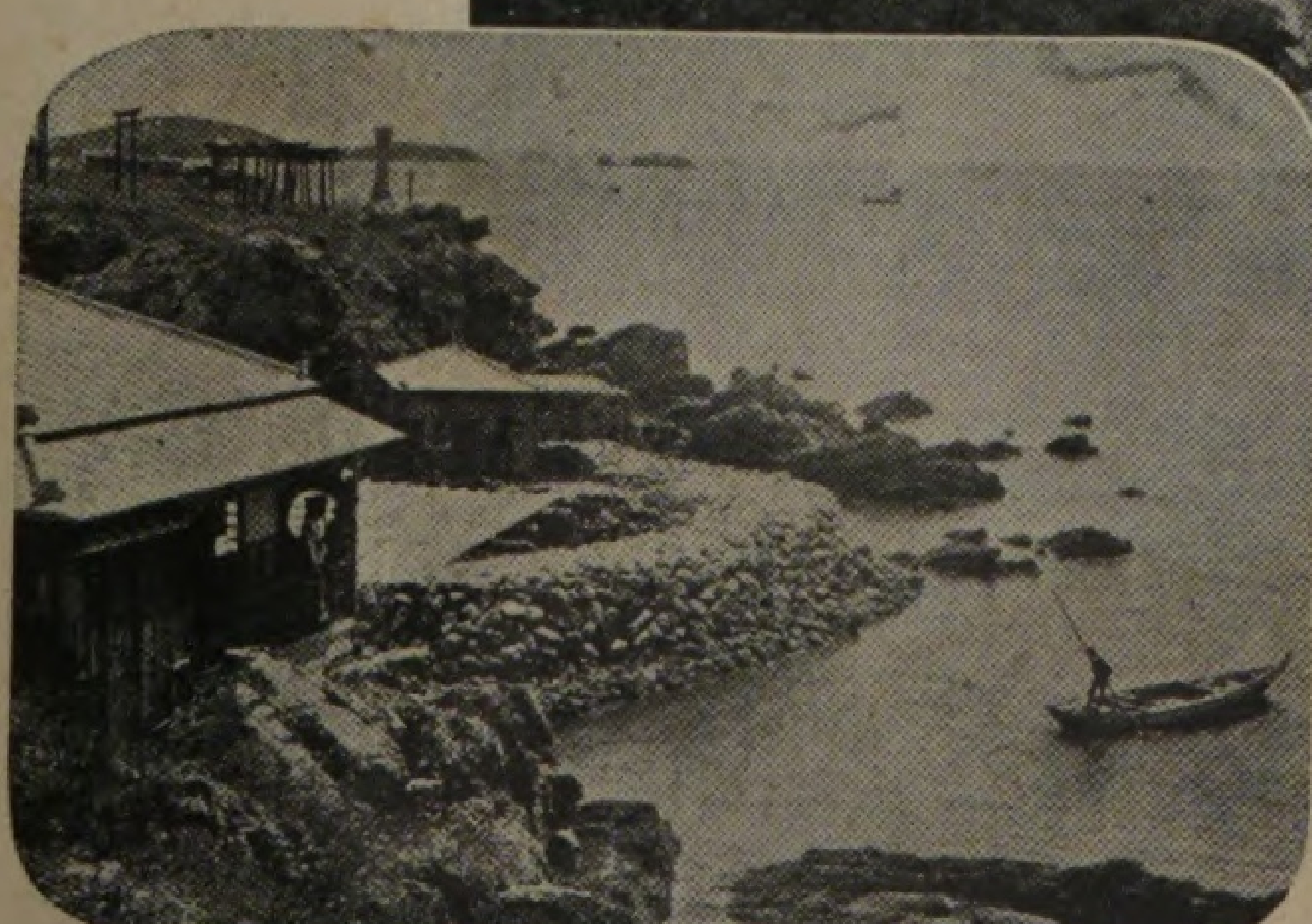




星ケ浦ホテル



大連電氣遊園地

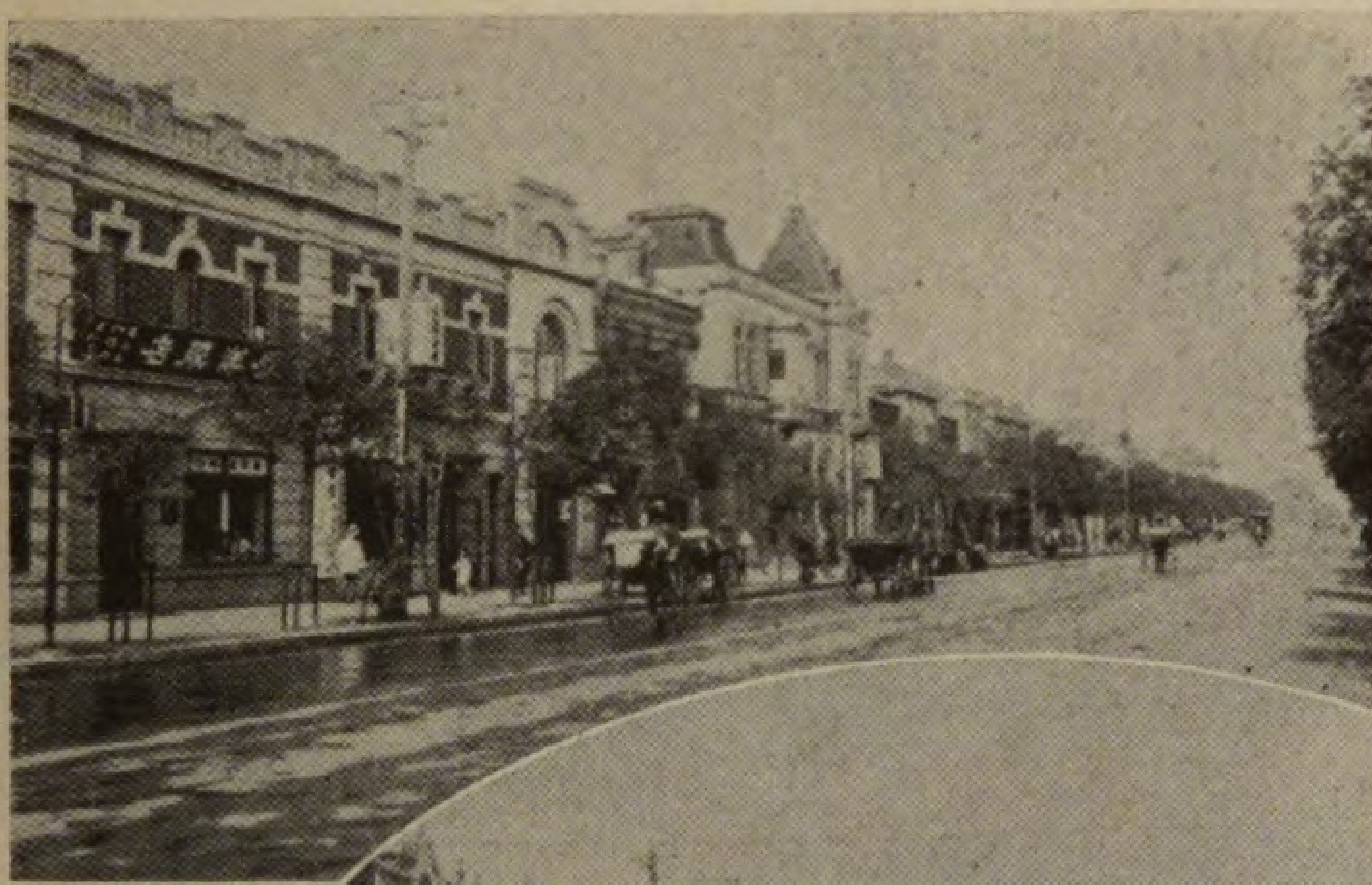


老虎灘



星ヶ浦全景

大連大山通





大連監部通

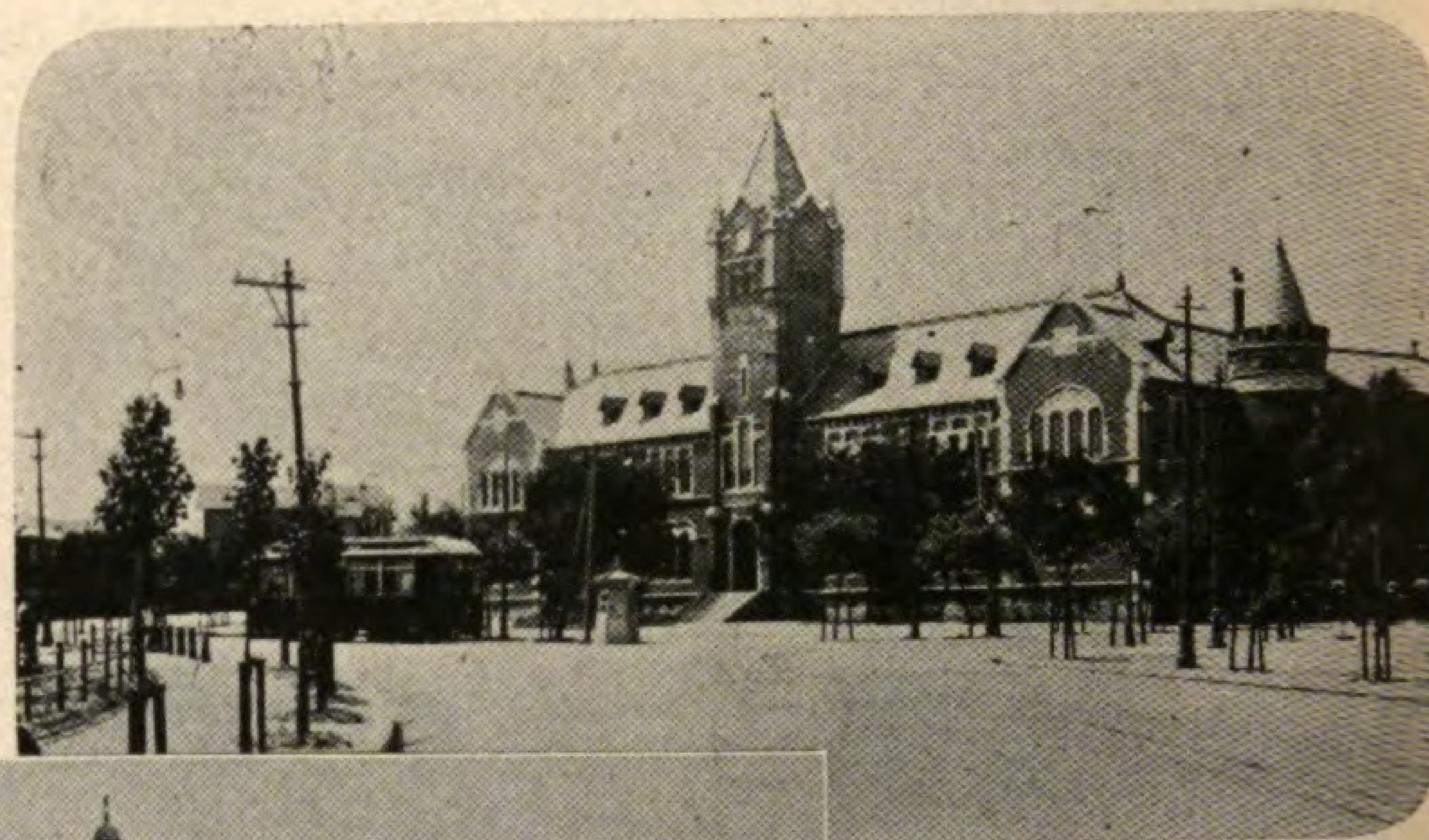


大連奥町支那劇場



大連歌舞技座

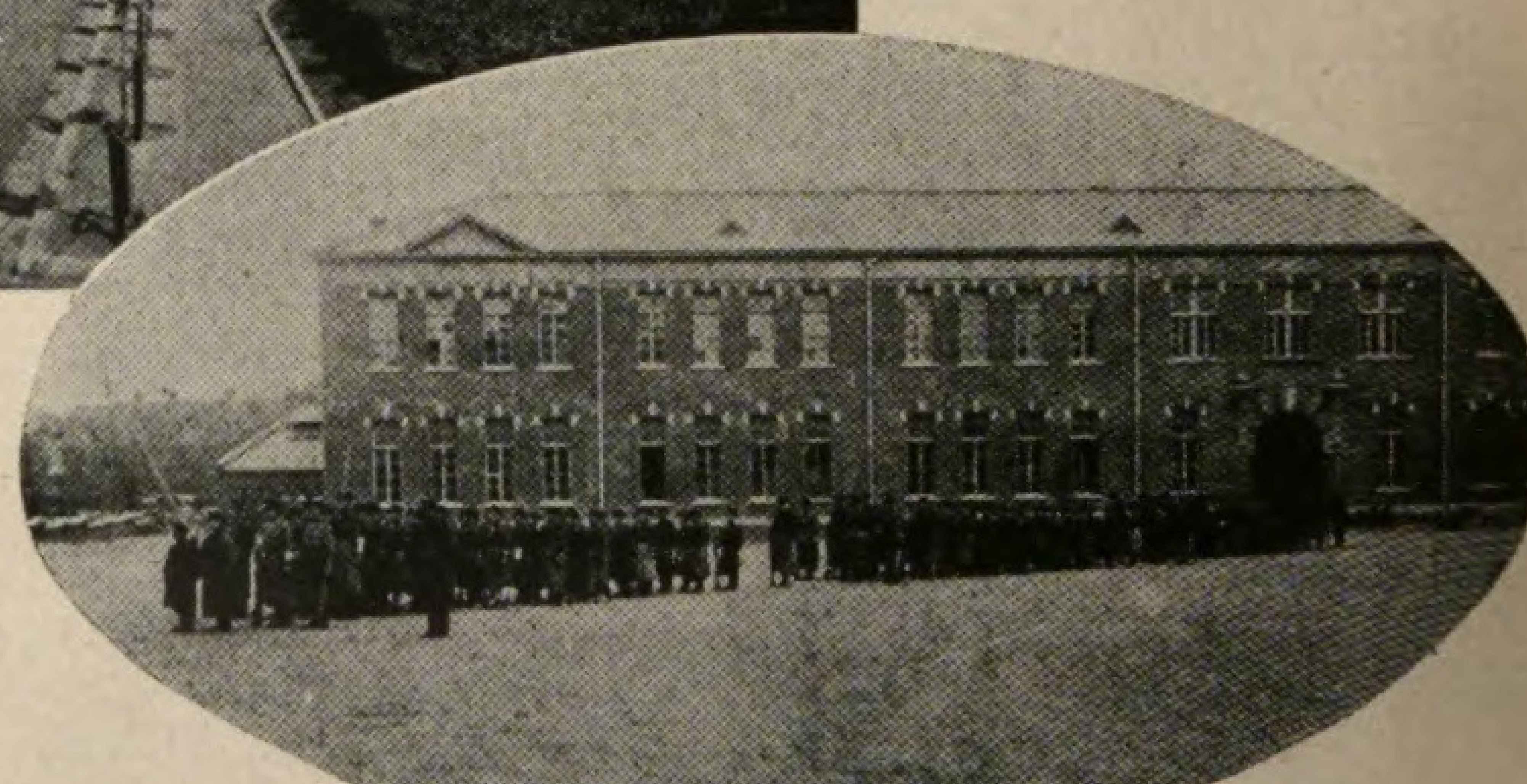
大連民政署

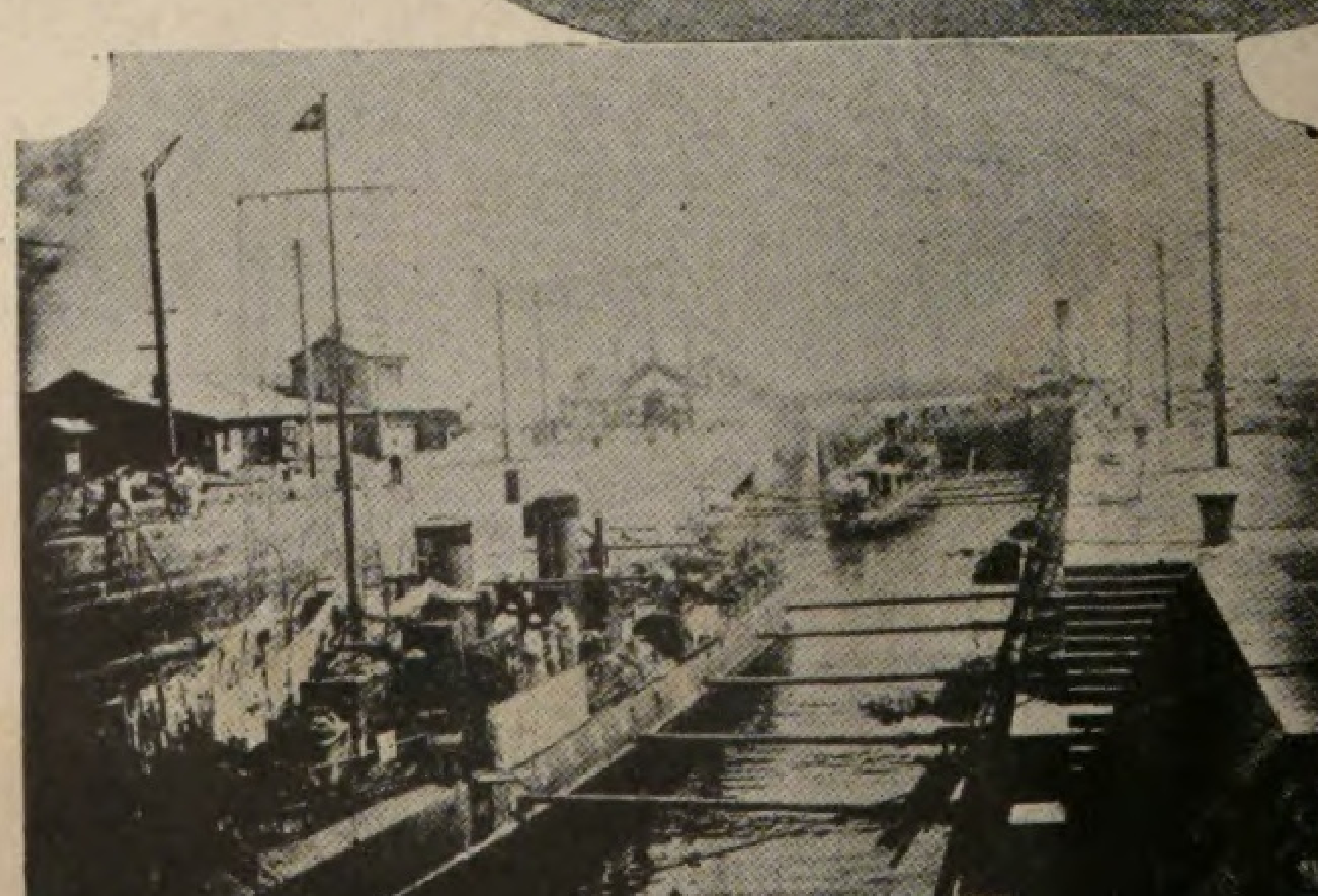


横濱正金銀行大連支店



大連第二尋常小學校



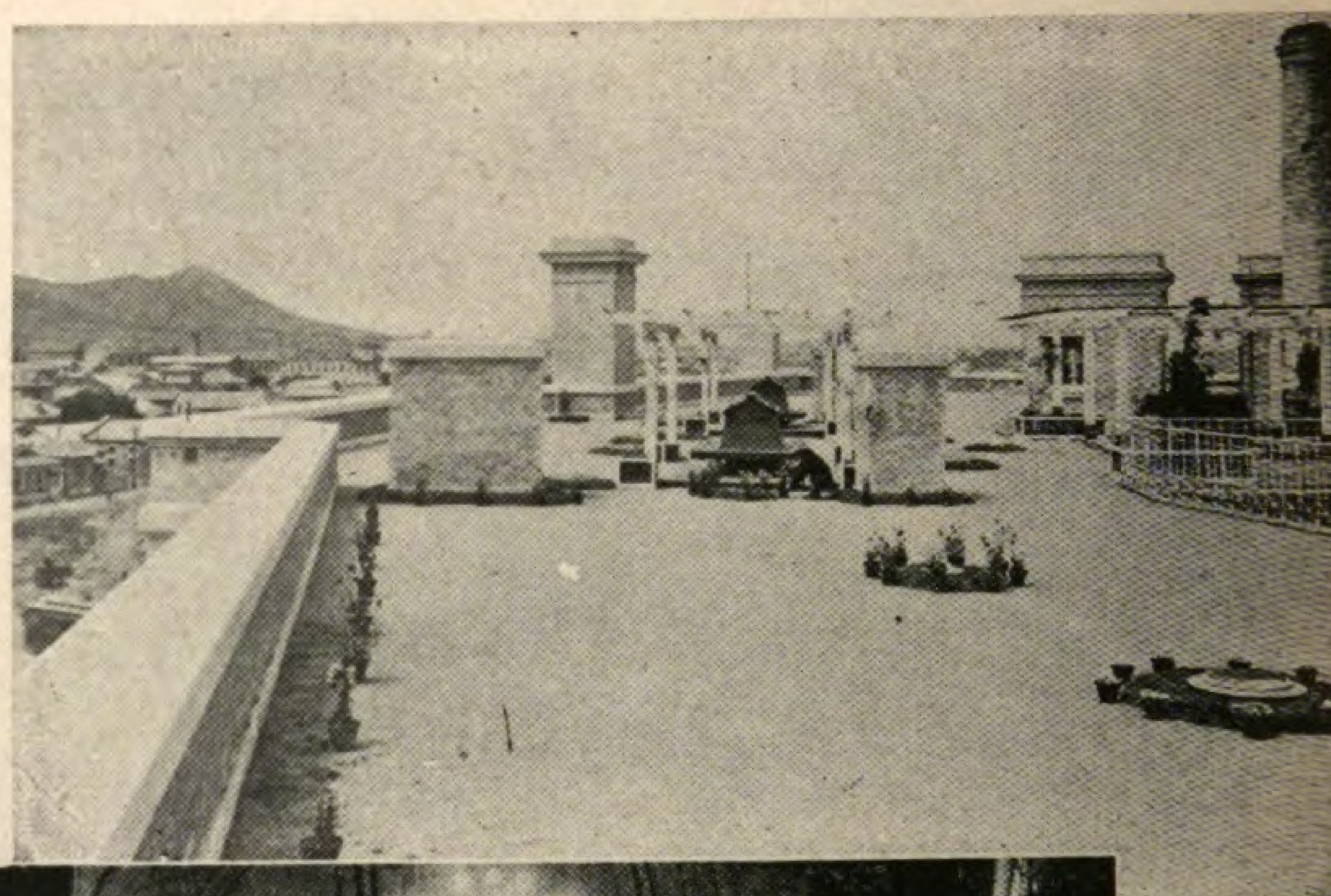


大連川崎造船所船渠



大連ヤマトホテル

大連ヤマトホテル屋上庭園





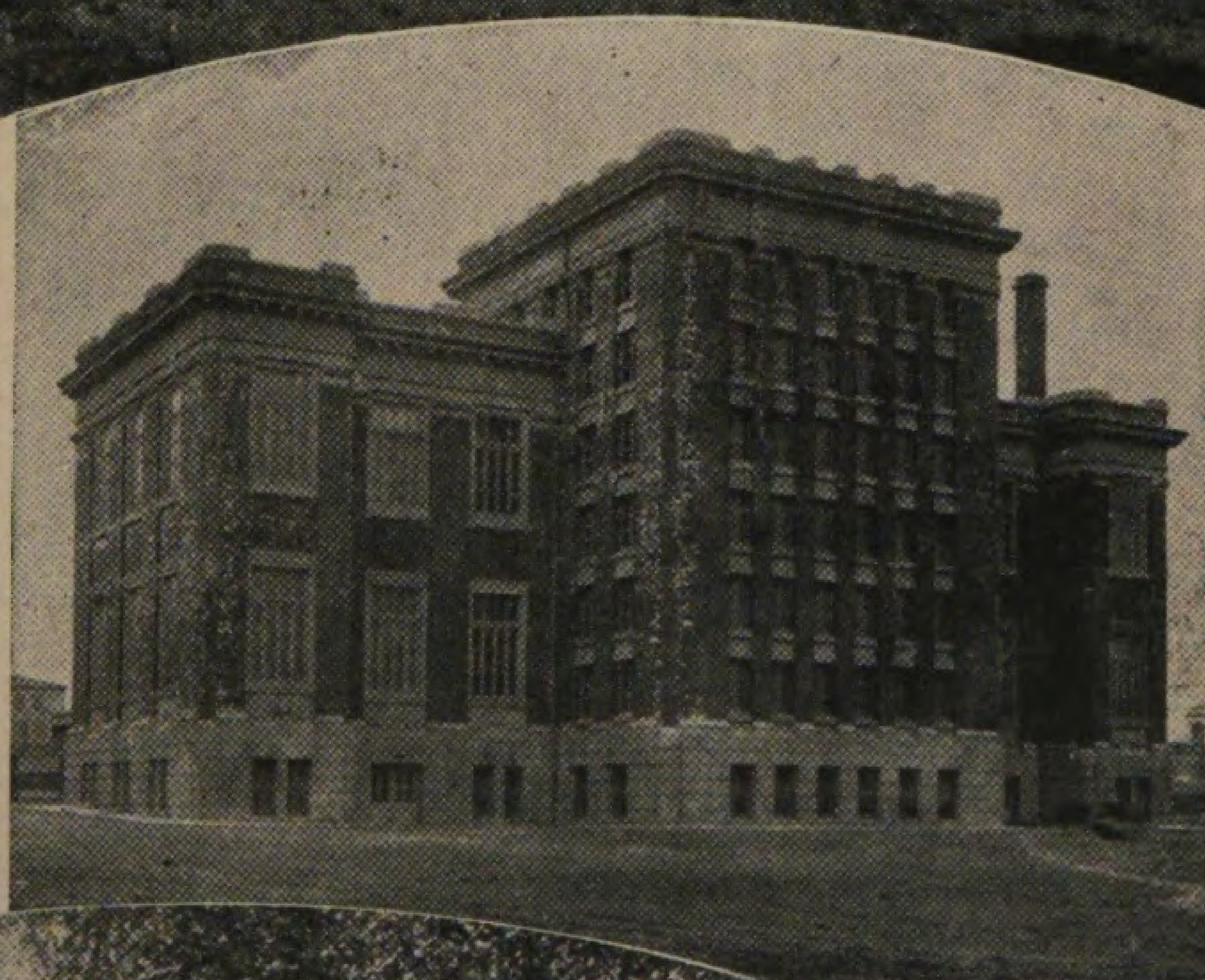
大連ヤマトホテル大食堂



大連ヤマトホテル普通食堂

西本願寺關東別院（大連）



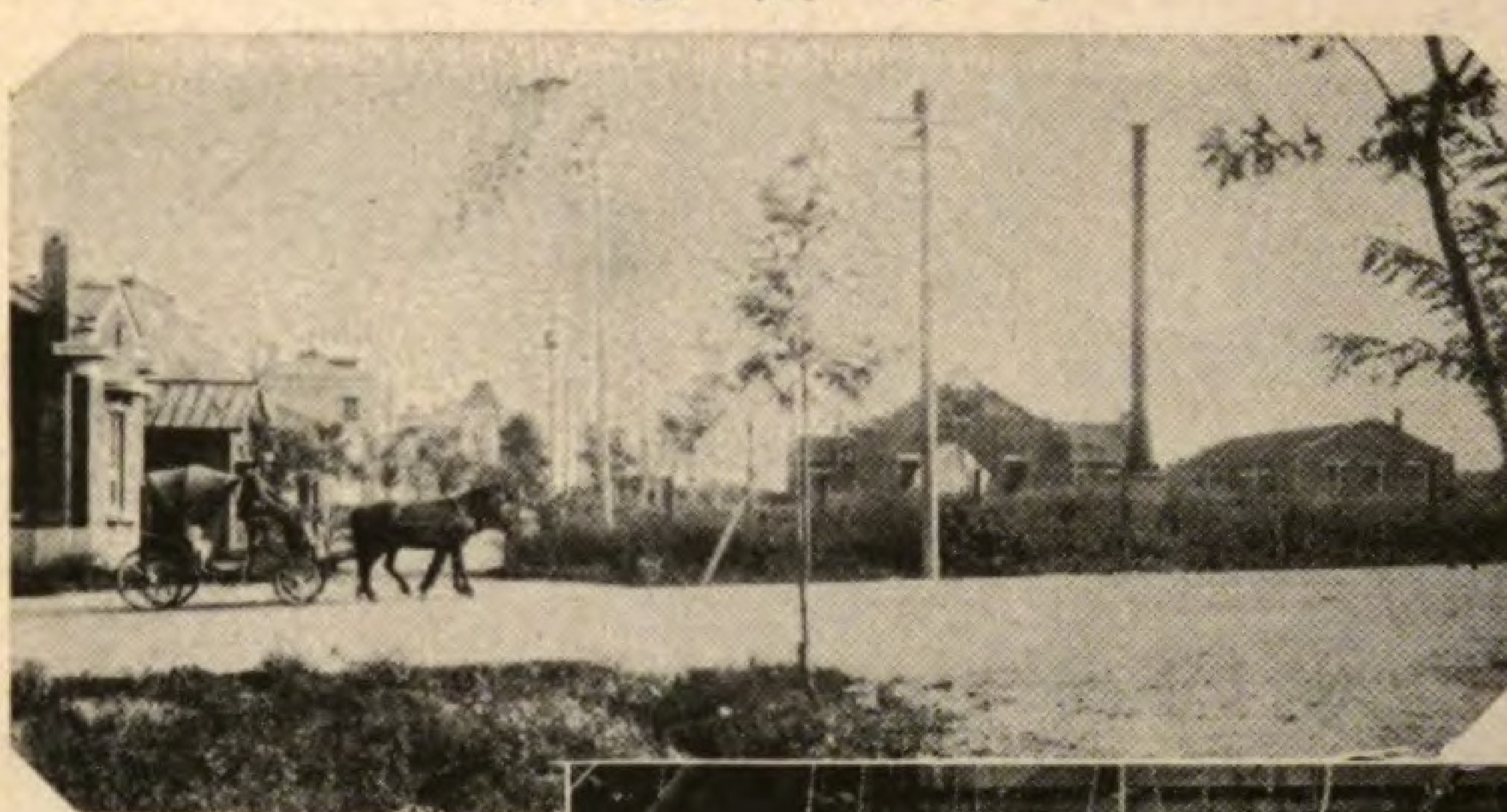


滿鐵圖書館（大連）



大連北公園

中央試驗所

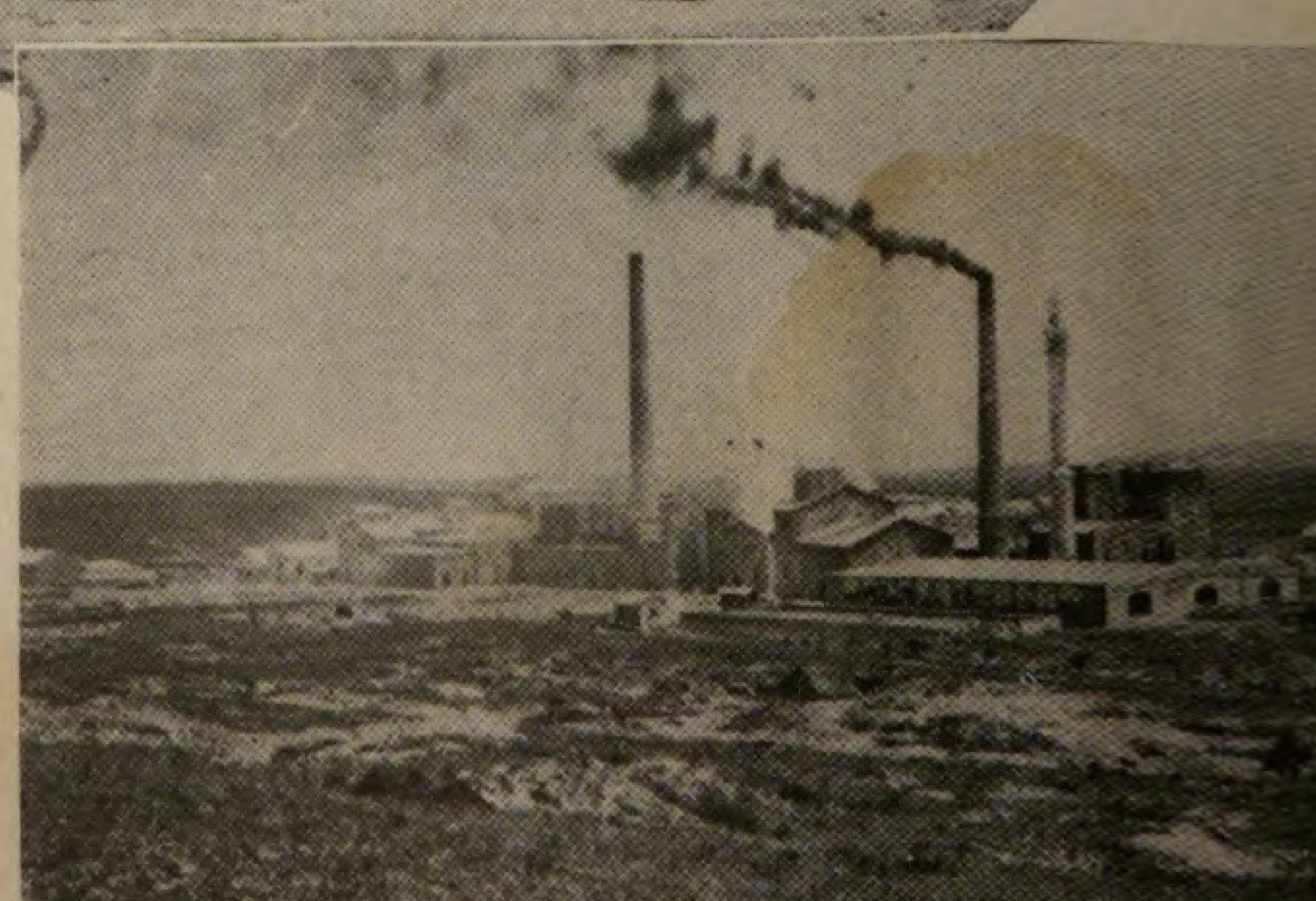




中央試驗所製絲
染織科柞蠶製絲



南滿洲工業學校



小野田セメント會社工場（臭水子）



園公西連大

本線

全長四百三十七哩六分

大連驛 Dairen.

公衆電報取扱驛、構內に飮食店あり酒菓、果物を備へ又販賣店には酒菓煙草新聞雜誌あり、赤帽の手荷物運搬夫あり一箇金三錢なり、驛内に携帶品一時預り所あり一箇一日金五錢又手小荷物の市内配達を爲す手荷物一箇八錢小荷物一箇五錢とす、構内に自働電話あり市内五錢柳樹屯及金州二十錢旅順二十五錢なり

大連市は遼東半島の南端に在り、東西二里南北二十七町面積約一方里半北は大連灣を隔てゝ遙に大黑山(俗に大和尙山と稱す)に對し、南は南山の丘陵を負ひて外海の風濤を避く、其位置は北緯三十八度五十六分東經百二十一度三十六分に在りて、門司を距ること六百十四浬、上海を距ること五百三十浬、芝罘を距ること八十七浬、灣內水深くして大艦巨舶直ちに岸壁に繫留するを得べし、往時は人煙稀少なる一小漁村にして、東、西青泥窪の兩村に分かれ交通不便の地域


なりしが、西暦一八六〇年英佛聯合軍の天津北京を攻撃せし當時英國艦隊の根據地たりヴィクトリヤ灣の名稱實に此時に起れり、降て直隷總督李鴻章の旅順大連を經營するに際し、軍事顧問獨逸人ハンネッケンは地を今の柳樹屯に相し、此處に鐵棧橋及要塞砲臺を新設し、以て金州半島の要港となす、大連灣の名稱汎く内外に知れ渡りたるは即ち此時代なりき、當時大連灣と稱せしは大嵩口、紅涯套、河套、潮水套、馬家套の諸灣を總稱せしものなれども、日清戰役の當時に在りては邦人擧けて大連港の名を柳樹屯に冠せしめ、次で日露戰爭の際には轉じてダリニーを大連と命名するに至りたり、更に溯つて大連の往時を稽ふるに、明の嘉靖年間倭寇に備ふるが爲め、木城驛を中心として靑泥窪、沙河口、平島臺に墩臺を設けたること遼志に記載しあり、今の所謂大連、大連富士、小平島は即ち當時倭寇臺を築設せし所なり、倭寇とは我が南北朝以降西海諸侯が八幡大菩薩の船旗を掲げて海外侵略を試みたる舟軍の總稱なれば、以て我邦人と大連附近との關係一朝に胚胎せしにあらざるを推知し得べし。一八九八年三月露國は淸國と旅大租借條約を締結し、其將に經營せんとする旅順軍港に對して一大商港を柳樹屯に建設せんとせしが、東淸鐵道會社技師ゲルベッチ灣内の水深を測量し、靑泥窪沿岸の最も埠頭に適合するの獻策を容れ、築港費一千萬留市街經營費八百八十萬留土地買收費三十八萬留其他百萬留合計二千十八萬留の豫算を以て先づ沙河口以東半島の耕地三千二百六十餘町歩を買收し、東青

泥窪海岸に築港工事を起し、黑咀子海角の一隅に官衙區を經營し、東西靑泥窪の全地區を擧げて一般市街地と豫定し、一九〇〇年を以て先づ官衙區の一角に建市せり、當時露國の意圖は此新市街を以て極東經營の一大根據地と爲すにありて之をダリニー(遠方)と命名し巨資を投し最大速力を以て市街の設計埠頭の築造竝官衙の建築等に從事し一九〇一年には南關嶺、大連間の支線鐵道を敷設し更に線路を埠頭に延長し或は船渠を造りて艦船修繕の便に供し、道路水道家屋の建設、發電所の設備等纔に第一期工事を終へ更に一千萬留を投じて第二期經營に著手せんとするに際して日露國交は斷絕せり、日本軍の此市街を占領したるは明治三十七年五月二十八日にして越えて翌三十八年二月十一日紀元節の佳節をトして初めて大連と命名せり、斯く滿洲軍總司令部の下に三十八年六月二十三日を以て關東州民政署の開設せらるゝに際し大連にも民政を施行せられ、後ち同年十月三十一日關東總督府の隷下に移されしが、翌三十九年九月一日關東都督府民政部の下に大連民政署を置き純然たる民政治下の都市となり、世界に向つて極東唯一の自由港として通商貿易のために開放し、次て大正四年十月一日大連市役所を設置し教育、衛生等に對し自治制度を認むるに至れり。爾來都督府は其經營半途にして廢殘に歸せし市街の復興に力め將來東洋に於ける一大商港たらしむるの目的を以て市區を擴大し、先づ十五萬圓を投じて鐵骨コンクリートの日本橋を築造し或は上下水道及道路工事を完成し、小崗子の支那

町を擴張して支那人を招徠し、水産試驗場及農事試驗場を開設し、重要物産取引所を設立し、無線電信局を大連灣口大孤山沙砣子に、檢疫所を寺兒溝村の海岸に設け、又滿鐵事業としては、半成の埠頭を增築し、ヤマトホテルを新築し、其他醫院、瓦斯製造場、電氣遊園、沙河口工場、埠頭倉庫、發電所、停車場、中央試驗所等を或は新築し或は增修し、交通機關として市內並星ヶ浦、老虎灘に通ずる電氣鐵道を布設し、上海定期航路を開き、又川崎造船所に露國より繼承したる船渠を貸與して經營せしむ、此間に於て市民も亦漸次に增加し、明治三十八年より大正三年に至る市街家屋建築費大連千四百餘萬圓小崗子五百餘萬圓計二千萬圓に達し居然として一大市街を現出し、露國經營時代には人口一萬八千餘人に過ぎざりし大連も、戶數二萬四千餘人口十一萬二千餘に達せる大都市となれり、市民膨脹の速力眞に異數なりと謂ふべし

【市街】 は重もに露治時代の設計を襲用せり、露治時代には今の所謂露西亞町を官衙區とし一般市街地は更に行政區、商業區、市民區に三大別し支那町に付きては未だ其區域を決定せざりき、而して道路工事は先づ官衙區より始め尋で商業區市民區に及ぼしたり、今の監部通、大山通、伊勢町、信濃町、浪速町、奧町等は即ち是なり、其設計は直徑百露間(サーゼン)(一露間は我七尺强)の圓形大廣場を市街の中心として此廣場よりモスコー大街、サムソノ大街、サハロフ大街、アレキセーフ大街等を放線形に支出し之を經として多くの小街を緯織し、蜘網の如く市街を設計





せり、日本軍の此市街を占領するや、放線形の大街には當時の將軍若くは軍衙の名を命じ其他の街路には母國の國名を以てせり、即ちモスコー大街には山縣通、サムソノ大街には奥町、アレキセーフ大街には大山通、キイエフ大街には監部通、寺内通等の名を附し、其他の市街には山城町、伊勢町、信濃町、越後町、紀伊町、隱岐町、淡路町等の國名若くは東公園町、敷島町、浪速町、逢阪町等の雅名を以てせり、支那市街たる小崗子は露治以前に於て北崗子、西崗子等の別名ありしが、何時しか小崗子と命名せられたり、故に支那人等は今仍ほ西崗子と言ひ傳ふるもの多し、小崗子の町名は他の支那市街に模倣し吉祥の文字を用ひて、得勝街、久壽街、永樂街等の名を命じたり、此地輓近長足の進歩をなし殊に油坊を業とするもの多し、西北の公園は露治時代の名稱を襲用し又ダリニー時代の兵營區は伏見臺と改稱し今は民政署及滿鐵會社の住宅區となれり、蓋し此高地に屹立せる中央試驗所の建物は、大連占領の當時暫し伏見宮貞愛親王殿下の御座所となりしに因れりと云ふ、道路は歩道、車道に區別し路面の築造は歩道は凡てコンクリート方塊板を敷き詰め、車道はマカダム式鋪礫道とし、其上面にコールタールを撒塗せるを以て、其完備せる稀に見る處なり、殊に歩道車道の間に排水側溝を設け歩道の一部に並木として白楊、アカシヤ等を植栽し市街の美觀と衛生とを保持しつゝあり

【上下水道】 上下水道は都督府の官營事業にして露治時代の設計に從ひ、水源地は北沙河口に

在り貯水池は伏見臺に設けらる、又下水の排出口は雨水は直ちに海岸に放流するも汚水は鐵管によりて遠く海岸を距る三百間の地點に導き最大干潮面以下二尺の處に放出する等衛生上の設備最も完成せり

【埠頭】 大連埠頭は東清鐵道會社が無慮一千萬留を投じて造築したるものにして規模の大なること東洋稀に見る所なり、其第二埠頭は露治時代に於て完成し、海中に突出すること一千九百六十尺、幅三百五十八尺其左右の水深は約二十尺乃至三十尺にして優に一萬噸以上の巨船を横付けにするを得べし、第二埠頭の東に當り此と並行するものを第一埠頭とす、第一埠頭はもと露國の築造したる半成工事を增築したるものにして其長さは第二埠頭と同じく一千九百六十尺、其岸壁北部を繫船用とし東部岸壁に沿ひ約十萬坪の埋立を爲し、埠頭設備並石炭貯藏其他用と爲す、第一第二兩埠頭の中間を中央埠頭と稱し、長さ一千二百二十五尺あり、然るに入港船舶は年々急速に增加しつゝあるが故に新に第三埠頭を築造することゝなり、第二埠頭の西方に九百尺を距て殆んど之と平行して長さ二千尺幅四百尺の築造工事に著手し大正八年度に完成の豫定なり、又防波堤には東防波堤、西北防波堤の二あり約一百萬坪の海面を抱擁す、東防波堤は第一埠頭の北端を起點として北東に向ひ延長一千二百餘尺、西北防波堤は東防波堤の終端より港口一千二百尺を隔てゝ西北西に向ひ濱町海岸に至る總延長一萬二千五百尺にして、其港口

に南北二基の燈臺ありて南部は白色、北部は紅色、光達何れも八浬なりこす、尚灣口南三山島に光達二十三浬なる回轉式燈臺こ、警霧報器あり、其外露西亞町海岸に戎克埠頭を設け、港外第一埠頭の東方には石油棧橋及危險物倉庫あり、埠頭構内には倉庫三十七棟を建築し約十七八萬噸の貨物を收容するに足る、其構内に保管する貨物には會社の費用を以て寄託者の委任を受けず火災保險に附し一般貨主の利益を保護す、埠頭には埠頭事務所ありて著離船舶の取扱及輸出入貨物の荷扱を爲す、今其著離船舶隻數及輸出入貨物噸數を示せば

	著離船舶隻數	輸出貨物	輸入貨物
四十一年	二、七九五隻	七五八、〇五六噸	三一二、〇七五噸
四十二年	二、七四八	一、〇八九、五一八	二七七、〇八〇
四十三年	三、一四八	一、〇七五、五七六	四〇九、一四三
四十四年	三、五〇六	一、〇〇八、三九七	三九九、五七一
大正元年	三、九三六	一、五〇九、五一九	四六八、三六八
同二年	四、一六〇	一、八〇九、五二七	五五一、二三九
同三年	四、五五九	二、一八六、八二六	四八一、五〇四
同四年	四、〇一九	一、五七一、四二八	五七三、九九六

又來往旅客の便を圖り埠頭事務所直營の手荷物取扱所を設け左記料金を以て旅客手荷物の構內運搬及市內配達を取扱ふ、上陸船客にして直ちに汽車に乘らんとするときは申込次第手荷物は發車前に停車場へ配達す

一、旅行用手荷物構內運搬		一箇	金三錢
一、其他手荷物	五十斤未滿	一箇	金五錢
一、貴重品運搬	金一千圓以內	一箇	金三十錢
一、市內配達料	五十斤未滿	一箇	金五錢
一、停車場留置配達	同	一箇	金十錢
一、保管料	一日每に	一箇	金二錢

【貿易】 大連港の貿易は輸入品に於ては綿糸布を第一として麥粉、金屬及金物、米類等之に次ぎ、輸出品は豆粕、大豆、豆油等とす、例年此等特產物の輸出價額は全輸出價額の約七割を占む、明治四十一年以降每年の輸出入價額は戎克貿易をも合せて左の如し

	輸出	輸入	計
明治四十一年	三〇、四二二、五九七円	二八、五〇九、三九三円	五八、九三一、九九〇円
同　四十二年	四一、二一五、一八二	二五、五一八、〇四五	六六、七三三、二二七

同 四十三年	三九、九四三、一七九	三二、一一八、九七六	七二、〇六二、一五五
同 四十四年	四九、六六〇、九五二	四二、〇九三、八三七	九一、七五四、七八九
大正元年	四五、五四八、二六九	四八、六三三、一九九	九四、一八一、四六八
同 二年	六〇、三九一、三八六	五一、一七二、九八七	一一一、五六四、三七三
同 三年	六八、七二〇、四四二	五二、〇六七、七六八	一二〇、七八八、二一〇
同 四年	七八、九三八、五七四	五七、四一九、四六五	一三六、三五八、〇三九

【航路】 大連と各港との海上距離左の如し

	浬
門司	614
神戸	852
大阪	859
四日市	939
横濱	1,194
函館	1,225
長崎	580
鎮南浦	185
仁川	285
木浦	568
釜山	540
基隆	860
安東	176
旅順	30
牛莊	186
芝罘	87
天津	249
威海衛	92
青島	235
上海	530
香港	1,269
新嘉坡	2,615
桑港	5,494
浦鹽斯德	1,050

大連他港間の定期航路左の如し

大阪商船株式會社

一、大阪—大連線　門司、神戸、大阪　但し二週に一回宇品へ寄港す　毎週二回（大連出帆豫定日、木曜日午前十時）

本線

使用船　嘉義丸（二、五〇九噸）　臺南丸（三、三一一噸）
臺中丸（三、三一九噸）　はるぴん丸（五、七〇〇噸）

各船無線電信局の設置あり

船客運賃（大連より）

等級		門司	宇品	神戸	大阪
一等	片道	三六、〇円	三九、〇円	四二、〇円	四二、〇円
	往復	六一、二	六六、三	七一、四	七一、四
二等	片道	二〇、〇	二二、〇	二四、〇	二四、〇
	往復	三四、〇	三七、四	四〇、八	四〇、八
三等	片道	一〇、〇	一一、〇	一二、〇	一二、〇
	往復	一七、〇	一八、七	二〇、四	二〇、四

はるぴん丸は右の外一等六圓、二等四圓、三等二圓の割増を要す

一、長崎—大連線

毎月三回長崎を出帆し朝鮮各港を經由し大連に著發

使用船　信濃川丸（七〇八噸）

船客運賃（大連より）

等級＼行先		鎭南浦	仁川	木浦	釜山	嚴原	郷ノ浦	長崎
甲二等	片道	一〇、〇	一二、〇	一五、〇	一六、〇	一八、〇	一九、〇	二〇、〇
	往復	一八、〇	二一、六	二七、〇	二八、八	三二、四	三四、二	三六、〇
乙二等	片道	七、五	九、〇	一一、〇〇	一二、〇	一三、〇	一四、〇〇	一五、〇
	往復	一三、五	一六、二	二〇、二五	二一、六	二四、三	二五、六五	二七、〇
三等	片道	五、〇	六、〇	七、五	八、〇	九、〇	九、五	一〇、〇
	往復	九、〇	一〇、八	一三、五	一四、四	一六、二	一七、一	一八、〇

一、打狗—大連線　打狗、安平、基隆、福州、上海、青島、天津、大連著發　毎月四回

使用船　新高丸（二、六五七噸）　湖北丸（二、六一〇噸）

安平丸（一、六九八噸）　基隆丸（一、六六九噸）

船客運賃　（大連より）

等級＼行先		青島	上海	福州	基隆	安平打狗
一等	片道	一五、〇	三〇、〇	四五、〇	五二、五	六〇、〇
	往復	—	—	—	—	—

等級						
二等	片道	九、〇	一八、〇	二七、〇	三一、五	三六、〇
	往復	—	—	—	—	—
三等	片道	五、〇	一〇、〇	一五、〇	一七、五	二〇、〇
	往復	—	—	—	—	—

日本郵船株式會社

一、横濱—北清線　五週　二

往航　横濱、名古屋、四日市、神戸、門司、仁川、大連、太沽、牛莊

復航　牛莊、大連、門司、神戸、横濱（冬期結氷中太沽、牛莊缺航、秦皇島寄港）

使用船　高砂丸（一、七八九噸）　三河丸（二、九三三噸）

相模丸（一、九三四噸）

船客運賃（大連より）

等級＼行先		仁川	長崎	門司	神戸	四日市	横濱	天津	牛莊（營口）
一等	片道	一八、〇〇	二六、〇〇	二六、〇〇	三〇、〇〇	三四、五〇	三九、〇〇	一五、〇〇	一八、〇〇
	往復	三二、〇〇	四四、〇〇	四四、〇〇	五一、〇〇	—	六六、〇〇	二七、〇〇	三二、〇〇

等級									
二等	片道	一二、〇〇	一七、〇〇	一七、〇〇	二〇、〇〇	二三、〇〇	二六、〇〇	一〇、〇〇	一二、〇〇
	往復	二二、〇〇	二九、〇〇	二九、〇〇	三四、〇〇		四四、〇〇	一八、〇〇	二二、〇〇
三等	片道	六、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一二、〇〇	一三、五〇	一五、〇〇	五、五〇	五、五〇
	往復	—	—	—	—	—	—	—	—

南滿洲鐵道株式會社

一、大連―上海線

毎週二回　火、金曜日大連及上海發

榊丸往航靑島寄港、　神戸丸復航靑島寄港

使用船　榊　丸(三、八七六噸)　神戸丸(二、八七七噸)

無線電信局の設置あり

船客運賃

等級＼行先		大連、上海間	大連、靑島間	靑島、上海間	上海、靑島間
一等	片道	四〇、〇〇円	二五、〇〇円	三〇、〇〇円	三〇、〇〇弗
	往復	六四、〇〇	四〇、〇〇	四八、〇〇	四八、〇〇
二等	片道	二五、〇〇	一五、〇〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇
	往復	四〇、〇〇	二四、〇〇	三二、〇〇	三二、〇〇

三等				
片道	―	六、〇〇	八、〇〇	八、〇〇
往復	―	―	―	―

大連汽船株式會社

一、大連―安東線
一、大連―天津線　　毎月四回

使用船　天潮丸（一、三〇〇噸）　濟通丸（一、一三八噸）

船客運賃

等級＼行先	安東	天津
一等	一〇、〇〇	一五、〇〇
二等	七、〇〇	一〇、〇〇
三等	五、〇〇	五、五〇

大連秦皇島間は鴨綠江及白河の結氷中航海す

一、大連―龍口線　旅順、登州、龍口、石虎嘴　　毎月四回

使用船　利濟丸（六二四噸）

船客運賃

等級＼行先	旅順	登州	龍口	石虎嘴
一等	一、五〇	七、〇〇	六、〇〇	七、〇〇
二等	一、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	五、〇〇
四等	、五〇	一、七〇	一、七〇	二、〇〇

一、大連—貔子窩線　毎月八回

使用船　辨天丸(二〇〇噸)

船客運賃

	貔子窩
二等	二、五〇
四等	一、七〇

一、大連—柳樹屯線　毎日三回

使用船　鶴丸(三七噸)

船客運賃

	片道	往復
特等	、五〇	、八〇
上等	、三五	、五〇
並等	銀、二〇	銀、三〇

本

一、大連—青島線

使用船　龍平丸（七五七噸）

船客運賃

一等　一五、〇〇
二等　一〇、〇〇
三等　五、〇〇

線

阿波共同汽船株式會社

一、大連芝罘青島線　毎月五回或は四回

使用船　阪鶴丸（七七五噸）

船客運賃

等級＼行先	芝罘	青島
一等	六、〇〇	一五、〇〇
二等	三、〇〇	一〇、〇〇
三等	二、〇〇	五、〇〇

一、大連芝罘仁川線　毎月五回或は四回

使用船　第十六共同丸（一、四五五噸）

船客運賃

行先／等級	芝罘	仁川
一等	五、〇〇	一五、〇〇
二等	三、〇〇	一〇、五〇
三等	二、〇〇	五、五〇

以上の外朝鮮郵船株式會社の大連芝罘仁川線の江原丸あり、政記公司の大連芝罘線を奇數日に大連に發著する永利號あり

【電氣及瓦斯】　大連の電氣事業は露治時代に經營せられ、濱町に發電所を置き高さ二百二十餘尺の大煙突を築き、當時其發電機は僅かに二百五十キロワット時のもの三臺に過ぎざりしが、會社繼承以來漸次需用增加し現今千キロワット時三臺千五百キロワット時一臺の發電機を有し電燈電車及油房其他の動力を供給す。電氣鐵道の運轉系統には埠頭小崗子線、埠頭逢阪町線、長門町近江町線、伏見臺下伏見臺線、日本橋南廣場露西亞町埠頭線等あり又長門町を起點とし市外沙河口、星ヶ浦及び老虎灘に通ずる三線ありて其線路總延長十七哩なり、市内乘車券には

半時間券（特等五錢並等四錢）一時間券（特等六錢並等五錢）の二ありて其時間内は何回乘車するも差支なし、但し市外電車賃は一區並等四錢特等五錢なり、外に三十回券（特等一圓二十錢並等一圓）あり、瓦斯製造場は山城町海岸に設け製造能力五十萬立方呎を有す

【沙河口工場】 は大連市街を距る西北四哩の北沙河口に在り、規模頗る廣大にして獨立の水道を敷設し、發電所を設け新式の設備具らざるなく各般の工場設けられざるなく敷地約三十萬坪職工約二千を使役し、機關車二十六輛、客車三十六輛、貨車百三十輛を同時に收容修復し且諸機械及諸用品の製作修理を爲すの能力を有す、工場の隣接地約十七萬坪に市街を建設し工場從事員の社宅、小學校、病院、郵便局、貸店等煉瓦石造の巨屋櫛比し、大連との交通には電車の便あり、大連の西郊、赤甎高く朝暾に映じ青衣巷街に滿ち一工業市を成せり

【中央試驗所】 は滿洲に於ける殖産工業並衞生上の試驗研究を施行し併せて汎く一般の依頼に應じて分析試驗及鑑定を爲さしむる爲め、關東都督府の設立に係り、四十三年滿鐵會社に於て之を繼承せるものなり、爾來會社は漸次之を擴張して分析科、應用化學科、製絲染織科、窯業科、釀造科、衞生科、電氣化學科を置き益々研究の歩武を進むることゝせり、從來調査研究せるものゝ中滿洲に於ける石炭及鐵鑛の分析試驗、窯業原料たる粘土及硅石の調査、製鹽法の調査、大豆工業の研究、高粱稈を原料とする「パルプ」製造の研究、高粱酒釀造方法並に柞蠶製絲

方法の改良及柞蠶絲染織に關する研究、水質試驗法及衞生製藥化學に關する研究、其他滿洲產植物の成分研究等を主なるものとす而して其研究の結果工業として成立の見込あるものは更に試驗工場を設く即ち製絲工場、染織工場、陶磁器工場、煉瓦工場、釀造工場等是れなり

【官公署其他】　大連民政署（大廣場）、海務局（埠頭）、大連重要物產取引所（東廣場）、觀測所（寺兒溝）、通信管理局（監部通）、大連郵便局（監部通）、大連灣無線電信局（大孤山沙砣子）、大連西廣場郵便所、大連兒玉町郵便所、大連埠頭郵便所、大連信濃町郵便所、大連若狹町郵便所、大連浪速町郵便所、大連吾妻橋郵便所、小崗子郵便所、沙河口郵便所、農事試驗場（西公園內）、水產試驗場（老虎灘）、土木課出張所（西通）、大連苗圃事務所（西沙河口）、陸軍運輸部大連支部（埠頭）旅順關東倉庫大連支庫（東公園町）、陸軍經理部大連出張所（東公園町）、旅順要塞司令部派出員事務所（東公園町）、旅順衞戍病院大連分院（東公園町）、關東憲兵隊大連分隊（監部通）、大連市役所（西廣場）、英國領事館（大廣場）、米國領事館（和蘭國領事事務をも取扱ふ）（越後町）、露國領事館（丁抹國領事事務をも取扱ふ）（龍田町）、大連海關（山縣通）、大連高等小學校（東公園町）、第一尋常小學校（東公園町）、第二尋常小學校（北大山通）、第三尋常小學校（西公園町）、沙河口尋常高等小學校（沙河口）、大連高等女學校（兒玉町）、大連商業學校（天神町）、南滿洲工業學校（伏見臺）、大連幼稚園（播磨町）、子供館（若狹町）、大連公學堂（伏見臺）、大連神社（南山麓）、沙河口神社（沙河口）、西本願

寺關東別院(南山麓)、東本願寺大連別院(南山麓)、曹洞宗常安寺(天神町)、淨土宗明照寺(對馬町)、日蓮宗大連敎會所(春日町)、高野山大師敎會大連支部(攝津町)、淨土宗老虎灘敎會所(老虎灘)、大連日本基督敎會(西廣場)、大連基督敎會(敷島町)、聖公會(丹後町)、救世軍大連小隊(西廣場)、福音「ルーテル」敎會(小崗子)、其他金光、大社、御岳、黑住、天理敎、宮地岳、稻荷敎會所等あり、青年會舘(敷島町)、大連俱樂部(北大山通)、實業俱樂部(敷島町)、橫濱正金銀行大連支店(大廣場)、正隆銀行(大山通)、朝鮮銀行出張所(大山通)、大連銀行(伊勢町)、敎育貯蓄銀行(監部通)、道勝銀行(監部通)、龍口銀行支店(加賀町)、中國銀行大連支店(支那人經營大廣場)、大連商業會議所(敷島町)、滿洲重要物產同業組合(寺內通)、公議會(支那人商工業者團體)、信濃町市場、山縣通市場、小崗子市場、大連取引所信託株式會社、日清豆粕製造株式會社、三泰油坊、小寺油坊、鈴木油坊、遼東新報社(敷島町)、滿洲日々新聞社(東公園町)、泰東日報社(漢字新聞奥町)、マンチユリア、デーリーニユース(東公園町)、滿洲新報支局(監部通)、大連汽船株式會社(山縣通)、大阪商船會社支店(大山通)、三越呉服店出張所(大山通)、三井物產株式會社支店(山縣通)、滿洲水產株式會社(信濃町)、大日本鹽業株式會社(監部通)、大連土地建物株式會社(山縣通)、ソーライト製造株式會社(淡路町)、福昌公司(山縣通)油脂工業株式會社(紀伊町)等

【病院】 滿鐵大連醫院は山城町に在り、諸般の設備頗る整頓し內科、外科は勿論小兒科、產科

婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科、齒科口腔科及研究科に分つ、入院科は特等金七圓、一等金四圓、二等金二圓三十錢、三等金一圓三十錢、特三等金八十錢とす、官立病院には避病院たる大連療病院(市外西王家屯)、驅黴院たる大連婦人醫院(南山麓)あり、又慈善病院には大連慈惠病院(伏見臺)、宏濟醫院(小崗子)あり、其他個人經營の病院齒科醫共三十戸あり

【旅館】 大連ヤマトホテルは大廣場にあり、當會社の經營に係り、大正三年六月滿五箇年を以て竣工せし大建物にして、近世ルネサンス式を樣式とし建坪六百六十坪、客室百十五、蒸汽、温水及溫氣暖房、昇降機、電話、自働寫字機、電氣時計、電燈、電扇、瓦斯燈、非常消火栓、安全庫、郵便收集裝置、浴槽等ホテルとしての設備殆んど整はざるなく、食堂は三百人の宴會をなすべき大食堂の外普通食堂、別食堂あり、球戯室、讀書室、應接室、理髮室、酒場等は勿論、附屬事業として馬車部洗濯部等を備ふ、又管絃樂隊あり毎週水曜土曜日には食堂に於て奏樂し尚一般の招聘に應ず、宿泊は歐羅巴風にして食事を含まず室料のみとし、ホテル內にて乘車船券を發賣し、船車發著の際は制服を著けたる送迎人を派遣す、室料は一人一日二圓五十錢以上十圓以內、食事料は朝食金一圓、晝食金一圓五十錢、夕食金一圓七十五錢とす、市內旅館は遼東ホテル(信濃町)を第一とし和洋兩樣の設備あり宿泊料一人一泊二食付金二圓以上金五圓以內、其他磐城ホテル(磐城町)、花屋ホテル(信濃町)、春田旅館(監部通)、吾妻旅館(信濃町)、

大連ホテル(愛宕町)、鎭西館(信濃町)、桑島館(吉野町)、長崎屋旅館(飛驒町)、富士屋旅館(信濃町)あり宿泊料金一圓五十錢以上金四圓以內日本橋ホテル(日本橋廣場)、大阪屋旅館(吉野町)、初音旅館(常陸町)、鹿兒島旅館(常陸町)、山岡旅館(信濃町)等あり、宿泊料一人一泊二食付金一圓以上金三圓五十錢以內とし晝食料は各等を通じ宿泊料の半額とす

【交通】　自働車市內雇切三十分以內金二圓、一時間以內金三圓五十錢、市內乘合一區金七錢、市外老虎灘往復金四圓、星ヶ浦往復金八圓、人力車市街地三丁迄金四錢、同五丁迄金五錢、五丁以上は二丁每に金一錢、市外一里に付金十八錢、一日雇切(十時間)金九十錢、半日雇切(五時間)金五十錢時間增一時間に付金十錢、客待一時間に付金五錢、歸路は往路の六割、夜間一割增(市外に限る)雨雪二割增、馬車市街地三丁迄金六錢、同五丁迄金八錢、五丁以上は二丁每に金一錢五厘、市外一里に付金二十五錢、一日雇切(十時間)金二圓二十錢、半日雇切(五時間)一圓三十錢、時間增一時間に付金二十五錢、客待一時間に付金十二錢、二人乘以上は一人增每に三割增歸路は往路の六割、夜間一割增(市外に限る)雨雪二割增、護謨輪は前記賃率に對し二割を增す

【名勝舊蹟等】　表忠碑、東公園町にある納骨所にして碑は明治三十七八年の役海城以南に於て戰死病歿したる陸軍々人軍屬四千餘人の遺灰を拾集して之に納め、每年四月及十一月招魂祭を

行ふ

西公園　は市街の西端に位す故に西公園と稱す、又園中曾て猛虎を飼養せしに因り虎公園とも稱す、露治時代に創設せられたるものにして、西靑泥窪村落の殘影なり、明治三十八年五月我治下に歸してより爾來十有餘年楊柳倍老ひ胡藤彌茂り櫻桃李花其間に點綴し、面目大に改まり風致亦加はれり園内平地あり丘陵あり山あり谿あり五十餘萬坪の一廓宛然畵圖を爲す、試に杖を曳て山嶺に登れば千里一眸に集まり俯瞰すれば大連の全市脚下に在り四時の遊覽佳ならざるなく淸趣眞に掬すべし、裡に運動場あり音樂堂あり又西園亭、六花園、南花園等の榭亭ありて花朝月夕淺酌低唱するに宜し、園に隣りて農事試驗場あり苗圃あり、倶に市民の縱覽に任せ又客の需めに應じて樹草果物を割愛す

北公園　は日本橋を北に渡りて丁餘の所にあり是亦露治時代の創設にして、爾來滿鐵會社の經營に移る、境域稍〻狹きも胡藤楊柳等の樹木欝茂として林を爲し、裡に氷滑場、テニスコート、大弓場、器械體操場、小動物園、花園等あり

松公園　一名常盤公園ともいふ、市の東北部に在り松樹蓊欝として常磐の緑り色深きが爲めに此名あり、裡に不動尊を祀る、園内狹陋にして旗亭四圍に連り公園としては殆んど言ふに足らず

電氣遊園　は大連市の西方伏見臺の高地に在りて大連市及小崗子を一眸の裡に收め、又遙かに

大連灣を隔てゝ柳樹屯及大和尙山に對し、眺望最も佳なり、園は電氣鐵道の附帶事業にして電力の應用至らざるなく、温室あり、花園あり、演藝館あり、射撃場あり、動物園あり、喫茶店あり、支那料理登瀛閣あり、ボーリングアレー、メリーゴーラウンド、ローラースケーチング等の遊技場あり、夜間は活動寫眞を開演し、全園イルミネーションを施し、萬燈灼爍として光明晝を欺き眞に壯觀を極む

大廣場　市街の中央に位する廣場なり設備未だ完からずと雖老木稚樹は之を圍繞する大連民政署、大連ヤマトホテル、正金銀行等輪奐の美と相映じ一佳寰たるを失はず、裡に前關東都督子爵大島大將の壽像儼然として屹立す亦壯觀なり

星ケ浦　大連を距る西南二里許にあり此地素と黑石礁と稱し南海に面せる一小漁村なりしが我が會社は四十二年風光最も明媚なる海岸十餘萬坪を避寒避暑の淸遊地となし、松樹胡藤楊柳桃李の諸樹を植ゑ、風致最も佳なる所に瀟洒なる和洋の別莊各數棟を建て、賃借に供し、其東にはヤマトホテルを營み、西には旗亭星の家を設け遊客の宿泊及飲食に應じ、林樹の間にはテニスコート其他の遊技場あり、又新たに此地域に接して大連富士山麓約七萬坪をゴルフ遊技場と爲し内外人の娛樂に供す、白砂淸き所には海水浴客の更衣場あり、運動具あり、朝風夏涼しく夕潮冬暖かにして四時遊客の跡を絕たず煙波縹緲として海島近く點在し悠々たる歸帆を掠めて白

鷗閑に飛び風光絶佳眞に得難きの勝地なり、電車は大連より三十分にして達すべく自働車亦往くべし

小平島　星ヶ浦の西南二里餘に在り小舟に棹せば星ヶ浦より一時間半にして達すべし、乾隆以後五六十年前にありては遼東半島唯一の要津にして、山東との通路に膺り、帆檣林立百貨輻輳し實に盛觀を極めしと云ふ、後ち營口開け尋で大連の開埠を見るに及んで、又當時の盛觀なく今や衰退して一漁村となれり、毎年春夏鱈、鰡、大刀魚等の鹽魚として南清地方に輸出せらるゝもの頗る多し、港は東西兩港に分かれ、西港は白沙遠く連なり釣るべく又浴すべし、半島の盡くる所を玉皇頂といふ、海拔三百尺餘大洋に面する處全面絶壁を爲し、危巖屏風の如く海に臨んで峙ち、或は洞門となり、或は奇峭となり、波其脚を嚙みて潮湧き沫飛び奇勝を極む、日露戰役の際海軍望樓を置きし所なり

凌水寺　大連を距る西方三里餘欒家屯警察官署の邊りに一流あり凌水河と云ふ河に沿ふて登ること里餘山勢相蹙る處右折して北に走る一溪の林澗あり是れ即凌水寺の領山にして寺は其上方半腹の處に在り滿山是れ奇石巉巖にして松柏梨樹蔚然として翠を其間に湛へ澗流潺々として清韻を絶たず、春曉花を品すべく、秋晩紅葉を賞すべし、相傳ふ、寺は唐人の建修に係ると境中碑二基あり、共に清朝乾隆年間の重修に係り阿彌陀佛及娘々地藏菩薩の塑像を安置す、別に石

佛十九體あり彌陀の三體及十六羅漢なるべし、康熙年間古寺の畑中より發掘する處なりといふ、古雅掬すべし或は唐代のものならん乎、每年陰曆四月八日を以て廟會(緣日)を行ふ遠近より來り賽するもの多し馬車を賃すれば二時間にして達すべく電車の便に依れば星ケ浦より里餘に過ぎず徒步亦三時間を出でず、偸閑一日の攬勝盍し清興たるを失はず

老虎灘　大連の南一里餘の海濱に在り海水彎入藍碧深く湛へて漁村を擁し、西方海中に突出する一岩礁老虎の空を仰いで嘯くが如きものあり、これ老虎灘の名ある所以にして背後左右の丘陵には松樹翠色を滴らし前は即ち煙波浩蕩として白帆去來し、人寰炎熱に苦しむの時も脚一たび此境に入れば忽ち秋風の冷かなるを覺ゆべし、灣內魚族に富みて釣魚に適し或は遊泳に或は納涼に杖を曳くもの甚だ多し、又別莊を設くるもの多く、殷賑なる避暑地となれり、旗亭に觀瀾閣、嘯月等あり、電車は大連より三十分にして達す(電車賃逢阪町より特等五錢並等四錢)

柳樹屯　大連の對岸に在り、海上相距る六浬餘、日支商賈雜居し戶數四百餘人口二千餘を算す、小學校あり、警察官署あり、憲兵分遣所あり、又聯隊及旅團司令部の所在地たり、清の光緒十三年(明治二十年)時の直隷總督李鴻章威海衞と相待つて、渤海の咽喉を扼せんがため、此處に砲臺を築き、水雷營を置き、銘字軍を駐して大連灣軍港となせし所なり、今尙砲臺地、兵營地址、水雷營址及鐵棧橋等あり、現今我兵營たる一區は露治時代に經營せしモスコー、ニコライ

株式會社[illegible]所屬の小汽船[illegible]丸の毎日二回柳樹屯大連間を往復するのみに

フスク兩街の跡にして、ダリニー市建設以前の營造物なり、交通機關としては海上に大連汽船株式會社所屬の小汽船鶴丸の毎日三回柳樹屯大連間を往復するのみにして、大房身に達する鐵道は現在列車運轉をなさず唯手押車(一人十五錢)を以て本線旅客列車と連絡をなす

娯樂機關其他　劇場寄席には歌舞伎座(敷島町)、大連座(若狹町)、花月席(吉野町)、大山席(大山通)、支那劇場保善茶園(奥町)、瀛海茶園(近江町)、慶昇茶園(小崗子)等あり活動寫眞には電氣遊園内の演藝館、西廣場の高等演藝館及浪速町の浪速舘あり、溫泉には伏見臺にラジウム溫泉あり西公園に綠溫泉あり、料理店には扇芳亭、千勝舘、金城閣、淡月、晩翠軒及食道樂の濱の家、梅園、鷄料理の菊水等あり遊廓には逢阪町、小崗子あり

臭水子驛(チョウシゥイツー) Chou-Shui-tzu

大連起點七哩三分
長春驛迄四百三十哩三分

公衆電報取扱驛、途中乘繼驛

構内販賣店には酒菓、煙草、各種罐詰等あり、旅順線乘換驛

臭水子は旅順支線の分岐點なり、大連よりは直通するも北方より旅順行旅客及旅順より北方行旅客は當驛にて乘換を要す、露治時代には停車場構内に何等の設備をもなさゞりしもの蓋し更に北方なる北泡子涯をも大連市管内に包括して一大都市となすにありしも此附近の土地買收未

だ終らざるに早く既に戰鬪を見るに至りしかば已むを得ず第二買收を中止せしなり、會社は露國の計畫を一變して旅順支線の分岐點を南關嶺より當驛に遷し、寂寞たる停車場は俄に聲價を加ふるに至れり日露戰役の際第三軍の最初の司令部は現在の當地保線丁場にして當時卓子代用の石臼今尚殘存せり、小野田セメント製造株式會社大連支社工場は驛の西北二十五町餘の所にあり、南滿洲に於ける唯一のセメント製造工場にして年額約二十五萬樽を生産す、製品優良內外人間に好評嘖々たり、營口煉瓦製造所臭水子分工場は驛の東北二十町餘の海岸にあり一日製造高七八萬箇を數ふ

【老龍頭砲臺】 は驛の東北約二里にあり李鴻章が大連即ち今の柳樹屯を經營せし當時の海岸砲臺にして嘗て明の嘉靖年間倭寇臺を設備せし所なりといふ

【第一聯絡所】 驛の北方二哩八分にあり本線と旅順支線の聯絡を保つ

南關嶺驛（ナンクワンリン） Nan-kuan-ling

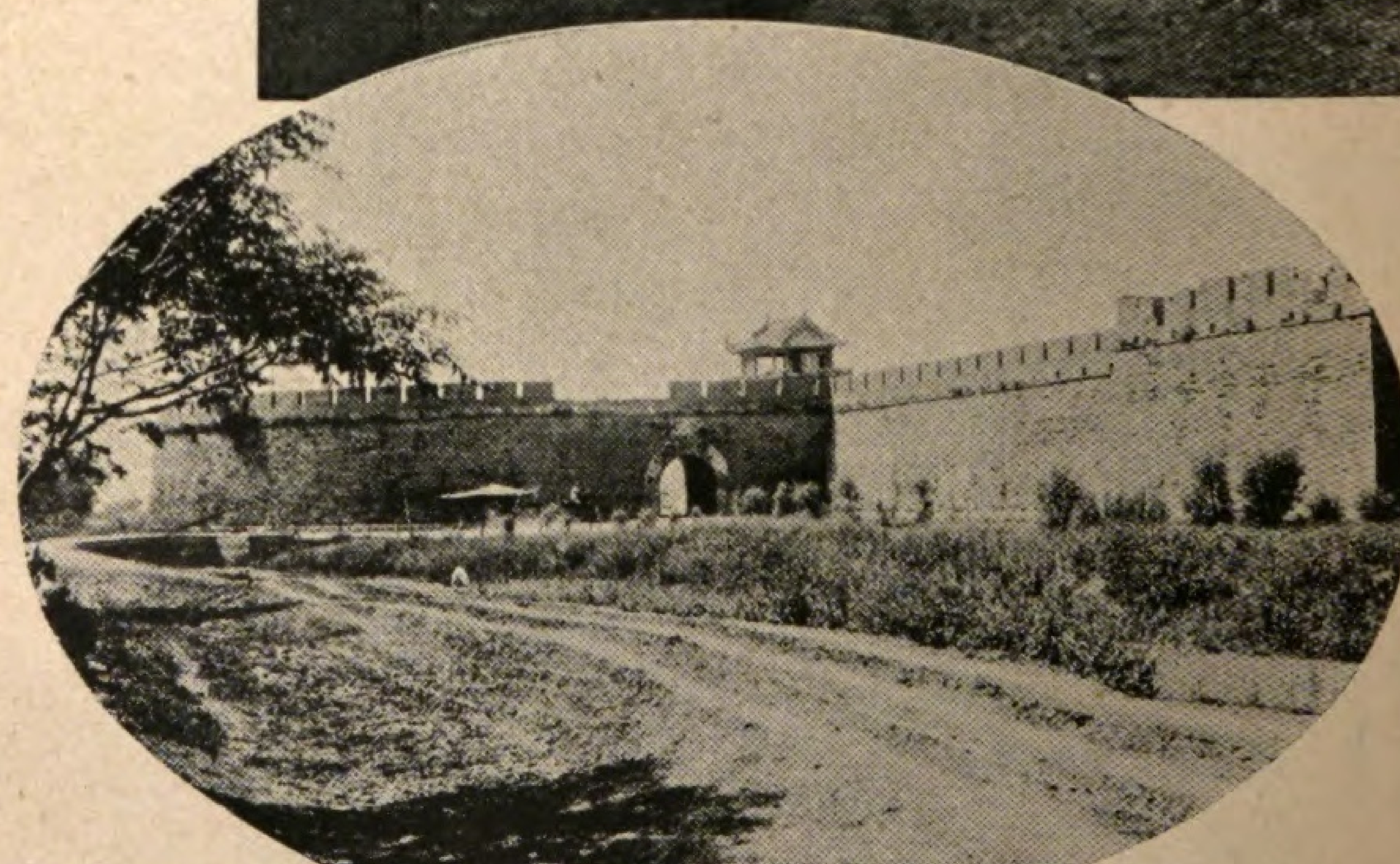
大連起點十一哩四分
長春驛迄四百二十六哩二分

公衆電報取扱驛

南關嶺は金州城より旅順口に通ずる道路上にあり、初め露國の東清鐵道南部線を設計するや直ちに南關嶺を橫斷するの豫定なりしも傾斜の關係、工事の難易等を比較し現在の位置に停車場

南山上鎮魂碑



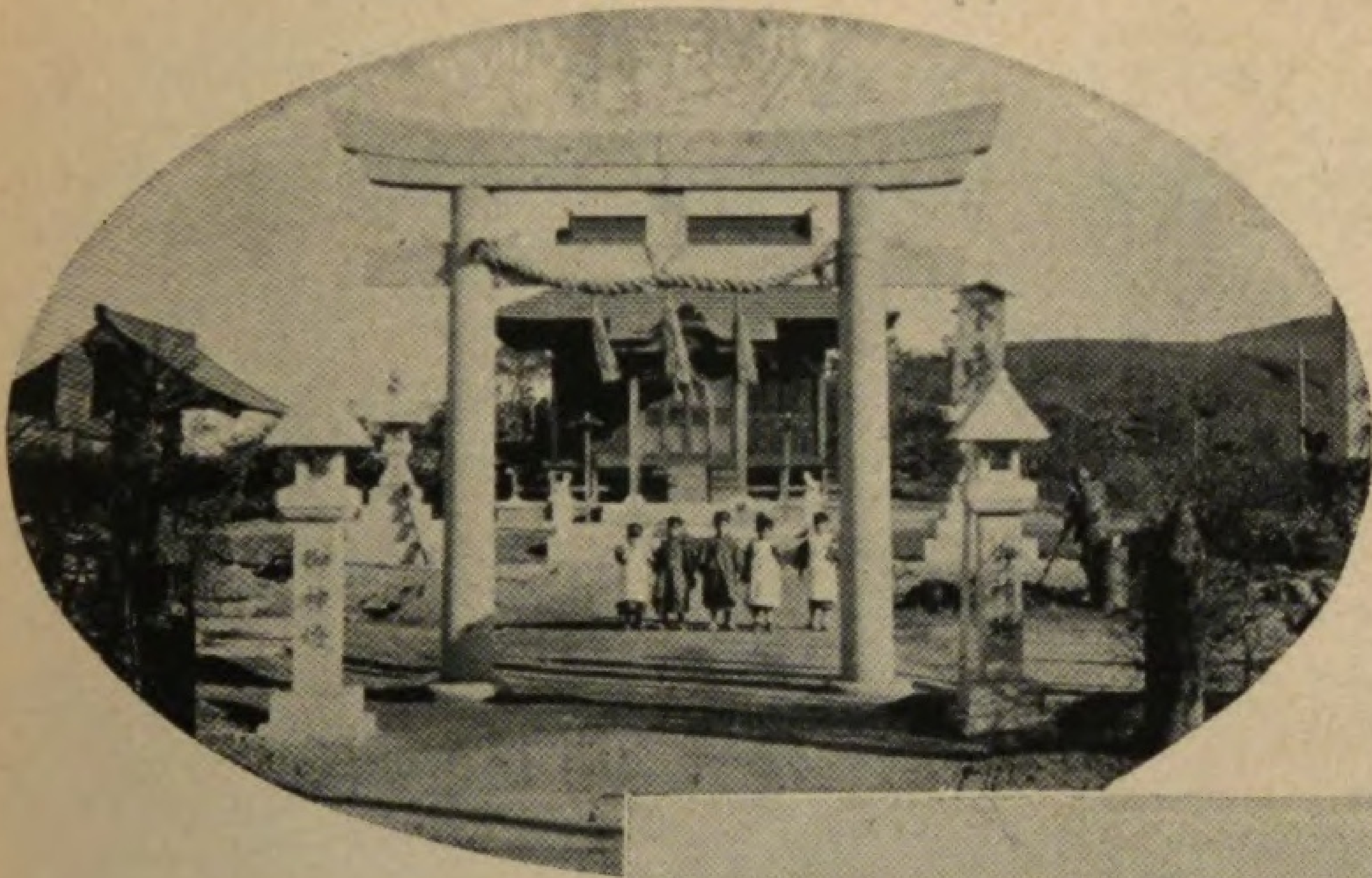


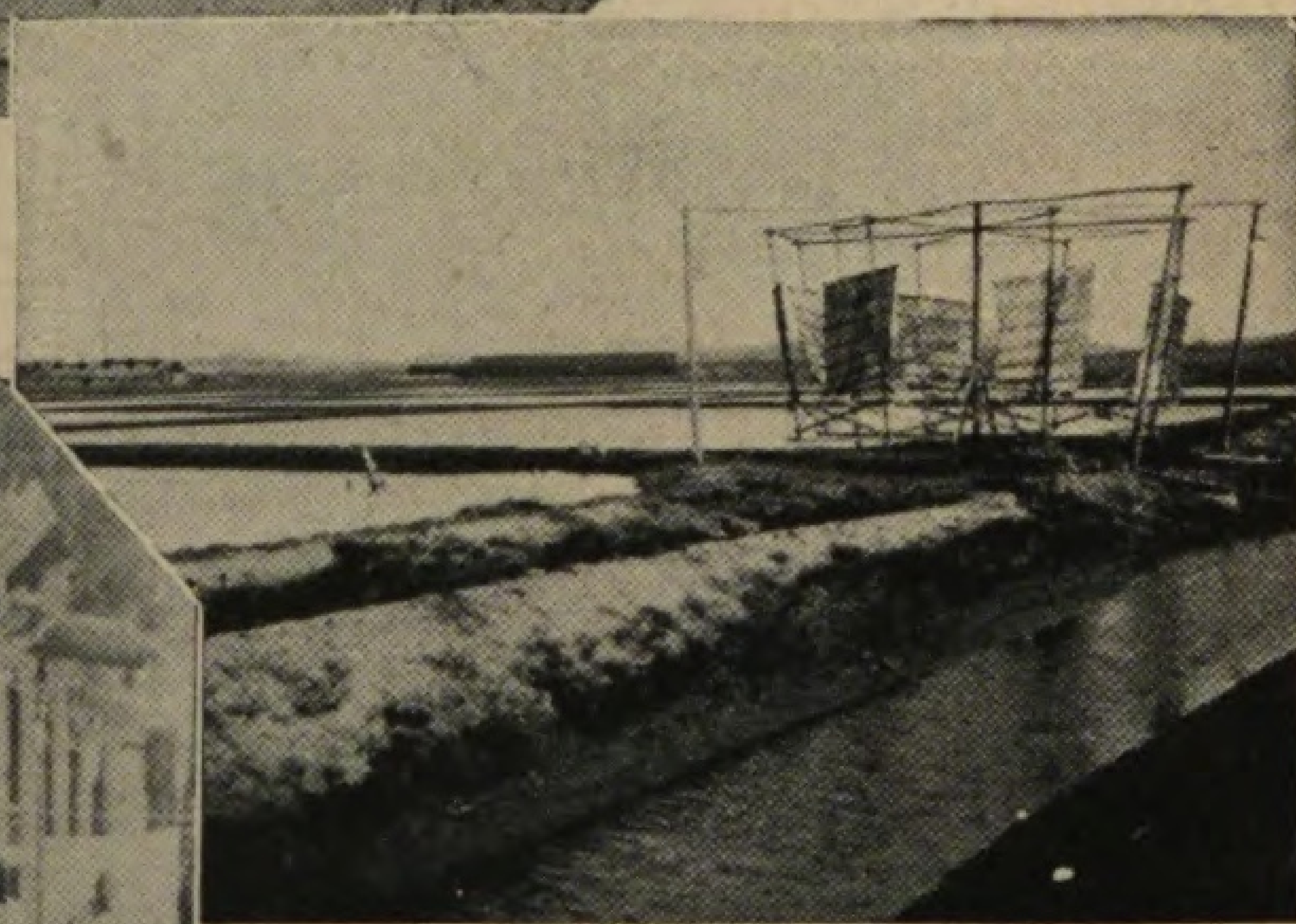
金州城



金州天齊廟ノ塑像

瓦房店神社





普蘭店ノ鹽田

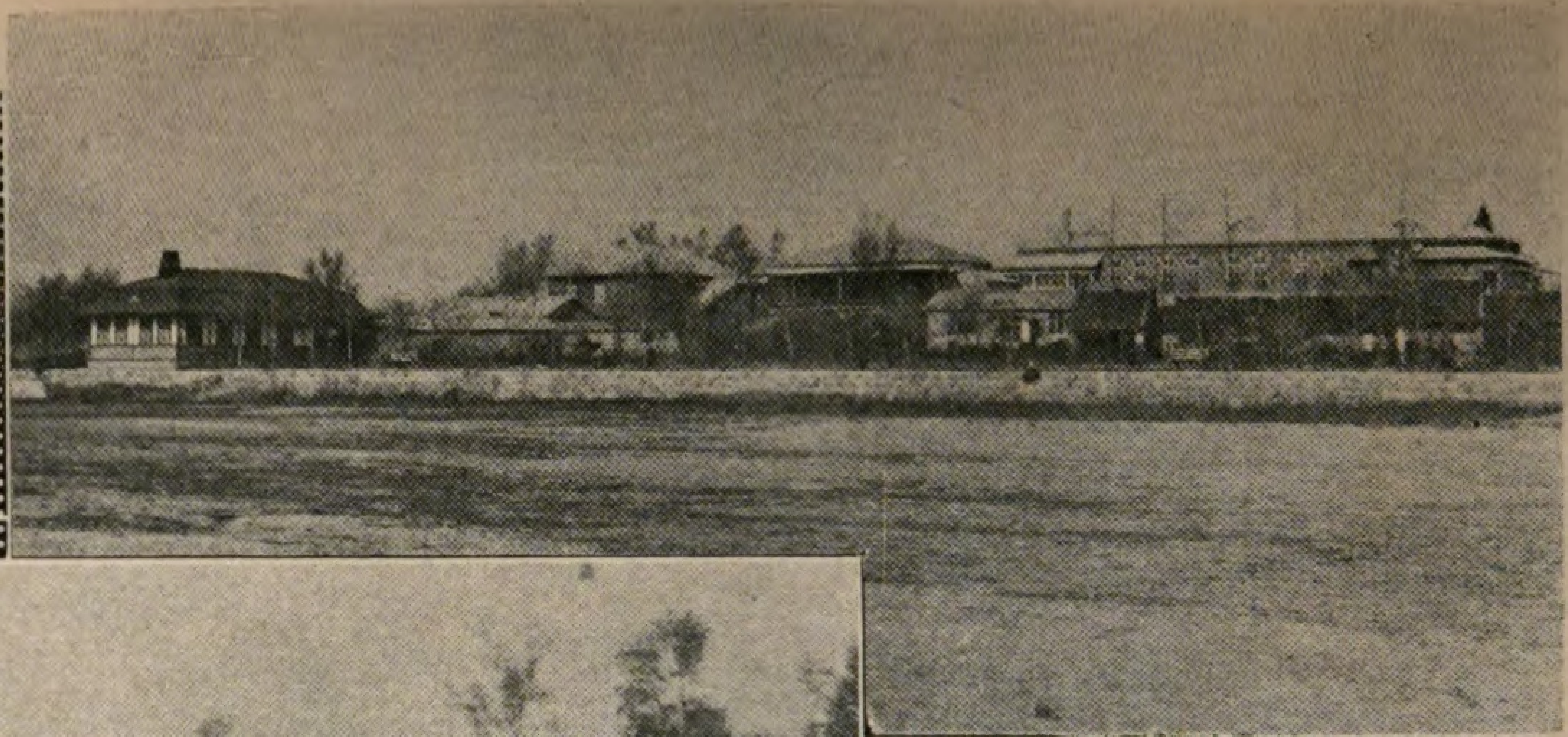
支那土人ノ理髪

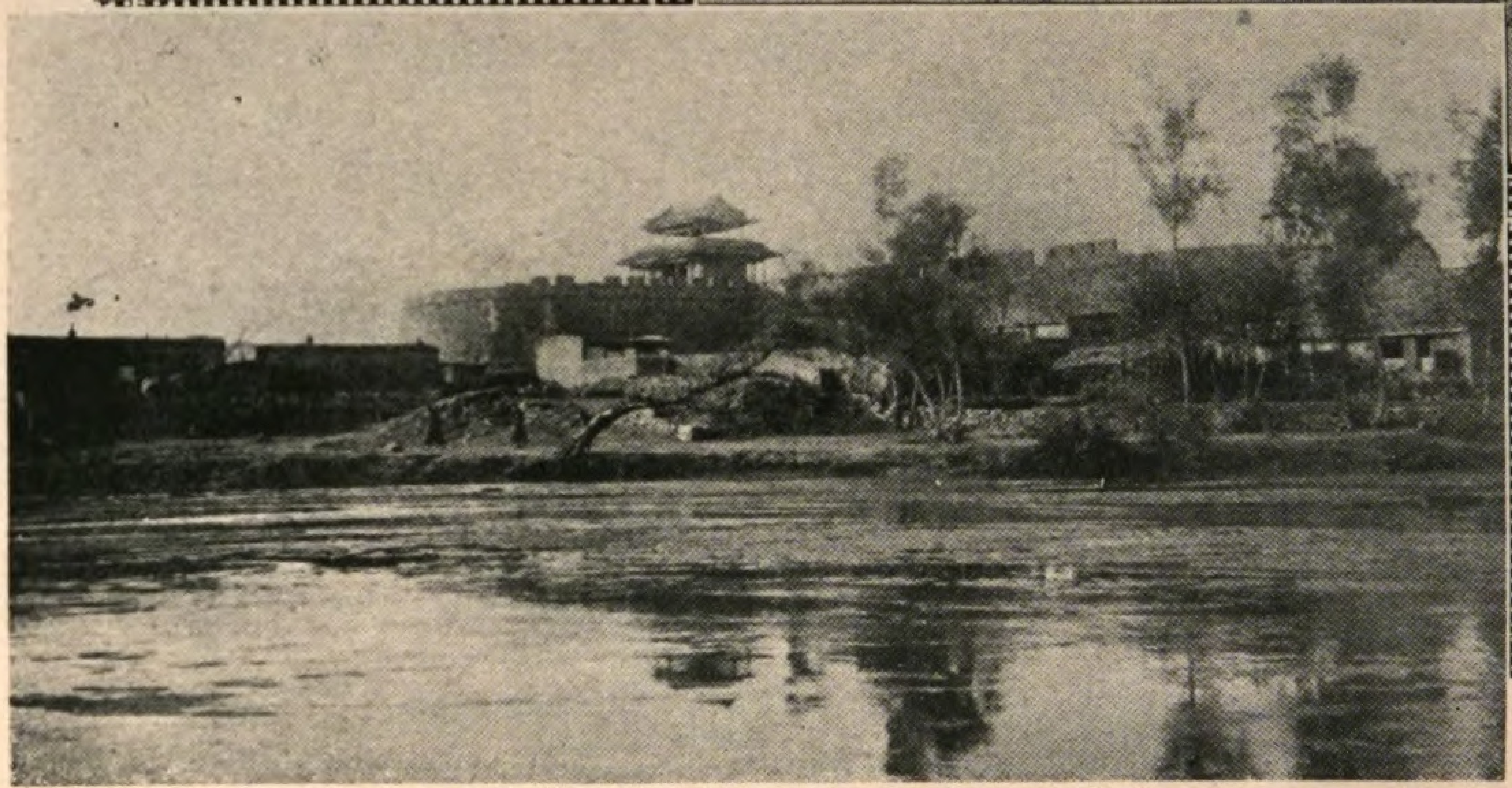




支那土人ノ洗濯

熊岳城温泉

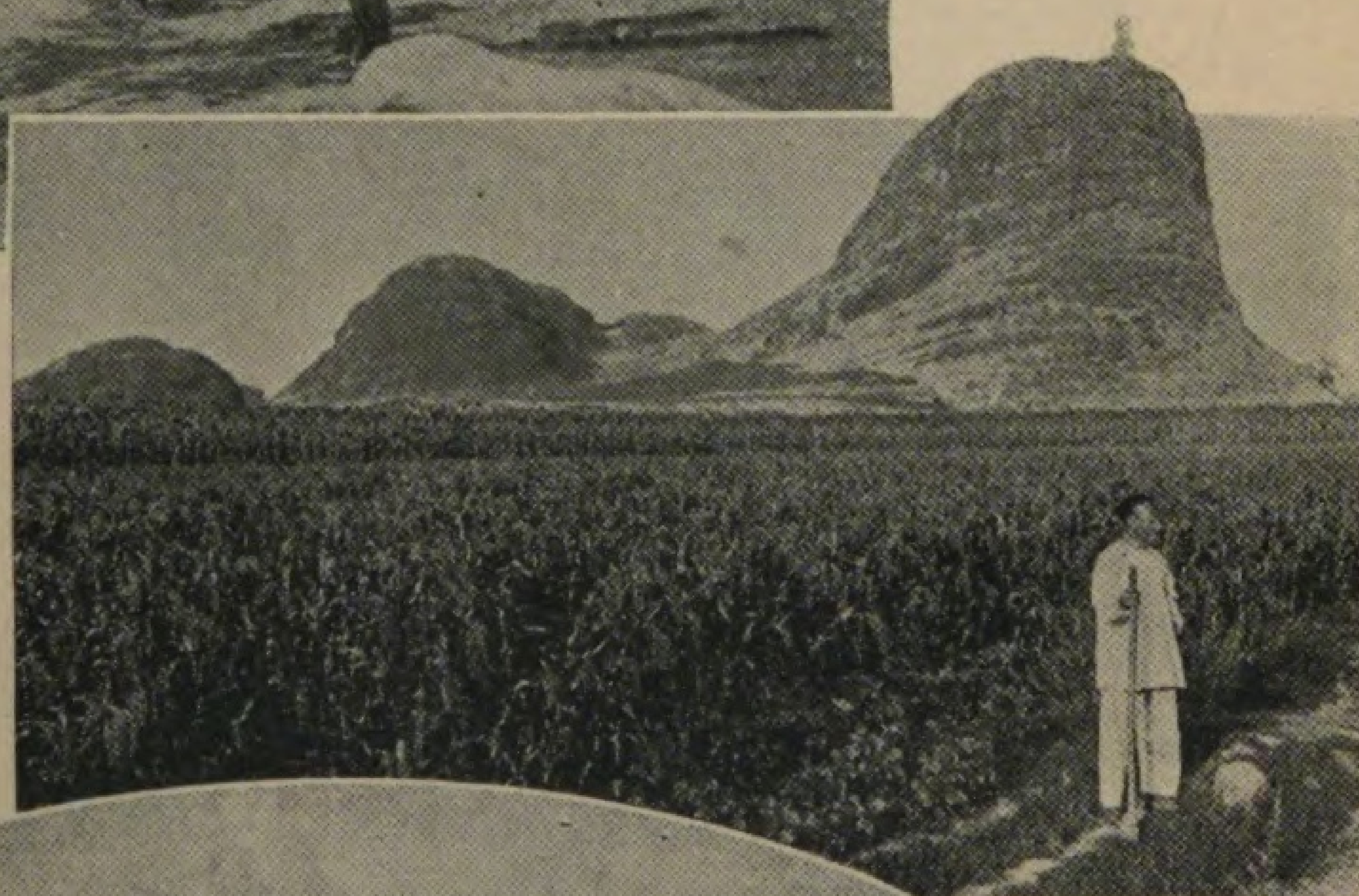




熊岳城

熊岳城黄旗山





熊岳城望小山



熊岳城ノ砂湯



熊岳城ノ梨園

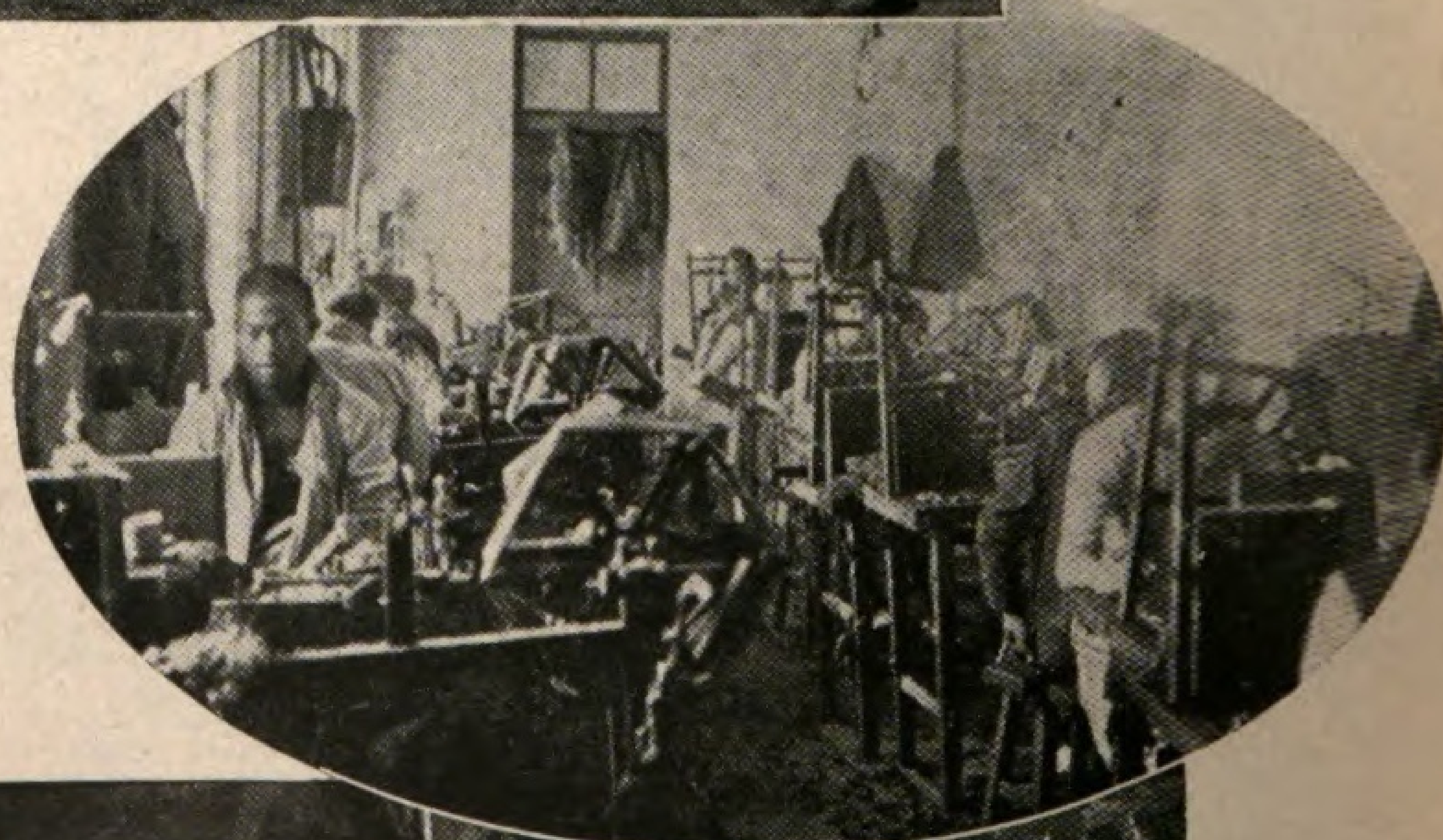
熊岳城及芦家屯附近ニ於テ發掘シタル漢代ノ土偶





蓋平ノ柞蠶

滿洲土人ノ柞蠶製絲



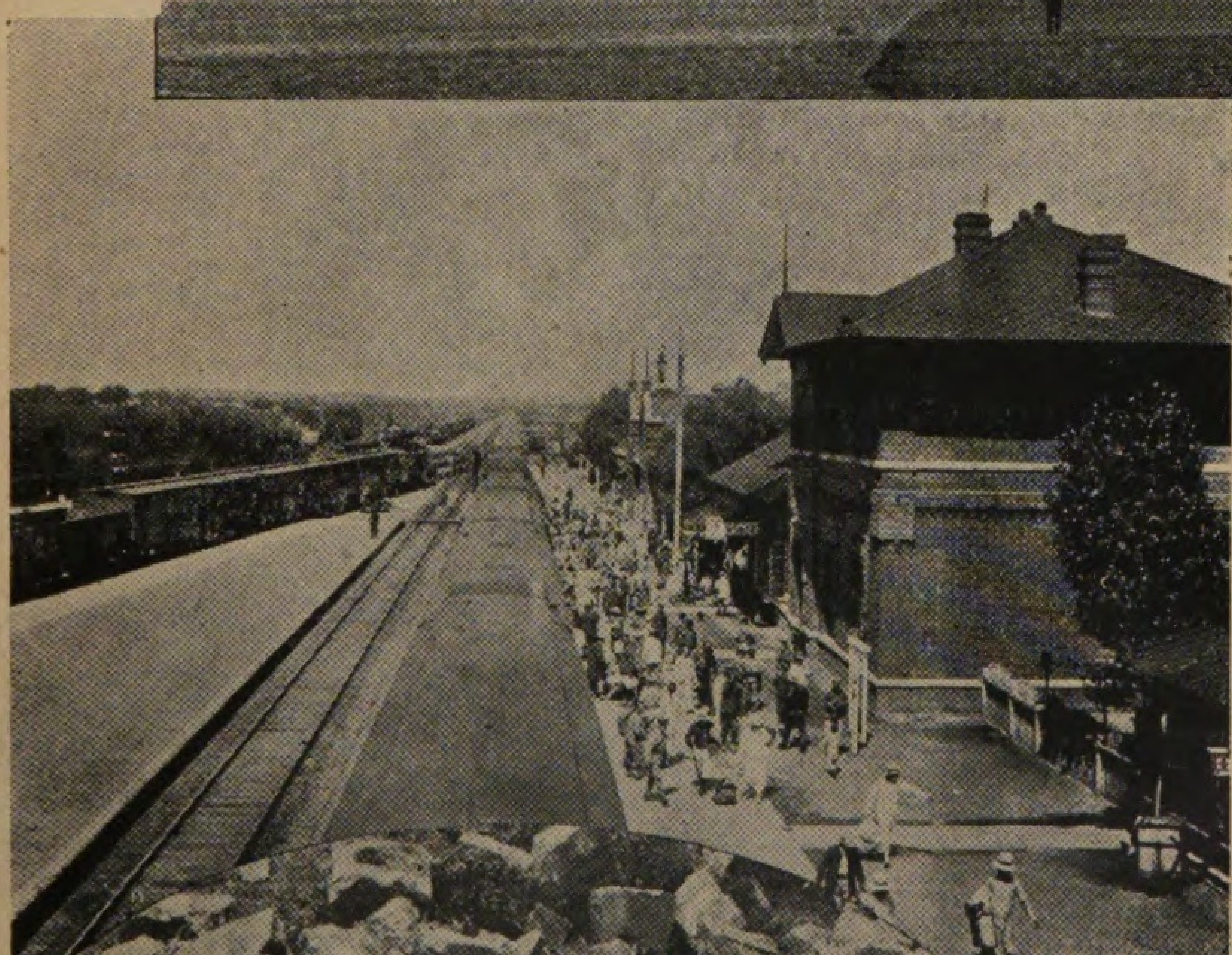


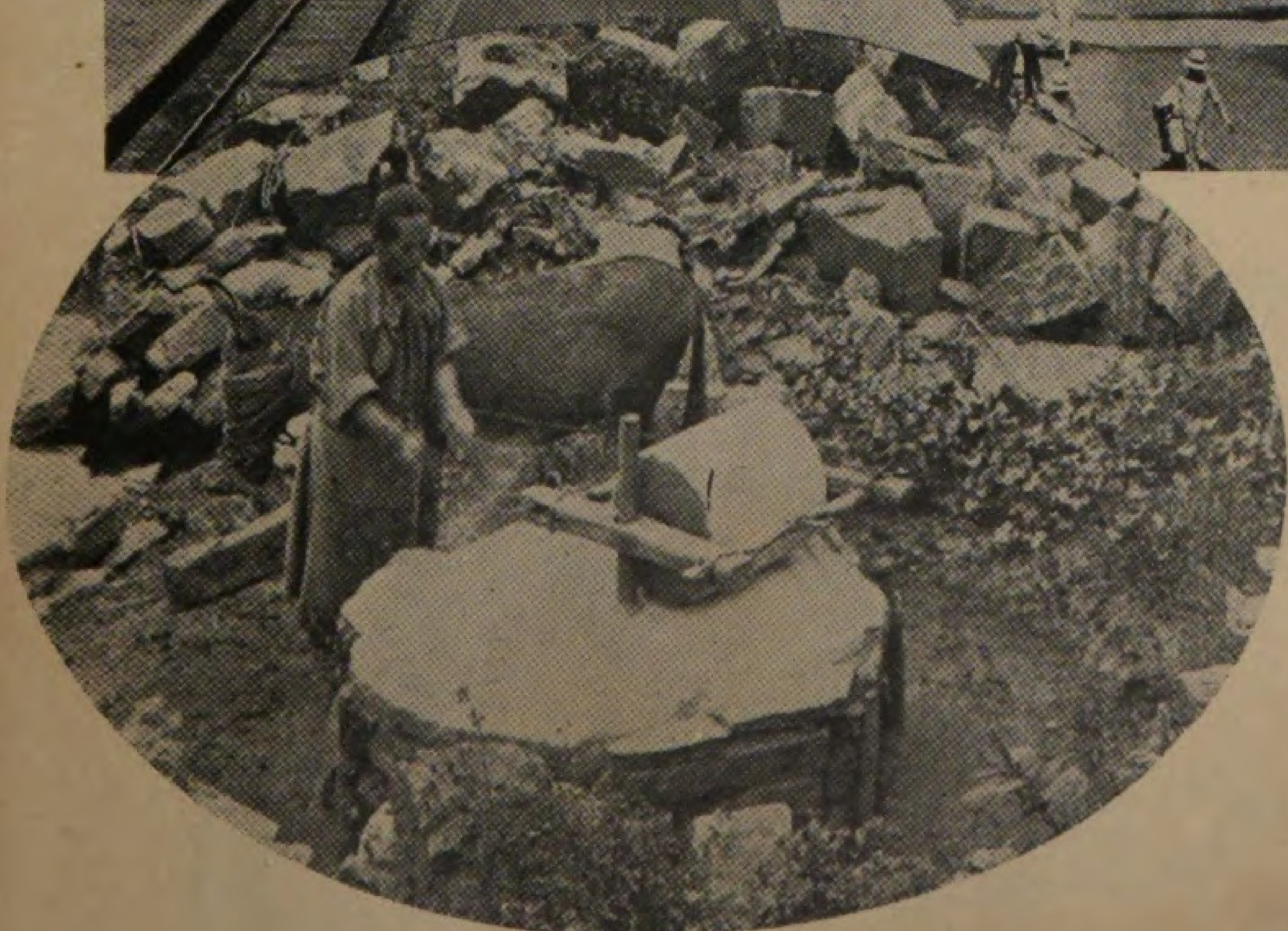
滿洲土人ノ絹紬織機

娘々廟ノ祭禮



大石橋停車場





滿洲農家ノ石臼

を置き迂回するに變更せしものならん乎、南關嶺は一名難過嶺ともいふ、金州南方の固めにして自然の要害容易に過ぎ難きに依りて此稱あり、嶺は南山戰爭の夕べ露軍の師團長フォーク中將が砲兵旅團をして退却掩護砲擊をなさしめたる陣地にして驛は當時旅順線路の最終停車場として敗兵を收容せし所なり、南山陷落の翌曉奥軍の追擊支隊と露軍の後衞とは驛と革鎭堡村落との間に小戰せしといふ、東清鐵道時代に於ける南關嶺驛は金州旅順間の重要なる停車場として　大連支線の分岐點として兵營をも築設せし所なれども今は分岐點の位置南方臭水子に遷りて忽ち寂寞たる中間小驛となれり

【名勝舊蹟等】　狼煙臺は驛の西方十町餘線路に沿うて廢殘せる古煙臺あり、是れ明時代に倭寇を急報する中繼狼煙臺の殘影なり、大煙島舊砲壘は驛の東方里許の海岸にあり、老龍頭舊砲臺と共に李鴻章時代の遺物にして、還た嘉靖年間倭寇臺を築きし場所なり

大房身驛（ターファンシェン）　Ta-fang-shen.

大連起點十九哩
長春驛迄四百十八哩六分

大房身は紅淮套の灣底に位置して南山の東南麓にあり其海岸は南山攻擊の際我が名古屋師團が和尚島砲臺及露國砲艦ボーブル號より側背砲擊を受けて終日惡戰せし所なり、驛の北方に露國時代の兵營建物あり、此兵營は斷續して遠く南山の背後に連亘す、以て當時露國が旅大半島の背

面陣地として如何に重きを置きたるかを推知すべし、驛より東方に延長せる一支線ありＳ字形を描きて柳樹屯に達す、今は運轉を休止し僅かに手押車（一人十五錢）を以て旅客列車に連絡す

金州驛（チンチョウ） Chin-chou.

大連起點二十一哩九分
長春驛迄四百十五哩七分

公衆電報取扱驛　途中乘繼驛

金州の名は數百年前より史上に現はれ明は特に此地を重要視して金州衞城を置けり、金州城は驛の西北二十五町の所にして周圍三十餘町東西南北の四門ありて旅大半島の咽喉を扼し渤海灣の碧波は近く城西の白沙を洗ひ紅涯套の入江は深く南山々脚に彎入し之に位置すれば旅大半島坐ながらにして制すべし、是れ歷朝の此地に重きを置きたる所以なり、今は人口九千を有し、貨物の取引は鐵道に依るの外戎克に依り芝罘其他山東方面の各市場に取引を有し年額約二十萬圓を數ふ

【金州城】　は其沿革甚だ古く明の洪武年間古城を修して金州衞城となせしものにして其後永樂年間遼東半島に於ける倭寇防備となりたる首城なり、故に城の内外今猶明の遺跡多し、城北の永慶寺、天齊廟、城西の玉皇廟、城內の聖廟等には現に明碑の保存せらるゝあり清朝に及び州を下して寧海縣となせしも乾隆三十九年再び昇して州城となし副都統を置く、今の城壁は即ち乾隆

年間に重修せしものなりといふ、日淸戰役には大山大將の第二軍が花園口上陸後の第一戰を試み、日露戰役には奥大將の第二軍が南山攻撃の準備として夜間奇襲を試みたる城壁なり、東西兩門今猶激戰の痕を留め人をして前後兩役の慘狀を偲ばしむ、副都統衙門は如今民政支署となり露治時代に經營せし城東の南金書院は金州公學堂となる城内の名勝には聖廟即ち孔子廟あり乾隆年間の築造にして輪奐の美金州第一と稱せらる、天齊廟の地獄極樂堂は人口に膾炙し城内の整頓せるは滿洲内地稀に見る所なり

【官公署其他】 大連民政署金州支署(城内)郵便局(城内)金州尋常高等小學校(城内)公學堂南金書院(東門外)停車場には中國海關監視所あり又東門外には金州苗圃あり關東都督府の直轄に係り設備整然たり其外個人經營の苗圃及水田あり由來金州葡萄は半島の名產たり

【旅館】 凱旋亭あり宿泊料金一圓以上金三圓以内中食料半額

【交通】 幌馬車及乘騾あり馬車は城内一人金十錢、城内南山間十五錢、南山停車場間八錢の定めなり

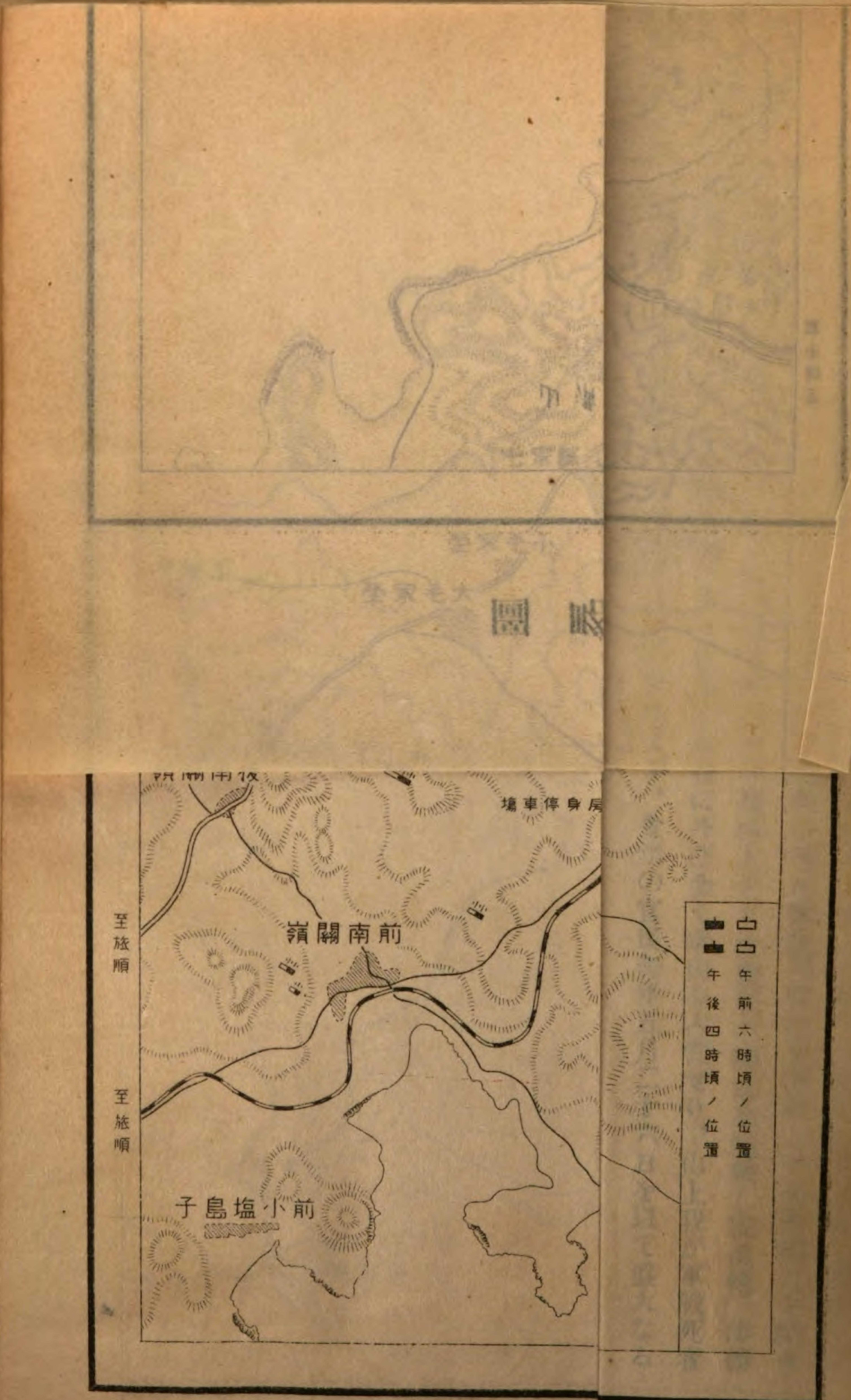
【名勝舊蹟等】 大和尙山は城東二里にある海拔二千百尺の高山にして本名大黑山と稱するも俗に大和尙山と云ふ山頂に古城壁あり蜿蜒として頂界線を繞る、是れ高勾驪時代の堅城にして隋唐征討軍の苦戰せし所なり唐の太宗高勾驪征伐の頃唐の張亮舟師を率ゐて此城を攻撃し男女八

千口を擒にせしといふ、山中今猶唐王殿の遺跡ありて石鼓寺と稱す、其他東北山中には觀音閣(勝水寺)の梵刹あり、西麓には朝陽寺、響水寺等の寺院あり、共に明朝以前に開かれたる蘭若ならむ、山容南一半は禿たる赭山なれども東北の山腹は松樹茂生し奇岩磊磊として奇勝多し大和尚山の丘脈中鳳凰山背金山の二峰あり

背金山 は南山攻擊の當時奥軍司令部の所在地たりしに依り特に著名なり

佛爺洞 は金州城の西北二里餘の所にあり山頂に洞窟あり濶さ十數人を容るべし内に一座の佛像あり洞内の巖石を彫塑したるものにして古色蒼然數百年前の作たるは疑ひなし

南山 は又一名を扇子山と稱す山勢扇子に似たるを以てなり、地理學上より見たる南山は一瘤塊の小丘に過ぎざれども、用兵上より見たる南山は旅大半島の鎖鑰なるが故に日露戰役の初年旅順要塞の守將ステッセル將軍はフォーク中將に命じ步兵五箇聯隊砲七十餘門を率ゐて奥軍に對し南山の天險を扼せしむ、此守兵は三十七年五月五日より二十五日に至るの間晝夜營々として堡壘を築き、鐵條網を張り、要塞砲を据付け、掩蓋を營み、鞏固なる陣地を構築せしが、奥大將の第二軍は其十六日を以て十三里臺の露軍前哨線を擊破し二十四日を以て金州北方の高地を占領し二十五日初夜運動を起して二十六日黎明より總攻擊を開始せり、伏見宮貞愛親王殿下の第一師團其中堅となり、小川中將の第四師團其右翼となりて金州灣海岸よりし、大島(義昌)中將



前南關嶺
房身停車場
至旅順
至旅順
前小塩島子
午前六時頃ノ位置
午後四時頃ノ位置



の第三師團其左翼となりて紅涯套海岸に沿ひつゝ前進し百五十餘門の野戰砲其運動を聲援して終日奮闘力戰せり、此間日本海軍の筑紫以下砲艦四隻水雷艇四隻は金州灣より掩護砲火を開き露國海軍の砲艦ボーブル號及驅逐艦二隻は紅涯套海上より攻擊軍の側背を砲擊し戰況轉々凄慘なりしが夕べに至りて戰勝遂に奥軍に歸し黃昏に及び全く南山を占領せり、山上我が軍戰死者の鎭魂碑及露兵戰歿記念碑あり四時弔客絕えず、金州の官民每年五月二十六日を以て盛大なる追悼祭を行ふ、故乃木將軍金州を過ぎるの詩あり

山川草木轉荒涼　十里風腥新戰場　征馬不前人不語　金州城外立斜陽

三崎山　は金州城北沙河の右岸にある小丘なり、日清戰役の初年陸軍通譯鐘崎三郎、山崎羔三郎、藤崎秀の三氏第二軍に從ひ遼東半島に上陸し服を變じて內地に入り飛耳張目敵情を偵察しつゝありしが不幸淸軍の發見する所となり捕はれて金州の牙營に送られ淸國軍律に照して城北の刑場に慘殺せられたり、三士共に崎の一字を姓とせしかば後人其刑場を三崎山と命名し碑三基を建てゝ大日本志士「姓名」捨生取義碑といふ、後ち還遼の事あるに及び碑を齋らして祖國に歸り改めて東都泉岳寺に葬る、後年此地我が租借地となるや其壯烈にして殉節の遺跡空しく湮滅せんことを恐れ有志胥謀て碑を山上に樹つ題して殉節三烈士碑と云ふ金州城及金州灣を一眸の裡に收め風光明媚眺望絕佳なり

二十里臺驛（アルシーリータイ） Erh-shih-li-tai.
大連起點三十哩五分
長春驛迄四百七哩一分

二十里臺は金州城の北方二十支里の所にあり故に此名あり、其南方里餘の十三里臺は日露戰役の當年金州攻擊の準備戰をなせし高地にして當時小川中將の第四師團は三十里堡より南下して第一師團の十三里臺攻擊に聲援せりといふ、驛の西方十支里の大魏家屯には關東都督府の移民部落ありて開墾に從事す

三十里堡驛（サンシーリープー） San-shih-li-pu.
大連起點三十六哩五分
長春驛迄四百一哩一分

公衆電報取扱驛　構內販賣店には酒菓罐詰類あり又洗面所の設けあり

此地河川水淸く露治時代より汽車の給水驛として重きを置き貯水塔の半空に屹立するを見る

石河驛（シーホー） Shih-ho.
大連起點四十二哩八分
長春驛迄三百九十四哩八分

石河の城壁は小なれども古色を帶び廢墟の裡樹木欝茂し人をして往時を追懷せしむ、此古城も亦渤海灣方面に於ける倭寇警備の重地たりしと云ふ、驛の南方龍口は日露戰役の初年鹽大澳に上陸したる第三師團步兵第三十三聯隊の足立大隊が五月五日黎明第二回目の鐵道破壞を決行して旅順の孤立を完全ならしめたる記念すべき小戰塲なり

普蘭店驛（プーランティエン） Pu-lan-tien.

途中乗継驛

大連起點四十九哩七分
長春驛迄三百八十七哩九分

普蘭店は明時代倭寇臺を築きし處今猶城趾あり門牌に幸蘭鋪なる文字を刻す普蘭店の名蓋し之れより起りしものならん乎、日露戰役には鹽大澳に上陸したる奥軍の先進隊たる名古屋師團の歩兵第三十四聯隊が三十七年五月六日東淸鐵道第一回破壞を決行し旅順發最終の列車に向つて追撃射撃をなしたる所なり、此地は關東州租借地の境界にして西は渤海の一部たるアダムス灣に臨み復州と相對し東は貔子窩に達し交通の要路に當る、都督府は此處に新市街を開きしを以て寂寥たる小村落も今は戸數約三百、人口約千三百を算し一小市街を形成せり、工業に製鹽及油坊あり製鹽は日本鹽業株式會社の經營に係り鹽田約五百町歩一ヶ年二千六七百萬斤を産出す

【官公署其他】 金州民政支署出張所、郵便局、守備隊、尋常高等小學校、公學堂、中國海關監視所、遼東銀行等あり

【旅館】 三島舘、松山舘あり宿泊料一日金一圓以上四圓以內、晝食料は其半額とす

貔子窩 は普蘭店の東方十里の海岸にあり戸數五百有餘人口三千五百を有し關東州東北境の一小都會にして淸朝の雍正年間初めて開かれ黄海沿岸に於ける有數なる戎克貿易港なり一個年間

戎克の出入約七千餘隻其貿易額百七八十萬圓に達すと云ふ、又遼東半島に於ける有名なる製鹽場にして大日本鹽業株式會社之れに從事す、日清、日露兩役共に日本軍の上陸地點たり又其南方望海堝は明の正德年間明將劉江が倭寇を擊破せし所なりと云ふ、官署に金州民政署出張所、郵便局、守備隊、尋常高等小學校等あり、普蘭店、貔子窩間は馬車の便あり六七時間にして達す一人賃金八十錢、支那馬車一臺小洋一圓なり又大連―貔子窩線毎月八回の航路あるは既に述べたる所なり尚目下普蘭店より輕便鐵道布設準備中なりと云ふ

田家驛（ティエンチア） Tien-chia.

大連起點六十哩三分
長春驛迄三百七十七哩三分

關東州外の第一驛なり驛の南方四哩の所を租借地境界線となし其標石あり、元と山間の寒村なりしも停車場設置せられてより復州產の天日鹽を此驛へ搬送するもの多し

瓦房店驛（ワーファンティエン） Wa-fang-tien.

大連起點六十七哩
長春驛迄三百七十六哩九分

公衆電報取扱驛　途中乘繼驛

構內には洗面所あり、構內販賣店には酒菓、果物、罐詰類あり又食堂あり隨時和洋食を命ずることを得、物品呼賣を爲す、携帶品一時預り所

瓦房店は此附近に於ける一小新市街にして、東清鐵道會社が此地を相して南部線三大驛の一となし機關庫、教會堂、兵營等を建築し、次て滿鐵會社其後を受け市街區を設定し諸般の設備を成せしかば人口次第に增加し店舖軒を並べ市況殷賑今日の隆盛を見るに至れり、目下附屬地內戶數約八百人口二千五百に達し附屬地に接續せる支那人側は戶數約百五十人口約五百を算す、初め露國か瓦房店に大驛を設けたる所以は東清鐵道南部線を四等分して公主嶺、遼陽、瓦房店と其距離に位置せしもの大原因なるも一面此附近に炸子窰炭坑あるの便宜に出でたるものなり

【官公署其他】 警務支署、郵便局、守備隊、尋常高等小學校、公學堂、滿鐵醫院、滿鐵地方事務所、保線係、車輛係、電燈株式會社等あり支那街には巡警分局、稅捐分局、郵政局、鹽務局等あり

【旅館】 春田旅館あり宿泊料一泊一圓五十錢以上四圓以內なり

【炸子窰炭坑】 は驛の東方約一里半の山間にあり乾隆年間遼陽の石炭商李鴻順なるもの時の奉天將軍より龍票(特許狀)を得て此地に採炭する事となり其坑區を鴻順窰と稱し邑名を炸子窰と呼做せしもの之が濫觴にして爾後二百年間其採掘權を世襲せしが東清鐵道會社は李の坑區を買收して大規模の採炭計畫をなし約三哩の支線鐵道を通じ將に開通せんとせしが炭層厚薄常ならず斷層甚だ多く且つ炭質粗惡にして到底採炭に利あらざるを見、遂に之を中止せりといふ、當

會社引繼後は個人に貸與し採掘を經營せしむ

【復州城】 は瓦房店の西方約六十支里にあり其位置一方に偏し交通不便にして商業の範圍甚だ狹く且つ見るに足るべき產物なく市況沈衰萎靡して振はず、然れども管內の首市にして戶數八百餘、人口五千五百餘を有し縣知事公署の所在地たり、隋唐時代より高勾驪征伐の軍路となり遼に至りて始めて復州の稱あり城內今猶星霜幾百年を經過せる古塔ありて城市の古き歷史を語る、城西四十五支里に復州唯一の海港たる娘々宮あるも言ふに足らず

王家驛 Wang-chia.

大連起點七十一哩八分
長春驛迄三百六十五哩八分

王家屯は回頭河の下流にある一寒村なり、得利寺會戰の當時奧軍前衞の砲兵中隊が先づ放列を布けるは驛の東北畑地なりしに依りて僅かに世人に記憶せらる

【甘泉寺及龍王廟】 驛を距ること十數町回頭河の左岸に大明山甘泉寺あり藥王の神像を祭る、寺は明時代の創設に係り山を負ひ水に臨み一境淸雅愛すべし、其下流の右岸小丘上に龍王廟あり得利寺戰爭の際日露兩軍の激戰場として最も有名なり

得利寺驛 Te-li-szu.

大連起點七十八哩九分
長春驛迄三百五十八哩七分

公衆電報取扱驛　構内販賣店には酒菓、罐詰類あり

驛は復州河に臨み龍潭山を負ひ河流の屈曲する所にあり、東淸鐵道會社は此地に稍重きを置き約五十餘萬坪の土地を買收し宏大なる驛舍及兵營を建設し日露戰爭當時は露軍の南方兵團司令官スタゲルベルグ將軍之に駐營せり、今は我守備隊の駐屯する所たり

【名勝舊蹟等】　得利寺會戰　日露戰役に於ける得利寺會戰は眞の遭遇戰にして露軍の約三個師團旅順救援の目的を以て南下せるを我奥軍の三個師團迎擊せんが爲め北進し瓦房店の接戰に始まり當地の南、王家驛との中間龍王廟の丘陵脈に於て交戰せるものなり、驛背近く龍潭山に登臨すれば彼我の戰場歷々として脚下を繞り今猶戰場視察の好地點なり

龍潭山　は得利嬴城の古址にして山中に一池あり傳へ言ふ蒼龍此潭中に棲めりと依て龍潭と命名し遂に其山名をも龍潭山と稱するに至れり四時碧水を湛へて大古の如く池畔一寺あり龍虎寺といふ淸雅愛すべく、山は一帶に灌木繁茂し躑躅殊に多く又早蕨山麓到る處に密生し春秋の郊遊に適す、驛の西方約一里の所に一古刹あり得利寺と名づく驛名之に基づけりといふ

松樹驛（ソオンシウー）　Sung-shu.

大連起點八十三哩
長春驛迄三百五十四哩六分

公衆電報取扱驛

驛は復州河右岸にあり寂寞なる一小驛に過ぎざりしが此地附近柞蠶の産出多く且水田に適せるに依り近年著しく發展し今や戸數八十、人口約四百を算し一新市街を成すに至れり

萬家嶺驛（ワンチアリン） Wan-chia-ling.

大連起點九十二哩七分
長春驛迄三百四十四哩九分

公衆電報取扱驛

萬家嶺は山間の一驛なり、驛の東方里餘の山中建築材料として稍良好なる花崗石を産出し各方面に供給す、東山一帶總て奇勝に富めども地僻にして道險なるが故に探勝の客殆んど跡を絶つ

許家屯驛（シウイ・アトオン） Hsu-chia-tun.

大連起點百〇一哩五分
長春驛迄三百三十六哩一分

此地亦山間に介在せる寒村にして二百年前山東の移民許家一族此處に居を構へしより許家屯と稱すといふ驛後に屹立する官馬山は往時唐の太宗東征の時軍を此處に駐め馬を山麓に放ち暫らく休養せし所なり、山頂に登り遙かに渤海を望めば水天髣髴の間白帆隱見眺望頗る佳なり、驛の東南里餘石頭河畔に溫泉あり河中處々に湧出す、龍門溫泉と稱す其泉質熊岳城溫泉に相似たり

九寨驛（チウチヤイ） Chiu-chai

大連起點百〇六哩二分
長春驛迄三百三十一哩四分

山谷茲に洞開して此地より渤海江岸の平野となり地味豐穰果樹栽培に適す

熊岳城驛（シユウンヤオチオン） Hsiung-yao-cheng.

大連起點百十二哩五分
長春驛迄三百二十五哩一分

途中乘繼驛　構內販賣店には酒煙草鑵詰等あり、呼賣を爲す、又洗面所あり、携帶品一時預り所

熊岳城は古へ遼の熊岳縣を置きし所にして其城市は驛の西方十餘町熊岳河の右岸にあり、城の周圍二十五町東北二門を有す城內の戶數九百餘、人口三千餘外に鐵道附屬地に戶數二百五十人口千三百餘あり重に農業及園藝に從事す紅梨の產出を以て名あり、又當地沿岸は有名なる黃花魚の漁場にして每年五六月頃漁期約二週間に五六萬斤前後を漁獲す、黃花魚の漁期經過後の十餘日間は鰆魚(さわら)の漁期にして其漁獲亦尠なからず、會社は此地を相して園藝、養蠶、種藝及林產に關する研究を行ふべく產業試驗場熊岳城分場を設置す其用地は約十一萬坪なり

【官公署其他】　附屬地には郵便局、守備隊、尋常高等小學校、公學堂、滿鐵地方事務所出張所あり城內には稅捐分局及漁業局あり

【名勝舊蹟等】　熊岳城溫泉　驛の東南二十餘町熊岳河々床中に溫泉湧出す泉質は無色透明亞爾加里性を帶び溫度人に適し筋及節僂痲質斯、慢性濕疹、歇私的里、神經衰弱症、貧血諸病、婦

人生殖器の慢性諸病、腺病等に効驗あり會社は其河岸に浴場を建設し一般入浴者の便に供し其一廓內には形田某の經營に係る溫泉ホテルあり浴客の投宿に便ず其位置秀麗なる山峰に圍繞せられ水碧に砂白き熊岳河は眼下に流れて涸れず或は釣し或は砂を穿ちて所謂砂湯を試むれば俗塵を避けて仙境に遊ぶの思ひあり眞に滿洲の樂園と謂ふべし、溫泉ホテルは洋風の建物にして內部は純日本式及西洋風あり部屋數三十、娛樂室の設けあり設備完全なり、入浴料一日金五錢、宿泊料一泊二食付一圓以上四圓以內晝食半額、貸間料一室一人一日二十錢以上四十錢以內、下宿料座敷料共三食付一日金一圓なり、尙會社は浴客に便せん爲め驛、溫泉間に手押輕便鐵道を布設せり其片道賃金十錢なり又汽車賃は溫泉行往復割引乘車券を發賣す

咸家の梨園　咸家は附近一帶に於ける豪農にして其祖は嘗て奉天將軍たり夙に殖產に志し將軍を辭するの後ち居を驛の西南里許の正黃旗堡にトし梨樹を栽培して老を送れり、其樹生長して鬱然林を成すもの二千餘株、春は花雲簇々として雪を欺き秋は紅果累々として瓊よりも美なり園に接して松樹の丘あり

黃旗山　と稱す奇岩丘をなす所老松參差として一宇の關帝廟あり、之に登臨すれば渤海の蒼波鏡の如く穩かに、東山の峯頂劍よりも險し、東山千峯の裡古來最も名高きものを

靑龍山　とす驛を距ること東方二里阪路聳まりて洞天再び開く所脊苦巖を染め老松龍の如く蟠

り泉聲其間に咽び宛然仙境の如し山頂一古刹あり望海寺といふ故に又望海寺山の名あり、是より西望すれば渤海洋々として水天相參る所杳に蓬萊の遠山模糊として夢の如きを望むべし山中喇嘛洞、羅漢峯、將軍石等の奇好絶景多し

望小山は近く驛の東方に獨峙し其頂に一浮屠あり宛然孤島の燈明臺を望むに似たり、傳へ言ふ往時一寡婦あり其子渤海を渡りて晋京し月を經て還らず寡婦晝夜思慕して忘るこご能はず遂に此岩頭に悶死す望小山の名之れに起因すと

蘆家屯驛 Lu-chia-tun.

大連起點百十八哩七分
長春驛迄三百十八哩九分

蘆家屯は古への蘆州にして渤海大氏の頃より知られたる村邑なり、現今荒涼たる寒村なれども地下を鑿つこご三尺往々高勾驪時代の古塚を發掘す棺中藏むる所のものに刀錢、五銖錢、埴輪の類多し以て此附近の古へを偲ぶべし

沙崗驛 Sha-kang.

大連起點百二十五哩四分
長春驛迄三百十二哩二分

一寒村にして其主要なる產物に花崗石あり建築材料として大連及營口方面に搬出するもの多し

蓋平驛 Kai-ping.

大連起點百三十二哩
長春驛迄三百五哩六分

構内販賣店には酒菓罐詰あり、洗面所の設けあり、途中乘繼驛

蓋平は高勾驪時代の蓋平城にして唐の太宗東征の時唐將李世勣の攻陷せし天險なり星霜一千餘年を經て其位置多少變遷せしものあるべしと雖も當年の激戰場たる青石關、撒謊糧等の地名猶存し人をして懷古の情に堪へざらしむ、日清、日露の兩役にも亦多少の戰鬪ありしを以て夙に邦人に熟知せらる、現在停車場のある所は海山寨の村落にして鐵道附屬地面積百萬餘坪戸數百人口約千二百あり

【蓋平城】 は驛の東南里餘蓋州河右岸にあり繞らすに城壁を以てし東西五町南北八町に延び戸數二千五百、人口一萬五千巨商軒を並べ行人市をなし最も殷賑なり此地古來有名なる柞蠶絲市場にして柞蠶糸は實に蓋平の生命をなせり現今一年の取引高糸屑共約三萬五千擔を算す、柞蠶糸に次ぐ主要物産に鹽あり、蓋平縣及營口廳の江岸一帶に鹽を産し所謂營蓋鹽として其名高し大正三年當驛より發送せし官鹽は一萬六千四百噸なり

【官公署其他】 城内に蓋平縣知事公署警察事務所及郵政局等あり附屬地に我が郵便局、守備隊及公學堂、滿鐵地方事務所出張所あり

【柞蠶】は一名野蠶とも稱し、又山蠶ともいふ、柞樹林に放養して自然の發育に委するを例とす、柞樹林は東西又は南西の傾斜地を選定し五尺の間隔毎に柞樹一株を植え四千乃至六千株を以て一區域とし之を一把剪子といふ、一把剪子に飼養する蠶兒は約二三十萬匹にして收繭し得るものは平均十萬箇内外に過ぎず、柞蠶は春秋二期に成繭すれども秋繭最も佳良なり、蓋平縣内の柞樹林は約四千把剪子にして岫巖、鳳凰諸縣に比すれば甚だ少なし、製絲場は絲房と稱し城内に三家あり生產地には到る所小糸房の存在せざるは無く之が賣買問屋城内に五十餘家ありといふ

太平山驛（タイピンシャン） Tai-ping-shan.

大連起點百四十三哩七分
長春驛迄二百九十三哩九分
公衆電報取扱驛

大平山は平野の間に孤立せる小丘にして驛の西方にあり日淸戰役の際乃木旅團が淸軍と激戰せし所なるに依て顯はる、驛の北方約一哩の線路東側に牛心山あり大平山と相對峙す日露戰役の初年ザルバエフ中將の率うる露國南部兵團は此小丘を右翼小據點として奥軍と交戰せり即ち大石橋の戰鬪なるもの是れなり、驛の西方二里渤海々岸に藍旗、黄旗の二鹽廠あり所謂營盖鹽は過半此鹽廠の產なり、故に當驛より發送するもの多し

大石橋驛 Ta-shih-Chiao.

大連起點百五十哩六分
長春驛迄二百八十七哩
營口驛迄十三哩九分

途中乘繼驛、公衆電報取扱驛、營口線乘換驛、携帶品一時預り所
構内販賣店には酒菓煙草あり、洗面所あり、手荷物運搬夫あり料金一個金三錢、食堂あり和洋食支那食の二部に分れ外に酒煙草果物等を備ふ其階上に日本寢室數室あり旅客の宿泊に任せ寢具料として一人金五十錢を收む

大石橋の名は昔時淤泥河に石矼を架せしに起因す淤泥河は其名の如く一泥溝に過ぎざれども昔時唐の太宗高勾驪を親征せし時乘御の龍馬驚き逸して泥中に陷りたりといふに因りて名高し、當地は鐵道開通前にありては營口岫巖間の一宿驛に過ぎざりしが東淸鐵道南部線の營口支線分岐點となるに及び漸く繁盛となり現今戸數五百二十、人口千二百を算し、電燈の如きも日ならずして架設せらるべし

【官公署其他】 營口警務署大石橋支署、守備隊、郵便局、憲兵隊、滿鐵地方事務所、保線係、車輛係、尋常高等小學校、滿鐵醫院等あり附屬地外に支那鹽務局出張所、郵政局等あり

【旅館】 梅廼家あり宿泊料一人一泊一圓五十錢乃至四圓晝食は其半額とす

【名勝舊蹟等】 迷鎭山は驛の西南三十町餘にあり其山上に海雲寺の古刹あり耀州城時代より

有名なる寺院にして裡に娘々三神を祭れる一廓あり、娘々廟の三神とは趙公明の三妹雲霄、避霄、瓊霄、の三娘にして中央にあるを福壽の女神、左右にあるを治眼、授兒の女神とす、毎歲清曆四月十六、七、八三日間の會式に際しては善男善女の參廟する者數萬人に達し芝居其他の與行物及飲食店等山腹山下一帶に市をなし雜踏名狀すべからず

盤龍山 は驛の東方に獨峙せる日清役の戰場にして驛を中心とせる新市街は日露戰役の初年七月露將ザルバエフ中將が我奥軍を牛心山の線に迎へて戰鬪せし當時其の總豫備隊を集合せし處なり、山腹に大石橋神社あり、神社を中心として公園となす附近平原の展望に宜し

紅旗山 は驛の東南一里にありて山腹に百餘株の杏樹林あり花時には白雲の靉靆たるが如く一日の清遊に適す

分水驛 Fen-shui.

大連起點百五十五哩三分
長春驛迄二百八十二哩三分

分水は岫巖方向より蜿蜒西方に走れる一小丘脈渤海沿岸の平野と遼河流域の平原とを分界するの地點に在るを以て此名あり

他山驛 Ta-shan.

大連起點百六十哩三分
長春驛迄二百七十七哩三分

海城驛 Hai-Cheng.

大連起點百七十哩五分
長春驛迄二百六十七哩一分

構内販賣店には酒菓煙草等あり、洗面所あり、途中乘繼驛

海城は遼時代の海州にして古への所謂遼隊の故地なり其四周には唐王高勾驪征伐の舊蹟多し、驛は東清鐵道南部線の一主要驛に數へられ、露國は更に當驛を起點とし石門子、柝木城、小孤山を經て鴨綠江岸に達せしむるの豫定なりしが工事半ばにして日露戰爭開始せられ今は唯廢潰せる築堤の空しく四十哩間に蜿蜒たるのみ一時市況萎靡として振はざりしが、近年諸設備の改良と共に漸く恢復し現今附屬地戶數百餘に達せり

【官公署其他】 附屬地に我が砲兵聯隊、守備隊、憲兵隊、陸軍衛戍病院、郵便局、尋常高等小學校、滿鐵地方事務所出張所あり城内には海城縣知事公署、警察事務所、郵政局、電報局、稅捐局及學校等あり

【旅館】 翠香花壇、紅葉あり宿泊料一泊八十錢以上二圓五十錢以內なり

【海城】 城內は驛の東方約十町にあり、城壁は他の平地に築けるものと稍〻其趣を異にして天然の丘陵を廓內に入れ海城河の流れを利用して天塹となせり、其丘を唐石山と稱し其麓には大聖孔子の廟あり、今は此附近一帶を公園となし四民の遊覽に供す、城門は東西南北四門の外別に



千山龍泉寺

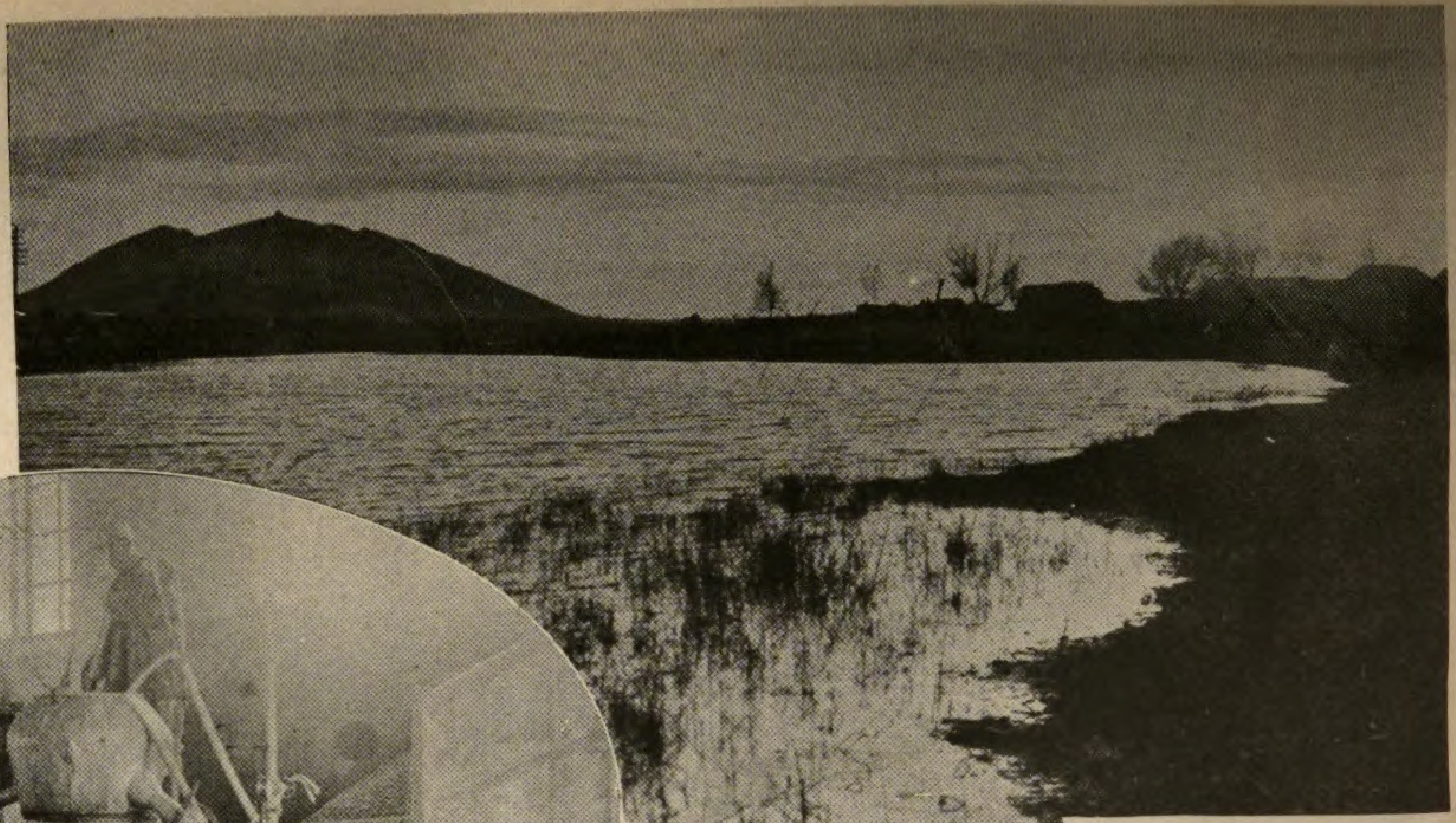
千山無量觀





湯崗子溫泉

首山堡





滿洲土人ノ高粱酒釀造



遼陽ノ白塔

小南門あり、城内戸數二千餘人口一萬二三千餘と稱せられ岫巖を經て朝鮮に通ずる官道上の咽喉として往時は最も重要視せられたる城市なりしといふ

【名勝舊蹟等】 析木城 は城の東南數里の朝鮮街道上にあり今は見る影もなき山間の僻邑なれども日露戰役には我第四軍が露のザスリーチ中將の二十八大隊を擊破せし處にして當時露軍の據點となしたる缸窰嶺は三陵瑠璃瓦の製造場を以て有名なり

缸瓦塞 は城の西南牛莊街道上にある一小市なり日清戰役の當時桂中將の第三師團が清將宋慶の大軍と激戰せし所にして海城の危險なる運命を拯ひたるを以て有名なり

南臺驛 Nan-tai.

大連起點百七十六哩二分
長春驛迄二百六十一哩四分

湯崗子驛 Tang-kang-tzu.

大連起點百八十三哩七分
長春驛迄二百五十三哩九分

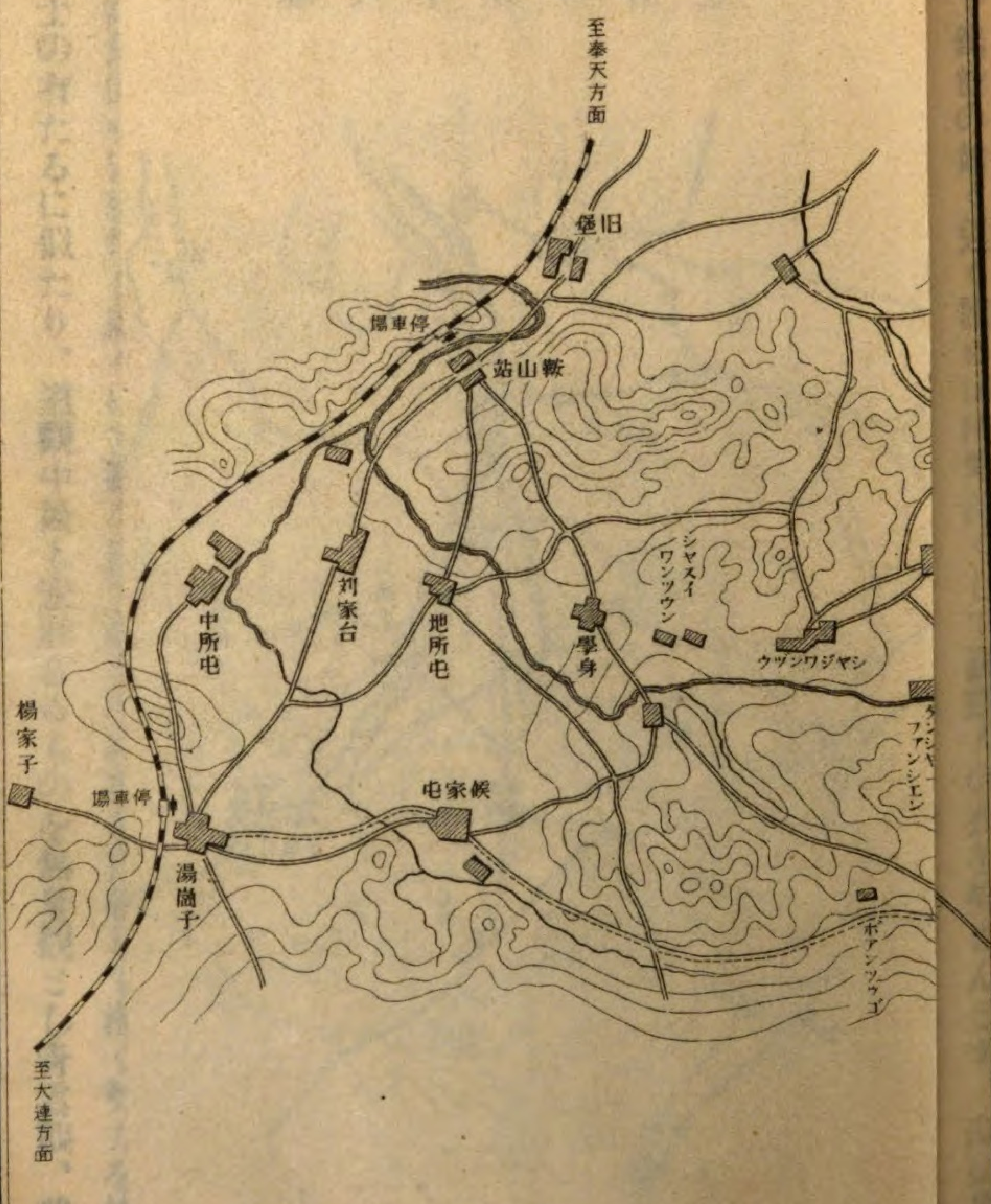
公衆電報取扱驛、途中乘繼驛、携帶品一時預り所

湯崗子は溫泉を以て名あり唐の太宗高勾驪親征の際軍兵金創を此地に療せしといふの說は甚だ疑はしきも、此附近に湯河、甘泉堡等の地名あるに徵すれば此溫泉の支那人間に發見せられたるは頗る古きものと察知せらる、日本人の之に浴せしは日清戰役の終期に際し鳳凰城より牛莊

に轉戰せし途中兵士の征塵を洗ひしに始まり、尋て露國の軍を滿洲に進むるに當りクロパトキン大將は此地を相して滿洲軍の療養所に充て大規模の溫泉場を經營したるもの即ち今の建築物なり、泉質は無色透明の亞爾加里性にしてラヂウムを含有すといふ、溫度は攝氏七十三度半、節及筋僂痲質斯、慢性濕疹、ヒステリー、脊髓勞半身不隨、婦人生殖器の慢性諸病、腺病等の諸症に効能あり、一晝夜約二百石を湧出す湧泉瀦して池をなせるもの約四百坪池上舟を浮ぶべし近年之を利用して水田を經營し今や十町歩に垂んとす、又此泉を以てする鑛泉水製造所あり我が滿洲軍の遼陽を占領せし以後此地に陸軍轉地療養所を置き以て溫泉場開かれ浴客に便ず、溫泉場は淸林館(林屋某)の經營に係り驛の東北四町にして西北は開けて平野廣く、東北は遠く千山の連峯を望み四時の眺望最も雄大なる地點を占む近時或は增築し或は電燈を點じ或は浴室を新築し或は溫室を設けて四時花卉妍を爭ふ等其設備內地の溫泉場に比し或は反て優れるあり浴客次第に增加し殊に西伯利亞地方よりの外客歳々多きを加へ、且つ千山探勝の客多くは此地に下車するに因り益々繁榮に赴きつゝあり、席料一日金五十錢以上五圓以內食事料一食金三十錢以上金一圓五十錢以內にして滯在客には割引をなす外に外湯と稱する輕便なる浴室あり又汽車賃は溫泉行往復割引乘車券を發行す

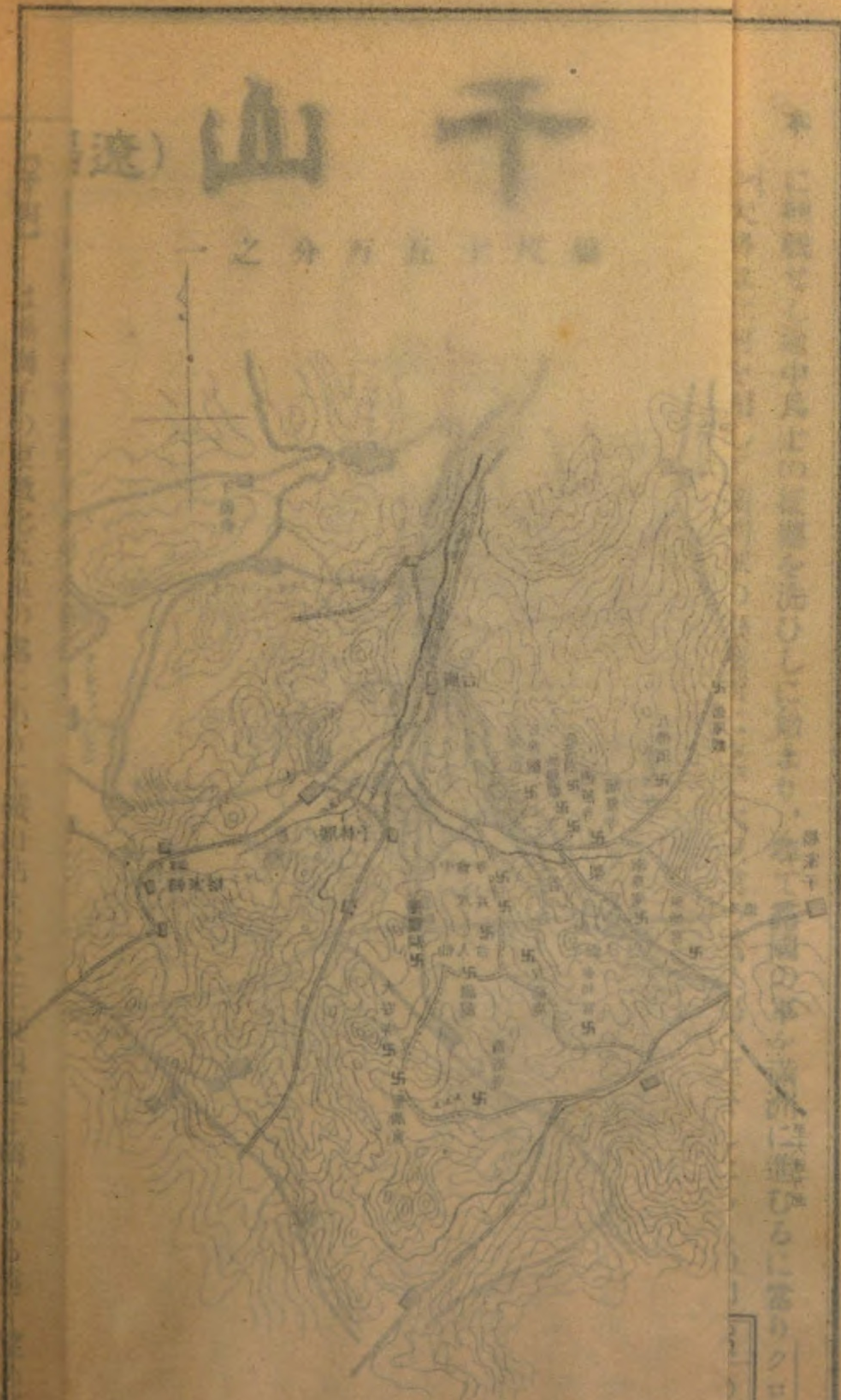
【千山】は湯崗子の東微北五里の處にありて鞍山站よりは正東四里と稱せらる遠く望めば千頃

陽縣）



凡例

卍						
寺院	村落	登山道	鐵道	里道	河流	山岳


千山

相並んで鋸齒の如く近く臨めば積翠深くして滴露人の衣を染めんとす、山は長白山系の支脈に屬し附近の丘山悉く皆瘦骨累々たるに似ず千山獨り松樹に富むものは山中五大禪寺ありて歴朝其風致を保護したればなり、滿洲靈山多しと雖も遼西の醫巫閭山、吉林の長白山、遼陽の千山最も名高く其形勝に富めるは醫巫閭山千山殆んど伯仲の間にあり然れども醫巫閭山は殷周時代より北方の鎭山として史上に現はれ、千山は唐朝以前に現はれず山僧往々唐王駐蹕の事を語れども而も古書碑碣の之を明證するもの無し明の萬曆嘉靖年間に至り文人墨客の此に遊ぶもの漸く多く淸の康熙乾隆年間に至り皇帝の行幸等ありて千山益々其靈を加ふ史上に現はれたる千山は實に斯の如し、故に其山靈は固より五嶽五鎭に若かずと雖も山骨皆巨巖を以て形成せられ鬱蒼たる松林之を圍繞し一境靜閑最も幽韻に富めるの點に於ては恐らく遼東第一の仙寰たらむ

五大禪寺とは龍泉寺、香巖寺、祖越寺、中會寺、大安寺の五刹にして共に唐時代の建設に屬し龍泉寺の奥の院には明朝頃まで唐碑の存せしこと古碑に依て證せられ香巖寺の古塔は元の高僧雪庵舍利の塔なることも亦塔碑に依て明かなり、寺皆數頃の山林と幾畝歩の梨樹園とを有し信徒の喜捨を仰がずして獨立自存す、滿洲の名產たる酸梨は即ち千山寺領の產なり、淸朝に至り道士の徒此山中に移住し處々に宮觀を建て禪寺の林野を買收して漸く勢力を樹殖し今は千山の大半道士の有たるに似たり、道觀中最も宏壯なるものを無量觀とし青雲觀、普安觀、三淸觀、

慈祥觀、洪谷庵、南泉庵、龍泉庵、木魚庵、朝陽宮、斗姆宮、聖淸宮、太安宮、東極宮等の二十三道觀あり道士は老子を祖とし禪僧は佛爺を師とし其敎宗全く相異なるものあれども今の道敎は佛敎を加味するもの多く堂前に參禪し朝夕に讀經するの狀兩者略相均しく唯結髮圓頂の差あるのみ、以上の禪寺宮觀は仙人臺、松苦峯、五峯嶺の三峰鼎立せる幽壑の間に散在して各〻其谿を異にし儼然として一廓を成す、千山の奇勝は此四十八谿中に網羅せられ一々之を探勝すれば裕に三日を要すべきも多くの躋勝者は五大禪寺及無量觀、靑雲觀、普安觀、南泉庵の八九寺觀を巡游するを例とし五佛頂、仙人臺、羅漢洞、振衣岡等の險巖を攀登するもの甚だ稀なり、中に就て景色の最も雄大なるものを大安寺とし中會寺之に亞ぐ堂宇の最も壯麗なるは無量觀にして龍泉寺之に次ぎ共に形勝の區を占めて眺望絕佳なり、香巖寺は仙人臺を負ひ梨樹溪に臨み形勝の位置にあれども稍俗化し南泉庵は規模狹少なれども閑靜にして俗塵を絕つ、祖越寺は無量觀に瞰制せられ大に風致を損じて亦昔日の大觀なく、普安觀は小堂最高處に聳え岌乎として危し、山中蓮花、獅子、沛勒、淨瓶、孟鉢、海騾、松苦、筆架の諸峰、臥象、獻寶、鵓鴿、歇仙等の諸臺、太極、煉魔、鸚鵡、漱瓊の諸奇石、石佛、片石、花巖等の怪巖、玉皇、萬佛、觀音の三閣、松門、西湖の兩靈井、濯纓、通明天、振衣岡等の絕勝あれども其多くは明淸文人の命名せる假稱にして十里の山中到る處皆俗腸を洗ふの仙境ならざるは無し、乾隆帝千山を望むの

詩あり

我聞古來稱奥區、必有名山爲作鎭、況玆遼陽實天府、羲經已兆帝出震、長白巫閭衆所瞻、千山亦復高千仞、設在晋郊魯鄙間、太華泰岱堪齊峻、我來譙邑攬形勝、南望巑岏映青潤、朝嵐夕靄儼相接、巒光峰態如堪引、龍泉祖樾久聞名、靈蹟相傳半疑信、何時長嘯眺滄海（千山香巖寺中有仙人臺俯瞰蒼海如布几席云）千仞岡頭衣始振、

又明の少卿徐文華の詩あり、神韻縹緲能く千山の勝を盡くせり

雲烟廻合水潺湲、路轉陂陀百折還、上界鐘聲霄漢杳、前山塔影夕陽間、松濤漲壑千巖響、花雨浮空滿地斑、坐久虛堂疑誤入、恍然身世出人寰、

千山の眺め四時共に佳なるも春秋の景色最も宜しく春は梨花霞の如く秋は楓葉錦に似たり雪の千山亦美ならざるにあらざるも山路險惡遊行するもの甚だ稀なり然れごも千山の仙境は時こして兵塵の巷こなるこごあり日清戰役には黑龍江將軍依克唐阿此山中に陣して我が第一軍に備へたり當時功名に渇するの徒其戰功を岩石碑碣に刻せしもの今猶無量觀龍泉寺の境内處々にありて大に仙寰を俗化す、日露戰役には遼陽戰前露軍の一部千山に據り遙に析木城の我が第四軍に備へたり當時の前哨兵舍は香巖寺を假用せしかば堂宇爲めに頽廢し寺僧遁竄して一時無住の姿こなりたり、千山觀光の道順は湯崗子及鞍山站よりする二道ありて其順序相同じからざるも先


づ山麓の石橋子村に至り之れより一二の山嶺を越えて右に南泉庵左に普安觀を巡り龍泉寺を經て祖越寺、無量觀に至り更に中會寺の溪谷に入り羅漢洞の嶮を攀ぢて大安寺の背後に出で通明天の山腹を繞りて聖淸宮を過ぎ香巖寺を訪ふて歸途に就けば躋勝略ゞ盡くせりと言ふを得べく此行程約十四里觀光二日間を要す、河流の源を千山に發するものに三條あり鞍山河、大沙河、湯河是れなり鞍山站より登山するものは鞍山河に沿ふて溯り、遼陽よりするものは首山の南より大沙河に沿ふて溯り七嶺子を經て祖越寺に出で大安平よりするものは湯河沿を經て大安寺に出づ三河皆淸淺掬ふて飲むべく漱ぐべし、河の流域に各ゞ溫泉あり湯崗子最も著はれ湯河沿之に亞ぎ七嶺子の溫泉は如今乾涸して人の知るものなきも史上最も名高きは此七嶺子の溫泉なり

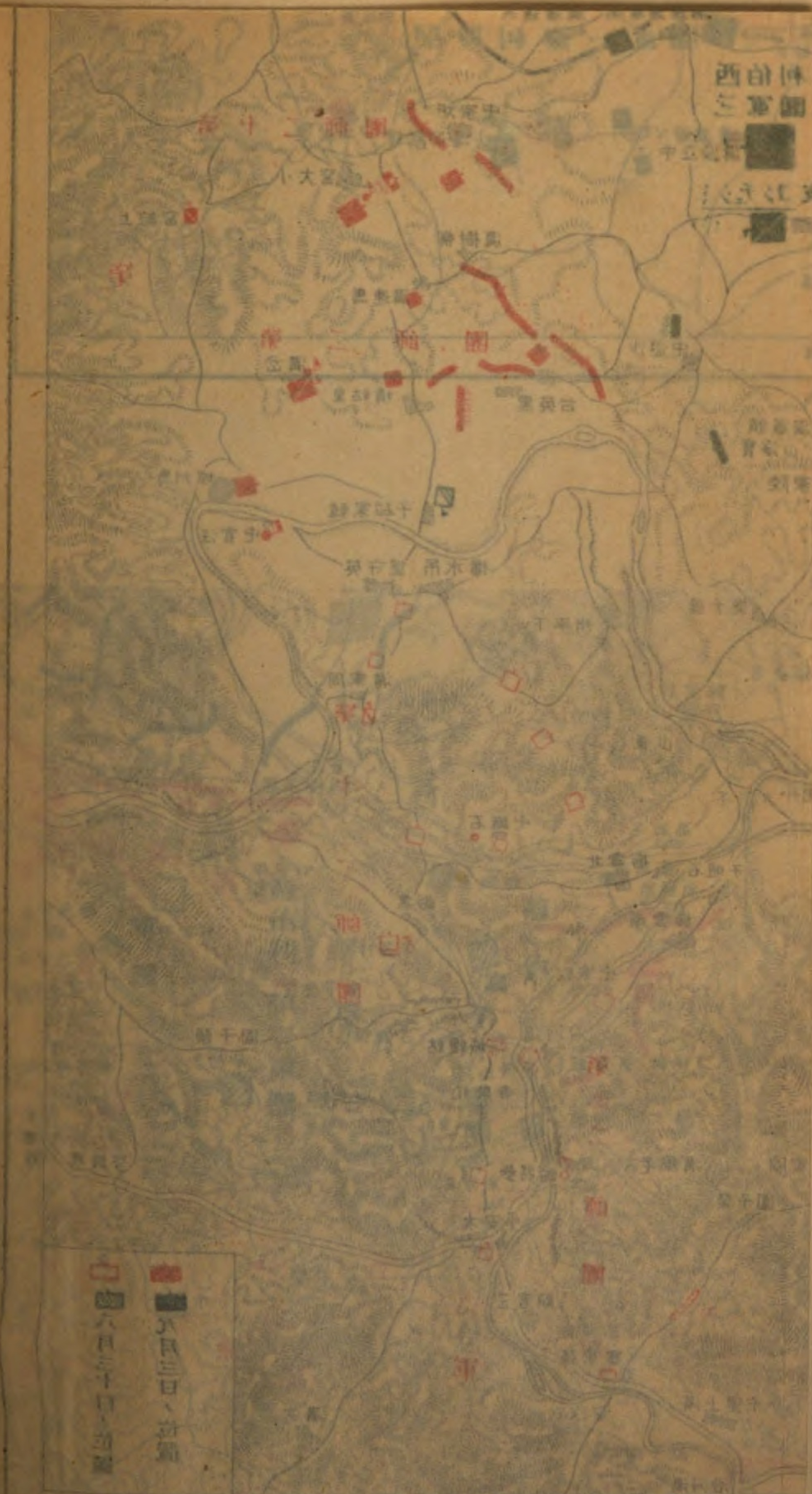
鞍山站驛（アンシャンチャン） An-shan-chan.

大連起點百八十九哩五分
長春驛迄二百四十八哩一分

途中乘繼驛、公衆電報取扱驛

鞍山站は遼陽城南方の天然關門にして千山の山脈は西走して漸く低く起伏し鞍山鳳龍山閔山となり臘鰲堡の北方に至りて遼河平原中に沒す、此地附近鐵鑛發見せられ今や開鑛に關する準備中なりといふ、鞍山站は鞍山鳳龍山の間を流るゝ鞍山河の右岸鞍山々脚にある小城市にして古へ關門を置きたる處なり驛は此古城址の北方舊堡にあり、日露戰役の初年露國の滿洲軍は遼陽


兵馬屯
青推子
王三家子
范家屯
要占老瓜窩
尤家庄子
寶家雙樹子
郎家屯
王二屯
前鈴河子
大偉振堡
孤家堡子
白家老瓜窩
黃家店
大趙家台
付家庄
蔡林子
安座子
首山
興隆台
立麗堡
坡堡子
楡樹屯
達子營
首山堡
西伯利
第一軍團
方家屯
西王家庄
東王家庄
向陽寺
楊家林
大紅旗
麦山子
土台子
東上勾
大窪
小麥山子
黃家屯
城昂堡
後坂上
櫻桃園
羊草庄
沙河
南沙河
杯山
至牛莊城
大魏家屯
至海城



を本防禦陣地として其前進陣地を鞍山の天險に相し西伯利亞第一第二軍團を此丘陵に配備せしが我が第一、第四軍は海城、析木城の二方面より鞍山站に向て進擊し八月二十六日先づ第一戰を開始し翌二十七日將に彼我首力の衝突を見るに至らんとせしが露軍俄かに退却せしかば奧軍代りて之を占領せり、二十六日の前衞戰に我が步兵第二十聯隊長桂大佐の戰死せしは驛の東方大平溝の高地にして、二十八日の追擊戰に露軍の後衞旅團長及狙擊步兵第四聯隊長の戰死せしは驛の西北方二臺子の高地なり

立山驛 Li-shan.

大連起點百九十六哩
長春驛迄二百四十一哩六分

立山屯は大沙河の右岸にある大邑にして驛の西方約二里半遼陽に次ぐの一市街なり、日露の役露軍は遼陽の防禦陣地を首山、向陽寺、新立屯等の高地上に築き日本軍を迎擊せしかは奧軍は大沙河を前にし攻擊運動を起し我が滿洲軍の重砲四門は實に此驛の南方なる鐵道線路に放列を布き遙に攻擊步兵を掩護せり、步兵第三十四聯隊長關谷大佐、大隊長橘少佐の勇戰討死せし向陽寺の高地は大沙河を隔てゝ驛の東北方に蜿蜒たる丘脈なり

馬伊屯驛 Ma-i-tun.

大連起點二百一哩七分
長春驛迄二百三十五哩九分

馬伊屯は首山の西南麓にある小驛なり附近は遼陽大會戰の際首山攻擊に任ぜられたる鹿兒島步兵第四十五聯隊の奮戰せし戰場なり

【首山】 は其の當時西伯利亞第一軍團の防禦せし本防禦陣地の鎖鑰地なり其高さ七十米突の小丘に過ぎざれども平野の間に獨立して遼陽城を瞰制するが故に古來兵家に重視せられ漢末には魏の司馬懿太子河を渡つて先づ首山を占領し以て公孫淵の居城たる襄平攻擊の據點となし、唐初には太宗皇帝自から馬を首山に駐めて白巖城の高麗軍を征伐す故に亦駐蹕山の別名あり、日露戰役には露軍右翼の重鎭として西伯利亞第一軍團此山脈に據り第二軍團其東に連りて遼陽街道を扼し南部兵團長シタケリベルグ中將丘上にありて三軍團を指揮せりといふ、交戰三日にして首山陷落し、奥軍之に代りて遼陽設堡陣地攻擊の據點となす、首山は斯の如く既往の三大戰に依て愈〻其價値を世人に知られたり、山中淸風寺の古刹あり松風泉聲の勝區を占む傳へ言ふ唐王駐蹕の際中書侍郎許敬宗に命じ文を作て石に勒し其功を記さしめたる古碑近古まで此境内にありきと今は之を見るに由なきも丘上の狼煙臺は千古の記念として驛前近く仰ぎ望むべし、山下に首山堡・趙家臺等の村落あり首山堡は露軍の繃帶所を開設せし村邑にして、趙家臺は我が第四師團長小川中將が重傷を被りたるの地なり、首山堡の北方一里半に在る城市は即ち遼

遼(リャオ)陽(ヤン)驛　Liao-yang.

大連起點二百八哩二分
長春驛迄二百二十九哩四分

公衆電報取扱驛、途中乘繼驛、携帶品一時預り所
構内販賣店には、酒菓煙草類あり、構内食堂にては和洋食を調理し列車の着發には酒菓煙草等を呼賣す又構内には洗面所の設けあり

遼陽は滿洲最古の城市なり、春秋戰國以前の事蹟は邈として探知するに由なきも箕子衛滿等の都せしは恐らく此附近なりしならむ、漢氏燕を滅するの後遼陽郡を置き東漢に至り遼東大守を此地に置き襄平城を築く、漢末公孫淵之に據りて自立し魏の司馬懿に攻圍せらる爾後唐朝に至るまで高勾驪王の領地となる、唐王親征の後渤海國の中京顯德府となり、遼金時代は之を東京遼陽府と呼び元は之を瀋陽路に併せ、明は此地に都司城を置きて遼東一圓を管せしめ、淸は天命年間一時都を此地に奠めしも後奉天に遷し順治年間府城を置き後州治となす、遼陽の歴史は斯の如く至つて古く從つて名所舊蹟處々に多し

【城壁】　は驛の東南約十町の所にあり明の洪武年間に改築せしものにして當時は南北二城に分れしが淸の太祖北城を毀ちて新城を太子河の右岸に築きたり今の所謂土城若くは北哨堡は即ち

北城の遺跡なり、城は東西六支里南北四支里西北二面に各一門東南二面に各二門を開き中央に十字街ありて市街を四大別す、十字街附近最も殷賑にして巨商軒を並べ市況活潑なり人口は城内及城門外西關北關を合せて三千餘戸三萬五千餘人あり

【鐵道附屬地市街】 は停車場より西關に至る區間にして其商業區は稍〻殷賑なり戸數千百餘戸人口約四千、附屬地と城内とを連絡する輕便鐵道延長五哩ありて貨客の運搬に便ず一人乘車賃金八錢なり

【太子河碼頭】 は城東黃家嶺子にあり水量多き季節に至れば小形ジャンクは更に十五支里を溯つて鵞房に到ることあり、之れより上流には刳舟の本溪湖、威寧營に溯り石炭薪柴を積んで下航するものあれども其運搬力は甚だ寡弱なり

【官公署其他】 城内には遼陽縣知事公署、遼陽警察事務所、遼陽地方審判廳、遼陽地方檢察廳、遼陽監獄、兵營、遼陽稅捐徵收局、郵政局、電報局、各學校及日本帝國領事館あり附屬地には師團司令部及兵營、憲兵隊、衛戍病院、工兵隊等陸軍諸官衙、遼陽警務署、郵便局、尋常高等小學校、公學堂、滿鐵醫院、滿鐵地方事務所、車輛係、保線係あり、日支合辦の電燈會社ありて城內外に點燈し、橫濱正金銀行出張所、遼陽銀行あり、遼陽新報あり、又城內に英人經營の基督教會、佛人經營の天主教會あり、

【旅館】 遼塔ホテル、油屋、富久屋等あり宿泊料一人一日金一圓以上五圓以内書食料は其半額とす

【名勝舊蹟等】 忠魂堂 は停車場の南方約十餘町に在り日露戰役の際に於ける蓋平煙臺間の陣沒者一萬四千餘名の英靈を合祀する所なり。遼陽の大會戰は内外人の熟知せる如く露軍の約十三箇師團に對し我軍の十箇師團弱を以て六日間連續激戰せし大戰場なり、故に城外三面の丘陵は皆當時の對戰地ならざるは無く就中首山、黑英臺、仕官屯、紅沙嶺、弓張嶺、石門嶺、早飯屯、瀋家屯、新立屯、方家屯の高地は殘壘廢堡今猶存し人をして當時の慘狀を偲ばしむ、露軍のベリチコーフ工兵少將が細心經營せし遼陽城南の設堡陣地今尚其殘影を留め我が姫路師團が最も苦戰せし玉皇廟の閉鎖堡は城隅の魁星樓より近く下瞰し得べし、現時駐屯師團長の官邸たる一家屋は會戰當時クロパトキン大將の駐屯せし所にして後には我が大山元帥の轅門となり又獨逸從軍皇族の旅館となりたる歷史を有し城壁處々に破壞門あるは當時露軍が内外交通の爲め開きたる軍路の跡なり

白塔公園 は附屬地内にあり東漢時代に建立せられし廣祐寺の遺跡にして園内有名なる白塔は高勾驪以後に建築せられたるものなるも其年所を知るに由なし、塔の高さ二百三十餘尺八菱形にして十二層樓をなし周圍に佛像を雕む、淸朝に至り屢々重修して古色大に損じたるも一千餘

年の星霜を經たるものなることは疑ふ可らず、廣祐寺の伽藍は東清鐵道敷設時代に地所建物共に五千餘金を以て買收せられ爾後戰役を經て佛像佛具概ぬ皆毀壞せられ今は唯大小二座の銅佛空しく公園に曝さるゝあるのみ、會社は此好箇の遺蹟を保存せんが爲め白塔及び寺院の庭樹碑石等を公園内に取入れ風致の維持に努む、又園内に遼陽神社を奉安す

東京陵は城外にあり又墳上とも稱す清祖帝業を創めし頃太祖太宗と共に南征東伐の戰功最も多かりし莊親王以下數貝勒の墳墓あり丹壁丘を繞る所老松鬱茂し此に登れは遼陽城は近く脚下にありて風光甚だ佳なり、此外城内の金銀庫廟は遼の東丹宮殿の遺址なり、西關の關帝廟は元の至元年間の建築に屬し、新城の廢墟は清の太祖が經營せし天命年間の別城なり、其他東會寺、西會寺、孔子廟、玉皇廟、城隍廟の如き皆是れ明以前の創設なるも風致に乏し

張臺子驛 Chang-tai-Tzu.

大連起點二百十六哩一分
長春驛迄二百二十一哩五分
公衆電報取扱驛

驛の東南半里の羅大臺村落は石材及石灰の產地なり、羅大臺の西側に起伏せる丘陵は龍王頂山と稱し遼陽會戰の當時露軍の首力此地に轉戰して我が黑木軍の側背運動に對し退却掩護をなせし陣地なり

【尾明山及蛤蟆塘炭坑】は共に驛の東方約五里煙臺炭坑に隣りす前者は天利公司（支那官營）後者

は豊順公司の經營に係り共に手掘採炭中なりしが收支相償はず目下休山中なり

【名勝舊蹟等】　黑英臺　は羅大臺の東北約一里にある小丘なれども黑木軍の第二師團が露軍の左側背を衛れる第十七軍團の一部を驅逐して臺上を占領し三晝夜間斷なき露軍首力の逆襲を擊退せし有名なる激戰場なり、臺の東北に皇姑墳と稱する一村あり裡に公主の墓陵あり何朝の皇女なるやを知らざるも恐らく清朝以前の墓陵ならむ、此邊古墳多く土中往々土器或は古錢の發掘せらるゝことあり、皇姑墳の東北十餘丁太子河の右岸丘上に燕巢城　の遺址あり朝鮮式の山城なるに依り高麗時代の築城たるを想像せしむ傳へ言ふ蓋蘇文公の割據せし所ならんと、其他驛の東南三里餘の所に明代の創設に係る羅祖洞あり、唐朝創建の古刹樓雲寺等あり

煙(エン)臺(タイ)驛　Yen-tai.

大連起點二百二十二哩一分
長春驛迄二百十五哩五分
途中乘繼驛

煙臺は往時警を傳ふる狼煙臺のありし所にして日露戰役沙河對陣の頃には我が滿洲軍總司令部の滯陣せし村落なり

【煙臺炭坑】　驛の東方約十哩の地點に在り其炭田は東西約十三町南北約五十町に亘り炭量約二十萬噸の見込なり支線は驛より半圓形を描きて磨臍山に達す、山麓に露國の設備せし竪坑及び

斜坑あり會社引繼以來或は新坑を開鑿し或は設備を加へ現今一日三百噸内外の出炭力を有するに至れり、炭質亞無煙炭にして特種の需要あり、炭坑は今を距ること一千餘年前高勾驪人李某に依りて始めて採掘せらる、後世李を炭坑の祖神として崇め祀る現在の老君廟即ち是れなり、清朝に至り採炭者に龍票を與へ世襲せしめしが東清鐵道會社其の龍票を買收して大規模の採炭工事を起したるも工事未だ大成せざるに先だち我が軍の占有に歸せり、當時炭坑守備軍は露國新鋭のオルロフ少將の十三箇大隊なりしが我が木越少將の旅團と遂連溝に遭遇して激烈なる夜戰の結果遂に露軍の全敗となりしなり

【官公署其他】　兵營、郵便局あり

【名勝舊蹟等】　石硎山　は磨臍山の北方半里の所にありて丘上瀟洒たる一寺堂あり故に又寺山と命名す沙河會戰の當時ザルバエフ中將の首力此に據りしを我が岡崎旅團突進奮闘して攻陥せしに因りて名高し其東北方楊城寨の高地は同旅團に屬せし仁平大隊死力を盡くして奪取せし露軍の鎖鑰地なり故に又仁平山とも稱す驍名赫々たる仁平中佐の戰死せし高地なり、石硎山と相竝んで其北方に獨峙せる一丘を

三塊石山　と稱す丘頂三箇の奇岩矗立す故に此名あり奇岩の間に挾まりて一字の地藏堂あり此の丘上は沙河會戰の際亞歴山第三世名譽聯隊の守備せし露軍の中堅にして我が姫路師團の勇戰

占奪せし所なり

沙河驛（シャーホー） Sha-ho.

大連起點二百三十二哩七分
長春驛迄二百四哩九分

沙河は日露兩國の滿洲軍相對陣して嚴冬を送りし戰線の中央にして驛の建築物は當時彼我砲火の集注點となり瓦壁飛散し最も慘狀を極む、驛の北方を西流する沙河は日露兩軍の戰線を横斷せし天塹にして此に架せる鐵橋附近は冬營中彼我兩軍の交互に逆襲を爲せし戰場なり河北の雜木林は當時地獄林と稱し此に落命せし勇士頗る多く今猶田畦中白骨の掘出せらるゝあり劇戰の慘狀想ふべし

【名勝舊蹟等】 萬寶山 は驛の東方約一里半の所に窿起せる沙河平原の孤丘にして沙河大會戰の終期に於て我が山田支隊と露のプチロフ支隊と激戰せし所奉天大會戰の初期には我が姫路師團の今橋旅團之に肉薄して多大の犧牲を拂ひたり前後二回の激戰中我の戰歿せしもの鵜澤中佐以下八百餘名を算す蓋し此小丘は戰略上最も重要なる中央陣地たりしを以てなり

十里河 は驛の南方約五哩の所にあり沙河對陣中奥大將の司令部を置きし村落なり其東北に孤立せる紅寶山は沙河大會戰の際歐露第一軍團の據守せし陣地にして其正西約四里を隔つる

黑溝臺 はグリッペンベルグ大將が歩兵百二十大隊を率ゐて我が立見中將の支隊を掩撃し最も

慘澹たる戰鬪を現出せし戰場なり

蘇家屯驛 Su-chia-tun.

大連起點二百三十八哩五分
長春驛迄百九十九哩一分
撫順驛迄三十哩九分

途中乘繼驛、撫順支線乘換驛、構內販賣店に酒菓煙草あり、携帶品一時預り所兩替店あり、洗面所あり、赤帽あり

蘇家屯は撫順支線の分岐點なり、大連より此驛迄は複線にして以北は單線なり、東淸鐵道時代には中間小驛にして分岐點は今の渾河驛なりしも奉天大會戰後此地を以て分岐點こし驛の設備を擴張して今日の姿こなせり、沙河對陣中露軍は蘇家屯を以て全軍の集合地こなし是より西北莫家堡に通ずる舊鐵道線路を利用して汽車を運轉し又西南蘇胡堡に通ずる輕便鐵道を急設して軍隊輸送の便に供せり

【莫家堡】　は奉天包圍攻擊の際我が第四、第五師團がカウリバルス大將の第二軍を攻擊せし戰場にして莫家堡の北方李官屯、揚士屯等は我が第三、第八師團の殊死奮鬪したる激戰場なり

【官公署其他】　兵營、郵便局、奉天警務署支署等あり

渾河驛 Hun-ho.

大連起點二百四十二哩八分
長春驛迄百九十四哩八分
途中乘繼驛



奉天停車場

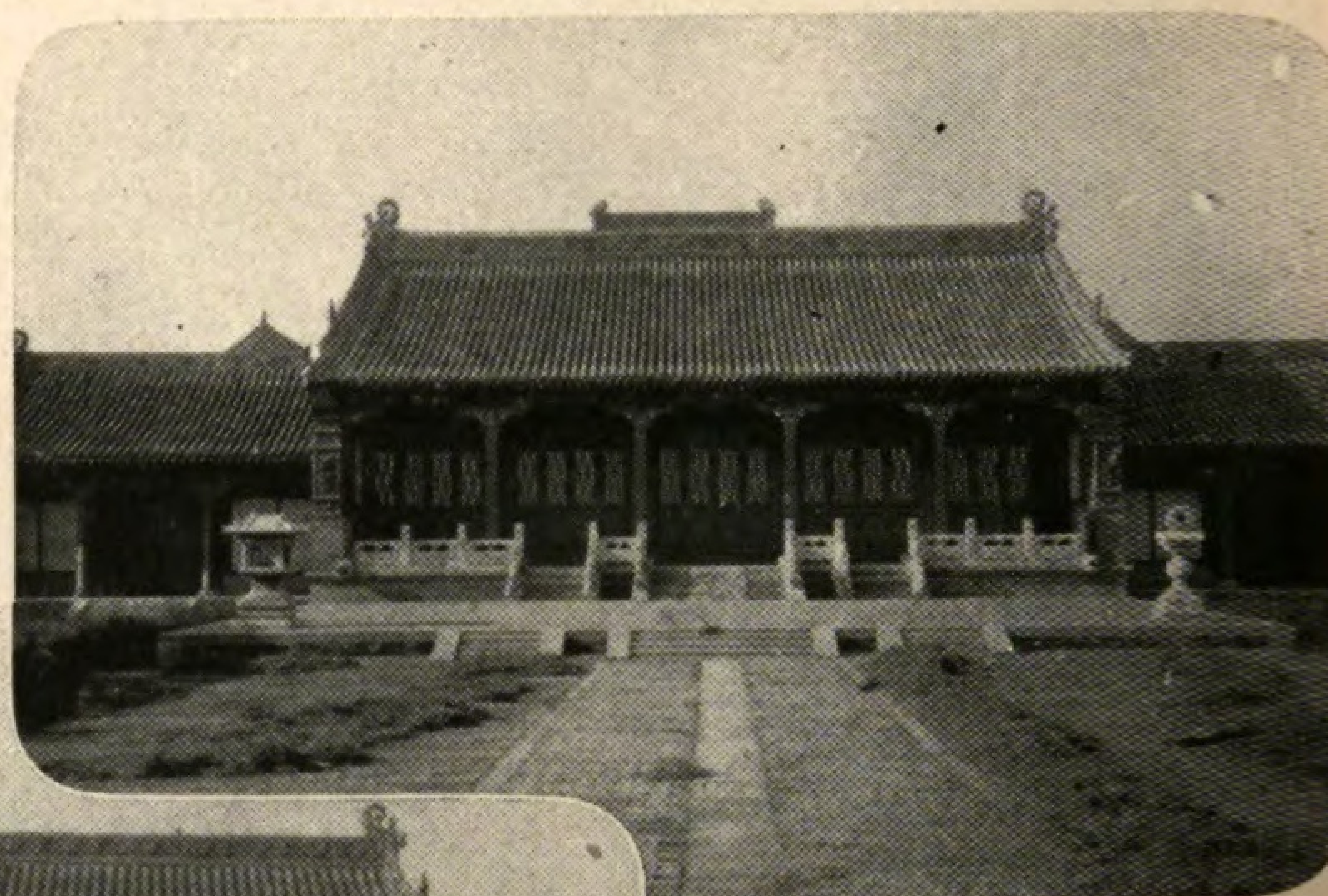


奉天城内



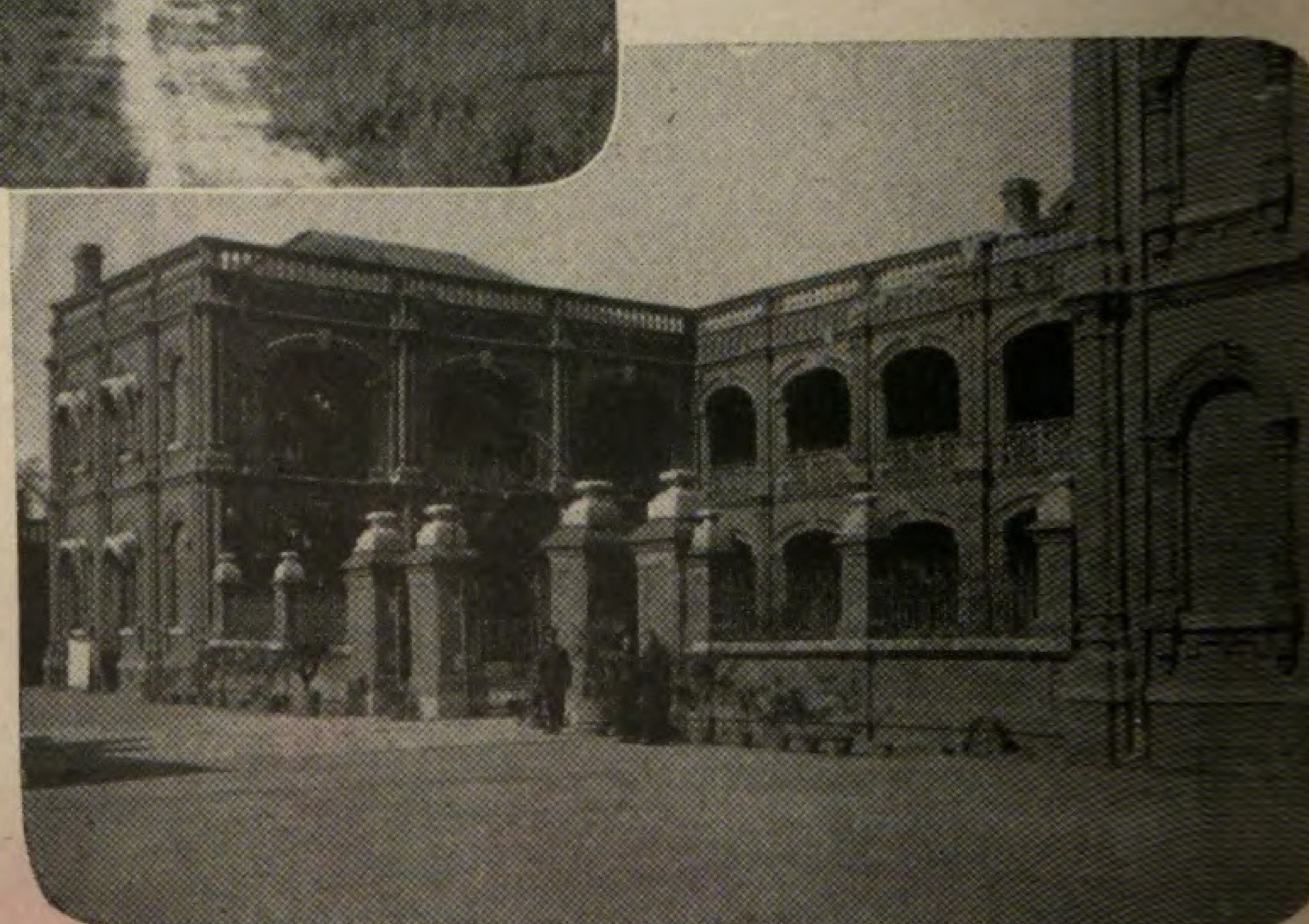
奉天東門外ノ喇嘛塔

奉天舊宮殿



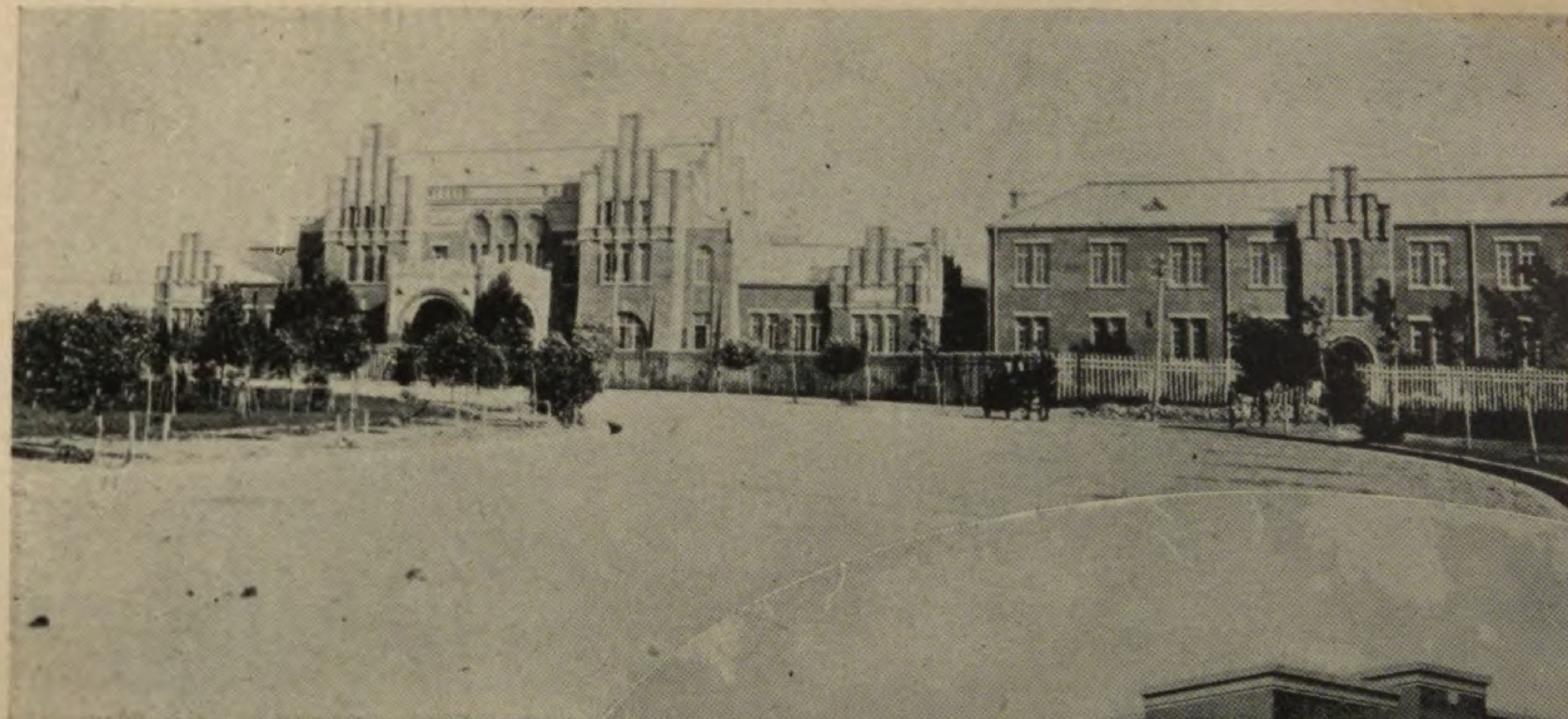


奉天舊宮殿內鳳凰閣



奉天督軍公署

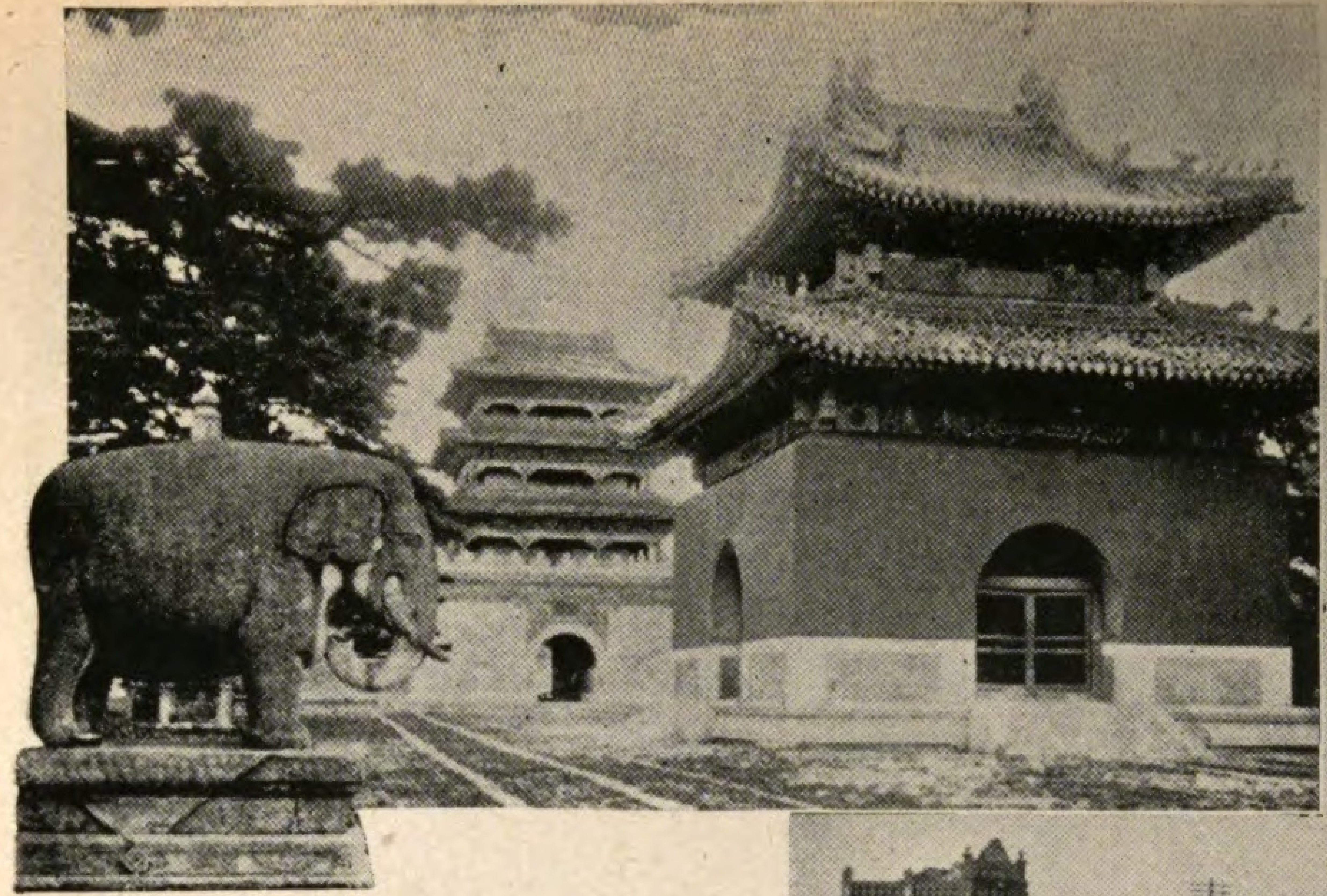
奉天滿鐵醫院

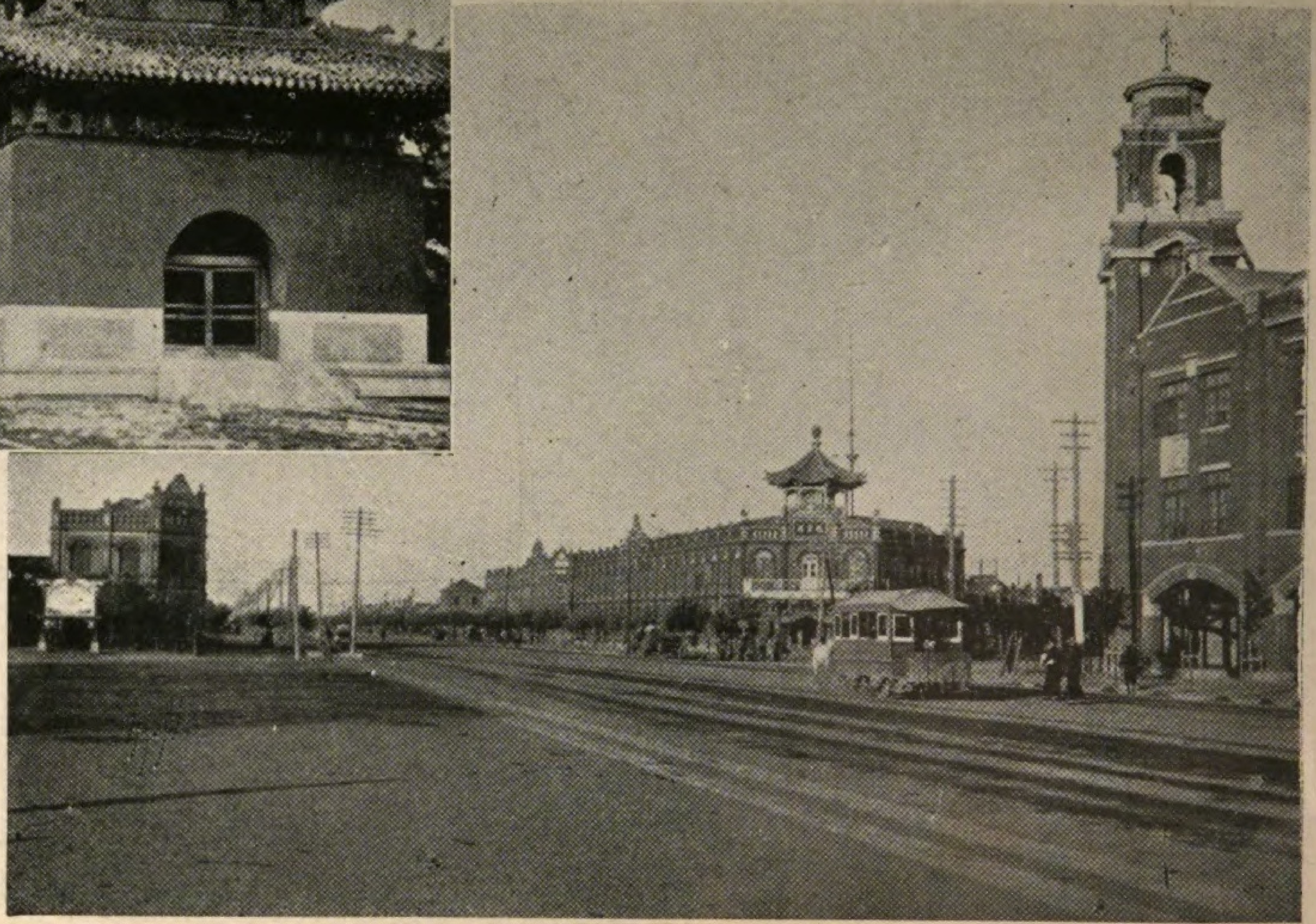




南滿醫學堂

奉天北陵



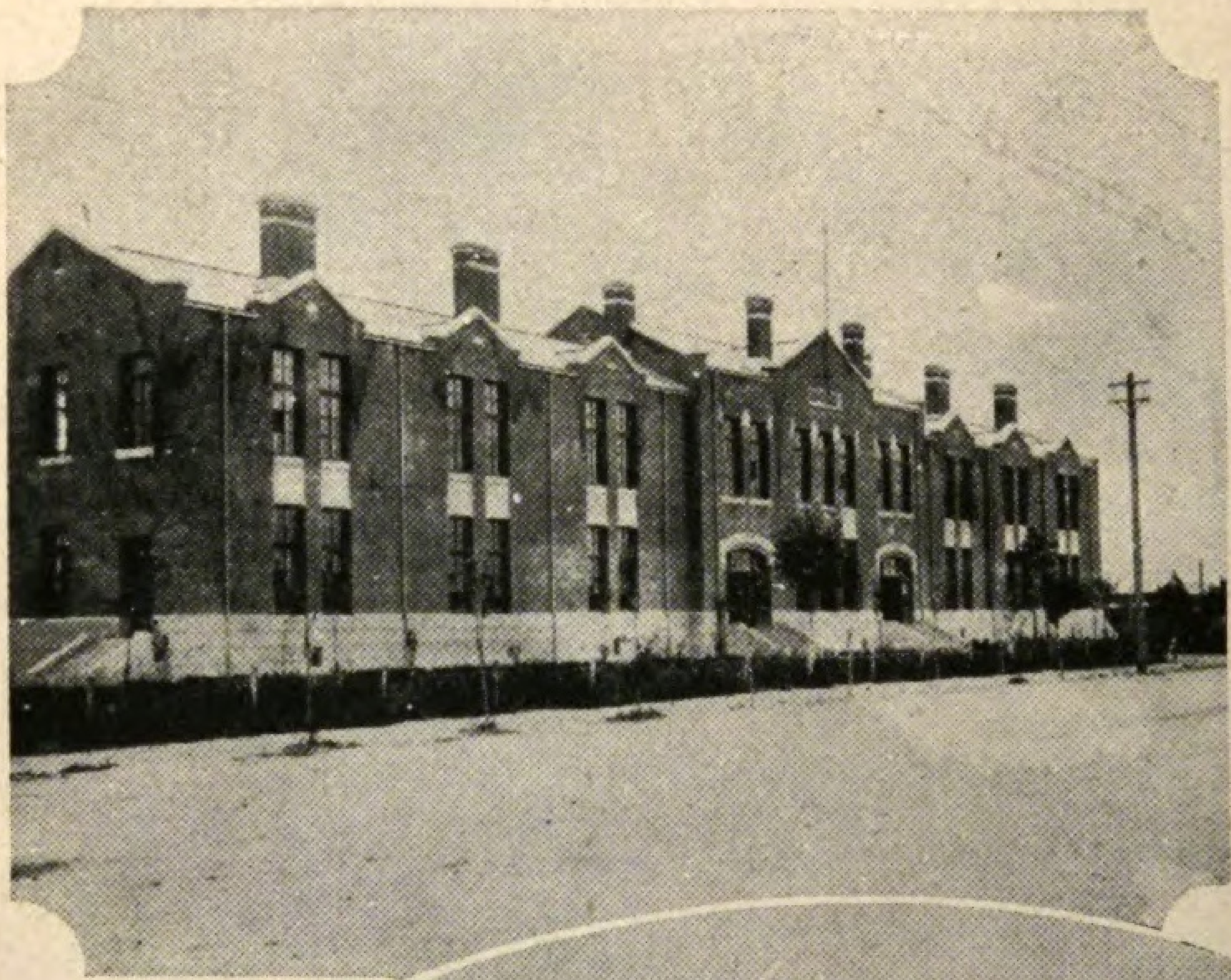


奉天附屬地市街

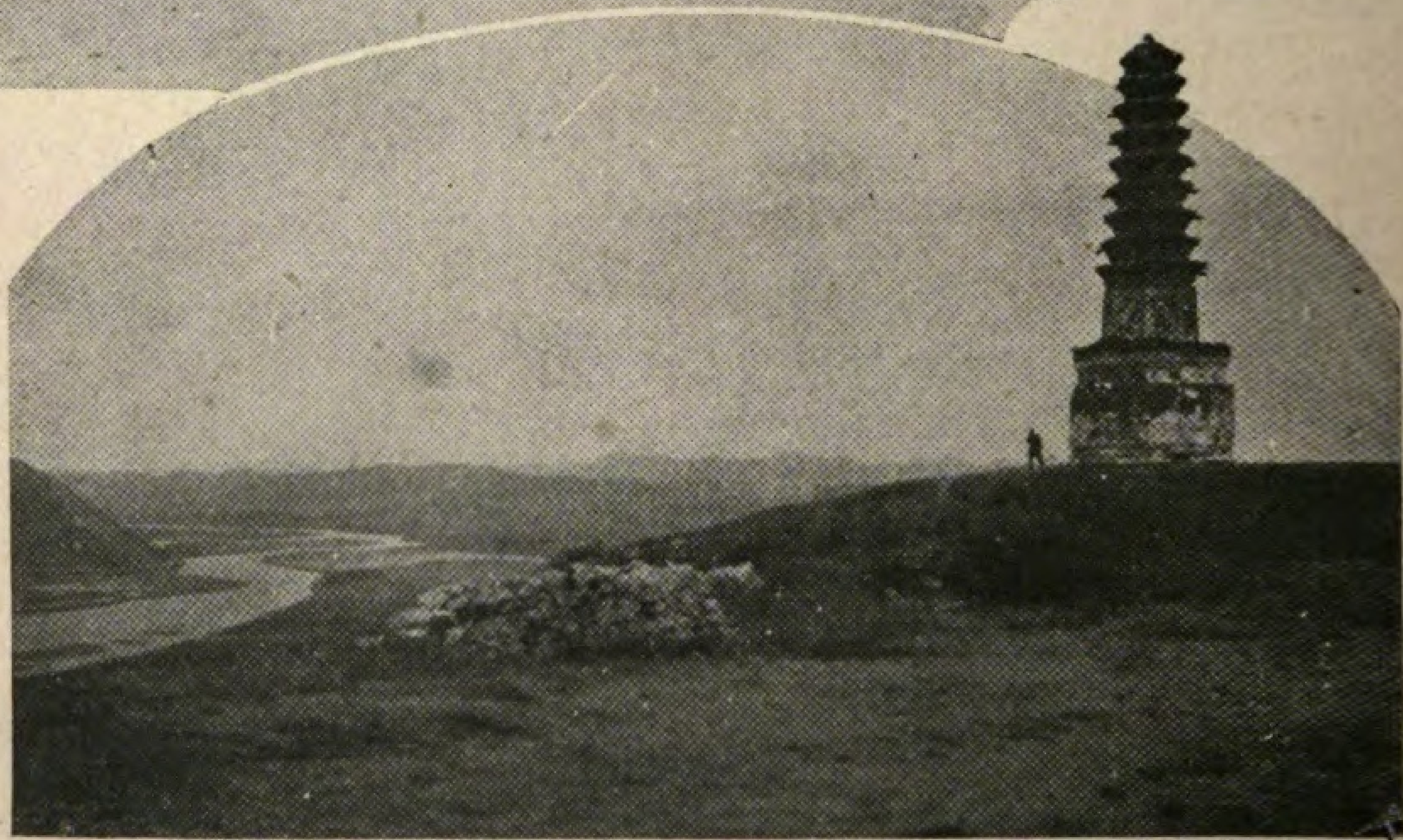


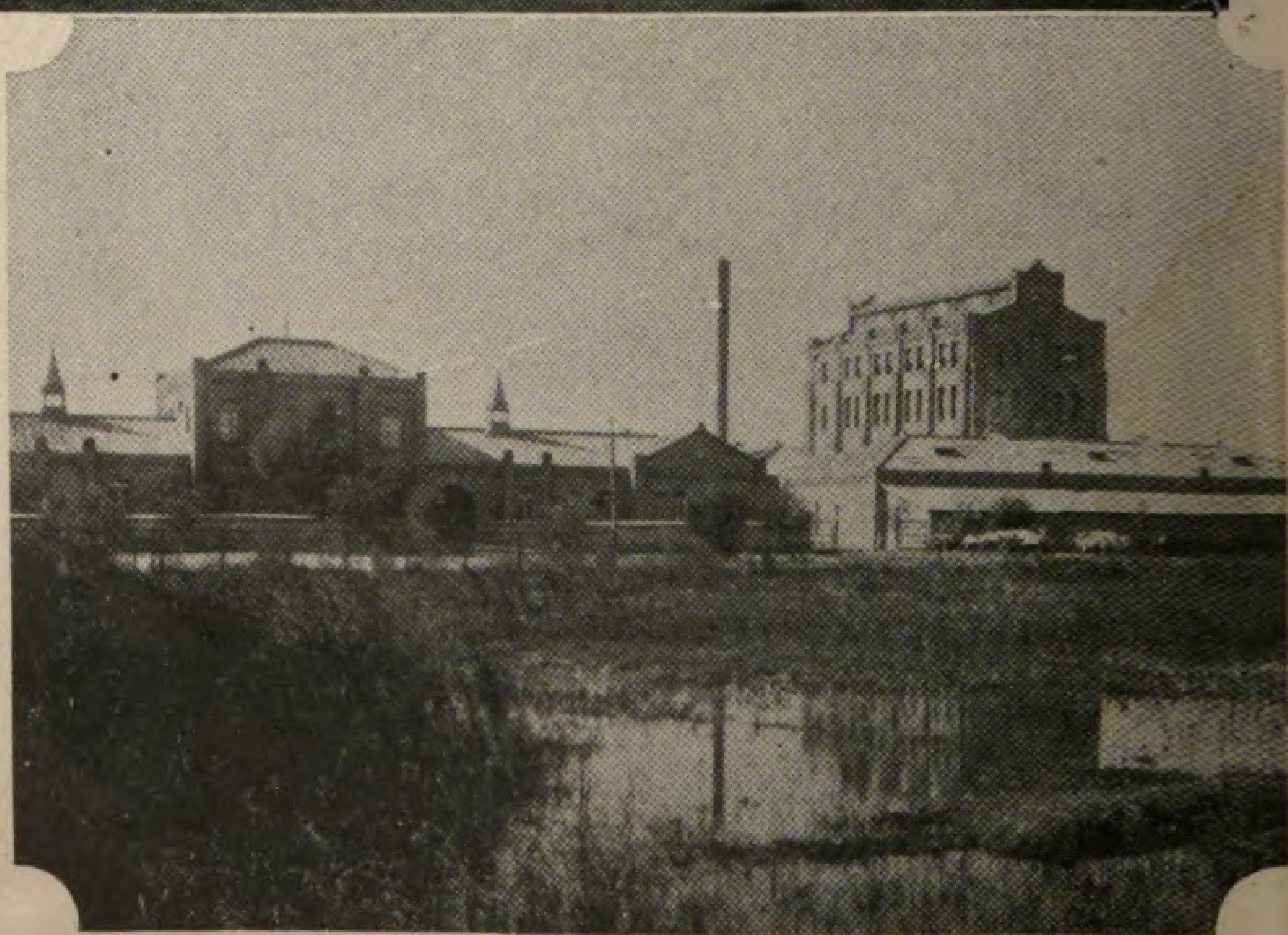
奉天東陵

鐵嶺小學校



鐵嶺龍首山上ノ古塔





鐵嶺製粉會社

開原公學堂



大豆運搬馬車





螞蜂溝

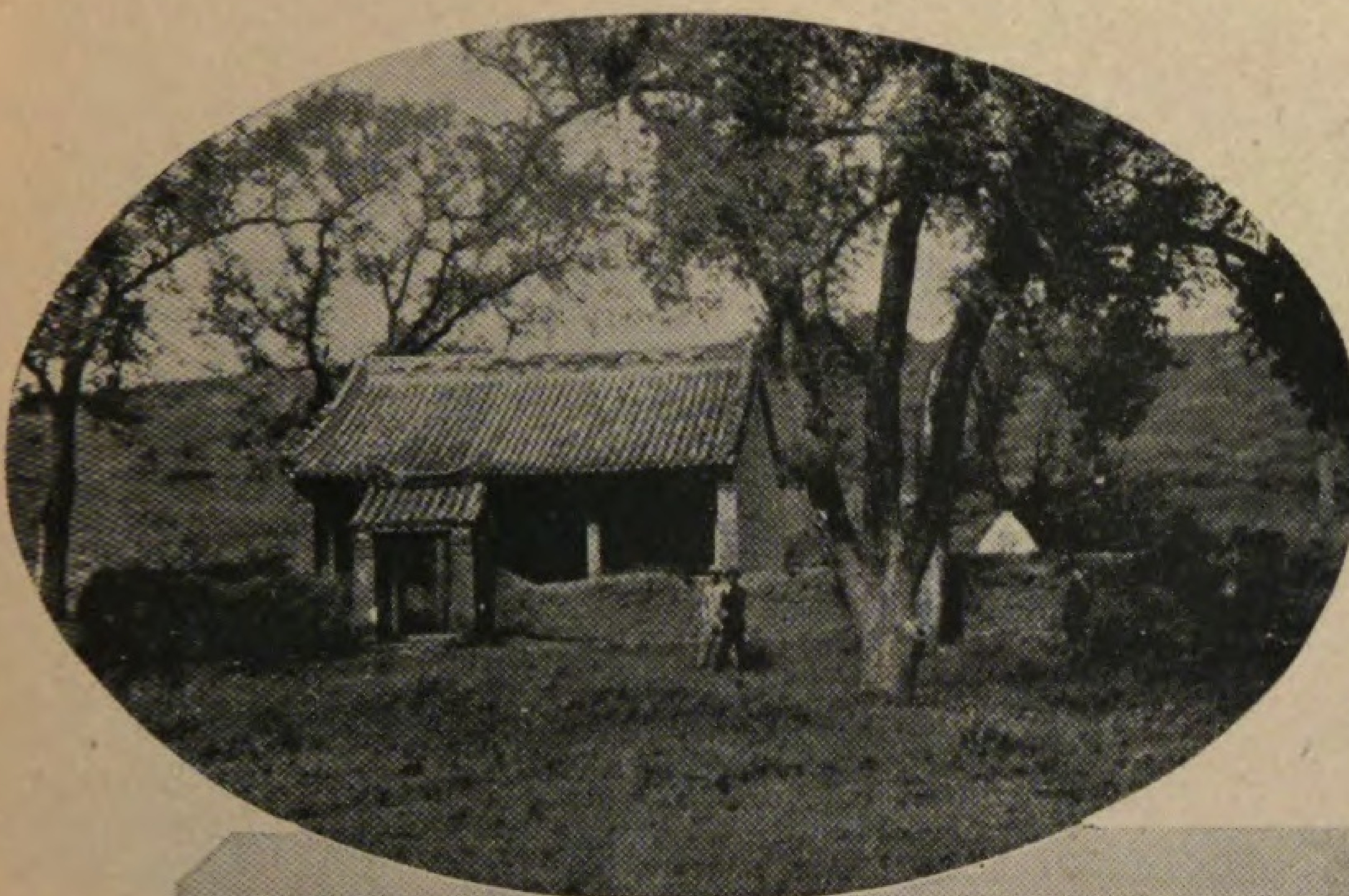
四平街停車場





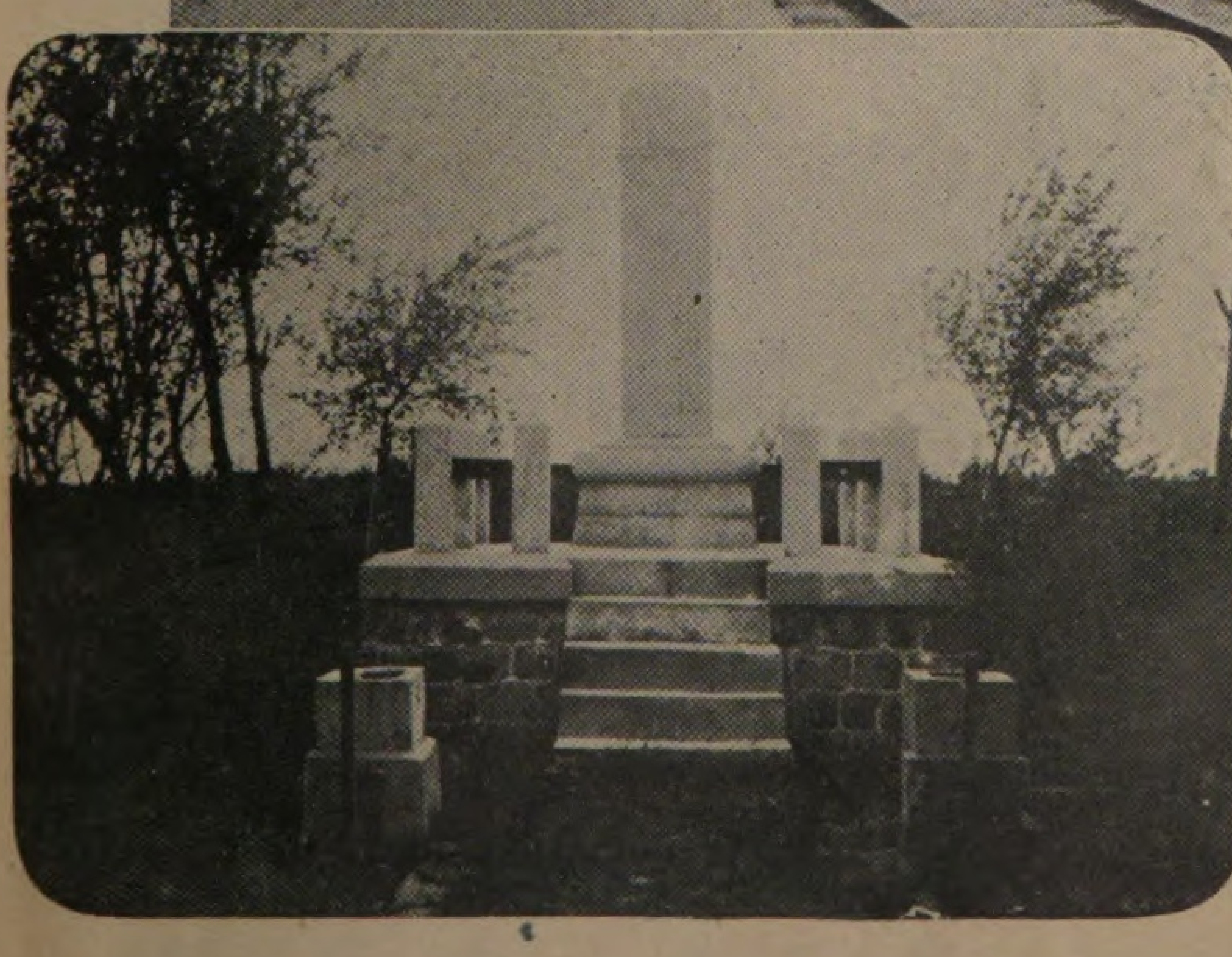
満洲ノ牧場

公主嶺陵



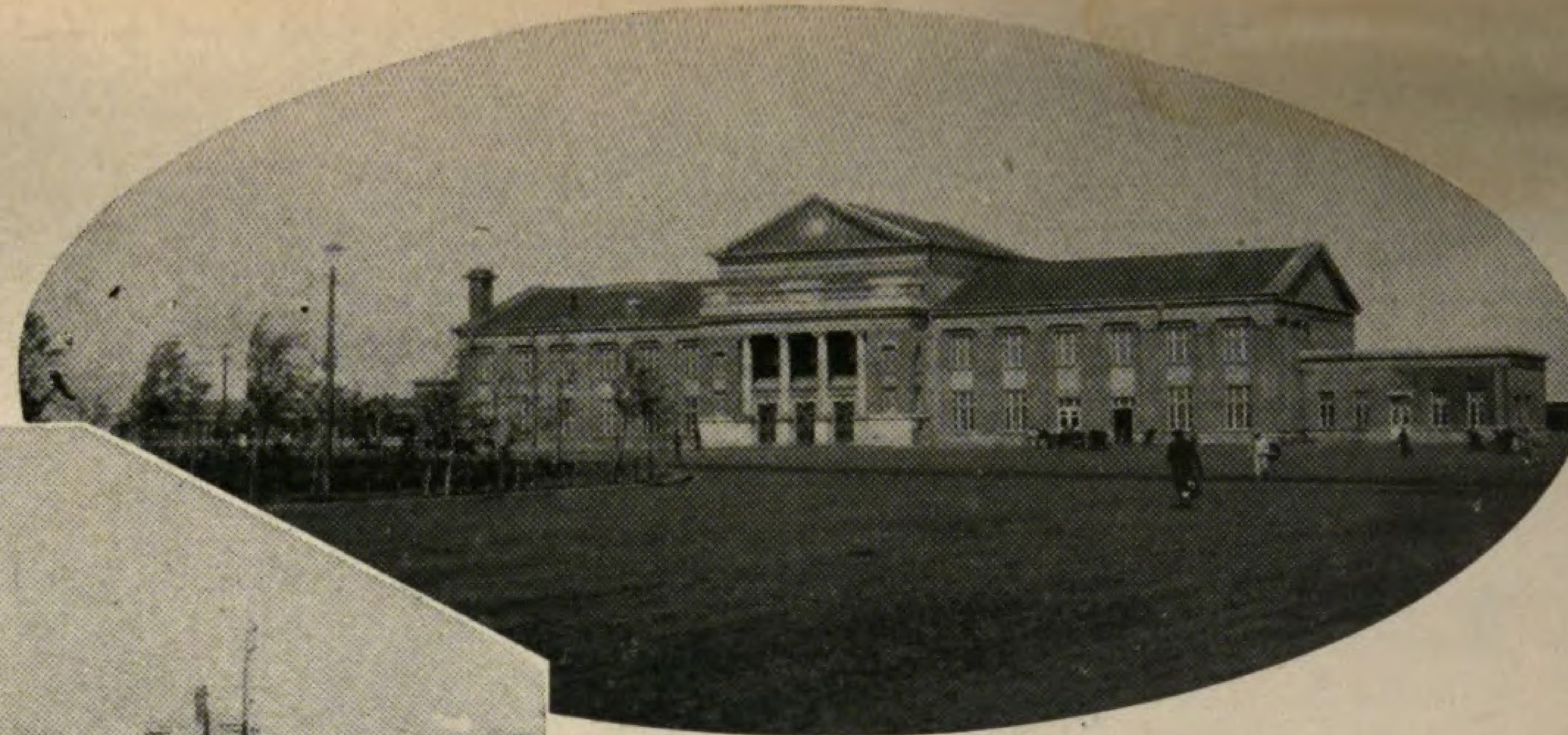
公主嶺停車場

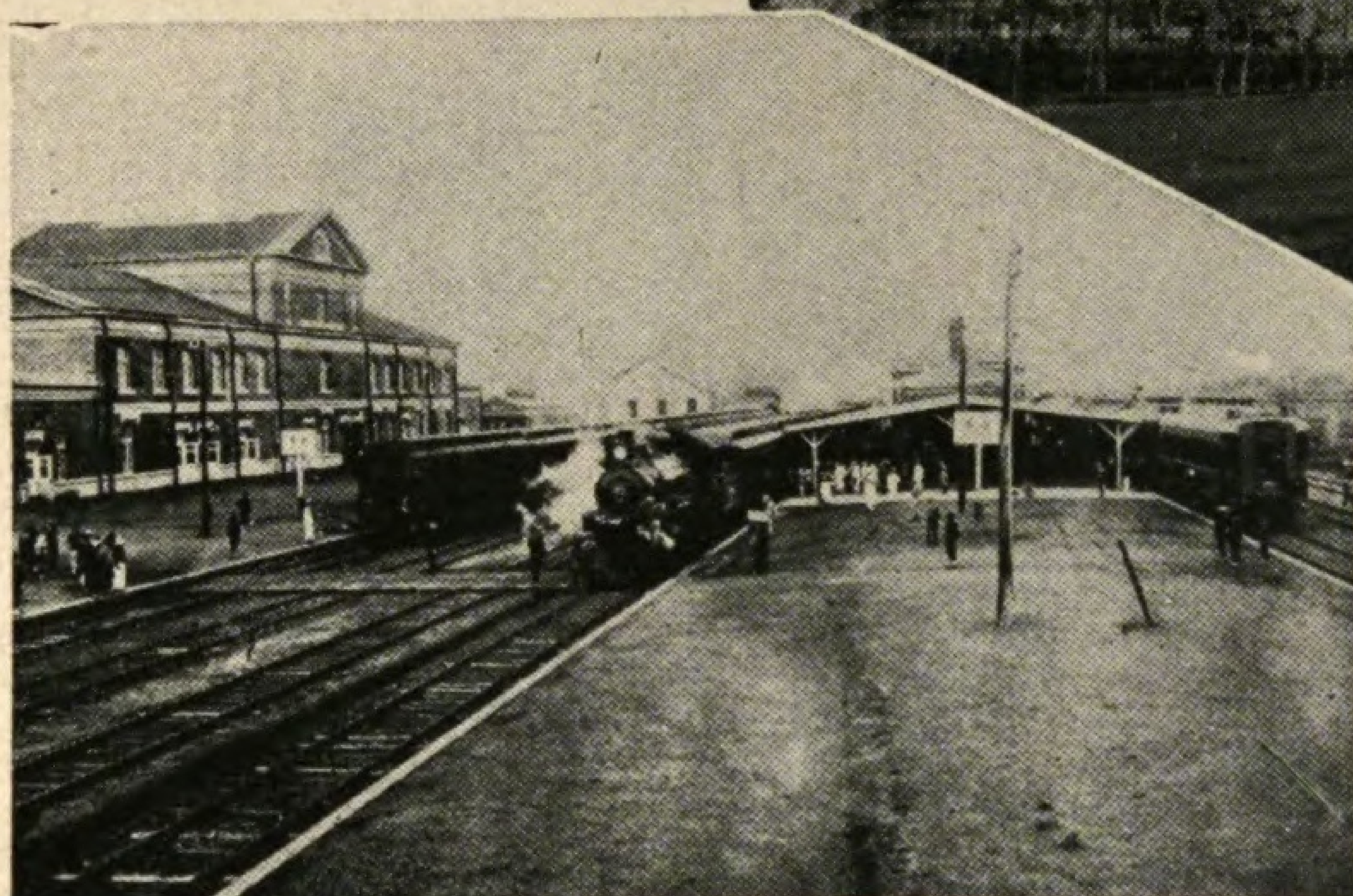




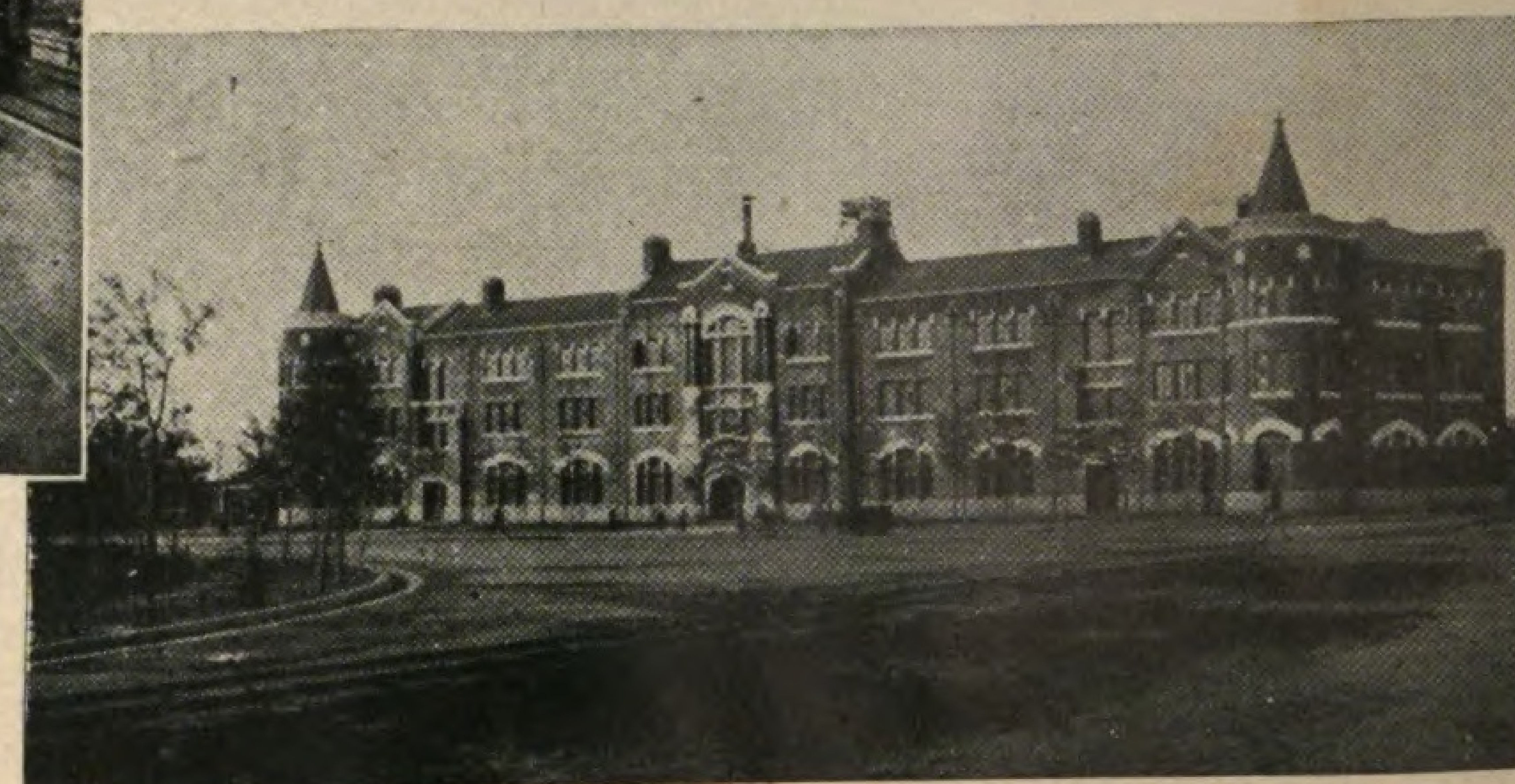
范家屯附近ノ田村中尉ノ碑

長春停車場



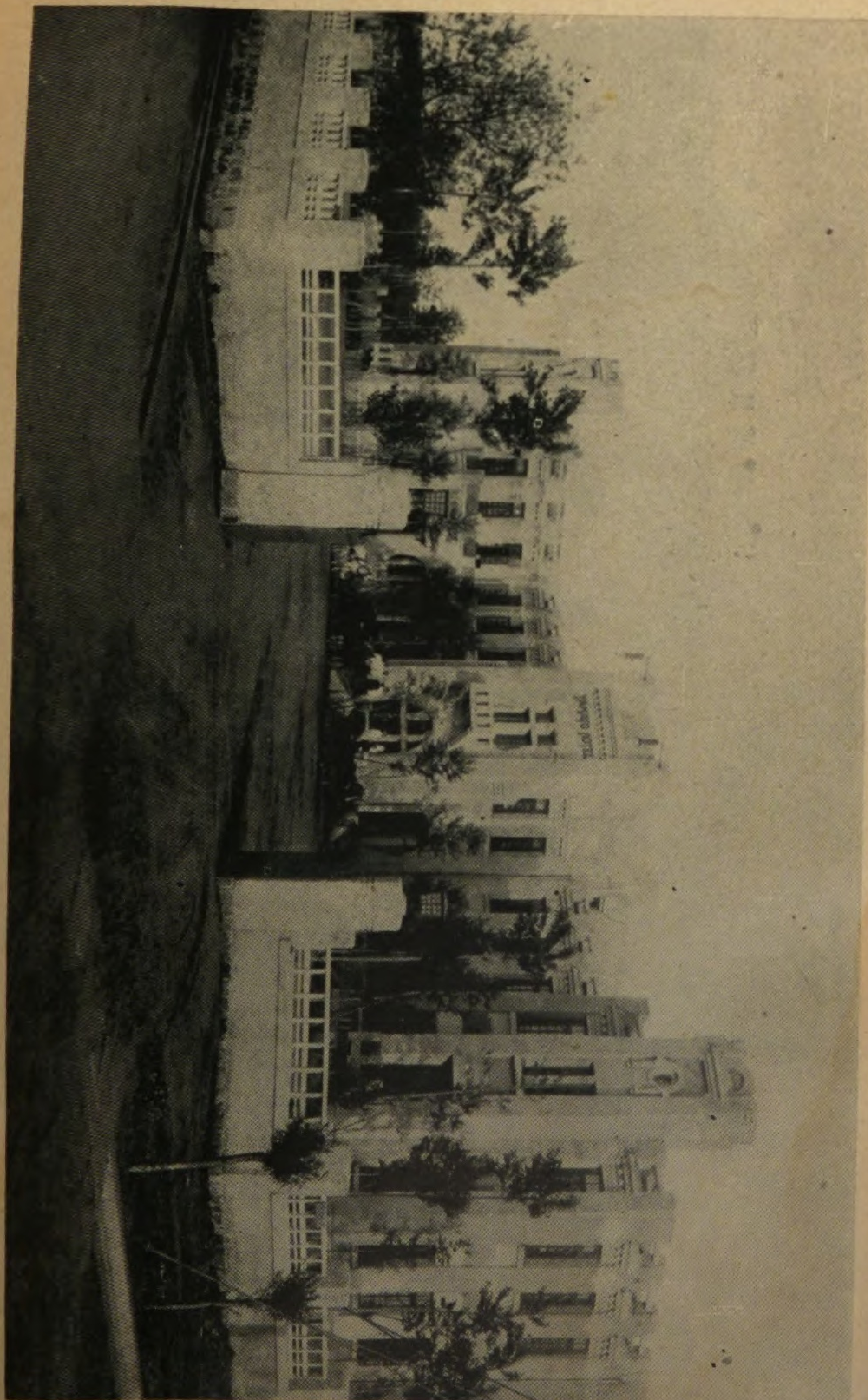


長春驛日露連絡停車場



長春滿鐵共同事務所

[illegible]地名にあらずして河名なり東清鐵道時代には單に分岐點と稱し驛名を付せざりしも我會



長春ヤマトホテル

渾河は地名にあらずして河名なり東清鐵道時代には單に分岐點と稱し驛名を付せざりしも我會社は之に命ずるに渾河の驛名を以てせり蓋し驛は渾河の南方養猪圏にありて東渾河堡を距ること僅に三哩に過ぎざるを以てなり、渾河の名は遼金に始まり渤海時代は瀋水と稱し漢時代には遼水と稱せり、驛は安奉線の分岐點なるも奉天驛より直通するを以て旅客は別に乗換の煩なし

奉天(フォンティエン)驛 Feng-tien.(mukden.)

大連起點二百四十八哩二分
長春驛迄百八十九哩四分
安東起點百七十哩八分

京奉線瀋陽驛に於ては自驛を Mukden とし當驛を Mukden. S. M. R. と記するを以て手小荷物等誤着の謬り多し注意を要す

公衆電報取扱驛、途中乗繼驛、安奉線乗換驛、携帶品一時預り所、洗面所あり

京奉線乗換驛、構內販賣店には各種食料品及酒菓煙草を備え又兩替業を營み日支其他各國貨幣の兩換に便ず、又旅客列車の發着に際し各種食料品等の呼賣を爲す

構內食堂はヤマトホテルの經營に係り專ら洋食の需に應ず、荷物運搬夫あり一箇金三錢とす、自働電話あり通話料市內一回金五錢なり

奉天は本名を瀋陽と稱す瀋水の北に當るを以てなり此邊一帶の平野は渤海時代の瀋州にして城

東の福陵は渤海大氏祚榮の居城を築きし東牟山の舊蹟なり、瀋水の河名此時より始まる或は云ふ唐の太宗東征の後安東都護府を置きしは此地なりと、眞僞未だ知るべからざれども唐朝以前高勾驪の領土たりしが如く高勾驪以前は挹婁國たりしと云ふ、瀋陽の名は元朝に始まり明は此地に瀋陽中衛を置けり清の太祖帝業を創むるに及び天命中、都を遼陽より此地に遷し因て盛京と稱す、當時清國の版圖は今の南滿洲の一部分に止まり西に明を控へ北は蒙古に隣し東南は朝鮮と接壤するが故に帝都として瀋陽は恰好の位置なりしなり、順治初年都を北京に遷すに及び將軍を此地に置いて留守せしむ、因て留京と稱し又陪都と呼ぶ、其後滿洲を分ちて奉天、吉林黑龍江の三省となすに及び瀋陽は奉天一省の行政中心となり兼て東三省軍政の樞軸となる其衙門は日露戰役後制度一變し更に再三變じて現今の中華民國督軍及省長に改稱せらる、人口十七萬餘を算し滿洲第一の大都會たり

【城壁】　は停車場の東方約三十町にあり內外二城より成り內城は方形にして周圍一里半高三丈餘、其壁上には樓堞を設け一朝事あれば壁上數萬の戍兵を配し得べく其濶さは裕に野砲の放列を布くべき餘地あり、道路は八門に依て扼せられ其門口は甕城を以て擁護せらる、內城の各門は通常午後十二時に閉鎖し翌朝五時に開く城根は賤民小商店の雜居せる陋巷にして城內は井字に交叉せる四大街を商區とし中央には宮殿、奉天督軍公署等あり、其他の衚衕は八旗の邸宅官

吏の公館等を以て充たされ小西門より大東門に通ずる大街上には鐘樓鼓樓あり壁下の外壕は半ば淤塞すれども曾て浚渫の工を起こさず門樓亦屋瓦落ちて檁楹露出するもの多し、外城は周圍四里に亘れる楕圓形の土城より成り内城の城門と同一線上に八箇の邊門を設く外城の人口は内城よりも多くして街衢亦不規則なり

【鐵道附屬地市街】 奉天停車場は沿線中最も壯大なる建物にして市街は停車場を起點として碁盤形に經營せられ坦々たる道路縱橫相通じ、上下水道を完成し、公園を築造し或は停車場と相對して三階建大貸家及共同事務所を新築する等諸般の設備整頓し支那市街と相對立して儼然たる新市街を現出す今や戶數千五百餘人口七千餘を算し逐日發展の域にあり當地の工業は小規模にして特に觀るべきものなきも水田の經營逐年擴張せられ今や作付反別約百町歩に達す

【開埠地】 こは支那官憲が各國居留地として自ら指定しだる地區にして鐵道附屬地に連接せる十間房一帶竝に大小西關一帶を云ふ此地域内に居住する内外人は戶數約一萬人口六萬餘、内日本人戶數五百八十人口二千餘(城内を含む)を算す商業繁盛市街殷賑なり各國領事館、日本赤十字社病院、英米煙草トラスト會社等あり


【京奉鐵道瀋陽驛】 は小西邊門外にあり、京奉鐵道は北京と奉天との間に敷設せられたる支那鐵道にして幹線五百二十一哩八支線五十六哩六を有す、其の一部新民府奉天間は日露戰役の次年

本線

六月我が臨時鐵道大隊の手にて起工せられたる狹軌鐵道にして爾後我が帝國に依て經營せられたるも、明治四十年之を淸國政府に引渡したりしが後ち廣軌に改築せられ關內外鐵道と連りて北京奉天間の交通機關となれり、奉天には三箇の停車場を有す皇姑屯驛、瀋陽驛及我が南滿鐵道の奉天驛是れなり、瀋陽驛は初め城根を距る西方一里皇姑屯に設けしが兩國商議の結果京奉鐵道は隧道式に依り滿鐵線を橫斷し線路を延長し小西邊門外に新に驛を設け之を瀋陽驛と命名し舊驛は皇姑屯驛と改稱せり而して瀋陽驛は明治四十四年十月より營業を開始せしも旅客の取扱に止まり貨物は依然舊瀋陽驛卽ち皇姑屯驛に於て取扱ひ、旅客列車は總て滿鐵奉天驛に於て直接連絡をなす、故に連絡旅客には何等不便の事なし、只入用の額だけ日貨を支那貨に兩替し置くを便とす旅客列車は

急行列車(北京行)	一週	一回
直通郵便列車(同)	一日	一回
郵便列車(山海關行)	一日	一回
普通列車(同)	一日	一回

距離及乘車賃金等(滿鐵奉天驛起點)


奉天
神社
小学校
南滿医学堂
運動場
天理教会
忠魂碑
公
園
水
田
至大連



着驛	距離	賃金（弗）一等	二等	三等
溝帮子	一〇五、九	六、四〇	四、〇〇	二、一五
營口	一六二、五	七、五〇	三、〇〇	二、二〇
山海關	二五九、六	一五、六五	九、八〇	五、二〇
天津	四三五、二	二六、一五	一六、三五	八、七〇
北京	五二一、八	三一、四〇	一九、六〇	一〇、四五

三歳未滿無賃三歳以上十二歳未滿半賃

急行列車寢臺料（急行料は當分の間不要）

奉天北京間　一等　五、〇弗　二等　二、五〇

山海關北京間　一等　三、〇　二等　一、五〇

直通列車寢臺料

山海關北京間　一等　一、五〇

無賃手荷物斤量　一等　一二〇斤　二等　九〇斤　三等　六〇斤

【官公署其他】 奉天は奉天省行政廳の所在地にして官衙學校最も多し奉天督軍公署、奉天公署財政廳、外交部奉天交渉公署、東三省屯墾總局、盛京副都統署、軍械廠、高等審判廳、同檢察廳東三省電政管理局、衛生醫院、造幣廠、電燈廠、奉天商務總會及滿鐵奉天公所等は城内にあり商埠地には、日、英、米、露、獨、佛各國領事館、居留民會、奉天外國語學校、公立尋常小學校、英米煙草公司、奉天商業會議所等あり附屬地には奉天警務署、郵便局、兵營、憲兵隊、衛戍病院、測候所、滿鐵地方事務所、滿鐵醫院、南滿醫學堂、尋常高等小學校、滿鐵保線係及車輛係、滿鐵電燈營業所等あり金融機關としては城内には支那側に東三省官銀號、中國銀行奉天分號、交通銀行奉天分店、黑龍江官銀號奉天分號、奉天興業總銀行あり、日本側には橫濱正金銀行奉天支店あり、商埠地に正隆銀行奉天支店、朝鮮銀行奉天出張所及南滿銀行あり宗教には各宗出張所又は布教所あり、新聞雜誌社には漢字新聞の盛京時報社、内外通信社、奉天新聞社、滿韓公論社及支那側の政治官報、東三省公報社並健報社あり

【病院】 滿鐵奉天醫院は附屬地に新築せられ諸般の設備整頓し内科、外科、產科婦人科、眼科、齒科口腔科、耳鼻咽喉科、皮膚科、小兒科に分つ、入院料特等金七圓、一等金四圓、二等金二圓十錢、三等金一圓十錢、特三等金八十錢とす、尙城内に診療所を開き一般患者主に支那人の治療に從事し傍ら濟生賑民の實を擧げんとす、又日本赤十字社は大西關に奉天病院を設置す入

院料特等七圓、一等四圓、二等二圓六十錢、三等一圓六十錢とす外に一二の開業醫あり、支那側には僅かに奉天省官立衛生醫院一ヶ所あるのみ其他英國人クリスチー氏の經營に係る慈惠病院あり、醫學專門學校(支那人を學生とす)の附屬たり

【旅館】 奉天ヤマトホテルは奉天停車場樓上にあり客室十九を有し防寒用スチームの設備は勿論其他停車塲ホテルとして最も完備せり室料及食事料は歐羅巴風にして前掲大連ヤマトホテルと同じ、日本旅館には瀋陽館を第一とし防寒用スチームを設備す、之に次で大星ホテル、常盤旅館、東洋ホテル、一力旅館等あり共に停車塲附近に在りて宿泊料一人一日金一圓五十錢以上五圓以內晝食料其半額以內とす、支那旅館には悅來棧、福順棧、天泰棧、天聚東、大有棧等停車塲前にあり

【交通】 瀋陽馬車鐵道股份有限公司略して馬鐵會社と云ふ日支合辦事業にして明治四十一年以來奉天驛と小西門間を運轉す乘車賃一人小洋銀十三錢とす、馬車、人力車及支那式轎車あり其賃銀左の如し(轎車は蒲鉾形の屋根を有する一頭曳馬車にして車臺に彈力なく其粗笨なる構造は到底日本人の乘用に適せざれども地方旅行には必ず此馬車に賴らざるべからず)

車馬賃銀表 (小洋錢建)

自奉天驛至左記 ＼ 車輛種別	露國式馬車	支那式轎車	人力車
附屬地	三十錢	十五錢	七錢
十間房	四十錢	二十錢	十錢
小西邊門 大西邊門	六十錢	三十錢	十五錢
小西門 大西門	八十錢	四十錢	二十錢
城內四平街	一圓	五十錢	三十錢
東門外	一圓三十錢	七十錢	三十五錢

附屬地とは北は警務署、東南は滿鐵病院邊までとす
賃銀表に記載なき地方は本表賃銀に準ずべきものとす

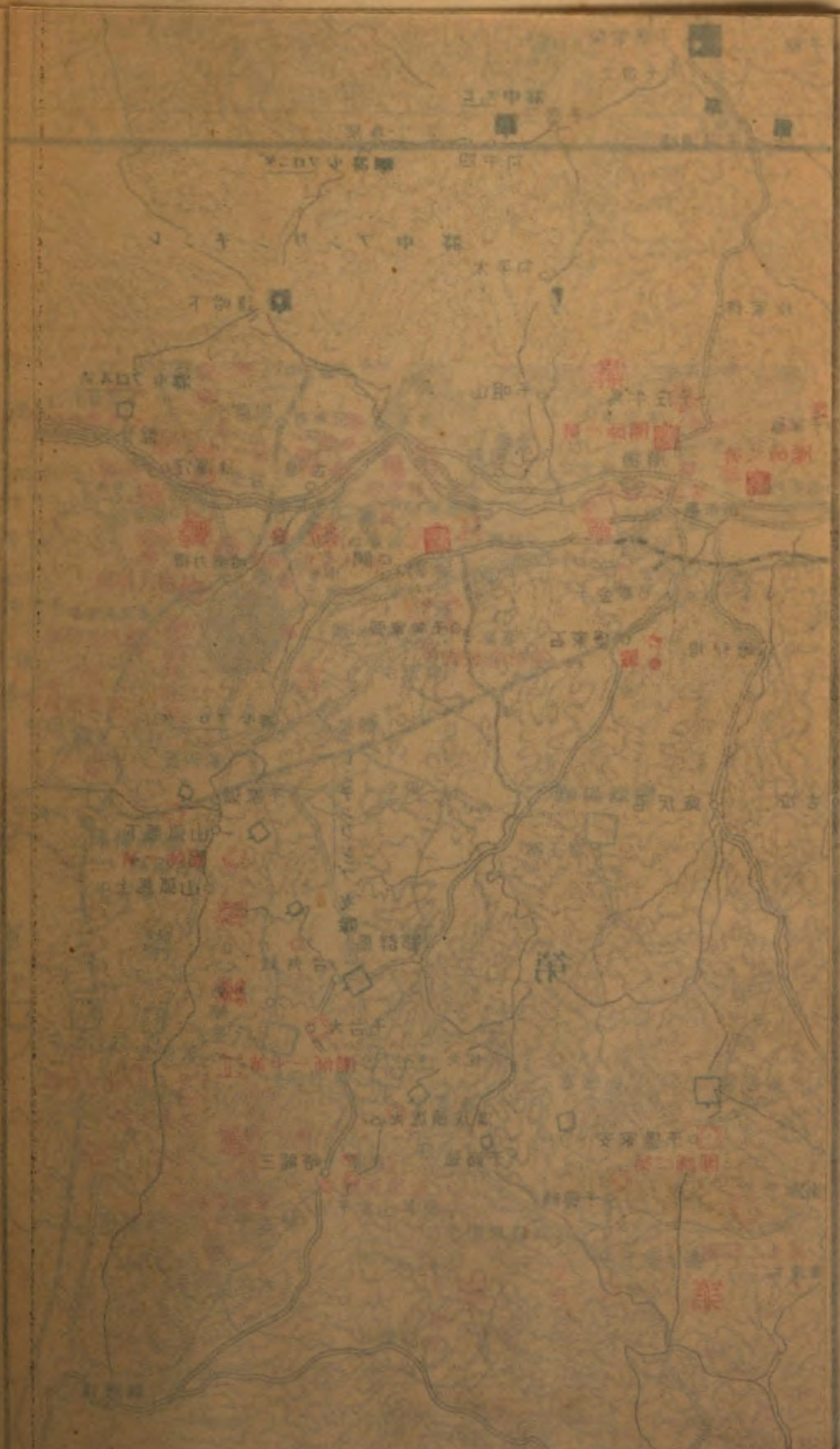
時間雇賃銀

半日	二圓五十錢	一圓五十錢	一圓
一日	三圓五十錢	二圓	一圓五十錢

割增賃銀



馬廠
一半台
渾河
曹家台
田村支隊
大民屯
王家河套
七公台
也什牛彔
第三軍
秋山支隊
張家荒
安邦牛祿
第一師團
前胡台
沙嶺堡
藪山台
ワシリエフ少將
法哈牛祿
達子堡
四台子
第七師團
後馬門子
德勝營子
大三家子
岳家崗子
矮金堡
蘇湖堡
張三堡子
集成師團
大祝三堡
張當堡
第九師團
佟羅堡
軍總豫備隊
馬頭郎
小吶拉堡
新台子
孟達堡
那家台子
八音台
第八師團
周官堡
古家子
黒林台
高岡支隊
長灘
二台子
第五師團
金山屯
第四師團
李大人屯
第二軍
韓山台
軍總豫備隊
黒溝台
大東山堡
第三師團
東富山屯
根河溝
柳條寨
第十四師團
總豫備隊
龍灣
日 露
三月二日
三月十日ノ夜
米 2000 0 5 10 15 20
町 18 0 1 2 3 4 5 里



待時間	十錢	十錢	五錢
夜間	一割增	同上	同上
雨雪	一割增	同上	同上
暴風雨雪	二割增	同上	同上

【名勝舊蹟其他】　奉天大會戰　奉天の四方半徑三里の圈內は總て日露大會戰の修羅塲にして數萬の勇士が陣亡せし夢の痕ならざるはなし、福陵より東關に至る間は野津軍の進出せし所にして興隆嶺より輝山に至るの間は黑木軍の迂回せし山路なり、渾河鐵橋より大石橋に至るの間は奥軍の激戰せし修羅塲にして、轉灣橋より北陵に至るの間は乃木軍の酣戰せし彼我決勝の地區なり、其詳細は之を戰史に讓るも皇國をして列强の班に入らしめし最後會戰の地域たりしを憶へば轉た感慨なき能はざるなり

忠魂碑　は鐵道附屬地の東南部に在り奉天大會戰に陣沒したる忠勇將卒の納骨堂にして直徑二尺八寸高二十三尺餘の鑄鐵製小銃彈形碑標は附屬地各方面より望見すべく其題字は大山元帥の揮毫に係る納骨堂には二萬二千八百四十八名の遺骨を納め毎年三月十日莊嚴なる祭典を執行す

宮殿　は城內四平街の中央にあり奉天唯一の古蹟として內外人の等しく參觀せんと欲する所な

り、拜觀者は領事舘を經由し拜觀許可證の交付を受くるを要す(無料)、宮殿は之を金鑾殿と稱し清の崇德二年(西曆一六三七年)の建造に係り清の太祖高皇帝竝太宗文皇帝の宮居せし處なり東西三十三丈南北八十九丈繞らすに牆壁を以てし南面せる宮門三あり中央にあるを大清門と稱し東にあるを文德坊、西にあるを武功坊と名づく門內の兩側に二層樓各一あり東を飛龍閣と云ひ西を翔鳳閣といふ、二百七十有餘年前に於ては進謁する文武大官の溜所なりしも其後寶物倉庫となりて金銀珠玉寶劍書畫等を納め太祖の兜、金剛石作りの小刀、黃金作りの黃鐘、珠玉の首飾等は光彩陸離として人目を眩せしめしが、今は其大部分北京へ移送せられて復た觀るに由なし、崇政殿は大清門に向つて構へられ彫龍の玉階あり當年天子自ら政を聽かせ給ひし正殿たり崇政殿の後に巍然として聳ゆる高閣は鳳凰樓にして裡に歷代の聖容を奉安し之に登臨すれば全市一眸の裡に集まる、當年の便殿たりし清寧宮は更に其後ろにあり、殿樓の左右側には王子、皇妃等の宮居たりし日華、霞綺其他の殿樓昭穆序を正しくし相對して整然たり、宮殿の東隣に大政殿あり王公百官執務の官衙其左右に竝列す又西隣に文溯閣あり四庫全書六千七百五十二函を藏せしが今は之を北京の武英殿へ移す

東陵　は又福陵とも稱し其丘を天柱山と名づく古への所謂東牟山なり、天聰三年二月太祖高皇帝の神靈を此丘に葬り同八年十月寢殿を立て順治八年增修して今日の壯觀をなす由來滿洲に三

陵あり肇祖興祖景祖顯祖等の遠祖を葬れる靈塲を永陵と稱し太祖の廟を福陵、太宗の廟を昭陵と稱し順治帝以下列聖の寢陵は皆北京の郊外風水最も佳なる所にあり故に北京政府は特に三陵奉祀の爲めに盛京禮部侍郎を常置し歲々祭事を行はしめたるが制度改革の以後に於ては興京及盛京副都統をして寢陵に關する祭事を奉行せしむ、福陵は三陵中最も風水の勝を占め奉天城の東方三里の渾河右岸にあり長白山の龍脈は永陵を經て薩爾滸山となり興隆嶺となり輝山となつて福陵に連る全丘老松を以て蔽はれ積翠寢陵を封ずるの所朱壁綠瓦參差として聳ゆ門内石獅石駝石象石獬豹等の配列せる所康熙帝の勅撰に係れる福陵聖德神功の碑あり更に寶域に進めば祭殿の後ろに隆恩殿あり高皇帝及高皇后の神位を奉安す殿後の築土は即ち太祖の永眠せる寢陵にして之に詣づるもの覺えず崇仰の念を深うす。

北陵　は昭陵と稱し其丘を隆業山と名づく、奉天城の北方里餘の所にありて廣濶なる牧養地は直に鐵道線路に達す、太宗文皇帝崩御の後順治元年八月其靈柩を此地に葬る太宗文德高く武威八紘に輝き帝業始めて隆し因て隆業山の名あり、風水の勝は東陵の如く雄大ならざるも寶域の規模は却て宏壯にして周圍九百餘間に達す、寶域の前に大白小白の二石馬あり是れ太宗在世の頃乘御せし龍駒に擬して彫刻せしものなりといふ、寶域内の建築物は東陵と相同じく、陵外の森林は周圍二里餘松杉蓊鬱し黃塵濛々たる奉天の唯一清涼地たると、北陵は停車場及城内よりの

距離近きこに因り杖を此地に曳くもの頗る多し、觀光の客多くは東陵に詣でずして北陵を拜觀し歸途法輪寺長寧寺黄寺等を巡覽するを例とす、蓋し法輪寺には北方の護國塔あり天地佛の喇嘛尊像あり長寧寺は帝都時代の宮苑にして黄寺には有名なる邁達里靈佛あればなり、拜觀には領事舘經由拜觀許可證を受くるを要す(無料)、東北陵共に馬車の便あり賃金は前揭せり

其他二百七十有餘年前帝都たりし盛京には名勝舊蹟甚だ多し寺廟の大なるものは小西邊門外に實勝寺延壽寺等あり實勝寺は又黄寺とも稱し蒙古喇嘛に屬し大喇嘛を座主として朝廷寄心の勅建寺廟にして延壽寺には西塔あり奉天守護四塔の一なり、小西關には法眞寺大法宮賢王祠藥王廟あり法眞寺は回々寺にして大法宮は道士廟なり賢王祠は太祖創業の際に功績多かりし七親王の合祀廟にして五彩陸離たり、城北には法輪寺あり、城南には廣慈寺あり、城東には永光寺、觀音閣あり、城内には崇壽寺、長安寺、孔子廟、城隍廟あり長安寺最も古く崇壽寺は古塔を以て名高し

公園　附屬地公園と奉天公園との二あり附屬地公園は會社の經營にして面積千四百餘坪を有し花壇芝生地樹林及各種運動器等設備稍々完備す、奉天公園は小西邊門外に在り支那官憲の所轄にして設備未だ完からざるも境内の樹木稍 繁茂し支那式喫茶店各所に客を呼び夏季散策するもの頗る多し

小河沿は東關にあり酒樓水に臨み蓮池舟を泛ぶべく盛夏の候遊客殊に多し

娛樂機關其他　劇場に奉天座(開埠地十間房)あり寄席に末廣席(附屬地)あり、料理店に金城館(小西關)、金六(十間房)、深川(十間房)、轡(新市街)、やつこ(西塔大街)、粹山(附屬地)、穗積館(西塔大街)等あり支那料理には城內外に四海春、江南春、松鶴軒等あり、大南關及附屬地に平康里と稱する支那遊廓あり共に劇場及料理店軒を竝べ遊客の來往頗る頻繁を極む

文官屯驛 Wen-kuan-tun.

大連起點二百五十六哩三分
長春驛迄百八十一哩三分

奉天大會戰の終局を告げんとするの刹那乃木軍の最左翼たりし第九師團が進出して全く露軍を包圍し其後衛の一部爲に退路を失ひ遂に白旗を揭げ しは此附近なり

虎石臺驛 Hu-shih-tai.

大連起點二百六十一哩
長春驛迄百七十六哩六分
公衆電報取扱驛

此地は奉天大會戰の際露軍の退却路に當り其北逃せるもの三晝夜に亘り陸續其後を絕たず爲めに其遺棄せる軍需品は沿道に山をなせしと云ふ、今は我守備隊駐屯す

新城子驛 Hsin-cheng-tzu.

大連起點二百六十八哩五分
長春驛迄百六十九哩一分

新臺子驛（シンタイツー） Hsin-tai-tzu.

大連起點二百七十六哩
長春驛迄百六十一哩六分
公衆電報取扱驛

新臺子は素と一寒村にして停車場附近には一の住宅を見ざりしが貨物出廻りの關係上附近部落の中心地點となり大正二三年頃より一時に發展し家屋を新築して商業を營むもの多く現今戶數百十人口六百を算するに至れり、此地は奉天大會戰後黑木軍に屬する近衛後備混成旅團が追擊戰を開始し露軍を大范河右岸に擊退せし村落にして新臺子河は當時の戰線なり、驛の東方山脚に懿路市あり今は寂寞たる一村落に過ぎざれども國道上の要驛にして古へは扶餘國の一都市なりしといふ、日露戰役當時我が中央軍たりし野津大將の司令部は鐵嶺占領後稍々久しく懿路に駐轅せしに因り其名著はる、此地方基督教を信ずる者多く獨人の經營する天主教會堂及英人の經營せる基督教會堂あり

得勝臺驛（トーシヨンタイ） Te-sheng-tai.

大連起點二百八十六哩七分
長春驛迄百五十哩九分

此地附近の帽峰山は唐の太宗親征の當時高勾驪軍を擊破せし戰場にして近くは黑木軍が鐵嶺を攻擊するの準備戰を開きし山坡なり、當時野津軍の一支隊は前田大佐指揮の下に得勝臺に進み黑木軍と相待つて鐵嶺を攻擊したりと云ふ、古へより兵爭の地其の得勝臺の名稱あるもの寔に

偶然にあらざるなり

鐵嶺驛 Tieh-ling. 大連起點二百九十哩六分 長春驛迄百四十五哩

公衆電報取扱驛、途中乘繼驛、携帶品一時預り所

構內販賣店には各種雜貨あり、洗面所あり、搬荷夫あり一箇金三錢、自働電話あり市內一通話金五錢

構內食堂あり和洋食の需めに應じ其他酒菓煙草等あり、又其階上には寢具を備へ一般旅客の宿泊に便す一泊金五十錢又旅客列車の停車中酒菓等の呼賣を爲す

鐵嶺は渤海時代の富州にして遼は銀州と改む當時銀冶を以て有名なりしを以てなり、地形は東に龍首山ありて蜿蜒起伏し、北に柴河ありて天塹を形成し、西に遼河ありて千檣萬帆常に往來す、遼河上流の平原は此處に到りて著しく蹙まり、南來北走の貨物舉げて此咽喉を通過するを例とす、故に鐵嶺は天與の市場にして兼ねて螞蜂溝の良碼頭を有し水陸の便利一省に冠たりしを以て城內巨商多く鐵道開通以前に於ては歲々穀類百萬石餘を呑吐せしが鐵道開通以來漸次大連營口に輸出せらるゝが故に復た昔日の盛況を見る能はず

【城壁】は明の洪武年間に築造し淸の康熙乾隆道光年間に屢〻重修せしものにして城廓は周圍二十四町餘高さ二丈、四方に各一門を開く頃日西門及北門附近を取毀ち其磚瓦を以て道路並排

水溝の築造に充て漸次全部を取毀つといふ、市街は東西兩關に延伸し糧棧、雜貨舖、油房、布舖等櫛比し市況殷賑なり戸數四千餘人口三萬餘を有す．日本人の居住するもの多くは西關に雜居し戸數三百三十餘人口千百餘あり

【鐵道附屬地市街】は東清鐵道時代には一圓の沼澤なりしが漸次土工を起し現今は一市街を形成すされど商家は居留地に住居し附屬地は重に兵營、郵便局、滿鐵社宅、學校、醫院、商品陳列館及最近新築せる領事館にして商家及支那人の居住は僅少なり然れども現今尚戸數八百餘人口約二千を算す

【螞蜂溝】の碼頭は停車場の西方約一里遼河の彎流する所にあり鐵嶺をして今日に至らしめたる原動力にして水路營口までは八百六十支里陸路四百九十支里と稱せられ增水期に際せば約五六晝夜にして營口に下り半日にして螞蜂溝に溯るを得べく、一隻の戎克船は能く三四十石乃至七八十石を積載するが故に水路の運賃は陸路の車賃に比して頗る低廉なり、故に咸豐年間より鐵道開通期に至るまでの貨物輸送は擧げて遼河の水運に依り、光緒三十年通江口の開埠せらるるまで約二十年間螞蜂溝の碼頭は殆んど遼河の貨物を獨占し居たり、通江口の開埠は鐵嶺に大打擊を與へたるも其後通江口の水運衰へて螞蜂溝再び榮え今尚水運に依る大豆雜穀三四十萬石を下らず然れども明治四十年以後は鐵道輸送に一變し貨物集散の大市場は開原市街に移動せり

東門外を起點として驛構內及蝸蜂溝に至る手押輕便鐵道あり貨物運搬に使用せらる

【法庫門】　は通江口を距る西南六十支里驛を距ること西北九十支里の邊寨上にあり、鐵道沿線より行かんとせば當驛最も近しとす、市街の一端に邊門あり柳邊十二門の一にして康熙三年八姓を戍戶として邊門を戍らしむ故に八戶門と名づけ後に法庫門と改めたりといふ、法庫門の城壘は土壁にして四門を開き裡に市街あり戶數三千五百人口二萬餘を算し北二百四十支里を距る鄭家屯の開市以前は滿洲唯一の蒙古貿易市場たりしが今は市況往時の如く盛んならず、邊寨外に法庫山、公主陵等の古刹名蹟あり公主陵は咸豐年間勇名一世に高かりし蒙古王僧格林沁の王墳あるに依り夙に世人の熟知する所となれり、光緖三十二年九月開原縣より離れて獨立の法庫縣となれり其市街列國に開放せられたるも英佛宣敎師及び日本人の居住する者四十餘名に過ぎず鐵嶺領事館法庫門警察官吏派出所あり

【官公署其他】　城內には鐵嶺縣知事公署、稅捐徵收局、各學堂あり居留地には三井物產會社出張所、橫濱正金銀行出張所、居留民會、電燈公司、滿鐵日語學堂、鐵嶺銀行、鐵嶺實業銀行あり附屬地には陸軍諸官衙兵營、日本領事館、郵便局、滿鐵地方事務所、滿鐵醫院、尋常高等小學校、保線係、車輛係、商品陳列館、製粉會社等あり商品陳列館は日貨を紹介する機關として其名高く鄭家屯に支店を有す、製粉會社は哈爾賓の露國製粉會社と相對抗し、外國品と競爭し

て規模大なり一箇年千六百萬斤を生產し長春に分工場を有す

【旅館】 松葉ホテル、近江屋等あり宿泊料一人一泊金一圓五十錢以上五圓以內晝食料は其半額とす

【交通】 人力車あり附屬地及居留地內十錢城內外十五錢乃至二十錢なり

【名勝舊蹟其他】 戰蹟 日露戰役に於ける鐵嶺は極めて重要なる任務を帶び、奉天大會戰後の露軍は鐵嶺を後衞陣地として龍首山及國道の左右側に鞏固なる堡壘を築き鐵條網を繞らし六七十門の野砲を並べて我が前衞部隊と砲戰せしも、大勢拯ふに由なく三月十五日自から火を停車場に放ちて開原以北に退却せり、日本軍は占領後之を兵站基地とし水路と鐵道とを利用して糧秣彈藥の輸送に便せり、當時黑木軍の架設せし柴河の軍橋は平和克復後淸國官憲に引渡されしが其後流失せり

名勝舊蹟 鐵嶺に二基の古塔あり一は龍首山上にありて他は城內圓通寺の境內にあり、圓通寺の白塔は十三級より成り唐の太和二年に創建し、龍首山上慈淸寺の白塔は其創建時代を知らざるも古色蒼然たり慈淸寺又三淸觀とも稱し明朝の重修せし古刹なり龍首山は當地第一の遊園地にして之に登臨すれば全市近く脚下に連り柴河遼水逶邐として遠く雲靄の間に沒し萬帆風を孕んで徂徠するの趣實に銀州の大觀なり、其他柴河々畔には龍王廟あり城內には城隍廟あ

り

平頂堡驛 Ping-ting-pu.

大連起點二百九十六哩三分
長春驛迄百三十八哩三分

平頂堡は往時戍兵を置きて開原三萬衛に至るの國道を守備せしも清朝は其南方二十餘丁の高力站に驛站を設け驛丞を置き兵丁を備へたり、高力は高麗と國音相通じ高勾驪時代に高麗城を築きし舊蹟なり、平頂堡の西北遼河々岸に英守屯と稱する碼頭あり往時は約二十萬石の特産物を搬出して繁盛なりしが河流歳と共に變じたる爲め今や大に衰退し復た昔日の觀なし

中固驛 Chung-Ku.

大連起點三百五哩九分
長春驛迄百三十一哩七分

中固も亦明の古城趾にして往時重要の地點なりしも今は寂寞たる村落となれり、遼志に據れば中固城は明の弘治十六年築設せし遼東十八城の一にして城壁高さ一丈八尺濠の寛さ二丈八尺周圍七百三十五丈なりしといふ、天命三年清の太祖興京にありて帝業を肇むるや明軍大擧して來り攻め總兵馬林副將麻岩等の四萬餘兵は中固開原を經て進みたり以て明代に於ける中固の如何に重要視せられたるかを推知し得べし、驛の東方里許に梅家寨村落あり日露戰爭當時野津軍司令部のありし地にして此地梅樹多く春陽杖を曳くに宜し

開原驛 Kai-yuan.

大連起點三百十三哩四分
長春驛迄百二十四哩二分

公衆電報取扱驛、途中乘継驛、構内販賣店には酒菓煙草鑵詰等あり又旅客列車著發に際し呼賣をなす洗面所及兩替店あり搬荷夫あり、一箇金三錢、携帶品一時預り所

開原は高勾驪渤海時代に於て既に著名の都市なり、遼の太祖渤海を征して夫餘府に至り黄龍現はるゝを見て其名を黄龍府と改めたりといふは即ち今の開原にして城北の小丘を黄龍岡と稱するもの亦之に由來す、元の太祖金將布希萬努を討伐して開元に至り此地に開元二萬戶府を置き至元二十三年開元路と改む、吉林街道威遠邊門の南に今も猶開元路と稱する一邑あり或は元朝の遺蹟ならん乎、明の洪武二十二年三萬の衛を此地に置き同二十五年今の位置を相して築城し以て最北の重鎭となす、

【城壁】 は驛の東北十八支里にあり、高さ三丈五尺濠の深さ一丈幅四丈周圍十二支里二十歩にして四方に城門を開き以て吉林、長春、英額城の三方面に通ずる道路を扼す、淸河其南を流れ黄龍岡其北を繞り山河襟帶の要害を占む故に明時に於ては其繁榮遼陽の都司城に匹敵するの勢ひ

なりしが、清朝に至り降して縣城となし單に地方邊寨の固めとなせしより人煙稍ゝ衰へ次で鐵道附屬地の逐年發展するに伴ひ益ゝ衰退を來し現今にては僅かに舊態を存するのみにして市況寂寞を極む、されど猶戸數三千三百餘人口二萬餘を算す、城内の白塔は古色蒼然として中天に屹立す

【鐵道附屬地市街】驛所在地一帶は素と荒凉たる原野にして開業當時には開原城外の一寒村に過ぎず驛員の外殆んど居住者なかりしが遼河水運の衰退と大連の發達に伴なふ輸送上の便利と大豆の一大產地たる海龍城及掏鹿地方に至るの衝に當れるとの爲め四十一年以來大豆の集散頓に盛大と爲り之に伴ひ支那人の來住する者俄に增加し從來開原地方の中心市場たりし鐵嶺を壓倒し今や戸數千三百五十人口一萬に達し糧棧、飯店軒を比べ人馬絡繹たり、附屬地中如斯異常の發達を遂げたるもの唯此地と四平街あるのみ、若し夫れ出穀の期に至れば恰も大豆の長堤を築くの觀あり、市街に輕便鐵道を布設し貨物運搬に便す

【掏鹿及海龍城附近】は地味膏腴なる一大農產地にして就中大豆の產額最も多し、其重なる市場掏鹿(西豐縣)は開原の東北百四十支里の地にあり戸數三千人口二萬を有す、大疙瘩(西安縣)は掏鹿を東北に距る九十支里(開原より二百三十支里)戸數一千人口六千、大肚川(東豐縣)は大疙瘩を東南に距る九十支里(開原より三百二十支里)戸數千五百人口七千、海龍城(海龍縣)は大肚

川を東に距る六十支里(開原より三百八十支里)戶數千二百人口一萬、朝陽鎭(海龍縣)は海龍城の東方三十五支里戶數二千人口二萬に達す、又山城子は開原の東二百八十支里にあり戶數三千人口二萬を算し共に市況活潑なり、西豐、西安、東豐三縣は元と圍場と稱して淸國皇室の御獵場たりしが今を距ること二十餘年前漢民の開墾を許可し掏鹿、大疙瘩、大肚川の三地に知事公署を新設せり今尙此地に移住し開墾に從事するもの多く今日の一大生產地を現出せり、開海鐵道即ち當線より掏鹿、大疙瘩、大肚川を經て海龍城に達する百二十哩は旣に我國に借欵權を得たれば近き將來に於て敷設せらるべく期待せり

【通江口】 は遼河上流に於ける有數の商埠にして當驛を距ること西七十支里營口を距る北一千支里にあり東蒙古博王旗界にして光緒初年の頃までは蒙古民族游牧の野なりしが光緒三年開埠せられて遼河上流最北端の碼頭として北方一帶の物資を呑吐し穀類の集散高每年七十萬石乃至百萬石に達し遙かに下流螞蜂溝を凌駕せしも光緒三十二年に至り其上流四百七十支里なる鄭家屯の開埠を見又一方に於ては當驛の勃興するありて逐年衰退し現今にては僅かに開原縣昌圖縣所產の一部を吸收するに過ぎず

【官公署其他】 城內に開原縣知事公署、郵政局、電報局、稅捐分局あり附屬地には警務支署、陸軍諸官衙、守備隊、郵便局、滿鐵地方事務所、滿鐵醫院、尋常高等小學校、公學堂あり金融機關に

は正隆銀行支店、橫濱正金銀行出張所、朝鮮銀行派出所及支那の奉天興業銀行、交通銀行、東三省銀行、中國銀行等の各派出所あり又近く開原重要物產取引所設立せられ同時に信托株式會社の開業を見る、又滿洲電氣株式會社の設立あり電燈營業を爲す、劇場に興隆茶園あり

【旅館】二葉、戎屋等あり宿泊料一人一泊金一圓以上三圓以下晝食半額とす

【戰蹟】日露戰役の次年開原附近は野津大將の第四軍此地に駐營し專ら吉林街道上を警戒し黑木大將の第一軍は淸河の上流を前にして掏鹿方面を警戒し、乃木大將の第三軍は法庫門に進みて鄭家屯方面を警戒し、奧大將の第二軍は鐵道線路に沿ふて雙廟子方面を警戒せり、驛の北方三哩淸河の河畔は有名なる雁、鴨、雉子の狩獵地なり

金溝子驛 Chin-kou-tzu,

大連起點三百十哩一分
長春驛迄百十七哩五分

馬仲河驛 Ma-chung-ho.

大連起點三百二十六哩四分
長春驛迄百十一哩二分

馬仲河は開原縣の北境に位置し最も柳條邊に近し其邊門は馬千總臺門と稱し其門外は即ち蒙古領にして達爾罕王の旗界なり邊寨の殘影は今猶溝濠となつて僅に其形を留め蜿蜒として東西に走り遙に法庫門及威遠堡に達す之を開原縣昌圖縣の彊場となす

昌圖驛 Chang-tu.

大連起點三百三十二哩七分
長春驛迄百四哩九分

公衆電報取扱驛、途中乗繼驛

構内食堂あり隨時和洋食の需に應じ酒菓煙草罐詰等を販賣し又旅客列車發着の際酒菓煙草の呼賣をなす、洗面所の設けあり

昌圖驛は馬踪河の左岸にあり素と寂寞たる一寒村に過ぎざりしが一朝鐵道の開通を見るや近く昌圖府を控ゆるを以て日支人の來り住するもの漸く多く稍隆昌を見しも昌圖府の衰頽と共に年々其勢力を附近の新興驛に奪はれ今日に於ては萎微振はざる中間の小驛となれり今は戸數百七十人口六百五十を算するのみ

【昌圖縣】 昌圖市街は驛の西方二里餘に位し市と驛との間には手押式輕便鐵道布設せらる此輕鐵は日露戰後我が軍政時代に日支人の共同經營せしものにして今尚繼續せり、市街は戸數二千餘人口二萬と稱す、元來此地一帶は蒙古博王の旗界なりしが嘉慶年間(約百十數年前)漢人の移住を允許してより移住民の數漸次增加し之と同時に蒙古人は遠く遼河以西の地に遁れて今は其隻影を見ず、光緒二年此地に知府を設け行政權を掌握せしめしより蒙古王は唯各地に地局を置き地稅を徵收するに過ぎず、驛附近一帶の地は日露戰役に於ける最後の戰場として其名顯はれ

當時奥軍の司令部は驛の西南一哩の地點にありて現に不滅の記念標を存す又馬踪川の鐵橋を渡りて線路屈曲凹道に入る所左右の崖上に殘壘あり其左崗上に突起せるは鉢卷山と稱し唯一の展望處として戰時最も重せられし處なり

【官公署其他】 市街に昌圖縣知事公署、電報局、郵便局等あり附屬地に尋常高等小學校あり

滿井驛（マンチン） Man-ching.

大連起點三百三十七哩三分
長春驛迄百哩三分

滿井は日露休戰前に於ける我が滿洲軍の最前線にして沙河を隔てゝ露軍の最前線たる沙河子と相對せし歴史を有す、沙河子の東方に炭山あり沙河子炭坑と稱し日露交戰中東淸鐵道會社は其燃料を得んが爲め滿井炭坑間に約二哩の支線を布設し一時坑區を租借して採炭機械を据付けしが炭質劣等なりし爲め効果擧らず之を放棄せりといふ、驛の北方二哩線路の東側に在る西沙河子の塔塚は明治三十八年九月十三日日露兩軍の休戰條件協定委員たる福島少將及オラノフスキー少將の會見せし場所にして戰史上有名なる地點なり

泉頭驛（チュワントウ） Chuan-tou.

大連起點三百四十一哩七分
長春驛迄六十五哩九分

泉頭は元白水溝又は白水塔と稱せるを日露戰爭の際白水と泉との字劃相似たると頭と塔と國音

相通じ而かも其東方に泉眼頭と稱する部落あるを以て遂に泉頭と呼ぶに至りたるものにして此稱呼は今尚支那人間に通用せられずといふ

雙廟子驛（ショワンミヤヲツー） Shuang-miao-tzu.

大連起點三百四十八哩三分
長春驛迄八十九哩三分

公衆電報取扱驛、除中乘繼驛

雙廟子は素と寂寞たる一寒村に過ぎざりしも八面城鷥鷺樹等の大邑其周圍に存在するに依り鐵道貨物比較的多く日支商人の附屬地に居住するもの漸く增加し今は戶數二百五十餘人口九百を算するに至れり

桓勾子驛（ホァンコウツー） Huan-kou-tzu.

大連起點三百五十三哩九分
長春驛迄八十三哩七分

虻牛哨驛（ワンニウシァオ） Wang-niu-shao.

大連起點三百五十七哩九分
長春驛迄七十九哩七分

會社は滿洲守備隊滿期兵にも附屬地の一部を貸與し農業に從事せしめしが就中當驛に於ける滿期兵四戶は約十八萬坪の耕作に從事し良成蹟を得つゝあり

四平街驛（スツピンチエー） Szu-ping-chieh.

大連起點三百六十五哩八分
長春驛迄七十一哩八分

公衆電報取扱驛、途中乘繼驛、携帶品一時預り所、構内販賣店には酒菓煙草等あり、旅客列車發著に際し呼賣を爲す、洗面所の設けあり。

停車場は四平街村落を距る東南十五支里の地點にあり、開原驛と同じく純然たる鐵道市にして東清鐵道時代に於ては驛舍兵營以外に何等の建築物を見ず風物頗る荒涼を極めしが爾來年と共に著しく發展し今や一新市街を現出し戶數約九百人口約六千に達し倍〻繁盛を加へつゝあり蓋し當地は四面皆平地なる平野にして交通の便縱橫に開け而かも地味豐饒にして耕作に適し且つ東西二百支里南北八十支里の平野に於て賣買街、八面城、鄭家屯等の大市邑を控へ物資の集散最も大にして長春開原に亞ぐの大集散場たればなり、此地亦日露戰役に際しては最も重要なる地區にして總司令官リネウヰッチ大將時々轅を此地に進め三軍を指揮したりと云ふ、今の守備隊兵舍は明治三十八年十月三十日我が滿洲軍參謀福島少將と露國滿洲軍參謀オラノフスキー少將とが兩軍總司令官の命令を承けて撤兵手續及鐵道受渡順序等を議定せし所なり

【四鄭鐵道】　往年我帝國は支那政府と交涉の結果滿蒙に於ける五鐵道の借款權を獲たり五鐵道とは四平街洮南線四平街に起り鄭家屯を經て洮南府に達する全長約二百三十哩。長春洮南線長春を起點とし懷德縣を經郭爾維斯蒙古を橫斷して洮南府に達すべきもの其延長百八十哩。洮南熱河線洮南に起り開魯縣敖漢王府を過ぎて赤峰州に出で喀喇沁王府を經て熱河に達するもの全長

四百七十哩。開原海龍線開原に起り掏鹿、大疙瘩、大肚川を經て海龍城に達するもの全長百二十哩。海龍吉林線海龍城より朝陽、磐石、双陽、馬家屯を經て吉林に達し吉長、吉會兩鐵道と接續すべきもの全長百十哩を云ふ四鄭鐵道は前記四平街洮南府線の一部分にして四平街を起點として八面城（人口一萬八千人）三江口等を經て此地方に於ける通商上の要地たる鄭家屯に達する五十二哩餘の鐵道にして此間地味肥沃農家稠密す、鄭家屯は四平街驛の西北百九十五支里老哈河の右岸に在り蒙古達爾罕王旗下の地にして同治初年（今より五十餘年）前より漢人の移住する者漸く多く遂に牛馬市場として發達するに至り光緒二十七年州治となし遼源州を置き次で遼河水運の最上流碼頭たる鄭家屯碼頭を市街を距る東方三支里に開設するや更に著しき發達を遂け今や人口五萬を算するの一大市街となれり但し蒙古人は漸次減退せられたり民國二年遼源縣と改め洮遼鎭守使の所在地たり市街は東西約一里南北半里餘にして前街後街に分れ穀類及牛馬の取引旺盛にして人馬絡繹市況活潑なり、鄭家屯洮南間は哲里木盟の一大平野にして目下開墾に從事するもの多きも未だ處々に小部落の散點するに過ぎす、四鄭鐵道は凡ての約款已に整ひ準備成りて工事に着手す竣功の曉には滿蒙の連絡を保ち彼我の發展期して待つべし

【官公署其他】　守備隊、郵便局、滿鐵地方事務所四平街出張所、保線係、小學校、公學堂、公主嶺滿鐵醫院四平街分院、朝鮮銀行派出所等あり支那側には四鄭鐵路局、郵政分局、鹽務分局、商

務會あり

【旅館】 驛前に當地唯一の植半旅館あり宿泊料一人一泊金一圓以上四圓以内晝食料は其半額とす

十家堡（シーチアプー）驛 Shih-chia-pu.

大連起點三百七十五哩五分
長春驛迄六十二哩一分

郭家店（クヮオーヒアティエン）驛 Kuo-chia-tien.

大連起點三百八十二哩二分
長春驛迄五十五哩四分

公衆電報取扱驛、除中乘繼驛

驛は日露戰役の終期兩軍對陣の際露軍總司令官リネウヰッチ將軍の駐營せしに因り其名を知らるゝも素と荒寥たる一寒村に過ぎざりしが西に奉化を控へ東方伊通州に通ずるを以て特產物の搬出を誘致し此處に居を構へ商業に從事するもの漸く增加し今や戶數二百六十人口二千を算し沿線に於ける新興特產物市場となれり、兵營あり日本軍隊駐屯す

蔡家（ツァイチア）驛 Tsai-chia.

大連起點三百八十八哩九分
長春驛迄四十八哩七分

大楡樹（ターユーシュー）驛 Ta-yu-shu.

大連起點三百九十四哩二分
長春驛迄四十三哩四分

公主嶺（コォンチューリン）驛 Kung-chu-ling.

大連起點三百九十九哩一分
長春驛迄三十八哩五分

公衆電報取扱驛、途中乘繼驛、携帶品一時預り所
構內販賣店には酒菓煙草等あり、構內食堂にては和洋兩食の需に應ず、洗面所、兩替店、搬荷夫あり

公主嶺は懷德縣の行政管下に屬し蒙古達爾罕王の所領なり、公主嶺の名稱は驛の西北二十餘支里の公主陵に基因すといふ、然れども其墳塋は清朝公主の寢陵にあらずして達爾罕王の一族に屬する二兄弟の墳塋たり、此兄弟倶に乾隆帝の姪に當れる皇族の女を妻とし此處に合葬しあるに因り蒙民傳へて格々兒陵と稱し又恩叅地局の六屋塋に永眠せらるゝ質愼公主の墳塋に對して東格陵とも名づく故に公主陵の名稱は稍ゝ事實に違へども今は一般に公主陵と稱せらる、此地は南北滿洲の分水界にして海拔最も高く寒威も亦凜烈なり、之より南下する溪流は遼河に注ぎ北流するものは松花江に入る、此地は素と七八戶の支那矮屋散在せし一寒村に過ぎざりしが東清鐵道開通するや南部線中の三大驛に數へられ二百萬坪を附屬地として買收し停車場、機關庫、劇場、寺院、兵營、病院、ホテル、製麴場其他住宅三百餘戶を建築し大停車場の輪廓を畫きたりき然れども露國は一切外人の居住を許さゞりしなり日露戰役後會社の經營に移り我が官民及び支那商工業者の移住するもの踵を接して相次ぎ爰に一新市街を形成するに至れり此地元來交通の要衝にあらざるも鐵道は伊通州懷德縣地方の大豆其他雜穀等の出廻りを誘致し今や滿洲特

產物輸出市場として著名なり、市街は泰平橋（架空橋にして全線中大石橋驛と當驛と二あるのみ）を挾んで南北二街に分れ北街は諸官衙兵營宿舍等あり、南街は商業區として商賈櫛比し整然たる市街の觀を呈す之れと隣接して支那町あり小商賈軒を竝べ稍繁盛なり、附屬地の戶數六百五十餘人口二千五百餘を算す

【官公署其他】 陸軍諸官衙兵營、郵便局、警務支署、滿鐵地方事務所、尋常高等小學校、公學堂、滿鐵醫院、車輛係、保線係、產業試驗場等あり支那町には稅捐分局、郵政分局、電報分局等あり金融機關に公主嶺銀行及橫濱正金銀行派出所（冬季間）あり

【旅館】 丸福旅館あり宿泊料一人一泊一圓五十錢以上四圓以內晝食料其半額とす

【產業試驗場】 は附屬地內にあり滿洲及蒙古に於ける農牧林產等の改良增殖に關する各種の試驗竝に調查研究を行へり其結果を廣く一般に知らしめ傍ら良好なる樹苗の種子を育成配布して其の普及を圖り農事に關しては滿洲特產物たる大豆、高粱、粟其他重要作物の增收を圖るため主として品種の改良に努むると共に肥料の適否を研究し尙滿洲の風土に適する有利なる新作物の研究に力を致せり、畜產に關しては在來蒙古羊の改良に關する試驗を行ひ羊毛の品質竝に其生產量の增加を圖らんとす而して其用地は約十餘萬坪なり

劉房子驛(リウファンツー) Liu-fang-tzu.

大連起點四百五哩八分
長春驛迄三十一哩八分
公衆電報取扱驛

傳へ言ふ數十年前の移住民は凡て窩棚生活を營みたりしが山東の人劉某なるもの大屋を建て永住的基礎を固め移民を愛撫せしかば皆其德を慕ひ劉大房子と敬稱せるより遂に村名たるに至れりと

范家屯驛(ファンチアトゥン) Fan-chia-tun.

大連起點四百十八哩八分
長春驛迄十八哩八分

公衆電報取扱驛、途中乘繼驛

范家屯にはもと驛舍兵營の外建築物の見るべきものなかりしが双陽河、大嶺、八家子地方より出貨する大豆其他の穀物多く日支人の商業を營むもの從て增加し今は戶數百九十人口千六百餘の小市街を成せり、驛の北方三哩に新開河の鐵橋あり橋畔に監視家屋ありて傍に

【田村中尉の碑】 あり中尉は奉天戰前に當り明治三十八年二月十一日我第二軍秋山支隊より組織せる挺進隊三個中隊の一部を卒ゐ凛烈なる寒氣と戰ひつゝ敵地に入り哨線を避けて迂廻して深く敵の背後に出で後路を絕つの目的を以て鐵橋の破壞を圖りしも爆發効なく遂に戰死を遂げ露軍亦其壯烈に感じ之を監視家屋附近に葬れり、今猶該家屋壁及望樓には慘然たる彈痕の存す

るを見る、四十一年四月我獨立守備隊は碑を建て中尉の英靈を祭れり其の碑文は當會社前總裁後藤男爵の撰書に係る

大屯驛 Ta-tun.

大連起點四百二十五哩三分
長春驛迄十二哩三分
公衆電報取扱驛

驛の東南及西南に採石山あり白龍駒石山と稱す東清鐵道時代の碎石採取地にして今猶當會社の採石地たり

孟家屯驛 Meng-chia-tun.

大連起點四百三十二哩二分
長春驛迄五哩四分

孟家屯は露治時代に於ては徼々たる小驛なりしが明治三十九年初秋以降翌四十年六月に至るまで寛城子停車場の受授問題決定せざりしかば、我が南滿洲鐵道は一年有半孟家屯を最終停車場と假定して旅客貨物を取扱ひ爲めに一時は全盛を極めたれども長春の新市街經營せらるゝに及び忽ち寂寥たる原頭と化し復た舊影を認むるに由なし

長春驛 Chang-chun.

大連起點四百三十七哩六分


公衆電報取扱驛、携帶品一時預り所

構內食堂にはヤマトホテルより出張し洋食の需めに應じ、構內販賣店にては各種煙草及支那人向き罐詰類を販賣す、外に兩替店及自働電話あり

吉長線及東淸線乘換驛

長春は一名寬城子と稱す、東淸鐵道の敷設せらるゝや露國は二道溝の土地二百萬坪を買收して此處に停車場を開き寬城子と命名したり、日露戰後寬城の問題決するに及び我南滿洲鐵道會社は地を長春城寬城子驛間の中央なる頭道溝に相して百五十餘萬坪を買收し其終驛を此地に進めて長春驛と命名するに及び同一名稱は三箇所に通稱せらる、長春てふ名稱は遼の重熙八年に始まりたるも金以後數百年間此名稱を用ゐざりしが淸朝に至り乾隆五十六年蒙古王郭爾羅斯札薩克恭格喇布坦公山東農民を招いて旗地を開墾するに及び漢民族の集團區域漸く廣がりて一邑を形成し長春堡と命名す、嘉慶五年(一八〇一年)長春堡に理事通判を置き名けて長春廳と云ひ同治四年城を現在の場所に築きて長春城と名づく、光緒十五年廳を府となし同三十四年には兵備道臺一名を此地に駐せしめ西路兵備道臺と稱せしが更に觀察使の稱を經て現今の吉長道尹と改稱し伊通、長春、農安、長嶺、德惠、濛江、磐石、吉林、樺甸、雙陽、舒蘭の十一縣を管し外交事務一切及內政を監す

【長春城】は城內及開埠地に區別せられ城內の市區は頭道街より四道街に至る四大區に分れ南


至吉林
例
山、高線
堤崖
河川
池沼
砂地
草地
樹木
城廓
寺院
墓地



門より北門に通ずる大街にして市區比較的整然たり、其位置は北滿道路の湊合せる樞軸にして軍事上政治上商業上俱に重要なる中心點なり即ち東は吉林城に至り北は農安城を經て伯都訥大賚廳に通じ西は懷德を經て洮南府に達し南は東北昌圖を經て奉天に至る、故に開市以來未だ短日月なるに急速なる發展をなし四十有餘年前微々たりし一村邑は今や戸數一萬一千人口六萬七千を算するに至れり

【開埠地】 此地亦明治三十八年以來北京條約に依り互市場として開放せられたるものゝ一にして從來は城內外一般を開放地となせしが往年道臺顏氏の計畫に依り長春城北門より南滿鐵道附屬地に至る廣大なる土地及滿鐵附屬地を圍繞する一定の地を劃して開埠地となし開埠局を置き壯麗なる道臺衙門を建築し道路を修理し發電所を設け洋風貸家を新設する等著々其步を進め今や洋風の家屋軒を竝べ坦々たる大路縱橫相通じ支那に於て稀に見る歐洲風の清潔華麗なる市街を現出し昔日の街上泥濘馬腹に及びたる奇觀は復た見るべくもあらず、戸數五千餘人口三萬餘に達す

【鐵道附屬地市街】 長春停車場は大正三年の建築に係り輪奐の壯美實に奉天停車場に亞ぐ、市街は停車場を中心として長春大街、東斜街、西斜街の大街を放線形に岐出し碁盤形街と爲し道路はマカダム式を用ゐ步道車道に區別し、公園を設け、上下水道を布設し市區整然殷賑なる街衢

たり、此地一方に長春城を擁し且我が鐵道の終端驛として東淸鐵道及吉長鐵道に對する聯絡地點たり所謂三國折衝の地たると共に南北滿洲に於ける農産物の一大集散地となり吉林省及其他に産出する大豆の馬車或は鐵道に由り初冬より晩春に亘りて陸續運搬せらるゝもの其額歳々百萬石雜穀五十萬石に達す今や戸數二千餘人口一萬二千(外五十二戸の英、露、佛、獨、墺、土、米國人あり)を算し人口の稠密商業の繁盛全線に冠たり、四十年九月此地買收の當時は唯是れ落寞たる荒蕪地にして鷄犬の聲を聞かず人馬の影を見ざりしもの僅かに十年にして此發展を來したるもの素より地の利を得たると物産の饒富なるとに因るとは云へ亦異數の發展なりと云はざるべからず

【露寛城子】 とは東淸鐵道寛城子驛(長春驛を距る一哩半)を云ひ、哈爾賓市を距ること二百二十二露里(一露里は我九町四十五間)の地點にあり、露國は寛城子以南の鐵道を我國に割讓してより以來殆んど寛城子に於ける該施設を放擲して顧みざると我が鐵道附屬地市街の發展に因り漸次其繁榮を奪はれ今は軍隊及鐵道從事員の外殆んど居住民なく當年の寛城子は今や正に寒村の一小驛に過ぎざるに至れり

【東淸鐵道】 の布設條約は明治二十九年九月淸國政府と露淸銀行との間に訂結せられ翌三十年起工し同三十六年竣工せり、(滿鐵線は四呎八吋半の標準軌道にして東淸線は五呎の廣軌道な

り）此鐵道は我長春驛に接續して哈爾賓に至り、西はペトログラード及莫斯科に達し更に歐洲各地に連絡し、東は浦鹽斯德に到る、長春驛中「ホーム」には東淸鐵道の連絡停車場あり、旅客の乘換及之に伴ふ手荷物の積替は南行北行に論なく東淸鐵道の旅客列車當驛に來りて之を行ひ貨物は社線より東淸線行のものは社線の車輛に依り之を寬城子に送り東淸線貨車に積換、東淸線より社線に來るものは東淸貨車に積載の儘當驛に來り我社車輛に積替を行ふ從て我社の客車は露寬城子に至ることなし又兩鐵道は是等聯絡事務執行の爲め相互に驛員を他驛に派遣し貨客の便宜を講ず、連絡停車場には待合室あり東淸鐵道各重要驛に至る乘車券を發賣す、長春哈爾賓間の距離は百四十八哩にして普通列車約八時間餘にて達す、列車發著は急行列車（寢臺及食堂車付）一週一回（歐洲戰以前は一週三回なりしが戰爭の爲め一回に減ぜらる）にして社線の急行列車と接續し、郵便列車每日一回、混合列車一週三回なり東淸線は露貨にあらざれば通用せざるを以て旅客は長春驛にて必要丈け兩換して携帶するを便とす、又旅行券は東、ボグラニーチナヤ迄、西、滿洲里迄は之を要せざるも足一歩露領に入れば一日も之と離るべからざるなり、稅關は長春驛及哈爾賓にては受檢を要せずボグラニーチナヤ或は滿洲里より檢査を爲す、而して東淸鐵道線と會社線とは標準時を異にし會社の正午十二時は東淸鐵道線の午後十二時廿三分なり汽車賃は長春哈爾賓間

急行列車　一等　一六、二五留　二等　一〇、四五留

郵便列車	一等	九、六〇留	二等	五、九五留	三等	三、五五留

哈爾賓浦鹽間

急行列車	一等	四九、三七	二等	三二、一〇		
郵便列車	一等	三〇、四九	二等	一八、八八	三等	一一、七二

【哈爾賓市】は東清鐵道開通以前即ち二十年前にあつては松花江畔の荒凉たる一寒村に過ぎざりしが露國が此地を相して東方經營の大策源地と爲し且鐵道の開通せる以來頓に大發展を爲し今や純然たる歐洲式大都會を形成し人口四萬(内日本人約二千)之れに傅家甸の人口約六萬合計十萬に垂んたり、此地我大連を距る八百八十二露里(我二百三十九里)、浦鹽斯德を距つ七百二十八露里(我百九十七里)、滿洲里に至る八百七十六露里(我二百卅七里)の中心點にして加ふるに舟揖二千露里(我五百四十里)に達する松花江水路の中腹なれば四通八達交通の至便を占む其發達豈偶然ならんや、市街は新市街、埠頭區、及舊哈爾賓の三大市區に分割せられ別に支那市街傅家甸あり新市街は中央の高地にして停車場、東清鐵道廳其他諸官衙學校、各國領事館及官舍、銀行等あり所謂行政區を形成す日本總領事館、日滿商會も此區にあり宏壯なる建築物は樹木庭園を以て圍繞せられ清潔なる市街なり、埠頭區は松花江に面したる低地にて盛んなる商業區なり、鐵道線路によりて新市街と分たれ線路上に鐵道橋を架設して唯一の交通路となす、市街大小の商店軒を並べ日露支の各商人雜居商業を營む其最も繁華なるはキタイスカヤ街にして大廈

高樓櫛比し頗る殷賑を極め新市街と共に歐洲大都を見るの想ひあらしむ、有名なる公園は此區の北端にあり夏期市人唯一の遊樂地にして斜陽凉風を送る交より士女盛裝して玆に集まり深更に至る迄或は音樂に或は舞踏に或は活動寫眞に隨意耳目を樂ましむ眞に一大樂園なり、松花江埠頭には客貨汽船曳船、戎克船等常に發著輻湊し頗る殷盛なり、舊哈爾賓は東淸鐵道敷設當時は稍〻繁盛なりしも今は鐵道長官其他の官舍あるのみ傅家甸は松花江に面し埠頭區に隣接したる純然たる支那市街にして道尹公署交涉局其他支那官憲ありて之を統治し哈爾賓市行政區劃外に屬す人口約六萬と稱し頗る繁盛なり、日本旅館は埠頭區にあり一は東洋館一は常磐ホテルと云ふ共に和洋兩樣の設備完全せり、停車場には常に迎送人出張す宿泊料一泊一人二留以上五留以内晝食料其半額とす、市内交通に乘合馬車及辻馬車あり其賃銀約同區内二十五哥一區四十哥なり、故伊藤公遭難地點は哈爾賓停車場プラットホームにして、日露戰爭當時の志士沖禎介、横川省三兩士が壯烈の最後を遂げたる遺跡は新市街の西南郊外にあり共に遊客の賜を絕たしむ

【吉長鐵道】　は明治四十一年十一月締結の日淸鐵路協約に依り我國より施工工費の半額即ち金二百十五萬圓を借款し四十三年五月工事に著手し二ケ年半の日子を費して漸く竣工し大正元年十月客貨車の全通を見たる吉林長春間七十九哩の鐵道にして旅客列車は四時間半を要す吉長鐵道長春驛は長春城南門を距る約一哩滿鐵長春驛を距る約二哩の地點にあり旅客列車は一日二回

當驛に發著し旅客貨物共に當驛に於て接續を行ひ我社車輛の同驛に至ることなし是れ建設規定を異にするが故に我社の機關車を運轉連絡する能はざる故なり尙ほ吉長鐵道は當驛に設置せられたる吉長鐵道員詰所を呼んで頭道溝と稱し驛長以下驛員數名常住し列車運轉事務及乘車劵發賣に從事す長春吉林間乘車賃金一等五弗六〇、二等四弗、三等二弗四〇なり、通貨は其種類多し故に旅客は必要の金額だけを兩替へし當座の用に充てらるゝを便とす、又途中停車場及列車内にては食事の便なし時間に依り携行するを要す

【吉林城】　は長春の東方二百四十支里の松花江左岸にあり淸朝の始祖愛親覺羅布庫里は長白山中に産れたるに因り朱菓發祥の地として歷代此地を尊崇し康熙帝長白山神の祭殿を吉林烏拉に營むに及び吉林の地愈〻重要視せられ遂に將軍衙門を寧古塔より此地に移し吉林全省の軍政中心となれり市街は比較的淸潔にして人口八萬と稱し松花江上流の良材は一旦江岸に繫留せられ是より水陸兩路に由て四方に搬送せらるゝ江流玆に到りて小汽船を浮ふべく、吉林省中第一の都會なり停車場は東門外にあり城內には督軍公署を始め各官衙、學校、兵營、銀行等あり其行政機關の完備せることは殆んど奉天城と相似たり此地も日露戰後開放せられたる市場にして日露領事館あり日本人の居住するもの約二百名あり、日本人旅館に名古屋館支店及日淸ホテルの二あり共に宿泊料一人一泊二圓以上五圓以內なり、他年海龍吉林線及吉林會寧線鐵道起工の曉に

至らば市況一層の殷賑を加へん

【官公署其他】 支那側に吉長道尹公署、長春縣知事公署、地方審判廳、吉林榷運總局、統稅局、吉長鐵路管理局、電報局、郵政局、電燈廠、交通銀行、中國銀行及學堂、商務總會あり日本側には日本領事館、郵便局、警務署、兵營、觀測所、滿鐵地方事務所、學校、滿鐵醫院、保線係、車輛係、電燈營業所、長春日報社等あり金融機關には城内に横濱正金銀行出張所あり附屬地に正金銀行派出所、朝鮮銀行支店、正隆銀行支店及北滿銀行あり近時長春重要物產取引所開設せられ同時に長春取引所信託株式會社開業せり工業を營む著名なるものに日清燐寸株式會社及滿洲製粉會社分工場あり

【旅館】 長春ヤマトホテルは長春驛前大廣場を隔てゝ驛と相對する大建築物にして滿鐵會社の經營に係り一時に約三十五人の旅客を宿泊せしめ得べく大小三箇の食堂を有し大食堂は能く百人の會食に應ずべく玉突場、酒場、讀書室、應接室、喫烟室、理髮所設備せられ其宿泊は大連ヤマトホテルと同じく歐羅巴風にして室料一人一日二圓五十錢以上十圓以內食事料は朝食一圓晝食一圓五十錢夕食一圓七十五錢とす、市內旅館は名古屋旅館を第一とし其他西村旅館、南洋館、日清館ホテル、初音旅館等あり其宿泊料一人一泊一圓五十錢以上五圓以內晝食料は半額とす、外に支那客棧悅來棧、福順棧等あり、料理店には八千代館、開花樓等著名なり劇場に長春

座及神龍公園あり

【交通】馬車は露國式四輪馬車にして其賃金附屬地内二三十錢、附屬地城内間三四十錢位なり人力車は附屬地内十錢城内廿五錢とす外に支那式輕馬車あるも專ら支那人間に使用せらる





關東都督府

旅順工科學堂



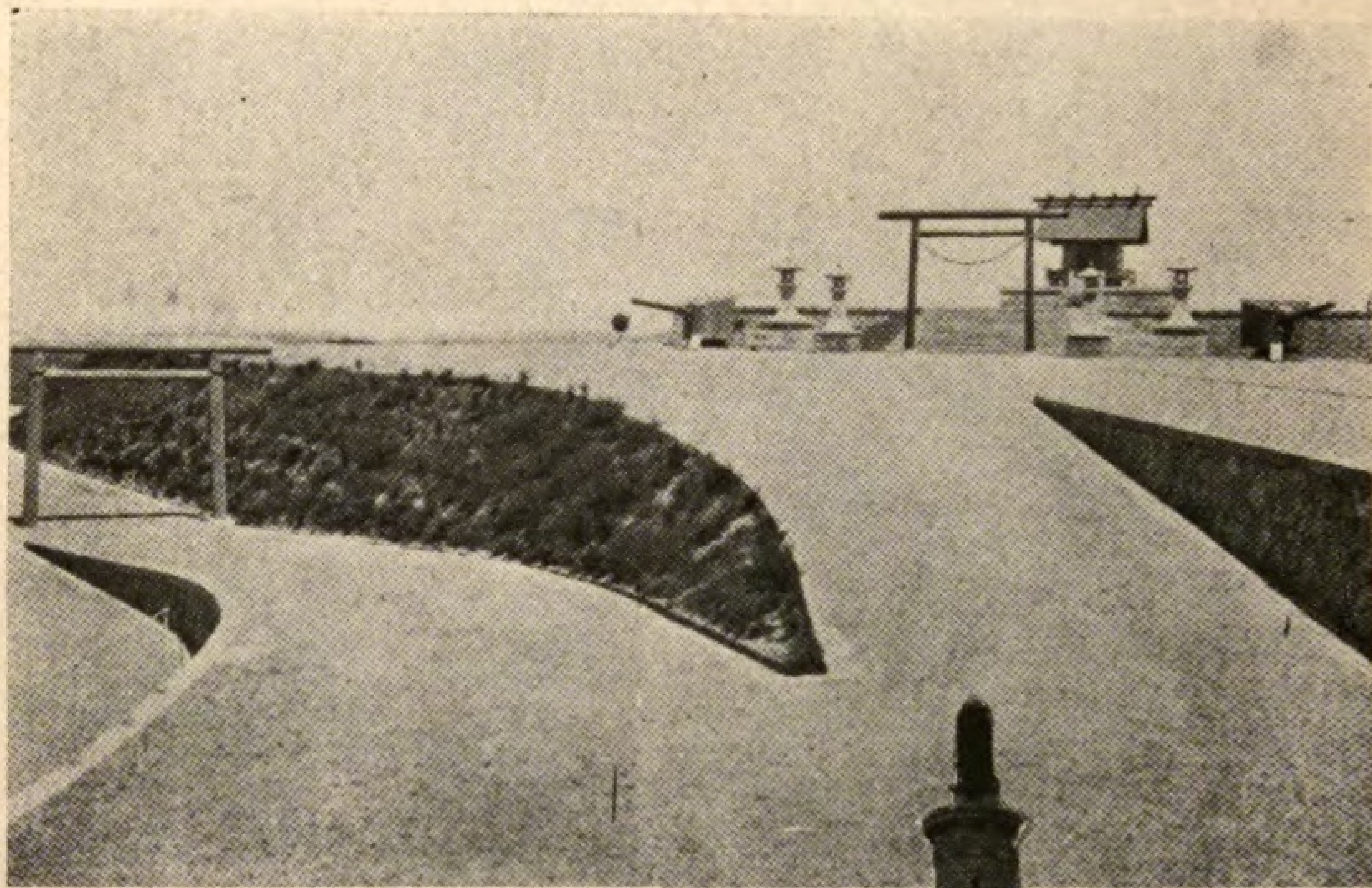


旅順中學校



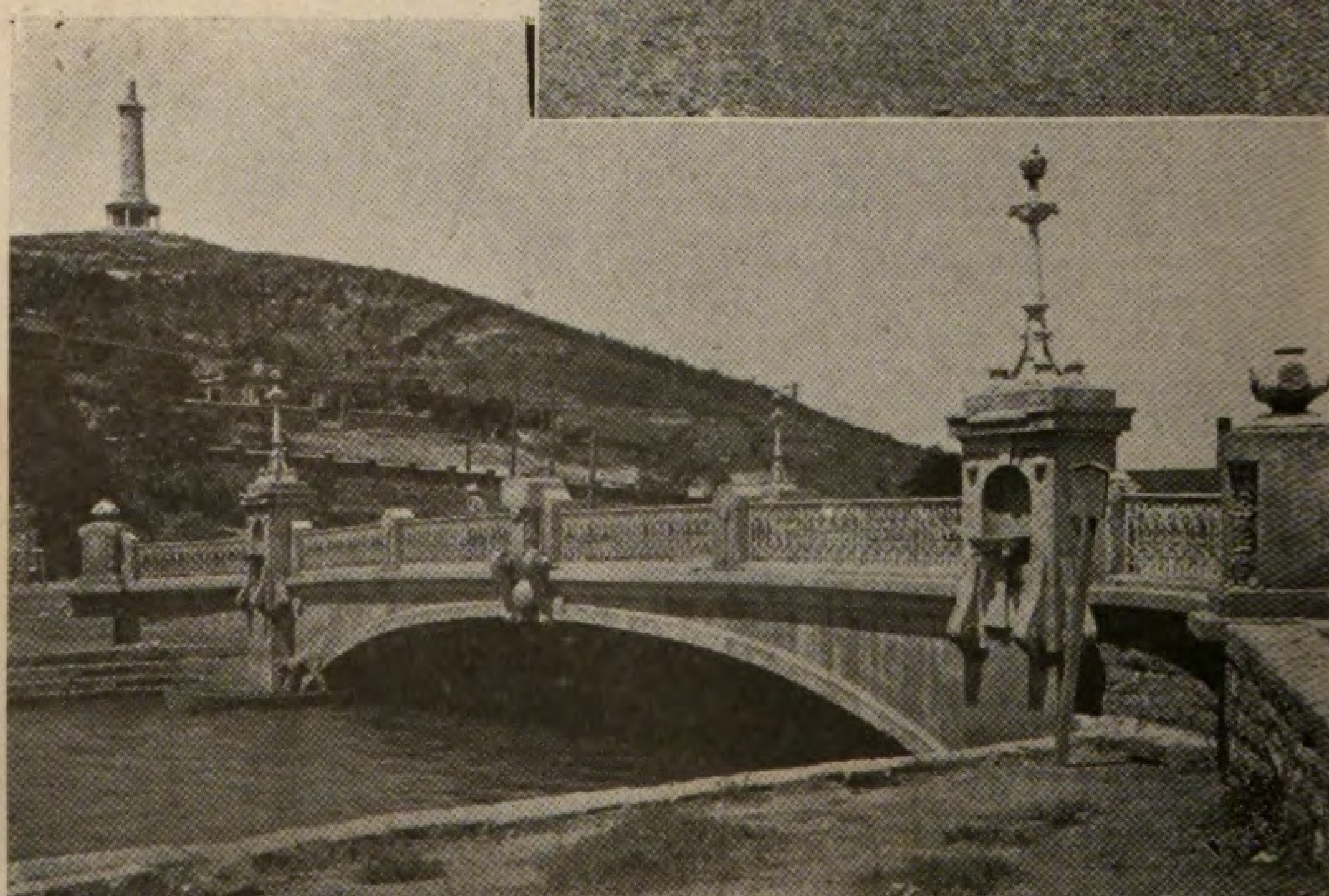
旅順高等女學校

白玉山納骨祠



白玉山表忠塔





旅順東洋橋



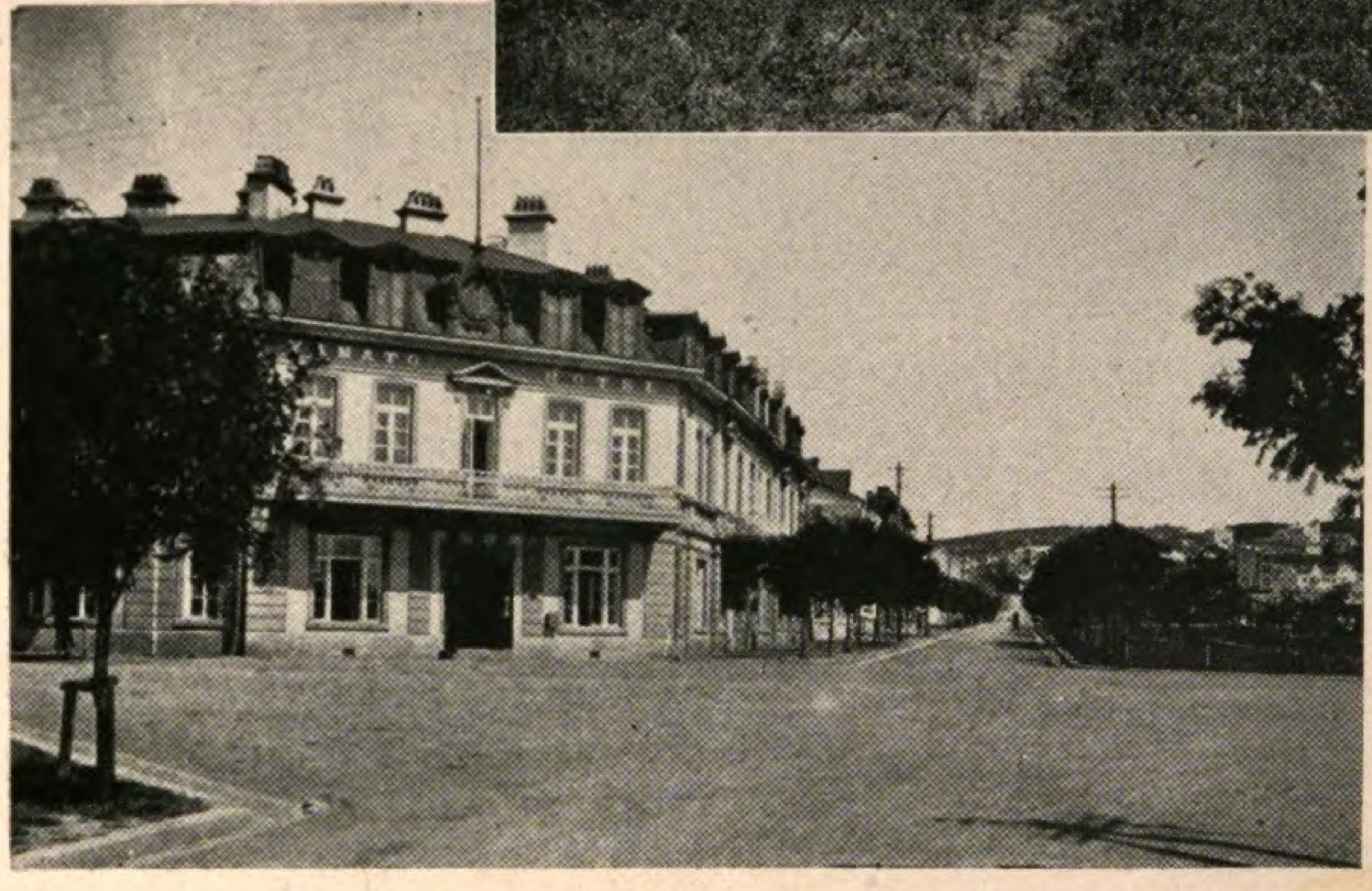
望臺



東雞冠山砲臺跡

二〇三高地ノ遠望



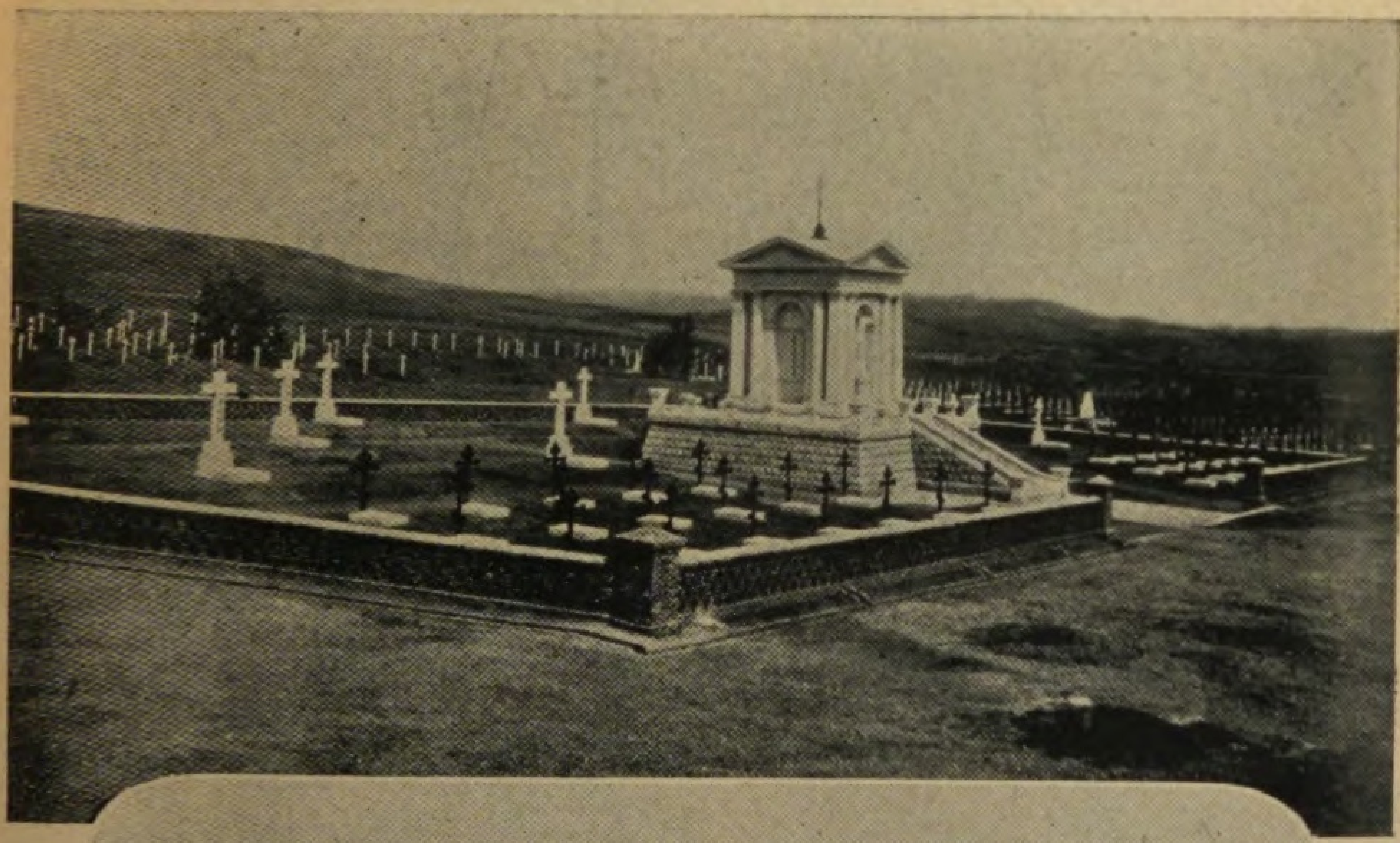


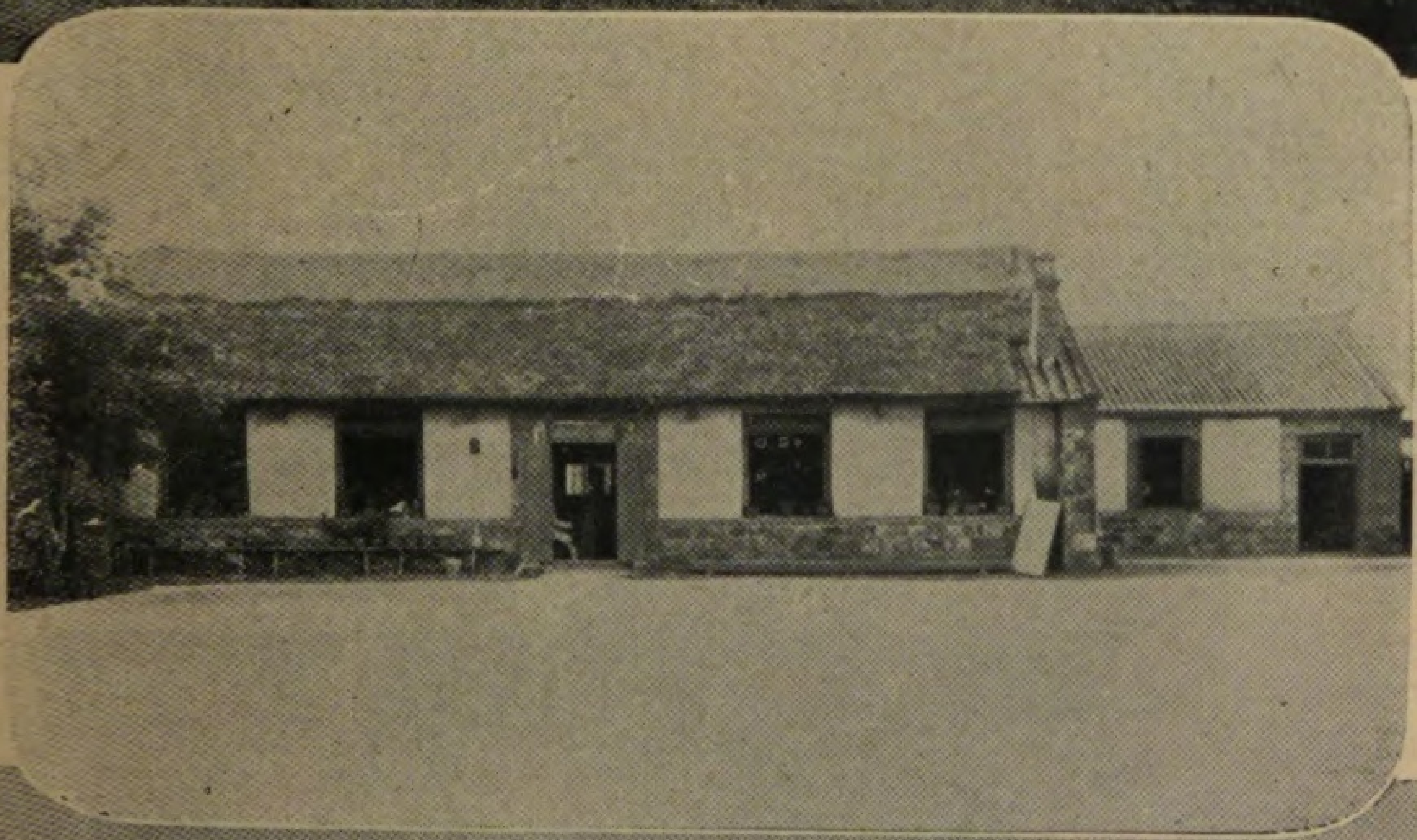
旅順ヤマトホテル



二〇三高地山上ノ記念碑

露國戰歿軍人弔魂碑





乃木ステッセル兩將軍會見場所



旅順要塞戰記念品陳列所

旅順支線

全長臭水子驛より三十一哩六分

臭水子驛 Chou-shui-tzu.

大連起點七哩三分

旅順支線は驛の北方二哩八分の信號所に於て分岐す東清鐵道時代には南關嶺より分岐せしが會社の經營に移りし以來旅大間交通の便宜上之を變更せり故に此新舊兩線路の交叉點と信號所及南關嶺驛とは殆んど二等邊三角形を描けり、而して旅客列車は一日五回往復し片道一時間半を要す

夏家河子驛 Hsia-chia-ho-tzu.

臭水子驛七哩六分

夏家河子は金州灣に流注する夏家河の海口にある小漁村にして海波緩く白砂を洗ふの所最も海水浴場に適し盛夏の候大連より來りて此地に游浴するもの多し或は自ら釣を垂れ或は土民をして網を曳かしめ以て銷夏の樂園を爲す、停車場構内販賣店には酒菓煙草等あり

營城子驛 Ying-cheng-tzu.

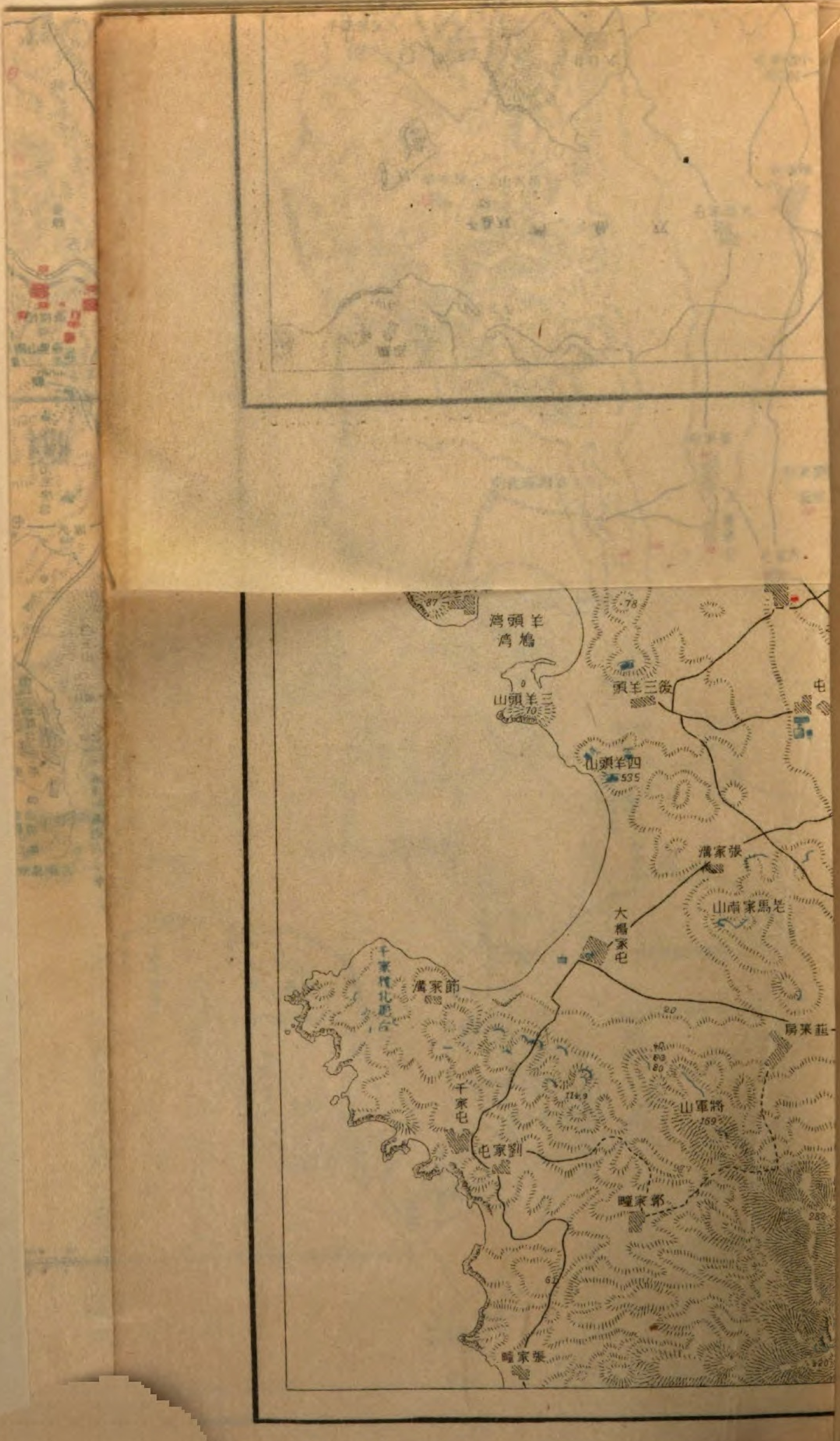
臭水子驛十四哩一分

營城子の西南里餘の所に高勾驪時代の古城址あり營城子の名之に起因す、附近の溪中石材に富

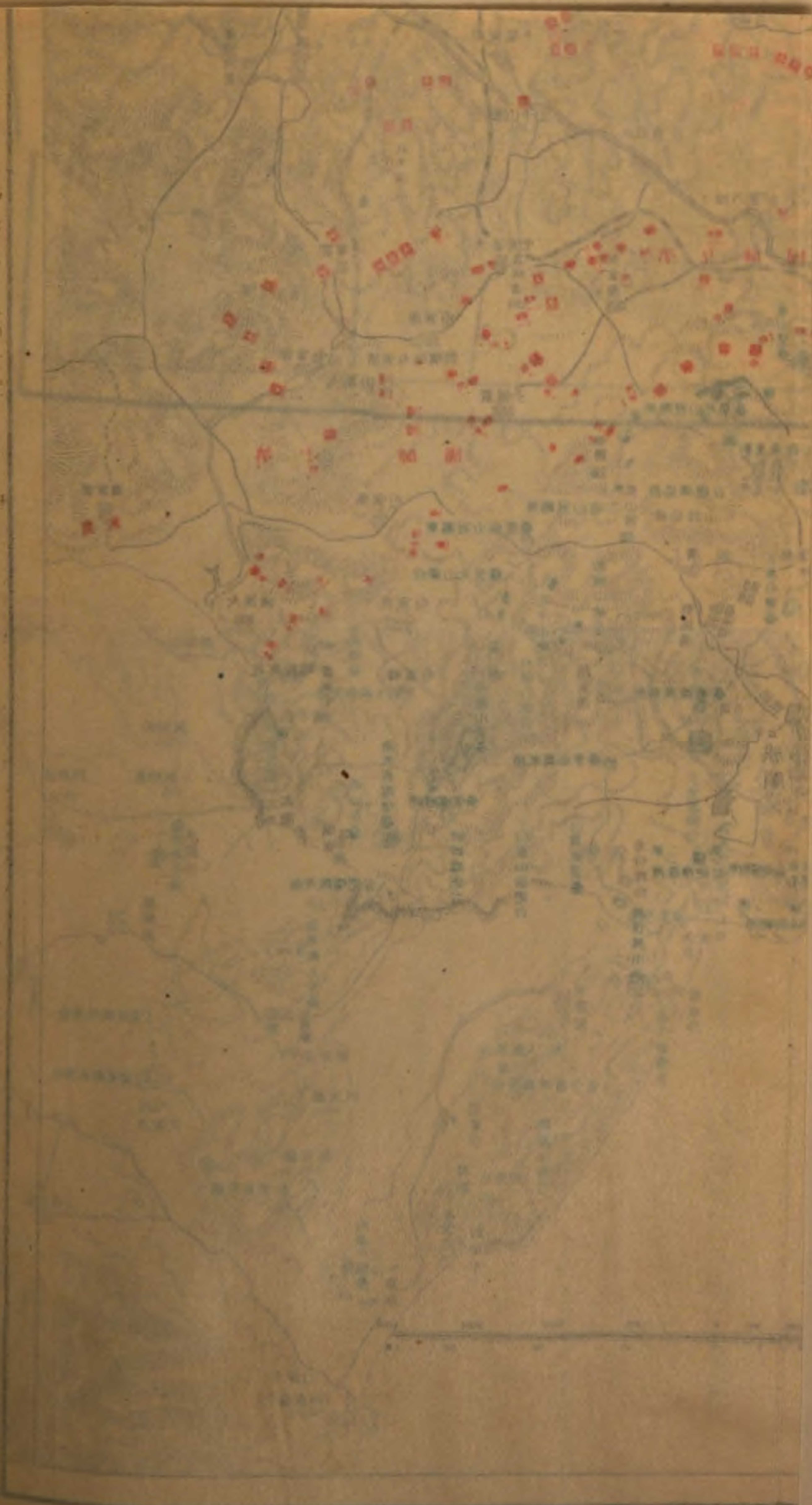
み其質良好にして珠玉の如く印材に賞用せらる、營城子の村落は別に觀るべきもの無く其東方に當れる牧城驛は明朝の時倭寇防伐の中心にして今猶廢墟を存す、晩秋銃を肩にして獵遊を試むるには恰好の地點にして鷓鴣を古城の叢中に射て、往時を偲ぶの風流獵客頗る多し、驛の西南五哩に今は廢驛の長嶺子あり旅順攻圍戰の當時我が第三軍の兵站終點驛として兵員軍器を輸送せし所なり

龍頭驛(ロントウ) Lung-tou.　臭水子驛二十四哩五分

此地附近なる團山子、王家甸、鞠家屯の丘背は旅順攻圍戰の終期に於て我が二十八珊知榴彈砲の攻戰陣地となせし所なり、線路は停車場より千大山の山脈を横斷して姜家屯の谷地に入る、此谷地は半歳間慘戰の續行せられたる修羅場にして車窓遙に東望すれば第十一師團の奮鬪したる大孤山は巍然として聳え其後ろには東鷄冠山盤龍山等起伏して西に走り二龍山松樹山等と相抱擁して旅順東方の天嶮を形成す、線路は殆んど此山脈と相並行して彎環し露軍の本防禦線上に重疊せる堡壘の殘影交互に車客を目送するが如し、丘頂今猶二門の巨砲團山方面に對して儼存せるは露軍の鎖鑰地として最後の時期まで死守せられたる望臺なり、又鐵路の西側俯して一團の村落を眺むるものは即ち水師營(停車場より四哩)にして乃木、ステッセル兩將軍が名譽の


羊頭湾
鳩湾
三羊頭山
70
後三羊頭
四羊頭山
535
張家溝
老馬家南山
大楊家屯
節家溝
千家屯北砲台
千家屯
劉家屯
將軍山
169
郭家疃
張家疃

圖域を議詰すべく一月元日相會見せし舊蹟なり



開城を訂結すべく一月元旦相會見せし舊蹟なり

旅順驛 Ryo-jun.(port-arthur.)

臭水子驛三十一哩六分
大連起點三十九哩

公衆電報取扱驛

構内販賣店には酒菓煙草あり洗面所の設けあり、自働電話あり、搬荷夫あり

案内所は構内の一室を以て之に充て室内に地圖を備へ旅客の縱覽に任せ又戰蹟巡覽等の爲め案内人の需めに應ず案内人は一日金一圓とす、携帶品一時預り所あり一箇一日金五錢又手小荷物の配達を爲す手荷物一箇八錢小荷物一箇五錢とす

旅順は關東州の最南端に位し其名稱は渤海國時代より傳はりしものゝ如し唐より渤海王城に使するもの海路を此地に取り風浪の穩かなるを待つて鴨綠江を溯り今の輯安縣たる王城に至りしこいへば約一千年前より既に其の寄航地たりしを知るべく其の名蓋し亦海上旅行の順路に意味せるものならむ、黃金山老鐵山等は唐時代の所謂金山鐵山にして黃金山下の古碑は唐の鞅鞨策命使鴻臚卿催忻が寄港の記念こして歷史上最も有名なるものなり、旅順城は明の遺跡にして水師營は清の太宗山東を勦淸するの際軍船を出帆せしめたる所なり康熙帝の朝此地に水師營を設けて海警に備ふ今の水師營は其殘影なり、旅順を軍港こせしは光緒五年時の直隸總督北洋大臣李鴻章が渤海防備の爲め旅順威海衞を經營せしを起因こなす、東港の營設物は槪ね其頃に建築

せられ市街も亦今の舊市街の一部分にして商業繁盛人口漸く增加せしが光緒二十年日清戰役に因り大打擊を受け、戰後一時我が軍之を占領せしも翌二十一年十月還付し二十三年十一月露國が關東州を租借するや此地を以て極東經營の根據地と定め巨費を投じて砲臺の築造、市街の建設に努めたりしが明治三十七年日露戰役起り終に三十八年一月二日再び我が軍の手に歸して軍政を布き後媾和成るや露國の租借權を繼承して民政を布き以て今日に至れり

【旅順口】　は東西二港に分かれ兩港の水相合して外海に通ずる一條の水道は其幅二百七十餘米突に過ぎずと雖も水深くして大艦巨船の來往自在なり所謂旅順口の名は此水道口を意味するものなり、其位置は北緯三十八度四十七分東經百二十一度十五分にして、港口の東側には黃金山屹然として聳え西方には老虎尾半島の城頭山饅頭山等蜿蜒起伏し其岬角門口を扼す實に天成の軍港にして其沿海山脈亦自然の砲臺なりと謂ふべし、港口は日露戰役の初め三回に亘りて我が閉塞船隊の諸勇士が決死の働きをなして芳名を不朽に留めたるの戰場にして潮聲長へに其壯烈を語る、港灣は水道を過ぎて一綫狹長の砂洲東西二港を分つ

【東港】　は黃金山背にあり李鴻章時代に經營せしもの其長三百碼北側に船渠あり一萬噸近き軍艦を容るべし港の大部分は人工に依て掘開せられたるものなるが故に水深く岸壁亦堅牢なれども其水平面積は狹隘にして大艦隊を收容するに足らず然れども二十幾年前に於ける北洋艦隊の

各艦船を繫泊するには十分の設備なりしならむ、港の周圍には要港部所屬の各官衙海兵團海軍工塲等ありて其一半は淸國時代の建築物他の一半は露國時代の營造物なり

【西港】　は老虎尾半島を以て外海との隔壁となし東西二哩餘南北一哩弱の水平面積を有す龍河及諸溪流の注入するが故に北岸一帶は淤塞して繫船すること能はざれども南岸に近き所は水深く波穩かなり、淸國の軍港たりし頃にも西港の南岸には水雷營其他の建築物ありて北洋艦隊に屬する水雷艇水雷母艦等投錨し居たりしも浚渫完からずして鎭遠、定遠等の戰艦を繫泊するの水深を有せざりしが露國經營時代に至りて西港の浚渫に巨額の工費を投じたり、露國の設計に據れば更に進んで老虎尾半島の地峽を開鑿し西南方に第二の海口を設くる目的なりしといふ

【市街】㊆は新舊に分かれ其中央龍河々口の北岸に停車塲を設け其以東を舊市街とし以西を新市街とす舊市街は東港に面する商業區にして會社商店皆此處にあり就中乃木町、敦賀町、青葉町等は最も繁華なる地域なりとす、新市街は西港北岸の一帶にして露國官民の建築せし大家巨屋多く後樂園を中心として都督府民政部、陸軍部等の大建築物層々山を背にして南面し工科學堂其他文武官々舍等多くは皆露國時代の建築物を改修せるものにして規模太だ宏壯なり而して新市街は北に案子山椅子山等の山脈ありて自然の屛風を爲し南に西港の細波瀲灔として冬暖かに夏涼しく滿洲唯一の樂土たり、新市街より二〇三高地に通ずる溪谷には數畝の李樹園あり老幹參

差春は樹梢に白雲を飄はし秋は枝頭に紅玉を掛く之を舊軍馬補充廠の地域となす、停車場附近龍河沿岸は露國時代に在つては工業區に選定せられしも今は僅かに煉瓦製造所發電所等の建物を存するのみ工業の旅順は一も見るべきものなし人口は清國の軍港時代には一萬に過ぎざりしが露國の之を租借し砲臺の修築、港灣の浚渫、市街の設計、鐵道の敷設等を開始せるより露人の此地に移住するもの三千餘人に達し清國人の麕集するもの亦三萬餘人、外に歐米人一千餘人、日本人七百餘人を算するに至り忽にして人口稠密なる大市街を爲せしも我が帝國之を繼承して後は外國人は殆んど撤退し支那人勞働者亦去り今は日支人戸數四千人口一萬六千餘を算するに過ぎず

【砲臺戰蹟其他】 旅順要塞戰は約半歳の久しきに亘り之に前地戰を包括すれば其面積殆んど百方里の地域に跨り僅少の日子を以て各戰跡を周巡せんことは到底望むべからず故に彼我兩軍の死力を盡して相爭ひたる著名なる各堡壘等に就て聊か巡覽の順序を略記し觀光者の參照に資せんとす、旅順要塞は白玉山を中心とし約四千米突の半徑を以て描きたる圈線上にありて其延長二十五吉維米突に達す故に其戰跡を訪はんと欲するものは先づ白玉山に登臨して四周の丘陵を通望し然る後順次各處を巡覽するを便とす

白玉山 は海拔四百餘尺にして四圍の諸山に比すれば稍低しと雖も南は港口の水道を俯瞰し北

は旅順街道を監視し要塞防禦陣地の中軸に位するが故に其名高し、西北方山麓には旅順要塞戰の當時露軍の十五珊知加農砲を据付けたる臨時砲臺の殘影あり、磐折せる南方の丘頂は高二百十五尺、其巔に海拔六百二十三尺の表忠塔あり、北方の丘頂には納骨祠あり要塞戰に參加して名譽の戰死を遂げたる我が數萬將卒の英靈を祀り毎年五月十一月の兩度に大祭を行ふ、表忠塔は日露戰役に於ける旅順要塞戰歿者の英靈を慰め其遺烈を千載に傳へんが爲め東郷、乃木兩大將の發企して建設したる大高塔にして明治四十年起工し約二歳の月日を重ねて四十二年十一月竣工式を擧行し其式日には伏見宮殿下を始め奉り東郷、乃木兩大將の臨場あり旅順あつて以來殆んど空前の儀式を擧げたり、塔上に登りて四周を眺望すれば當年日露兩國戰士惡戰苦鬪の蹟ならざるはなく坐ろ追偲の情禁ずる能はざるなり、此に登らんとする者は民政部又は旅順驛にて登上許可證(無料)の交付を受くるを要す、夜間は塔上に電燈を點じ遠く十數里の距離より認め得るを以て渤海灣口出入の船舶は其便利を得ること大なり

旅順要塞戰記念品陳列所 は要塞の模型及攻圍戰の當時日露兩軍の使用せし各種の武器を陳列せる所にして停車場より東南方約十餘町の舊市街南端にあり館内を一巡して仔細に破壞せる武器を點檢せば略ゞ當時の慘戰を想像し得べし、入場料一般觀覽者五錢、軍人及學生二錢、二十名以上の團體者一人二錢とし休館日は毎月曜日及大祭日翌日とす

東鷄冠山北堡壘　は停車場より東北一里半にあり第十一師團の攻擊せし方面にして三十七年八月二十一日攻擊を開始し爾來孜々營々施工して有名なる地中戰を爲し十二月十八日大爆破を行ひて砲壘の東北角を崩壞し數回突擊の後漸く之を占領せるが此戰鬪中十二月十五日露軍の驍將「コンドラチェンコ」將軍戰死せり、此堡壘の東方に大小孤山あり共に第十一師團の攻陷せし露軍の前進陣地なり

望臺　は東鷄冠山北堡壘の西にあり是亦第十一師團に依り三十七年八月二十四日攻擊を開始せしも標高百八十四米突にして露軍防禦陣地の鎖鑰地たるに因り最後の時期まで防戰最も努めたる爲め漸く開城の前日即ち三十八年一月一日之を占領せり頂上今尙敵の使用せし海軍砲二門を留む、此前面に一戶砲臺あり當時一戶旅團長之を占領せしを以て此名あり

二龍山堡壘　は停車場の北方里許にあり三十七年十月十六日より第九師團の攻圍せし方面にして永久砲臺中最も大なるものなりと云ふ、我が軍が苦戰を經て外壕を占領したる後二十五日間を費して砲壘地下に至る三條の坑道を完成して大爆破を行ひ三十七年十二月二十日占領せる處なり敵軍亦能く戰ひて五百餘名の守兵悉く死し殘る者僅かに三名に過ぎず古來稀なる惡戰にして此占領は旅順開城を促し大に其戰局を早めたり、其東方にあるを鉢卷山と云ふ

松樹山堡壘　は停車場の西北方三十町にあり第一師團の激戰せし方面にして當時中村(覺)少將

指揮の下に三千餘の決死隊白襷を結んで奮闘せしに因り有名なり三十七年十月八日攻撃を開始し同年十二月三十一日迄に我が軍死傷者二千有餘名を出し十八萬餘の土嚢と三千八百貫の火藥を費消せしと云ふ

二〇三高地　は停車場の西方一里二十餘町にあり三十七年九月十九日より十一月二十九日まで約八十日間第一師團及後備歩兵第一旅團の奮闘惡戰せし所にして十一月二十九日よりは第七師團其戰線に增加し勇戰九日にして十二月五日午後二時全く其丘頂を占領せりといふ、此高地は旅順四圍の山峰中海拔最も高く此に登れば新市街、西港の全部及舊市街、東港の一部分等一眸の裡にあり故に露軍鋭を盡くして防戰し攻撃軍亦全滅を期して死戰し彼我兩軍の互に陣地を奪取すること五回に及び六回目に我が軍確實に占領して此處に觀測所を設け以て敵艦隊の死命を制せり、此一丘を爭奪するが爲に露軍は約六千日本軍は約八千の死傷者を出せりといふ以て旅順に於ける二百三高地の價値極めて貴きを推知すべし、山上に「爾靈山」の大碑あり乃木大將の書を刻す將軍詩あり

爾靈山險豈難攀　男子功名期克艱
鐵血覆山山形改　萬人齊仰爾靈山

以上は全部馬車を通ずるの便あり巡覽時間約十時間を要す此外吉永砲臺、盤龍山、赤阪山、海

鼠山、高崎山、椅子山、大小案子山等あるも之を省略す、尙公衆の觀覽に開放せられたる滿洲各戰蹟を保存せんが爲め戰蹟保存會を設け戰史を略記せる碑を戰跡に樹て以て不朽に傳ふべく目下施工中なり尙嶗嵂嘴、黃金山、老虎尾半島の三堡壘及老鐵山は海岸砲臺に屬し我が東鄕聯合艦隊に對し旅順艦隊を掩護して約十一箇月間砲戰せし堡壘なれども現に要塞地帶に包括せらるゝが故に巡覽見學するに由なし

露國忠魂碑　は停車塲の西北方廿餘町小案子山の東麓にあり露軍戰死者の芳骨を合葬せる墓地内に我が帝國の建設せしものにして明治四十一年六月之が除幕式を擧行し乃木大將、ゲルングロス將軍等臨塲し陣亡勇士の英魂を弔祭せり

水師營　は停車塲より西北一里半餘にある村落にして乃木、「ステッセル」兩將軍の會見地として有名なり會見塲として使用したる民家は現在水師營小學堂に充つ

【公園其他】　新市街に後樂園あり規模小なれども樹木欝蒼として夏時の逍遙に佳なり園內溫室あり四時花卉を貯ふ又音樂室ありて時々樂隊の吹奏あり、外に新公園あり

黃金山下の海水浴塲　は露國時代別莊地域と稱せられたる黃金臺の南にあり後に黃金山を負ひ白砂遠く連りて渤海灣の澎湃たる海潮に洗はれ滿洲有數の海水浴塲として夏季市民の游泳を試むる者少なからず、劇塲に唯一の八島座あり

【官公署其他】 關東都督府民政部、陸軍部（新市街）旅順要港部、海兵團、海軍工場等海軍諸官衙（舊市街）高等法院及地方法院（舊市街）郵便局（舊市街）都督府監獄署及衛戍監獄（舊市街）關東憲兵隊（新市街）陸軍倉庫及兵器支廠（舊市街）旅順要塞司令部（舊市街）關東都督府醫院及衛戍病院（舊市街）旅順民政署及旅順市役所（舊市街）步兵聯隊及重砲兵大隊（舊市街）工科學堂、中學校、女學校、第二小學校（新市街）第一小學校、幼稚園、東洋協會旅順語學校、旅順公學堂（舊市街）横濱正金銀行出張所、正隆銀行支店（舊市街）等なり

【旅館】 旅順ヤマトホテルは新市街にあり大連ヤマトホテルと同じく歐羅巴風にして室料一日二圓五十錢以上十圓以内食事料は朝食一圓五十錢晝食一圓五十錢夕食一圓七十五錢とす、舊市街には賓來舘及日の出ホテルあり一人一泊二食付一圓五十錢以上三圓以内晝食料は其半額とす

【交通】 馬車人力車あり詳細なる賃金表は旅順停車場に掲示せるも馬車一時間金三十錢、半日一圓十錢、一日金二圓二十錢、人力車一時間金二十錢、半日金五十錢、一日金九十錢とす

【名産】 は鳥城燒、表忠塔の小模型等にして老鐵山下より掘出する石器類及老秋の鶉狩も亦旅順名物の中に算せらる

營口支線

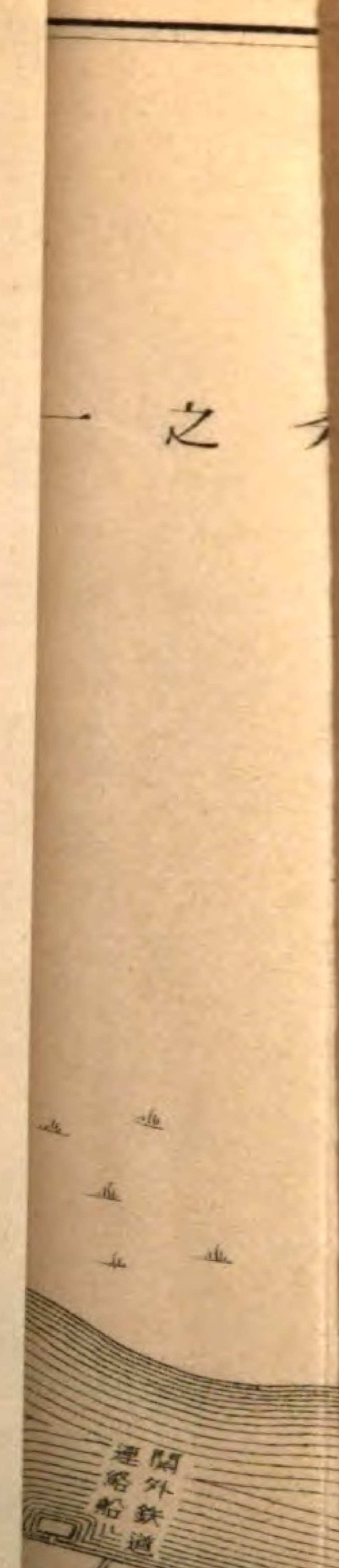
營口驛(インコウ) Ying-kou.

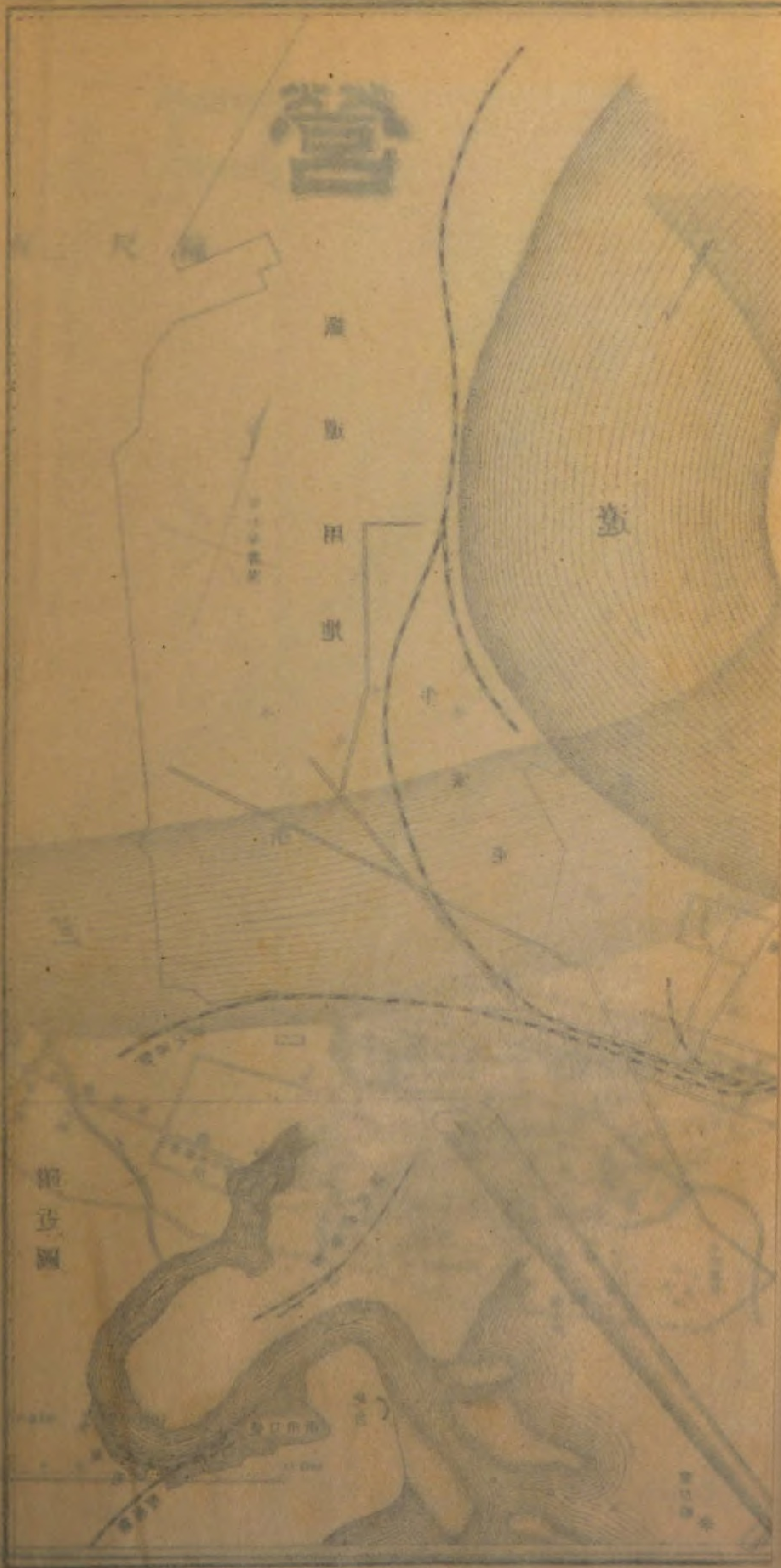
大連起點百六十四哩五分
大石橋驛十三哩九分

公衆電話取扱驛、構内販賣店には酒菓、煙草、罐詰等あり
自働電話は驛舍入口に在り市内通話料一通話金五錢
携帶品一時預り所

營口は又牛莊とも稱す千八百五十八年(咸豐十年)英佛聯合軍の天津北京を攻陷し天津條約を締結するや其一項中に牛莊の開港を約せるが其地點は今の營口にあらずして更に遼河を溯ること二百六七十支里の牛莊城附近白華溝の碼頭なりき蓋し其當時關係者は牛莊の現狀を知らず唯地圖上に於て遼河々口に最も近き港として漫然之を指定したるものなるべく、一八六一年英國領事の赴任するや開港場設立の眞意に顧みて當地に領事館を開設し牛莊の名を以て之を條約上の通商地と爲し了せり、條約締結頃の遼河の河口一帶は蘆荻の叢生せる沮洳地にして之を溯航する船舶は三叉河まで進航するを例とし、康熙年間北征の師を尼布楚に進めたる頃にも天津より出發せし糧船は總て三叉河まで直航せりといふ、然るに遼河の巨流は年々歳々土砂を下游に押流して河口を渤海灣中に突出し咸豐十年に選定せし白華溝は水深外船を容るゝに適せず漸く下りて田庄臺となり遂に現今の營口を開埠地となすに至れり、營口の名稱は開港の當初此地に鎭




関外鉄道連絡船
英領事館
日本領事館
Ken


營
附近圖



營口遼河

營口居留民市街



營口遼河氷上ノ橇



高粱ノ脱粒





高粱ノ收穫

海營を設けたるに起因し轉じて營子口と呼び略して營口と言ひ又沒溝營の別名あり、同治四年此地に海關を設置してより人口漸く增加し殷賑なる市埠となれり、營口の發展につれて三叉河、田庄臺、小姐廟等の遼河碼頭及び蓋平の繫船塲たりし西河口は著しく衰頽し、八九年前迄營口は滿洲唯一の貿易港として最も繁盛なりしが安東縣開港せられ大連港我帝國に依て開放せらるるに及び三港鼎峙の姿となり復た滿洲の商利を獨占することは能はざるに至れり

【遼河】 は源を內蒙古に發し東流して遼源縣に入り三江口の上流十支里の地點に於て東遼河を合せ南流して昌圖縣、康平縣、法庫縣の境界を過ぎ鐵嶺縣に入り蝸蜂溝より西南に折れ新民縣、遼中縣の管內を貫き海城縣三叉河に於て太子河、渾河の支流を合せ田庄臺を經て營口に至り始めて海に注ぐ其舟楫の便あるは本流の鄭家屯營口間千五百二十支里、支流太子河の韓家店三叉河間四百支里、同渾河の長灘三叉河間四百十支里にして是等の流域に於ける生產物は營口に輸出され同時に內外輸入貨物も亦是等の水運を利用し各地市場を經て各其內地に分散せらる、蓋し營口の今日ある實に遼河の賜なり、然れども年々上流より土砂を流下し河底を淤塞し各處に淺瀨を作り航行を阻害すること、重要物資の輸送期たる冬季四個月間は河水氷結し交通杜絕するの缺點あり且つ鐵道開通以來貨物の大半を之に吸集せられ露治時代に一萬餘隻と註せられし運送船は今や三千餘隻の少數に減じ復た昔日の觀なしと雖も運賃の低廉と從來の經營とは尙ほ營

口をして今日あらしむる所以なり

【埠頭】 は即ち一帶の河岸にして營口市街の附近に於ては水深三十呎內外を有するも下流に淺洲あるを以て吃水十七呎內外の船舶は高潮を待つにあらずんば進航することを得ず營口は純然たる河口港にして其生命は遼河と共に始終し河水減退すれば水運も亦減退し河水氾濫すれば兩岸決潰し河床變形す故に永久的埠頭を築設することは頗る困難にして河底の浚渫亦不變の水深を保たしむること能はず營口の河口港として特色ある所即ち海港として著しき缺點の存在する所なり、最近大正四年中汽船の寄港するもの六百三十隻戎克の渤海沿岸南清地方より入港するもの三千七百隻を算し其貿易總額は七千萬圓に達す其輸出品の重なるものは豆粕、大豆、石炭、豆油、柞蠶絲等にして輸入品は綿布、綿絲、石油、茶及珈琲、紙類、染料、砂糖、麥粉等なり、近時其繁榮を大連に奪はれたりと雖も尙未だ滿洲貿易の一大商港たるの地位を失はず是れ營口と奥地との關係牢乎として一朝に拔く能はざるを以てなり

【舊市街】 は同治年間以降漸次に發達せし支那市街にして戶數九千三百人口五萬二千あり最も殷賑なる巷路は遼河々岸に沿へる綏定門通より老爺廟に至るの一路となす路上敷石を爲し堅牢に努むるも凸凹甚しく車馬の往來反て困難なり此地別に城壁の設けなきも北は遼河の巨流に臨み西南二面には壕溝を繞らし以て自然の固めとなし南方に向つて九門を開き市街は略ぼカ字形

を描く、商取引活潑にして糧秣及船問屋多し營口には營口獨特の過爐銀てふ金融機關あり信用取引上最も便宜なれども現銀に對する交換率の變動一ならずして貿易上に影響を及ぼすことあり、工業には油坊磨坊等あり數十年間滿洲唯一の開港場たりしに因り商工業に關する總ての設備整へりと雖も冬季四箇月間の結氷は其最大缺點なり、市街の西端街には滿鐵貨物取扱所を設け貨客の便宜を圖れり

【新市街】　は明治三十八年中我が軍政官に依て開設せられたる日本市街にして舊市街の上流に隣接し區劃整頓し道路亦完成せるも漸次其繁榮を大連に奪はれたる爲め豫期の如く發展せず、新舊二街の中間綏定門附近に外國人居留地あり各國領事館、海關等あり新市街には居留民團役所を設け之を統轄經營す營口に居住する日本人は一時一萬人の多きに達せしことありしも今や戸數約七百人口約二千五百に減ぜり

【牛家屯】　は新市街の上流なる遼河の彎曲部にあり東清鐵道會社は故らに營口市街の比隣を避けて此地に停車場を選定せり我が帝國之を繼承し約四箇年間舊に依て牛家屯に停車場を置きしも市街との距離約一里に達し交通上の不便尠なからざるに因り明治四十二年十一月新停車場を日本市街の中央に相し貨客の取扱を爲せり、小寺油坊は此地にあり、牛家屯より新市街迄輕便軌道を布設し貨物運搬に便す

【河北驛】 京奉鐵道營口支線は溝帮子より分岐し田庄臺を經て遼河の右岸當地西海關の對岸河北に終點を有し一般に之を河北驛と稱す開驛以來移住するものなく僅かに運送屋のあるのみにて商機關完備せず其發達甚だ遲々たり舊市街との連絡は東海關碼頭より河北迄小蒸汽船を往復し旅客一人階下小洋錢五錢、階上小洋錢十錢とす旅客は其必要なる金額を此地に於て支那通貨に替へ携行するを便とす、河北驛より北京へ四百七十二哩天津へ三百八十六哩、山海關へ二百十哩、溝帮子へ五十七哩、奉天へ百六十一哩なり就中最も關係深きは奉天驛にして我が南滿鐵道に對抗して貨物吸收に腐心せり（營口奉天間百十一哩五）

【航路】 には南支那航路、天津航路、日本航路、龍口航路等あり南支那航路は最も頻繁にして大抵每船芝罘に寄航す天津及龍口航路は苦力輸送を主なる目的となし、日本航路は大連に比して回數甚だ少なく一週一回の出帆に過ぎず然れども大豆輸出期に際せば結氷期を除くの外內外汽船一時に進港し市街俄に殷賑となる

【官公署其他】 支那側には遼瀋道尹公署、營口縣知事公署、營口商埠警察廳、營口交涉員公署、營口地方審判及檢察廳、海關（東西二ケ所）商務會、中國銀行、交通銀行、東三省官銀號支店等あり日本側には日本帝國領事館、警察署、營口居留民團役所、郵便局、測候所、尋常高等小學校、實業學堂（支那教育）滿鐵醫院等あり英、米、露、佛、瑞領事館あり正金銀行支店、三井物

產會社出張所、正隆銀行支店、東亞煙草會社、小寺洋行、營口煉瓦製造所、亞細亞石油タンク、美孚洋行石油タンク、滿洲新報社、其他外國人經營の旗昌、太古、怡和、瑞記、茂生等大商舖あり、營口水道電氣株式會社は軍政時代の計畫に係り日支兩國人の資本に依り水道電燈及電話事業を經營し貢献する所最も多し其水源地は遠く遼河の上流田庄臺の對岸にあり

【旅館】　西洋人の經營するアストルハウスあり日本人の經營には旭ホテル及滿月旅館あり宿泊料一人一泊金一圓五十錢以上五圓以内とし晝食料は其半額とす

【交通】　人力車及乘合馬車あり



撫順支線

全長三十哩九分

撫安驛 Fu-an.

蘇家屯分岐點五哩八分
途中乘繼驛

撫順支線は露國が千金寨、楊柏堡、老虎臺の炭坑を買收せし後炭坑專用として急設せしものなり時恰も日露開戰中なりしを以て其總ては假工事に止まり橋梁の如きは枕木を井桁に組上げ其上に軌條を竝置したるに過ぎざりしが我が帝國之を繼承するの後改修して永久橋となし東清鐵道時代に於て渾河驛を起點とせしものを蘇家屯驛に改む撫安驛は此撫順支線と安奉線との交叉地點なるに因り撫安と命名せしも土地其ものは渾河堡の村內に屬す渾河堡は奉天遼陽街道上の大邑にして日露交戰中彼我兩軍の渾河に架橋せし所なり

孤家子驛 Ku-chia-tzu.

蘇家屯分岐點九哩四分

孤家子は渾河右岸の大邑にして奉天より支那人の汽車に便して撫順に往復するもの多くは此驛に於てす蓋し此驛より奉天大南門までの距離僅かに十支里の道程に過ぎざるを以てなり

深井子驛 Shen-ching-tzu.

蘇家屯分岐點十八哩六分



揚柏堡採砂器

撫順東鄉坑



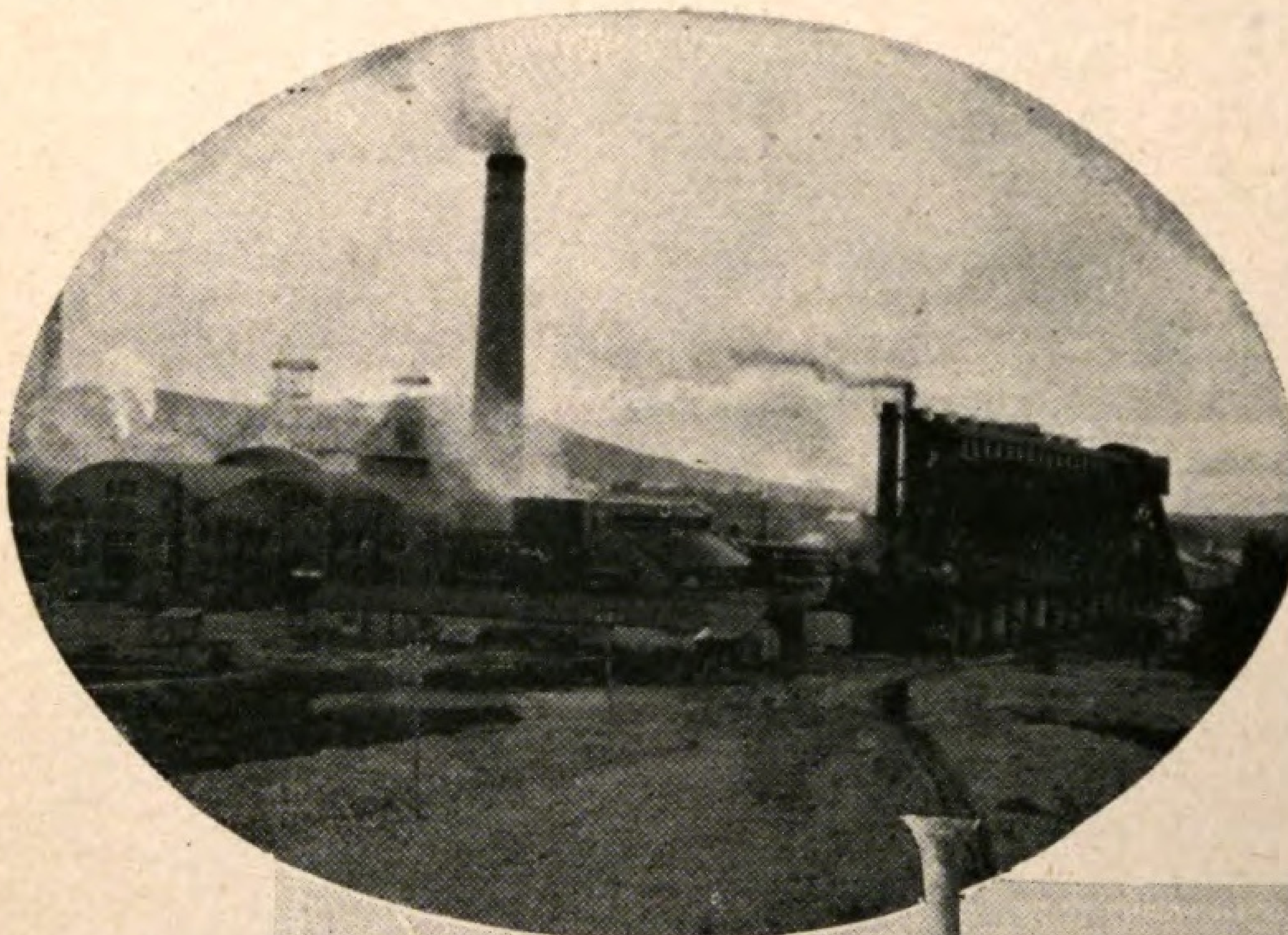


撫順炭坑事務所



撫順大山坑

モンド瓦斯發電所





千金寨附近發掘古陶器



撫順炭坑電氣鐵道

永安橋





撫順炭坑公會堂



撫順炭坑倶樂部

深井子は奉天大會戰の終末に於て黑木大將の第一軍が大風塵を冒して突進せし戰場にして渾河の對岸なる舊站は近衛師團、興隆甸は小倉師團の氷上渡河を斷行して夜半露軍の前哨陣地を奪取せし所なり當時黑木大將の軍司令部は渾河左岸の四方臺に前進して奉天の背後に迂回せし前進部隊を指揮し居たりといふ而して當驛より東陵には約十支里にして最も近けれども車馬の便なし

李石寨驛 Li-shih-chai.　蘇家屯分岐點廿五哩一分

李石寨は李石寨川の左岸にあり奉天大會戰の際には黑木軍の中央縱隊たる小倉師團の進出せし戰場なり

撫順驛 Fu-shun.　蘇家屯分岐點三十哩九分

公衆電報取扱驛　構內販賣店には酒菓煙草あり
携帶品一時預り所
構內に自働電話あり

當驛は初め千金寨驛と稱し此れより東北三哩餘に撫順驛を置きしが大正二年八月當驛は撫順驛、撫順驛は永安橋驛と改稱し次て大正三年末電氣鐵道の設備成ると同時に當驛以東は電車及

電氣機關車に依ることゝし永安橋驛を廢して當驛は此支線の終端驛となれり、此地は撫順炭坑事務所の所在地にして南に千金寨の高地を負ひ北に渾河を繞らし西南は古城子の村落と隣接し東は楊柏堡と相比連す此部落は日露戰役頃まで寂寞たる寒村にして僅に千金寨の炭坑あるに因て其名を知られたるに過ぎざりしが炭坑の經營我が手に移りし以來漸次開發せられ今や戸數四千餘人口二萬四千餘に達し渾河涯畔忽ちにして一新市街を成せり

【市街】　は濠を隔てゝ新舊二街に分かれ舊市街は其東方にあり在來の支那村落を擴張せしものにして道路狹隘市街甚だ不規則なれども日支商人相雜居し商舖櫛比し炭坑從事者を顧客として甚だ殷賑なり、新市街は當會社の經營せるものにして區劃を碁盤形となし停車場の北方本町通を中心として縱橫の巷衢を通じ步道及車道に區別し上下水道及電氣瓦斯を設備し停車場、小學校、醫院、圖書館、公會堂及宿舍等總て煉瓦造りとなし公園は本町公園及大和公園の二個所あり規模宏大にして宛然たる歐米風の一新市街を形成せり、又支那側は新舊市街の北部に接續して新市街を設け先づ撫順縣知事公署を新築して不日撫順城内より移轉せんとす

【撫順炭坑】　は千金寨、楊柏堡、老虎臺の三箇村に連亘せる總ての炭坑を一括せる名稱にして清國人翁壽、王承堯等が採炭せし頃には楊柏堡川を境界として河東河西に大別し王姓は河西、翁姓は河東に採炭權を有し居たりしが後に道勝銀行の權利に移り遂に東清鐵道會社の附帶事業と

商堡、大倉溝、王家溝の採炭權は楊柏堡川を境界として河東河西に大別し王難は河西、翁壽は河東に採炭權を有し居たりしが後に露亜銀行の權利に移り遂に支那東清鐵道會社の附帶事業さ



なり更に當會社に繼承せり、歴史上の撫順炭坑は舊記の徵すべきものなく唯口碑の傳ふる所に據れば高麗時代より採炭せしも乾隆年間永陵福陵の龍脈に近接するの故を以て採炭を嚴禁し來りたり然るに光緒二十七年に至り王翁等時の奉天將軍に夤緣し其特許を得て再び採炭に從事せりといふ炭山附近の土中より粗雜なる陶器類の發掘せらるゝものあり高麗時代に此石炭を使用し產出せしものならんと云ふ古城子の地亦遼金以前の城墟なるに因て此名ありといへば採炭事業も亦往時より露頭附近に於て行はれたるものゝ如し其炭田は渾河の南方に位し東西延長殆んど十哩に亘り渾河に向ひて平均約三十度の傾斜を爲し其斜距離約一千間なり炭層の厚は最薄七十八尺より最厚二百八十尺以上に及び平均約百三十尺にして炭層中の夾雜物は厚二十尺を越えず含有炭量少くも八億噸に上るの測算なり是れ撫順炭坑の東洋に冠絕して名聲喧傳せらるゝ所以なり然れども東清鐵道時代に於ては姑息なる採炭法を用ゐ出炭微々たりしが明治三十八年三月十日我が滿洲軍の之を占領するに及び煙臺採炭斑を此地に移して採掘に從事し兵馬倥偬の際には一日六七百噸を出炭したるも撤兵後三四百噸に下り當會社之を繼承するに及び大に其規模を擴張し千金寨、楊柏堡、老虎臺の三坑より大山、東鄉の二大竪坑を開鑿し次で萬達屋に斜坑一箇所を開鑿し同時に古城子に露天掘を開始し現今一日七千噸の出炭力を有するに至れり又會社は石炭の採掘を最も經濟的ならしむる爲め在來の殘柱採掘法を塡砂法に改むることゝし先づ楊

柏堡坑より着手し漸次各坑に及ぼすべく目下施工中なり又會社は電力、動力及電氣鐵道用電力供給等の爲め發電所の擴張を必要とし「モンド」瓦斯發生爐幷に副產物採收裝置を備へ從來廢棄せられたる硬炭と石炭とを混合して氣化し硫酸アンモニアを製造し而して其發生したる瓦斯は汽罐內に燃燒せしめ發電機に必要なる蒸汽を供給す此電力に依りて運轉する電氣鐵道電氣機關車は撫順驛以東に於ける石炭運搬と各坑塡砂用土砂運搬に使用せられ、客車は特等並等合造車にして各坑間の交通に便ず特等一人金七錢並等一人金五錢の均一賃金なり

【官公署其他】 支那側に撫順縣知事公署、郵政局、電報局あり日本側に警務署支署、郵便局、兵營、尋常高等小學校、公學堂、簡易圖書館、炭坑醫院、公會堂等あり

【旅館】 は炭坑俱樂部最も完備し外に筑紫館、一二三館あり宿泊料一人一泊金壹圓以上五圓以內晝食料は其半額とす

【名勝舊蹟等】 撫順城 は撫順驛の東北約里餘にあり明時代に築きたる古城にして此地に千戶所を置き渾河の右岸上流に撫順關を設け以て東方に對する關門となせしが淸の太宗明軍を薩爾滸山に擊破し長驅遼陽に南進するに及び此地に旗人を駐屯し佐領をして之を管せしめしといふ城壁は至つて小規模にして南北二門を開き裡に多くの旗民居住せしが漸く衰微し今は甚だ寂寞なり、城北を繞れる山脈は淸廷の所謂龍脈にして西は葛布街北方より東は薩爾滸山に連亘す、天

命三年の清明戰鬪も三十八年三月の日露戰鬪も此山脈を天險として開始せられ今猶丘頂到る處に露軍の築きし堡壘線の殘影あり、北門外の丘頂には一基の白塔あり星霜幾百年を經て古色蒼すべく此に登臨すれば脚下に渾河の流るゝあり楊柳青々たる處炭坑一帶の建築物隱見して風光最も佳なり、山腹に觀音閣あり故に又觀音寺山といふ境内一碑あり撫順十六景の名を彫刻す、丘陵に露軍の經營せし公園あり花木既に長じて春時遊筇を曳くに足れり

永安橋　は撫順城に通ずる渾河の橋梁にして大正二年支那官憲に依て架設せらる此地點には日露戰爭沙河會戰の前後に於て露軍の左翼たりしリネウヰッチ軍の架せし軍橋あり鴨綠江軍の南海師團之を占領して撫順を攻擊せしに因り四國橋と命名せしが平和克復後清國に讓渡し清國は破損の爲め之を撤去して現橋梁を架設す橋の南岸に水源地あり炭坑は其附近を公園地とし園内に淸楚なる家屋を設けて遊客の休息に便じ又處々に花卉を植えて遊ぶ者の心目を娛ましむ

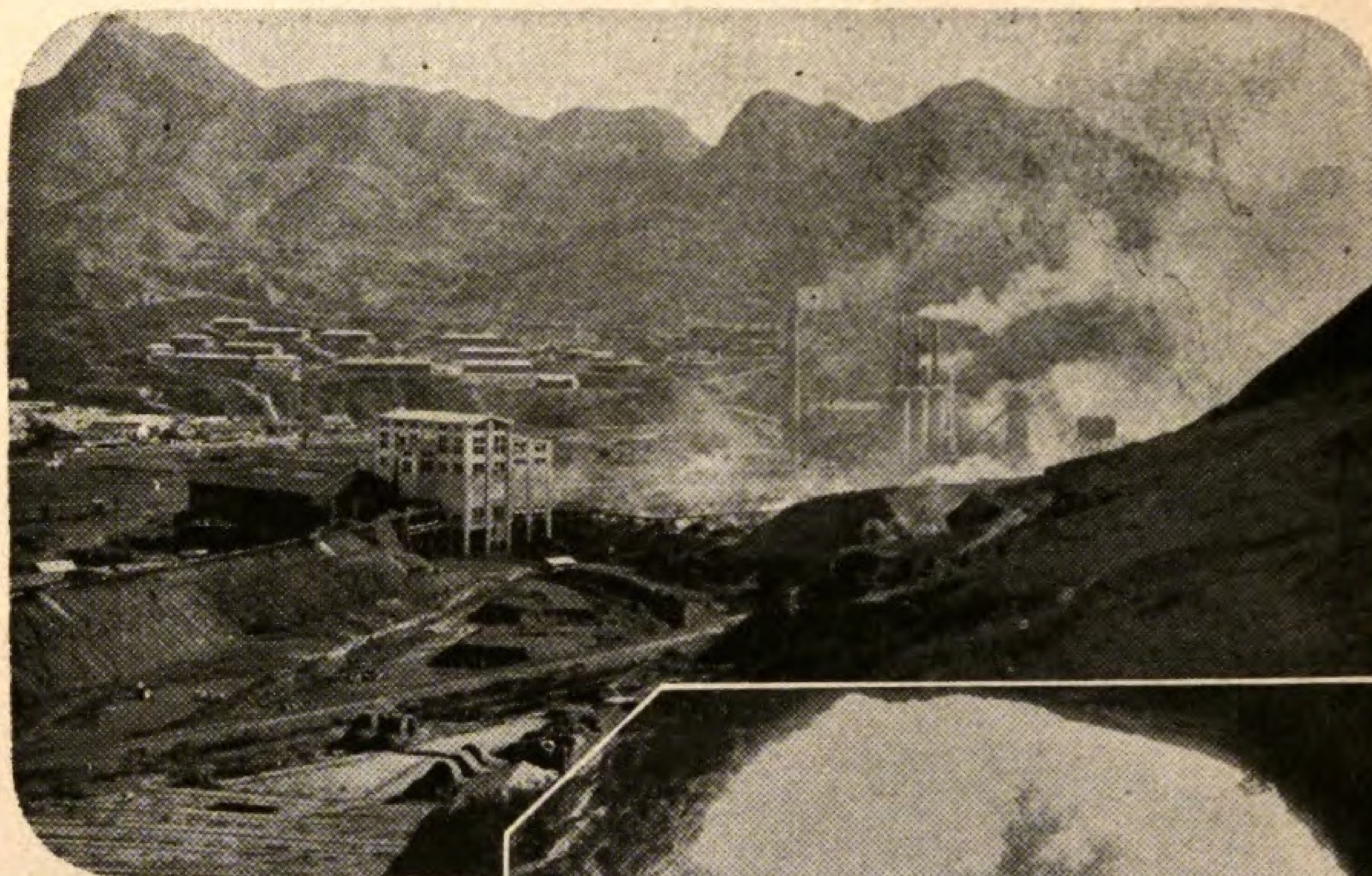
興京古城　は撫順の東方二百五十支里にあり清祖發祥の地にして始祖敦化城より此地に進み肇祖顯祖景祖興祖太祖の五祖此に城居したり、今は微々たる古城邑に過ぎざれども歷代之を重視し特に副都統を常駐せしめしが曩日之を廢し今は興京縣知事公署を置く

永陵　は撫順の東方百九十支里にあり四祖の寢園あり今猶祭祀を絶たず東陵北陵と併せ稱して三陵と崇め興京永陵一帶の山地を東山と稱す撫順は奉天より東山に通ずる路上の要害にして東

山一帶の農産物は擧げて當驛に搬出せらる

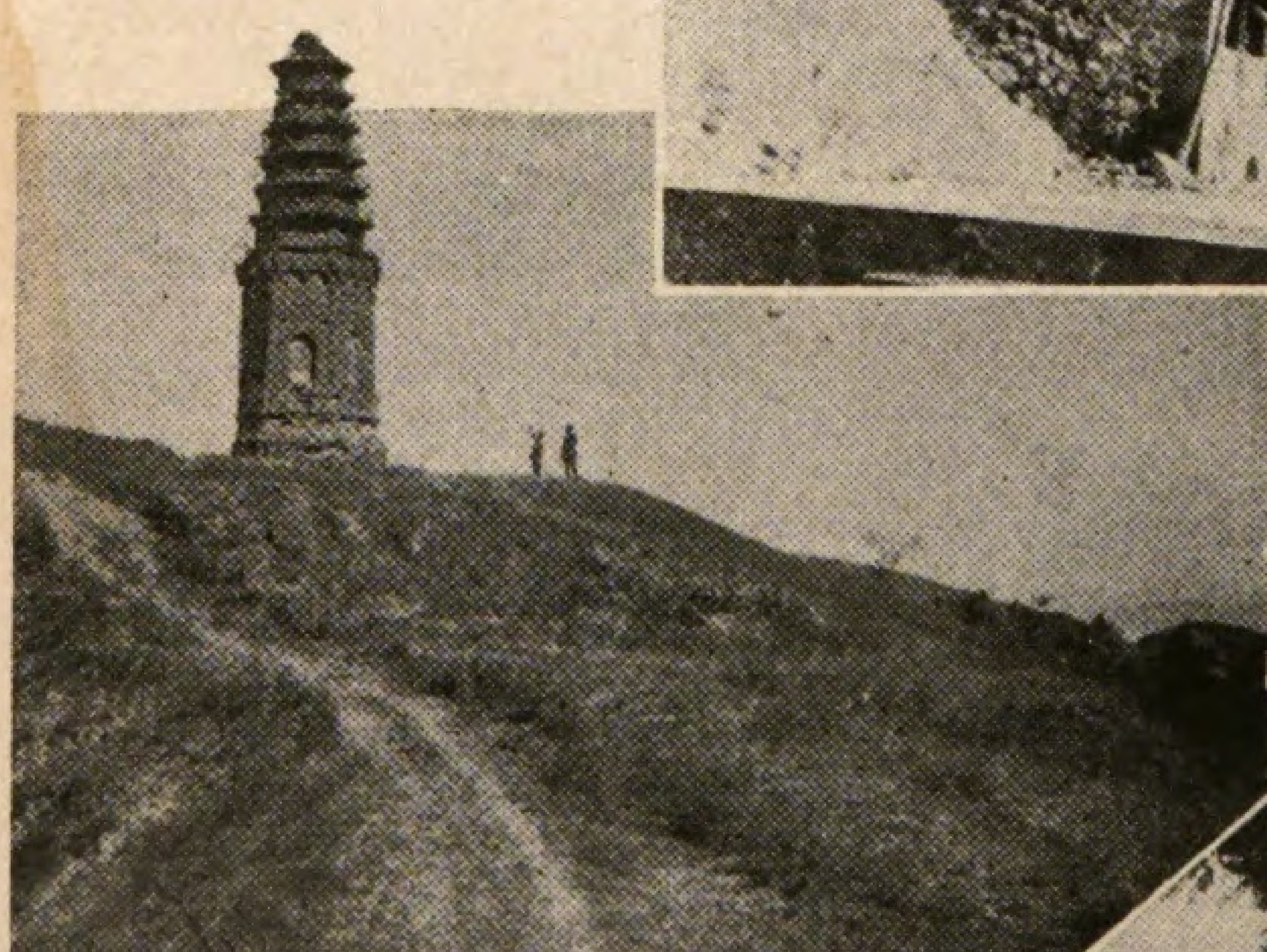


本溪湖煤鐵公司

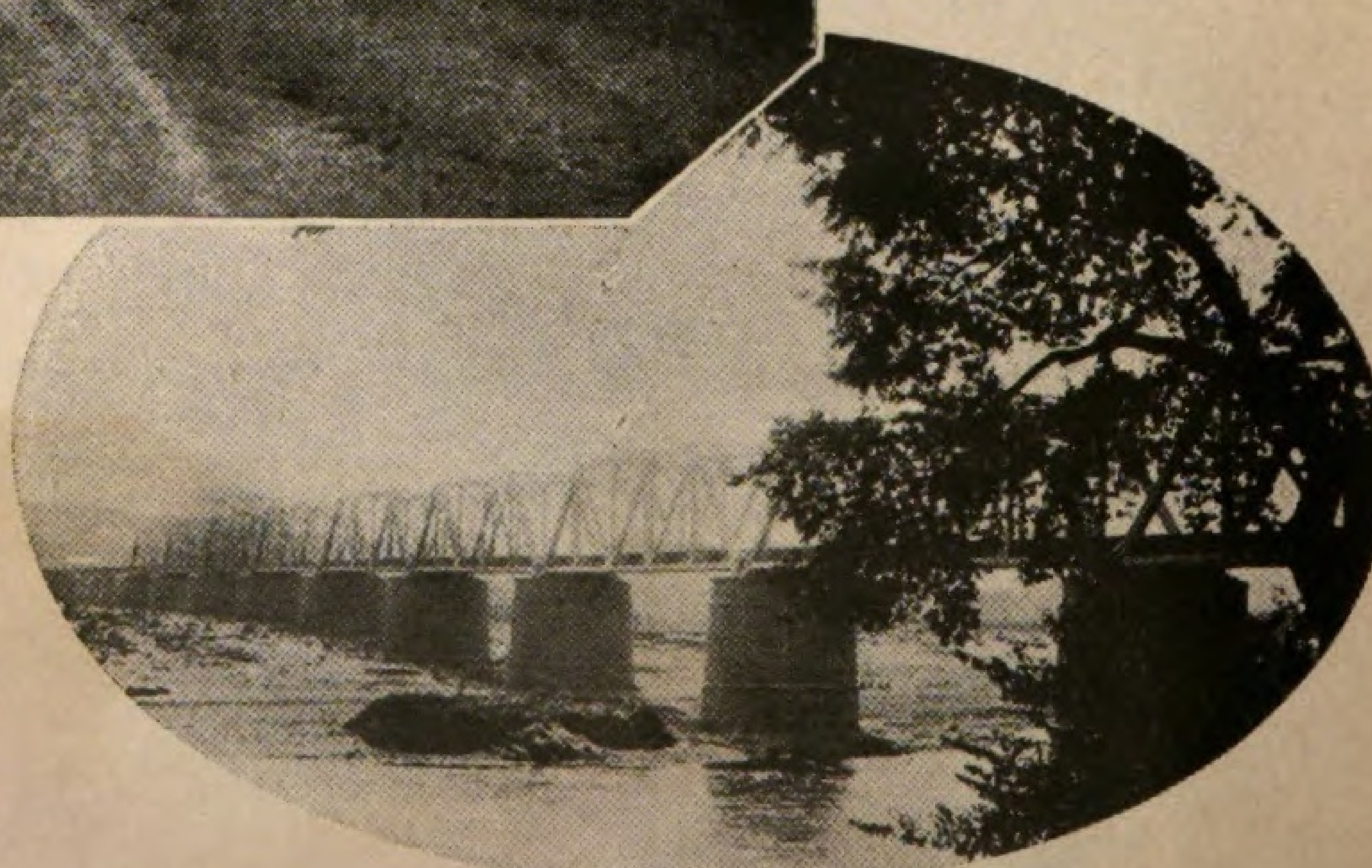




本溪湖龍洞

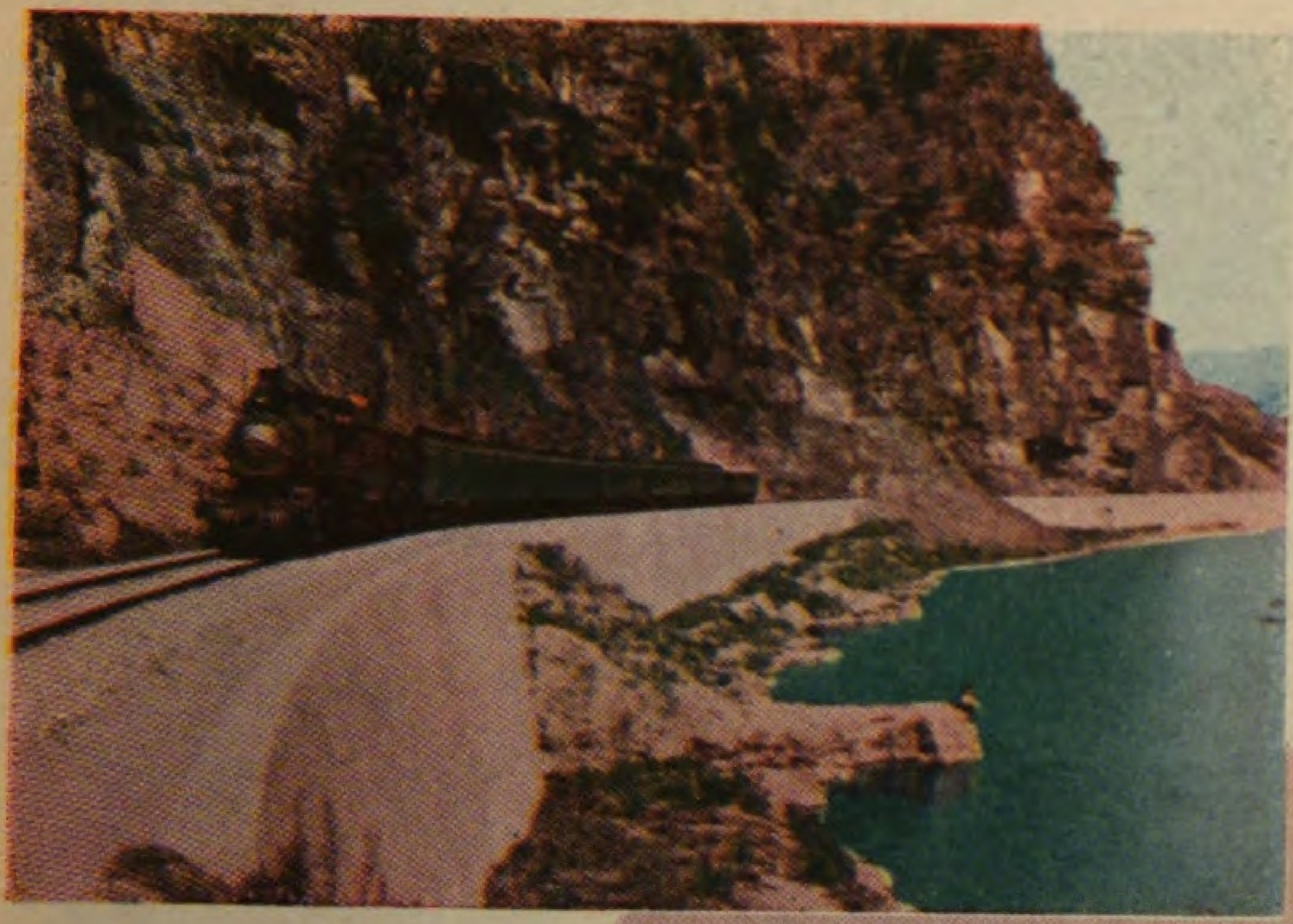


陳相屯ノ塔山

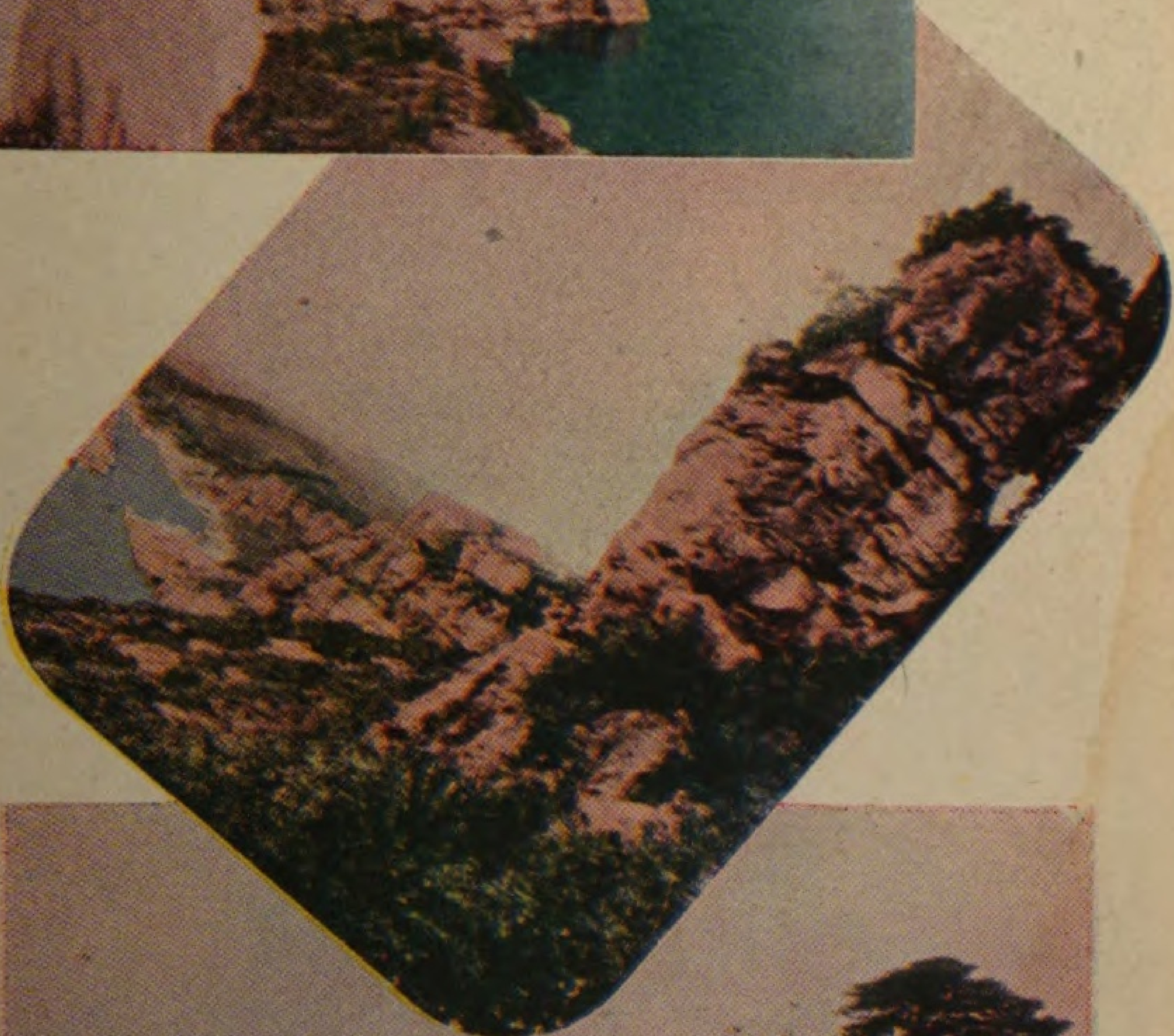


太子河ノ鐵橋

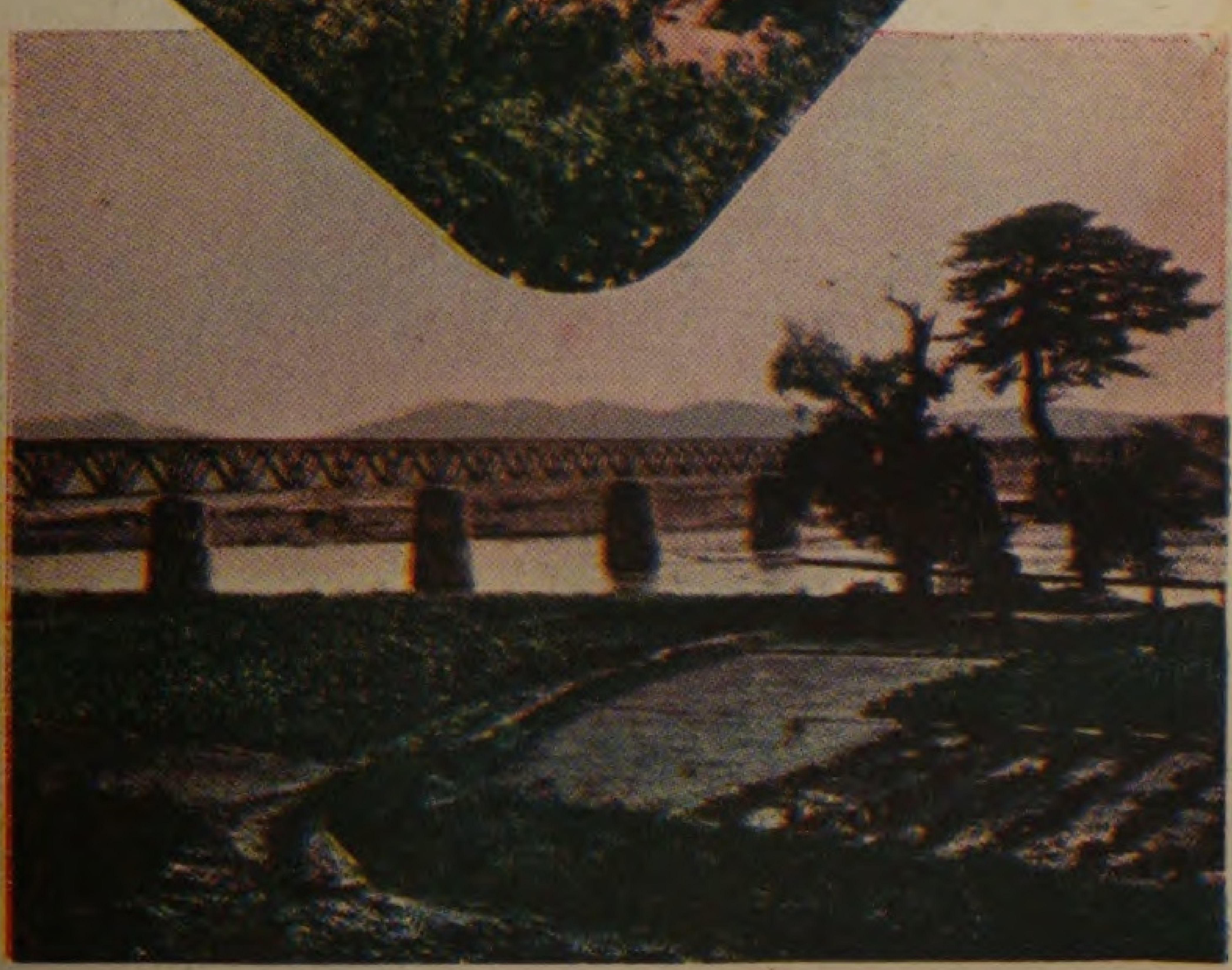
釣魚臺



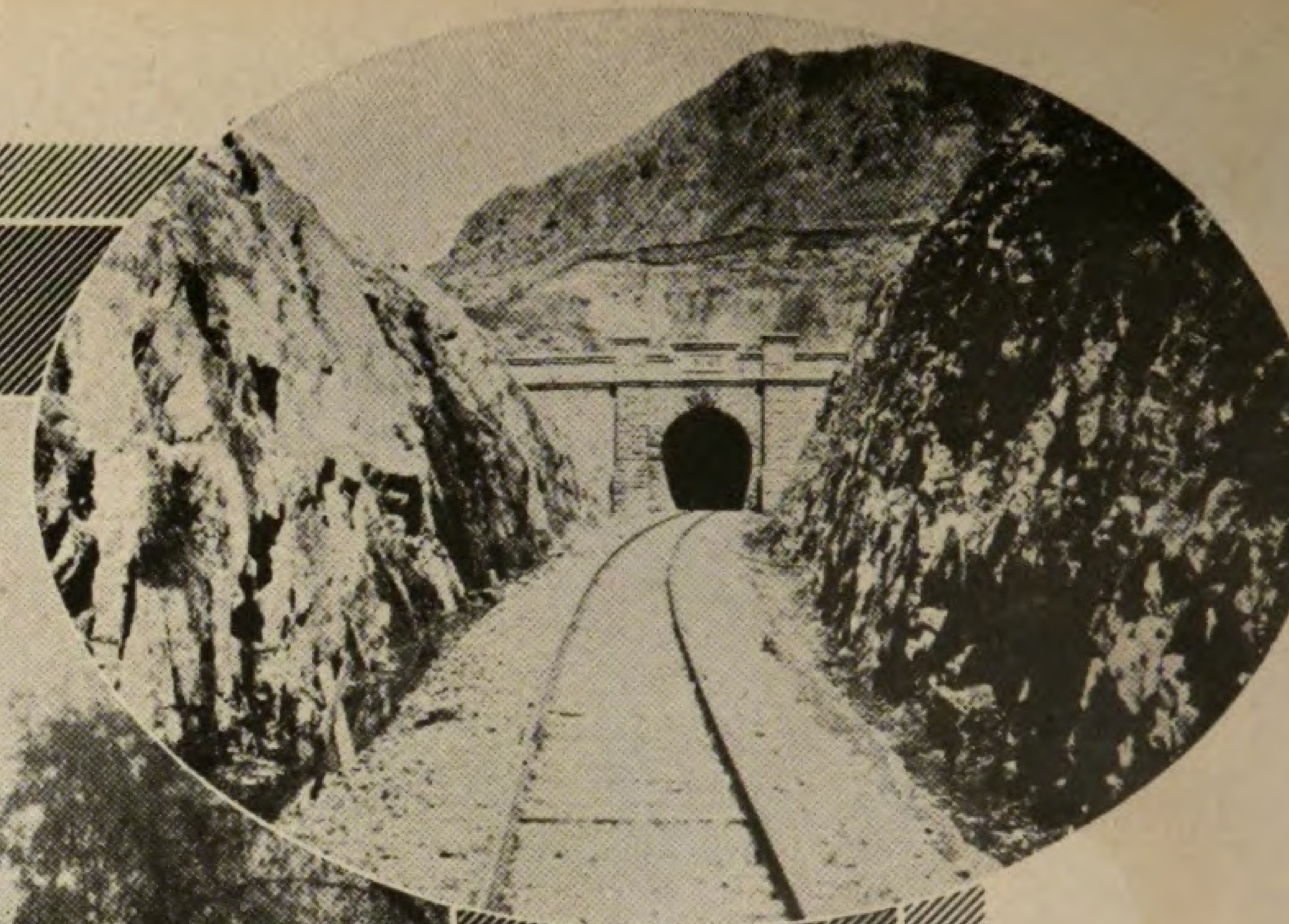
釣魚臺ノ高勝



橋頭附近ノ細河ノ鐵橋



鷄冠山隧道





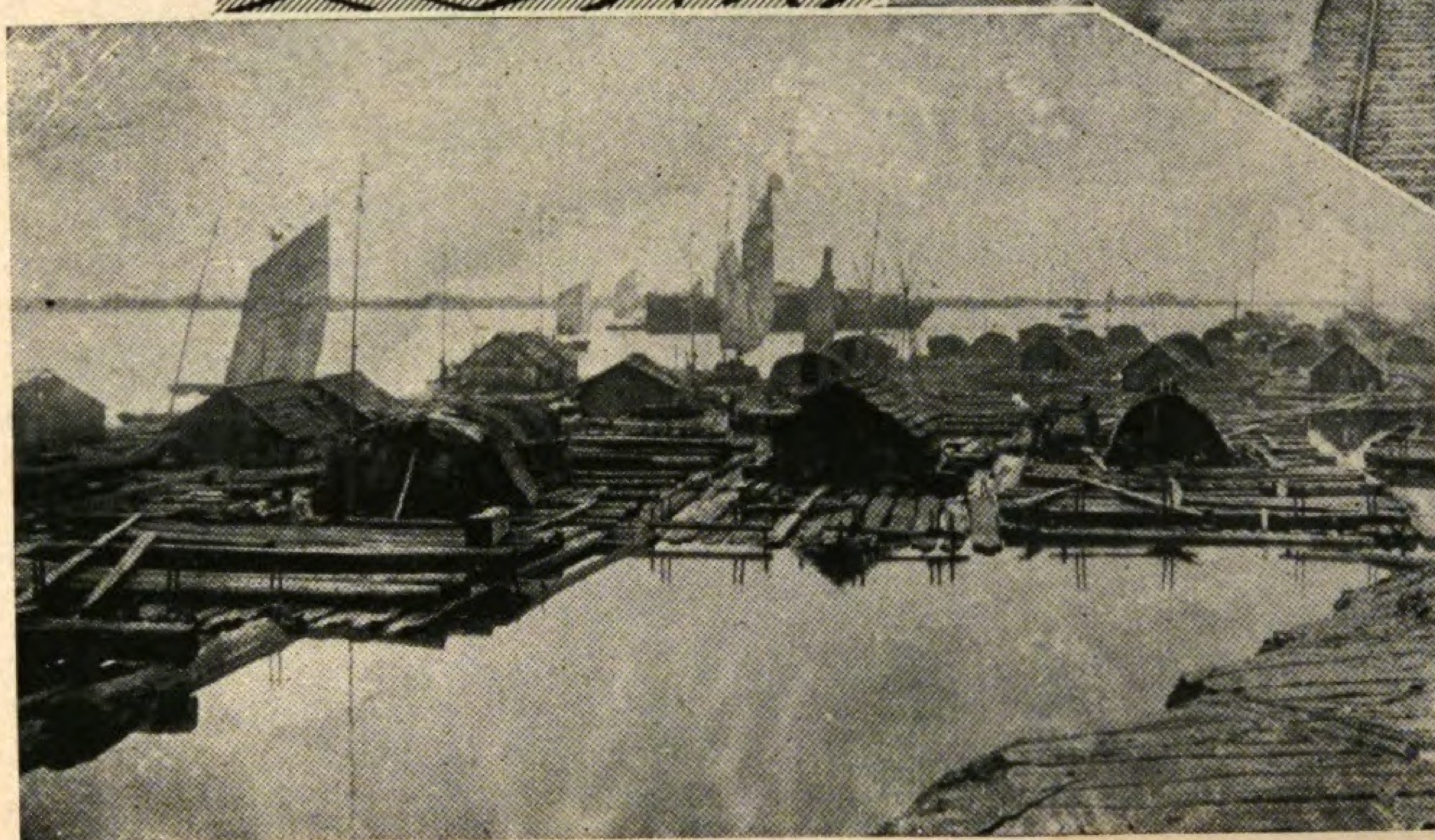
五龍背溫泉



鳳凰山ノ遠望

安東停車場ノ朝鮮鐵道ト連絡





鴨綠江ノ筏

鴨綠江ノ鐵橋





安東埠頭

安奉線

全線百七十哩八

安奉線は安東奉天間の鐵道にして安奉輕便鐵道を改修したるものなり、安奉輕便鐵道は明治三十七八年の日露戰役中軍用運輸機關として急設せるものにして我が帝國政府は出征軍の行動を神速ならしめんが爲め朝鮮半島に於ける京釜鐵道の竣工を急ぐと同時に鐵道大隊に命じて京義鐵道布設に著手せしめ軍の前進するに從ひ更に其線路を南滿洲に延伸するの方針なりしが、平安南道に上陸したる黑木大將は宣戰後三箇月にして鴨綠江岸の露國東方兵團を擊破し五月初旬鳳凰城に進出せり、此時に際し鐵道本隊は京城開城間の鐵道布設に從事しつゝありて京義線全部を完成するには猶多くの日子を費さゞる可らず、是に於て我が兵站總監は臨時軍用鐵道監部に京義鐵道の工事を董督せしめ井上工兵中佐の率うる臨時鐵道大隊の三箇中隊をして第一軍に追隨しつゝ先づ第一期工事として安東縣、下馬塘間百十哩の峽谷中に軍用輕便鐵道を急設せしむ、想ふに當時の攻擊目標は遼陽の露軍陣地にありしを以て第二期工事の豫定終點は遼陽に在りしならむ乎、斯くて鐵道大隊の先發中隊は六月下旬安東縣に進み大隊本部及二箇中隊は七月中所命地に到著せり是れより先き第一軍の兵站監部は軍需品輸送の爲め安東縣鳳凰城間に手押式輕便線路を布設せるが鐵道大隊は八月十日より工事に著手し手押線路の軌幅を二呎六吋に

擴げ人力に代ふるに小形機關車を以てし十一月三日を以て安鳳間二十八哩の工を竣り其開通式を擧げたり、此時我が滿洲軍は既に遼陽の露軍を撃退して沙河線に進出せしかば鐵道大隊は晝夜兼行工事を急ぎ或は螺狀線を設けて荒地嶺黑坑嶺分水嶺等の天險を攀登し或はS字橋を架して幾多の谿谷を過ぎる等慘憺たる設計に依り翌三十八年三月十一日を以て安東縣下馬塘間の開通を見るに至れり然るに時恰も奉天大會戰の終局に際したるを以て第二期工事の豫定線路は下馬塘撫順間に變更せられ尋で下馬塘奉天間に三變せらる此歲六月鐵道大隊は新奉鐵道を急設するが爲め奉天に轉進せしかば臨時軍用鐵道監部其後を承けて工事を續行し同年十二月三日第二期工事七十八哩を完成し安奉輕便鐵道は玆に始めて全線の開通を見るに至れり、然るに日露の國交は開通以前に於て既に恢復し軍事上に於ける安奉輕鐵の必要は撤兵終了と共に消失せんとす因て同月二十二日北京に於て訂結せられたる滿洲善後協約第六條を以て安奉輕便鐵道を廣軌に改築し永遠に交通機關となすべきを規定し我が會社は政府の命令に基き四十二年八月七日工事に著手し四十四年十月下旬其全部を竣工し十一月一日を以て之が開通式を擧行せり而して朝鮮總督府所屬の鴨綠江大鐵橋も亦時を同じくして竣工せしかば滿鮮鐵道の連絡は直に實行せられて安奉鐵道は一躍世界的交通機關となり輕便鐵道時代に二晝夜の日程を要せし行路も今は六時間餘を以て通過する事となれり、之を前者に比すれば距離に於て十八哩を短縮し平均速力に

於て四倍を加へ牽引力に於て十數倍を增進せり、安奉沿線の青山碧水は滿洲稀に見る所にして二十四の隧道二百餘の橋梁を過ぐる每に眼界絕えず改まりて宛も我が函嶺を過ぐるの趣きあり風景筆紙の能く盡くす所にあらざるなり

奉天驛（フォンテン） Feng-tien.　安東起點百七十哩八分

奉天驛より陳相屯驛に至るの線路は明治四十二年八月十九日奉天に於て日淸委員間に作製せられたる安奉線改築覺書に基く假線にして未だ確定するに至らず、安奉線に於ける奉天驛は終點なるも本案內は說明の便宜上逆に之を揭載することゝせり

渾河驛（ホンホー） Hun-ho.　安東起點百六十五哩五分

撫安驛（フーアン） Fu-an.　安東起點百六十二哩六分

公衆電報取扱驛　途中乘繼驛

陳相屯驛（チェンシアントゥン） Chen-hsiang-tun.　安東起點百五十一哩三分

公衆電報取扱驛

陳相屯は沙河の左岸にある村邑にして日露兩軍對陣の際に於ける彼我斥候隊の屢〻小戰鬪をなせし所なり沙河を隔てたる對岸の丘上に古塔の聳ゆるは安寧寺の佛塔にして奉集縣時代の遺影なり故に此丘陵を塔山とも名け沙河對戰の當時露國第二軍主力の防禦陣地なりき此塔山に相對峙せる北方の小丘は荒山と稱し沙河對陣中クロパトキン大將の牙營を置きし所なり此二山と鼎足の勢をなせる西方の小丘は所謂萬寶山にして有名なる日露兩軍の激戰地なり丘上一桿の旌忠碑ありて長へに野津軍支隊の忠勇を表彰す

姚千戸屯驛 Yao-chien-hu-tun.　安東起點百四十三哩八分

姚千戸屯は西狄々山を脊にし北沙河の清濤に臨み水を隔てゝ唐家屯石山に對す狄々山は奉天大會戰の當初近衛師團の砲兵陣地となりし丘脈にして唐家屯石山は露國第一軍の左翼陣地たりし天險なり、山腹の旌忠碑は近衛師團及仙臺師團の勇將驍卒が此山腹に名譽の戰死を遂げたる所にして驛の南方に傾欹せる歪頭山は沙河會戰後梅澤少將の近衛後備混成旅團が列國從軍武官觀戰の下に露軍の前進部隊を擊攘せし頃より我が鹵獲砲大隊の砲兵陣地となせし丘陵なり丘上一宇の地藏堂ありしが露軍砲火の爲めに全く破壞せられて今は其殘影だもなし歪頭山の西南にある高峰は花勾嶺と稱し梅澤旅團進戰の當時黑木大將が列國武官と共に觀戰せし所なり

石橋子（シーチアオツー）驛　Shih-chiao-tzu.　安東起點百三十五哩六分

公衆電報取扱驛

石橋子は沙河平野の漸く蹙まりて峽谷とならんとする谷口にある沙河大會戰地にしてスタケルベルグ將軍の率うる歩兵七十三大隊砲百五十餘門が康大人山より沙河を渡つて平臺子石橋子の村落に前進し王墳前に於てゲルングロス中將の軍團は大嶺土門子嶺に向ひイワノフ中將の軍團は孩兒嶺を越えて本溪湖の背面に向ひ別働隊たるレネンカンプ大將の歩兵十三大隊騎兵二十中隊は威寧營より太子河を渡りて本溪湖の東南方に迂回運動を爲し以て沙河戰の動機を生ぜり日露戰史上有名なる王墳は驛の東方響山子にありて老松墓陵を圍み後山は柞樹榛樹茂生して三陵供饌の榛子を產し照山は蜿蜒として土門子嶺に連亙す是れ淸の太祖帝業を興せるの際軍功拔群なりし杜度貝勒の寢園なり、大嶺には奉天より最初の隧道あり其東口には山縣公爵、西口には故井上侯爵の題字を刻す、東口に當りて一宇の堂廟あり娘々廟と稱す、沙河大會戰の際梅澤少將は近衞後備歩兵一聯隊の寡兵を以てゲルングロス中將の軍團に當り防戰最も努めしが當時看廟の僧露軍に內應し山上より合圖をなして我が兵力を內報せし爲め一時は戰況甚だ困難なりしといふ、山下の楡樹底子村落は當時西大將の來援せし所なり、土門子嶺は大嶺の西方にありて二

嶺相隣接す是れ亦沙河大會戰の際小倉師團の歩兵一箇聯隊を以てグルングロス軍團の右縱隊を防禦せし陣地なり

火連寨驛 Huo-lien-chai. 安東起點百二十七哩三分

遼陽街道上の大邑にして村內瓦房多く商舖磚壁を繞らし往時殷盛なりし市場の殘影を留む、邑民多くは回敎徒にして風俗自から他の沿線村落と異なるあり、村の北方を圍繞せる山脈は大嶺及本溪湖の兜山に連なり沙河會戰の際近衞後備步兵第一聯隊がイワノフ軍團の右縱隊を防禦せし陣地にして山上今猶堡壘の跡あり

本溪湖驛 Pen-hsi-hu. 安東起點百二十三哩七分

途中乘繼驛　構內販賣所には酒菓煙草等あり
携帶品一時預り所

本溪湖は一名窰街とも稱し古へより有名なる缸窰の產地にして今尙之を專業とするものあり水缸其他の土器を製作す外觀は常滑燒に似て其質硬く支那人間に賞用せらる、窰街の名は雍正以前より存續し往時は煤鐵の產地たりしものゝ如く今に民家の牆垣に鐵冶の坩堝を積上げたるも

の多し、此地亦石灰の產地にして一箇年八九千噸の產出を見る、市街は火連寨河の太子河に注入する交會點より支流に沿ふて龍洞に至るの谷地にあり支那人五千餘日本人戶數約八百人口二千七百を算し逐年增加の傾向を呈す支流の右岸は煤鐵公司の外多く紅窰業者にして左岸を商業區となす此地一帶は往時徐郡王の釆邑に封ぜられ其子孫今猶地代を徵收しつゝあり

【炭坑及製鐵】 炭坑は太子河畔の照山々麓にあり炭坑開發の紀元は不明なれども撫順及煙臺と同一時代ならんか清朝乾隆年間に於ては龍票を發給して盛んに石炭を採掘し滿韓土人の主要財產とする水甕は當地の石炭を使用して製造せしものなり又骸炭を製造し當地を中心として五十支里近傍の廟兒溝牛心臺火連寨及八盤嶺等の鐵鑛を採掘して當地に輸入し製鐵事業を行ひ南滿洲の鐵器供給所たりし遺跡今猶散在す、光緒の初めに至り坑內擴大通氣困難の爲中止の已むなきに至り爾來僅かに地方民の燃料を供給するに過ぎざりき然るに三十九年一月大倉組の手にて開坑式を擧げ其後日支合辦の事業として煤礦公司を組織し大正四年度出炭高約三十萬噸に達す其炭田は本溪湖市街の東北端より鐵道線路を橫斷して南西に走り面積一千百五十六萬坪を有す、炭質は亞無煙炭若くは半無煙炭にして最も製鐵用に適し又コークスを製造するに宜し、四十年四月此地の東方二十哩南坟停車場より南東五哩廟兒溝村落に於て往時外國製銑鐵滿洲に輸入せられざる前盛んに採掘して之を本溪湖に運搬し製鐵の用に供せりといふ鐵山發見せられ四

十四年十月公司は製鐵部をも合辦することゝなり其の調印と共に資本金を七百萬元とし本溪湖煤鐵公司と改稱し以て今日に至る同部は熔鑛爐二基を備へ一日の製銑高一基百三十噸なり鑛質は磁鐵礦、礦量概算八千萬噸にして將來益〻事業を擴張し熔礦爐四基と爲すの計畫なりといふ

【溪城鐵道】是亦日支合辦事業の一にして本溪湖城廠百八十支里間に布設せんとする鐵道にして溪城鐵路公司と稱す、現在線路は太子河牛心臺間九哩三鎖、支線五哩餘にして軌間二呎六吋輕鐵機關車を以て每日四回乃至八回客貨車の運轉を爲す貨物は殆んど石炭なり

【牛心臺炭坑】日支合辦彩合公司の經營に係り一年約十萬噸の出炭を見る炭質は無煙粉炭にして硫黃分多し此地附近小炭坑數多あれども其產額は多からず

【太子河鐵橋と碼頭】太子河鐵橋は安奉線中第一の長橋にして全長千七百七十九呎餘工費三十四萬五千圓と稱せられ四十三年十月起工し四十四年九月竣工す、碼頭は鐵橋の右岸にあり上流葦子峪附近の森林より伐採せる良材は筏となりて下り此地又は遼陽に搬送さる、牛槽船は河水淺くして溯航するを得ざるも刳舟は船筏子と爲し石炭、缸、柴薪等を積で遼陽城廠間を往復す

【官公署其他】支那側には本溪縣知事公署、安奉鐵路巡警分局、兵營等あり日本側には守備隊、警務支署、郵便局、滿鐵地方事務所、小學校、日語學堂、醫院、保線係等あり

【旅館】　三吉旅舘あり宿泊料一人一泊金一圓乃至四圓晝食料は其半額とす

【名勝舊蹟等】　觀音寺の龍洞　は石灰岩の水蝕して小池を形成せし者にして本溪湖四圍の山腹には奇洞多しと雖も龍洞最も人口に膾炙す、傳へ言ふ白龍曾て洞中に棲む故に此名ありと洞中一宇の廟あり胡仙廟と稱す今は昔寺僧夢に老狐を見る曰く我が爲めに一宇の廟を營まば此地長へに榮えんと夢覺めて後之を建てしに果して殷賑の市街となれり、時の里正其奇瑞を感じ洞上に本溪湖の三大字を刻みて不滅之匾額となす因て後世此市街を本溪湖と汎稱するに至れりと龍洞と相對せる丘陵上に鐘乳石洞あり深さ約一町洞中石筍簇生するも知る者少し

龍王廟　は太子河々畔にあり古き由緒を有し殊に沙河大會戰の際には寺僧一意我が守備兵の爲めに便宜を圖りたるに因り今に至るまで日本人の同情多し

兜山柱山　の二山は本溪湖の東北二面を屏繞せる山脈の二頂を假稱するの名にして其山形に縁めるものなり、沙河大會戰の攻擊目標たりし本溪湖の運命は繫りて此二頂にあり故にイワノフ中將は軍團の主力を以て二頂の奪取を圖り本溪湖守備の三個中隊は死力を以て之を頑守し其兵力漸く增加して七個大隊となるに及び遂に攻勢に轉じて其守備を完くせり、當時の戰線は龍王廟と此二頂とを連ねたる山脊にして前後五日間に於ける日露兩軍の死傷約七千を算す慘狀以て想像すべし

顯王墳は太子河左岸にある顯親王の陵なり親王は太祖肇國の際高皇帝を翼けて軍功あり其陵は最初遼陽郊外の東京陵にありしが後此地に遷し葬る、本溪湖炭山は即ち王墳の照山にして平頂山は王墳の後山なり風水最も宜しく松柏鬱蒼こして英靈在すが如し、本溪湖重圍に陥るの際閑院宮殿下が騎兵第二旅團を率ゐて星馳（路程）の背後に迂回し機關銃隊をしてレネンカンプ支隊の騎兵二十中隊を撃退し給ひたるは此王墳附近なり故に邦人傳へて宮の原こ稱し其武勇を不朽に傳ふ

福金驛 Fu-chin. 安東起點百二十哩四分

公衆電報取扱驛

【福金嶺隧道】は安奉鐵道中第一の長隧道にして全長四千八百八十四呎あり其東口には故桂公爵西口には寺内元帥の題字あり嶺上今仍ほ紆餘屈曲せる舊輕便鐵道線の跡ありて頗る奇觀を極む福金嶺こ山脈を同じくして東方にあるを平頂山こ云ふ山頂湖水あり奇魚之に產すこいふ之に相並べる千金嶺は以上二山こ共に日露戰役に於ける橋頭の防禦陣地なりしに因りて知らる

橋頭驛 Chiao-tou. 安東起點百十四哩

途中乘繼驛、公衆電報取扱驛、携帶品一時預り所

構內販賣店には酒菓煙草等あり、旅客列車の發着には辨當其他呼賣をなす、又洗面所の設けあり

橋頭は一名細河沿と云ひ又附近村落を併稱して白雲寨とも名づく山峽中の一寒村にして安奉線改築當時は日支商人の來住するもの多く一時繁盛なりしが開通と同時に漸次衰退して今や僅に昔日の餘喘を保つ如く日本人戸數百四十餘人口三百八十あるも主として當會社員なり外に支那人約千人ありと云ふ、此地自ら形勝の地位を占め驛南の小丘に登れば老松奇巖の間に蟠屈し松間下を瞰すれば細河の清流帶の如く河を隔てゝ福金嶺の支脈壁立し延長九百呎の鐵橋は清流を横ぎりて山後に沒す、山高くして朝陽遲く曉靄山麓に起りて四圍の連巒浮ぶが如きの光景を望めば白雲寨の稱呼空しからざるを覺ゆ、後丘の中腹一碑の聳ゆるものを忠魂碑となす崖下の一廢寺は本溪湖救援の前後閑院宮殿下の駐營し給ひし御座所跡なり、此丘陵は明治三十七年七月露國第十軍團の歩兵約一師團砲兵半旅團の據守せし所にして黑木軍の第十二師團東方より之を攻撃し激戰兩日に亙りて始めて占領したる陣地なり、目下碑石のある所は當時露軍砲兵の放列陣地なりしといふ、橋頭より分水嶺に至るの峽谷は山紫水明の勝區にして延長二十一哩を算し細河の清流線路と並び走る、仰げば千仭の懸崖岌乎として長牆の如く翠松紅蘿其岩角を點彩して山雲其中腹に迷ひ、俯瞰すれば泉流奇岩に咽び跳つて濃霧を吹き、懸つて飛瀑となり走つて

素絹を流し滙して碧紋を描く、千態萬狀筆舌の能く形容し得べきにあらざるなり、就中風光最も幽邃なるものを釣魚臺となす支那人奇岩の碧潭に臨めるものを見れば往々釣魚臺の名稱を付す醫巫閭山にも釣魚臺あり千山にも釣魚臺あり金州にも釣魚臺あり、然れども細河の釣魚臺は最も能く日本人に傳知せらる、臺は一塊の巨岩より成り岩は細河の屈曲せる水滙にありて岩上寺廟を構ふ之を普濟寺と稱す丹壁長磴宛然蜃樓の如し、廟に登つて回顧すれば碧潭脚下を繞り懸崖絕壁四方に懸る天小にして溪深く立つて高吟すれば反響殷々として四方より至る眞に滿洲の耶馬溪と稱すべし、峽中の金坑村は柳堤翠を細河に浸すの水滙あり數戶の石工あり硯を製造し橋頭驛にて販賣す其色赤間硯に似て質稍〻軟かなり、往時は溪中砂金を産せしといふ故に金坑の名あり

【官公署其他】 兵營、郵便局、車輛係、尋常小學校等あり

【旅館】 鎭西館あり一人一泊金一圓乃至二圓なり

南(ナン)坆(フェン)驛 Nan-fen.

安東起點百四哩七分
公衆電報取扱驛
途中乘繼驛

此地以南柞樹多く或は枕木用とし或は線香材料として水車に付し粉末となす、此線香原料たる柞樹は細河兩岸の山中一帶に密生す故に溪流の屈曲せる地點若くは急湍には必ずタービン式水

車を設けて製粉するを例とし其數少なからず、柞樹の年齢は十五六年を經過するもの最も良く數十年を經るものは原料に適せずといふ

【廟兒溝鐵鑛】 は停車場より南東五哩の地點にあり鑛口より山麓迄約一哩「エンドレスロープ」に依り、山麓より停車場迄輕便鐵道に依り更に本溪湖に運搬す鑛質其他前揭の如し

下馬塘驛 Shia-ma-tang.

安東起點九十八哩三分
公衆電報取扱驛

【摩天嶺】 は驛の西北方にあり日清日露兩役を通じての戰場にして詩人之を五峰嶺と名く五頂相竝んで筍立するが爲なり、嶺上二宇の關帝廟あり一廟は往古より存在し一廟は日清戰役後建築せらる、明治二十七年日本軍の鴨綠江を渡りて滿洲に進出するや江岸の清兵退て摩天嶺に據る第五師團の松山旅團進んで鳳凰城を占領し更に步兵第二十二聯隊に命じて長驅摩天嶺の清兵を攻擊せしむ、今田少佐の大隊之が急先鋒たり聯隊の主力は富岡中佐之を率ゐて連山關に次し今田大隊摩天嶺に向ふ當時黑龍江將軍依克唐阿敗兵を收容して摩天嶺を守る我が大隊之を仰ぎ攻め一旦山頂を占領せしも大本營、電命を下して本攻擊を中止し退て分水嶺を扼し牽制任務に就かしむ、蓋し大本營の攻擊目標は北京天津にありて遼陽奉天にあらざりしを以てなり、依將軍之を知らす見て以て日本軍敗退せりとなし北京朝廷に報告す是に於て關帝廟を新建し碑を立て

其功を錄す其碑今猶ほ山上の關帝廟及山下の五峰觀に殘存す、日露戰役には黑木軍の中央縱隊たりし第二師團此嶺上に前哨を設けケルレル軍團の夜襲を擊破するもの前後二回關帝廟は當時戰線の中心となりて大破し復た舊時の壯觀なし

連山關驛 Lien-shan-kuan.　安東起點九十二哩九分

公衆電報取扱、途中乘繼驛

連山關は朝鮮街道の古關にして淸朝亦此地に驛站を置き佐嶺を站長として站丁驛馬を備ふ、朝鮮街道の驛站は大安平、浪子山、甜水站、連山關、通遠堡、雪裡站、鳳凰城、湯山城の八站にして連山關は其中央に當るも山間僻地の一寒村に過ぎず大正三年我が兵營建築せられてより其面目を改め戶數百四五十、人口約四百を算し、郵便局、小學校等を置かるゝに至れり

【旅館】　都屋、播磨屋あり一泊一人金一圓以上二圓以下とす

祁家堡驛 Chi-chia-pu.　安東起點八十七哩二分

停車場は安東線中第一の高處にあり海拔實に千二百六十三呎を有す

【分水嶺】　は細河草河二流の分水界にして延長約二千呎の隧道を穿ち其東口には伊東元帥西口

には奥大將の題字あり本嶺は鳳城縣、本溪縣の行政區界にして兼ねて沿線農民の副業を區分する自然の分劃線たり即ち細河沿岸の村民は其急流を利用して線香製造を副業とし、草河沿岸の村民は柞樹を利用して山蠶放養を副業とす其草河一帶に於ける秋蠶收穫約一千籠に達すと云ふ

戰蹟として分水嶺は今猶頂界線に堡壘の殘影を留め日清戰役には我が松山聯隊此に據りて依將軍の夜襲を擊退し、日露戰役には鴨綠江に敗れたるザスリーチ中將の軍團此に據りて我が第二師團を防禦せしが未だ兵火を接ゑざるに早く既に樣子嶺に退却せり蓋し防禦陣地としては左右に弱點多きを以ての故ならむ乎

草河口（ツァオホーコー）驛 Tsao-ho-kou. 安東起點八十五哩五分

公衆電報取扱驛、途中乘繼驛

草河口は賽馬集街道と鳳凰（フォン）街道との追分にして輕便鐵道時代に在つては現在停車場より東北一哩餘の地點に停車場を置き安奉線の中央驛として南北行列車共に夕べに此驛に到着し朝たに發車する爲め旅客は凡て一泊を要せしかば日支商人の此地に移住するもの多く一時三百餘戸を算せしが廣軌開通以來漸く衰へ今や戸數六七十戸を數ふるに過ぎず

通遠堡驛 Tung-yuan-pu.

安東起點七十三哩
公衆電報取扱驛

通遠堡は古への驛站にして明時代には城壁を設けて戍兵を常駐せしめたりと云ふ今は其跡なく僅かに老樹の點々田畦に蟠るを見るのみ、此地の特産物は坑木及山繭にして歳々坑木五六十萬本、山繭五六十噸を輸出す、附近は日淸及日露兩役の舊戰場にして殊に北方の隣村樊家臺は日露戰役に際し立見少將の中央突貫をなしたる有名なる戰跡なり

劉家河驛 Liu-chia-ho.

安東起點六十三哩二分
公衆電報取扱驛

秋木莊驛 Chiu-mu-chuang.

安東起點五十九哩二分
公衆電報取扱驛

秋木莊は連巒重疊の間にあり此地楸木多し因て以て村名となす、山中雜樹に富み日支人の炭燒に從事するもの多し、當停車場建物は他驛と其趣を異にし本屋は松丸太、附屬屋は松丸太を以て組み上げたるものにして安奉線中異彩を放てり、線路は是より黑坑嶺の隧道を過ぎ蜿蜒蛇走して鷄冠山隧道に入る、黑坑嶺は輕便鐵道時代の最大難關にして螺線形をなせる線路は縱横山腹を縈回して頂上に達せしが今は延長千五百哩の隧道を開鑿して昔日の危險を感ぜず、本隧道

の東口には大島、義昌、子爵西口には後藤男爵の題字あり

鷄冠山驛 Chi-kuan-shan. 安東起點五十哩四分

公衆電報取扱驛、途中乗繼驛、携帶品一時預り所、構内販賣店には酒菓、煙草あり、旅客列車の發着には辨當其他呼賣あり又有名なる岫巖石細工及葡萄ステッキを販賣せり構内には洗面所の設けあり

鷄冠山は元と山名にして村名にあらず山は驛の南方にありて其形鷄冠に似たり輕便鐵道開通するに及び取つて驛名となす其停車場所在地は改築工事起るに及び日支人の移住するもの俄に增加し宛然一市を成せしが廣軌開通と同時に其南方一哩の所に現在の驛舍を置きし以來全然衰退せり、新鷄冠山驛は戸數約二百、人口約七百を算し郵便局、小學校及滿鐵車輛係あり

【鷄冠山隧道】 は驛の北方二哩にあり安奉線中第一の難工事にして全山堅石より成る其延長三千二百五十四呎にして其東口には松方侯爵西口には西園寺侯爵の題字あり

四臺子驛 Szu-tai-tzu. 安東起點四十三哩六分

四臺子は鳳凰城より數へて第四の村落なり曰く頭臺子曰く二臺子曰く三臺子其次を四臺子とな

す鳳凰城より遼陽に通ずる國道なり

鳳凰城驛（フォンホァンチォン） Feng-huang-cheng. 安東起點三十七哩八分

公衆電報取扱驛、途中乘繼驛
構內販賣店には酒菓煙草あり、洗面所あり

鳳凰城は古への利州にして安奉線中屈指の都邑なり城壁は清朝に至りて築設せしものに屬し規模狹少なるも南東二門を開き往時は東邊の重鎭として隆盛を極めしが現今殆んど頽廢し僅に城壘を殘すのみ、而して城內には官衙及旗人の邸宅あるのみにて市街を爲すは城外なり其最も殷賑なるを南門通とす、官衙は奉天右路巡防隊統領衙門、鳳城縣知事公署、郵便局、電報局等あり城內には孔子廟、關帝廟、喇嘛廟、清眞寺等著名なる建築物あり、停車場の東方には我が守備隊兵舍あり

【鳳凰山】　は城の東南二里に聳ゆ全山堅巖より成り稜々として夏雲の蓊勃たるが如し遠く望めば一樹の翠黛を點ずる無きも山中奇巖老松多く松風泉聲琴を彈ずるの處朝陽寺、逍遙寺、娘々廟、觀音閣等の古刹あり、山上高勾驪時代の城墟あり恐らくは永樂大王百八城の一ならん乎、傳へ言ふ古へ鳳凰此上に止まる故に鳳凰山の名ありと兎に角安奉線中好箇の銷夏仙境なり

高麗門(カオリーメエン)驛 Kao-li-men.

安東起點二十八哩七分
公衆電報取扱驛

高麗門は六邊々門の一にして淸祖滿洲に建國するに際し朝鮮方面に備ふる爲め長寨を築設し威遠、英額、旺淸、城廠、靉陽、高麗の六門を開き其以外を甌脫の地となし措て問はず邊寨の殘影今猶處々に散見す、邑小なれども商家二十餘戶を算し關帝廟其他の祠廟稍見るべきものあり之を鳳城縣安東縣の行政區界となす

湯山城(タンシャンチォン)驛 Tang-shan-cheng.

安東起點二十一哩三分
公衆電報取扱驛

湯山城は朝鮮國境九城の一にして一面城、寬甸城、桓都城、長甸城、團甸城、九連城、娘々城と共に往時に於ける鴨綠江岸の固めなれども今は荒廢して僅に其斷礎を認むるのみ

五龍背(ウーロォンペイ)驛 Wu-lung-pei.

安東起點十五哩六分

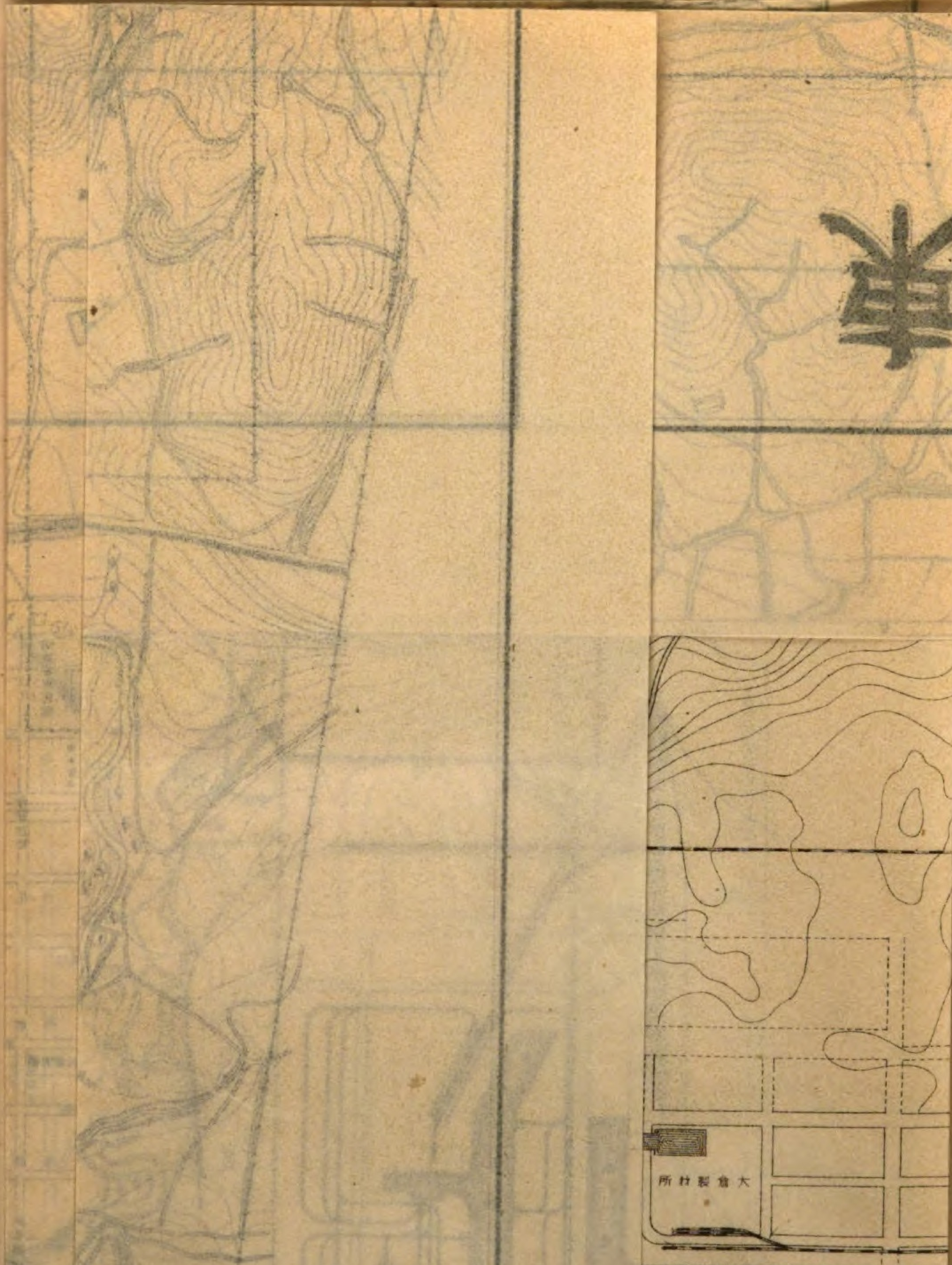
公衆電報取扱驛、途中乘繼驛
携帶品一時預り所

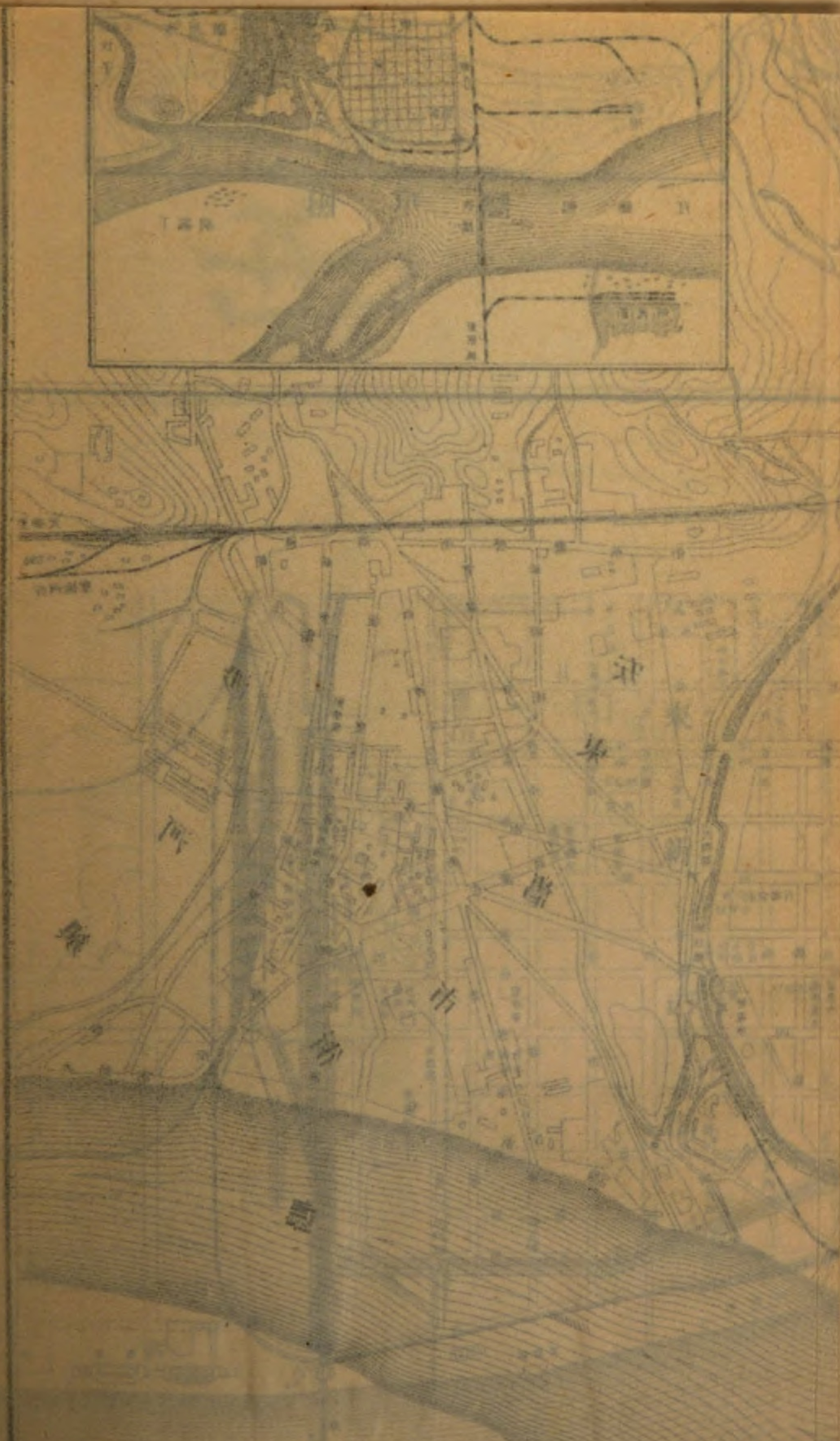
五龍背は沙河上流の一村落にして河岸に温泉湧出す日清戰役の際日本兵之を發見して征塵を洗ひ日露戰役中我が軍茲に療養所を設けて傷病兵を休養せしむ撤兵後日本人庵谷某停車場の東方約二丁に温泉場を經營し樓亭を建て樹木を移植し風致を添へ更に宏壯なる客室を增築し浴場を改め防寒設備を整へ旅館五龍閣と稱す朝鮮及滿洲各地より汽車賃の割引あり大に旅客の便宜を謀る、泉質は無色透明にして微に硫化水素の臭味あるアルカリー泉にして痔疾、皮膚病「リューマチス」等の諸病に効驗多く四時浴客絕へず、浴後欄に凭て丁岐山を望めば白雲離合して山容千態頗る心神を爽快ならしむ

宿泊料一人一泊二食付一圓五十錢以上五圓以内とし晝食料は其半額とす尙滯在客には割引の相談に應ずと云ふ

蛤蟆塘驛 Ha-ma-tang. 安東起點六哩五分

蛤蟆塘は日露戰役の戰場にして鴨綠江岸に敗れたるザスリーチ中將の軍團は蛤蟆塘の高地を收容陣地として退却掩護をなせしが黑木軍勝に乘じて東西南の三方面より敵を蛤蟆塘の谷底に追ひ最後の勝利を得て聯隊長以下數十名の將校を生擒せりと云ふ、戰跡今は殆んど訪ぬるに由なし


大倉製材所
荷揚場



沙河鎭驛（シャーホーチェン） Sha-ho-chen. 安東起點二哩六分 公衆電報取扱驛

沙河鎭驛と安東驛とは日本鐵道院の三ノ宮驛と神戸驛との如き關係にして安東市街に二箇の停車場を有するなり、故に便宜上安東驛と共に説明することゝせり

安東驛（アントゥン） An-tung. 安奉線起點驛〇哩六分

公衆電報取扱驛、携帶品一時預り所、待合所は何れの停車場にも設けあるも特に當驛には滿鮮兩列車相互移乘者の用に供する爲中「ホーム」に之を設け又洗面所の設備あり、構内販賣店は中「ホーム」にあり各種飮食料品及雜貨等あり、且食事及喫茶の用意あり

當地附近一帶の地は元茫漠たる原野にして人の住むものなかりしが山紫水明の地なるに加へ其悠々たる大江の上流に幾多の利源を包藏せるを以て清朝の同治年間山東及び遼東沿岸より漁夫農夫等の移住するもの多く遂に一小部落を形成するに至り初めて其處を沙河子又は沙河鎭と稱せり是れ今日の安東にして新舊市街を總稱す

【舊市街】 即ち沙河鎭は沙河の鴨綠江に注入する交流點にあり、前述の如く寂寥たる一小部落

に過ぎざりしが光緒二年安東縣衙門を此地に設定せし以降商估漸く市をなし終に大孤山、大東溝の繁榮を奪ふて今や戸數七千五百、人口三萬五千を算し商舗櫛比して殷賑を極め沙河屈指の大商埠となれり、沙河鎭に安東縣の治廳あり故に世人多くは沙河鎭と云はずして安東縣と稱す而して舊市街とは三十七年軍政官の經營せる新市街に對する名稱にして其後輕便鐵道開通して新舊市街に停車場を設くるに及び終に舊市街を沙河鎭、新市街を安東縣と命名するに至れり

【新市街】　は日露戰役の初年時の軍政官に依て經營せられし市街にして街衢縱橫井然として碁局の如く其周圍には溝渠を鑿ちて排水に備へ堤壩を築きて氾濫を防ぐ總面積百六十餘萬坪を有し戸數二千八百（内日本人千五百）人口一萬一千に達す其市街は我が官有地にして居留民團の管理に屬し各般の施設皆民團の經營に係る、滿鐵附屬地は溝渠を隔てゝ面積百五十萬坪を有し停車場を中心として停車場前は大廣場、左は社宅街右は江岸荷揚場、線路以南は貯木地及工業用地とす戸數約五百人口千八百を算し新舊兩街を合して一大都市たる面目を備ふ

【鴨綠江】　の水利は遼河の如く便宜多からざるも遠くは高勾驪渤海時代より此江流を利用し依て以て丸都即ち輯安縣を其王城となせりといふ、遼金元明の四朝を經て淸初に及び流域一體は化外の地として久しく委棄せられたりしが鴨綠江の森林木把の徒に依て伐採せらるゝに及び流筏繫留所は黃海々岸を傳ふて大孤山より大東溝に進められ遂に江を溯ること約十里の安東縣に

移るに至れり、日清戰役の頃に於ては安東縣既に發達して完全なる市街となりしも滿鮮貿易は猶義州の對岸なる九連城に於て行はれ其税局は中江臺に設けられたるが日露開戰前に至り安東縣の價値は一層增進し戰後道臺衙門が鳳凰城より沙河鎭に遷し新海關を江岸に開くに及び東邊一帶に於て產出する大豆、高粱、山蠶、玉蜀黍及び鴨綠江材は此地を集散市場として海路四方に輸出せられ東邊百餘萬の住民が需用する綿布、麥粉、燐寸、茶、砂糖、石油其他の雜貨類も安東縣を唯一の輸入港として內地に供給せられ一歲の海陸輸出入約三千四五百萬圓に達せんとす、而して安東縣の發展斯の如く急なるものは一に鴨綠江の水利あるが爲なり然れども鴨綠江の流域は山地にして平野少なく農產物多からずして上流に於ける舟楫の便甚だ乏し

【鴨綠江鐵橋】　は滿鮮兩地を連絡する唯一交通路にして朝鮮總督府の經營に係る東洋第一の鐵橋なり工事二箇年に亘りて無慮數百萬圓を費し全長三千九十八呎橋桁十二連其中央に於ける一橋桁は自由に開閉し得べく一日四回（午前二回午後二回）一回一時間半離開して橋下を往復する船舶の航行に便す橋上には軌道の左右に幅八呎の步道を設け行客をして自由に徂徠せしむ蓋し東洋に於ける幾多の橋梁中に在つて一異彩を放つ

【江岸】　鴨綠江の結氷は十一月下旬にして解氷は三月下旬なり其間江岸には大小汽船戎克船等帆檣林立江面を掩ふ定期船には大阪を起點とし朝鮮諸港を經て安東縣に往復する大阪商船會社

の貨物船あり一ヶ月數回の往復を爲す、阿波共同汽船會社の安東、大連、芝罘、仁川を一ヶ月數回往復するものあり、大連汽船株式會社の安東、大連、芝罘及天津等を一ヶ月六回往復する定期船あり然れども此等定期船は專ら貨物を主とし旅客に對しては設備充分ならず且つ小汽船を除くの外は概ね三道浪頭に繋留するを例とす故に港灣としては大同江口の鎭南浦、遼河口の營口に比すべくもあらず、流筏最盛期は每年七八月にして河面の凍結するは十一月下旬とす結氷後の江面を望めば氷塊累々壯觀を極む

【朝鮮鐵道】　は新義州釜山間五百八十二哩を大幹線とし滿鮮急行列車は乘換を要せず釜山迄直通すれども急行以外の滿鐵列車は安東驛にて一旦下車し同驛に來りて待てる朝鮮鐵道車へ乘換ふるを要す、連絡回數は一日二回とし外に新幕及平壤行列車あり、鮮鐵より滿鐵への移乘も亦急行列車の外前同樣安東縣にて乘換を要す、而して旅行便覽に揭載せる如く鮮鐵と滿鐵との時間には一時間の差あり即ち鮮鐵の正午十二時は滿鐵の午前十一時に當る

【稅關】　は安東驛及中ホームの二箇所に國境稅關員詰所あり、旅客の携帶せる手廻り荷物は乘換の際ホーム內檢査所に持參し、又鐵道に委托せる手荷物は其所在にて共に立會の上稅關吏の檢査を受くるを要す檢査は支那側と朝鮮側と同時に行ふ、滿鐵直通急行列車の分は車內にて檢査を爲す、携帶品中煙草は朝鮮稅關に提供して檢査濟の章を受くるを要す更に釜山にては連絡

船中にて檢査を爲す(紙卷煙草は百本、葉卷煙草は五十本迄何れかの携帶を許す夫れ以上は携帶を許さず)

【官公署其他】　支那側には東邊道尹公署、安東縣知事公署、木稅總局、海關、鹽釐局、警察廳郵便局、電氣局等あり日本側には帝國領事館、警務署、守備隊兵營、郵便局、安東居留民團役所、小學校、滿鐵地方事務所、滿鐵醫院、滿鐵電燈營業所、車輛係、保線係、安東銀行、安東貯金銀行、正金銀行及朝鮮銀行出張所、三井物產會社、大阪商船會社、大連汽船會社の出張所、燐寸製材會社、鴨綠江製材無限公司、安東窯業株式會社、歌舞伎座、京橋館、神社及各宗寺院及公會堂あり外に米國領事館あり

【鴨綠江採木公司】　は日淸兩國政府の合同事業として成立したる國際的會社にして資本金三百萬圓鴨綠江右岸帽兒山より上流二十四道溝に至る森林の伐採及其外所產木材の買收を行ふものにして明治四十一年九月開業せり現今一ヶ月出荷約百萬連なりといふ

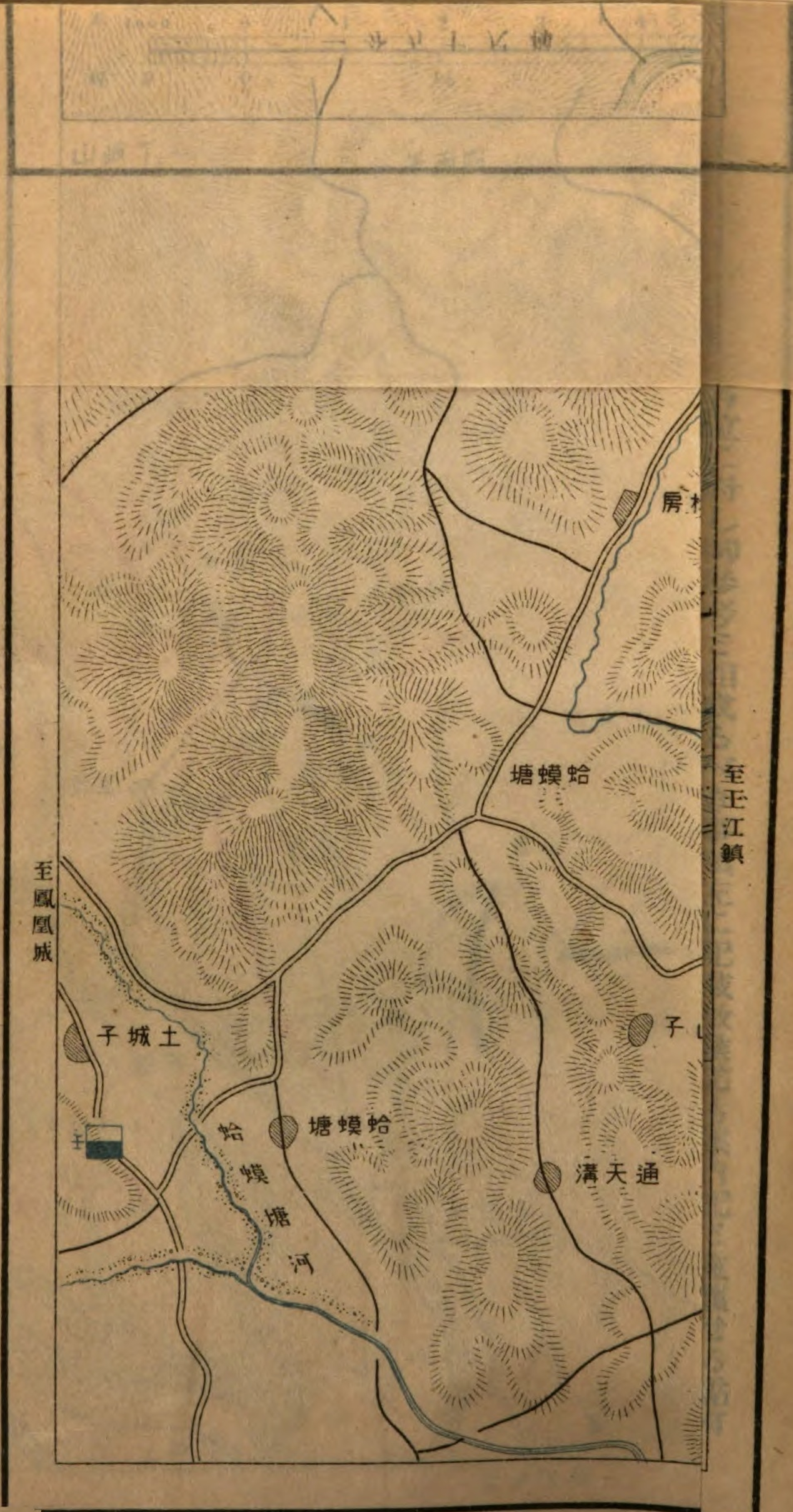
【旅館】　には元寶館、富久壽美館、喜久旅館、安東旅館等あり宿泊料一人一泊金一圓五十錢以上五圓以內晝食料其半額とす

【交通】　は人力車あるのみ停車塲より市內十錢、舊市街十五錢、新義州十五錢位なり

【元寶山と鎭江山及忠魂碑】　元寶山は市の東北に獨峙する丘陵にして其山形元寶銀(馬蹄銀)を倒

置せしに似たり故に此名あり山麓には關帝廟あり山上眺望絶佳市民行遊の樂園なり、鎭江山は新市街の背後に聳え此に登臨すれば江を隔てゝ遙に朝鮮白馬山を望むべく下流を顧みれば三道浪頭、龍岩浦等の諸港遠靄の間に糢糊たるを覺ゆ臨濟寺は此形勝の地に建立せらる山坡に忠魂碑あり日露戰役の際江岸に忠死したる諸士の忠魂を合祀せる所なり

【新義州と統軍亭】 新義州は安東驛の對岸にして朝鮮京義線の終端驛なり市街は、明治三十七年鴨綠江架橋地點を爰に撰定せられたる以來の創開に、て現今戶數七百餘、人口四千餘を有す、統軍亭は舊義州の北東を擁する丘陵の上に建つ、亭上の展望甚だ濶大、鴨綠江其崖下を流れ、江を隔てゝ虎山、九連城、沙河鎭等と相對す、日清日露の役共に我が砲兵陣地たり、亦杖を曳くに値ひす、舊義州は平安北道々廳の所在地にして新舊義州間には乘合自働車の便あり


至鳳凰城
土城子
蛤蟆塘
蛤蟆塘
蛤蟆塘河
通天溝
至王江鎮



旅行便覽

滿洲地方御旅行の各位に對し御參考と相成るべき事項左に記載致候尤も案內記と重複せる點有之候得ども御一覽に便すべく一纏めと致し候次第に御座候尙詳細の儀は夫々係員へ御承合相成度候

普通列車

普通列車は一二三等車を以て編成し大連長春間には毎日二回（內一回第三、第四列車には寢臺の設備ある一等車を連結致し候に付一等客は夜間寢臺を使用せらるゝ便あり此料金二圓に有之候）營口長春間には更に一回、安東奉天間には毎日二回（內一回夜行列車には一等客用寢臺車を連結致候此料金二圓に有之候）宛往復運轉致候尙大連旅順間、撫順炭坑本線間及營口本線間には一日數回の混合列車を運轉致候

急行列車

急行列車は優良なる設備を有する一等、二等寢臺車及食堂車を以て編成し大連長春間釜山長春

間(滿鮮直通急行列車)を雙方より一週一回宛直通運轉致候此等車輛は孰れも構造堅牢設備完全にして寢臺車には「プルマン」式と一室毎に分たれたるものとの二種有之又食堂車は室內廣濶展望自在にして營業は當會社の「ヤマトホテル」之に當り居候本急行列車は長春に於て西比利亞急行列車に接續し釜山に於て釜山下の關間を急航する關釜連絡船を經て下の關東京間の急行列車に接續し又大連に於て一週二回大連青島上海間を航行する當社直營の連絡汽船(神戶丸及榊丸)に接續するものにして萬般の設備及接客の方法に於て專ら旅客が長途愉快なる旅行を遂げられんことを期し居り候急行列車に御乘車の各位は相當乘車券の外別に急行座席券を御求め相成度該急行座席料金は左の通りに有之候

一等急行座席料

	大人	小兒
二百哩未滿	金五圓	金四圓
二百哩以上六百哩未滿	金八圓	金六圓五十錢
六百哩以上	金十二圓	金九圓五十錢

二等急行座席料

	大人	小兒
二百哩未滿	金三圓	金二圓五十錢

二百哩以上六百哩未滿	金五圓	金四圓
六百哩以上	金八圓五十錢	金七圓

右料金は滿鮮直通急行列車に依り滿鮮を直通乘車せらるゝ場合にも適用可致小兒年齢の制限は左の通に有之候

一 當線内のみ乘車の場合

滿五歳以上(滿五歳を除く)滿十二歳以下の小兒に對しては小兒料金を申受く

滿五歳以下の小兒にして特に寢臺を使用せられざるものは一名を限り無料とし二名以上の場合は特種の料金を申受く

一 朝鮮鐵道に跨り乘車の場合

滿四歳以上滿十二歳未滿の小兒に對しては小兒料金を申受け滿四歳未滿の小兒にして特に寢臺を使用せられざるものは總て無料とす

一 尙此外にも寢臺車特別室、二人用寢室、寢臺上下一組、又は四人用寢室貸切の御需めにも應ずべく候

一 割引乘車賃金

左記各項の御乘客に對しては夫々規定の割引賃金にて御取扱致候

一、團體及學生乘車券　二十五人以上の團體にして同一列車の同階級（三等を除く）に且つ一人片道賃金六十錢以上の距離を乘車せらるゝ場合は其人數に應じ普通賃金の二割乃至三割五分を割引き又各種學校生徒に對しては二等に限り五割引致候

一、温泉行往復割引乘車券　本券は熊岳城、湯崗子、五龍背の各温泉に往復せらるゝ旅客（三等を除く）の爲めに設けたるものにして乘車賃は普通賃金の五割引とし途中下車を謝絶其通用期間は往路は發賣當日より二日間復路は温泉宿日付印（發賣當日より十四日以内）の當日より二日間有之候猶本券は左記各驛に於て發賣致居候

熊岳城行　營口、大連、旅順、瓦房店、大石橋、遼陽、奉天

湯崗子行　海城、大石橋、遼陽、營口、奉天、鐵嶺、大連、旅順、撫順、本溪湖

五龍背行　安東、沙河鎭、本溪湖、撫順、奉天

一、大連旅順間往復割引乘車券　本券は一、二等旅客の爲毎土曜日及日曜日に限り大連驛に於て發賣し賃金は二割引とし乘車券通用期間は發行の日とも三日間に有之候

一、内地滿洲間連絡割引往復乘車船券　朝鮮總督府鐵道局線を經由し内地滿洲間を往復せらるる旅客に對し左記當社線各驛との間連絡割引往復乘車券發賣致候

鐵道院線　東京、新橋、品川、横濱、名古屋、京都、大阪、三ノ宮、神戸、兵庫、岡山、尾ノ道、廣島、己斐、下關、門司、小倉、吉塚、博多、久留米、上熊本、熊本、鹿兒島、長崎、別府濱脇、西大分、大分

當社線　大連、旅順、營口、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、長春、本溪湖、安東

賃金は各線共二割引にして通用期間は六十日間に有之候

一、同　大阪商船株式會社大連航路を經由し內地滿洲間を往復せらるゝ旅客に對し左記當社線各驛と鐵道院線各驛との連絡割引往復乘車船券を發賣致候

鐵道院線　東京、新橋、横濱、名古屋、京都、大阪、神戸、廣島、博多、熊本、鹿兒島、長崎

當社線　旅順、營口、海城、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺、開原、公主嶺、長春

賃金は當社及大阪商船株式會社二割引、鐵道院普通賃金にして通用期間は六十日間に有之候

一、同　大阪商船株式會社大連航路を經由し內地滿洲間を往復せらるゝ旅客に對し左記當社各驛と大阪商船株式會社線各港との間に連絡割引往復乘車船券を發賣致候

大阪商船株式會社線　大阪、神戸、下關、門司

當社線　旅順、營口、海城、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺、開原、公主嶺、長春

賃金は兩線共二割引にして通用期間は六十日間に有之候

一、内地滿洲間連絡往復團體乘車船券　二十人以上の團體にして朝鮮總督府鐵道局線又は大阪商船株式會社大連航路を經由往復せらるゝか或は片道朝鮮總督府鐵道局線を經片道大阪商船株式會社大連航路を經由一週せらるゝ旅客に對し當社及鐵道院の主なる驛間に連絡割引往復乘車船券を發賣致候

賃金は汽車五割引とし汽船は鐵道院五割引大阪商船株式會社三割引にして通用期間は總て六十日間に有之候

一、日鮮滿巡遊券　内地、朝鮮及滿洲を巡遊せらるゝ旅客に對し鐵道院、朝鮮總督府鐵道局及當社鐵道主要驛に於て發賣するものにして當社線は左記の通り各驛に於て發賣し甲乙の二種有之候

一、當社線發賣驛　大連、旅順、營口、撫順、奉天、長春、安東：

一、經路　(甲種)各驛より大連を經て大阪商船株式會社汽船に接續、門司又は三ノ宮に上陸東京迄直行し歸途東京より下關を經て關釜連絡汽船に接續釜山に上陸南大門安東を經て發驛に歸著するもの

(乙種)發驛より安東南大門及釜山を經て關釜連絡汽船に接續下關に上陸東京迄直行歸途東京より門司又は三ノ宮を經て大阪商船株式會社汽船に接續大連に上陸發驛に歸著するもの

右二種とも内地鐵道上野日光間、龜山山田間、門司鹿兒島間及朝鮮鐵道永登浦仁川間往復三割引證を添付す

賃金は汽車汽船共三割引にして通用期間は總て六十日間に有之候

乘車券通用期限

通常乘車券の通用期限は發行當日より起算し左の通りに有之候

百哩迄　二日

百哩を超ゆるときは百哩若くは其未滿每に一日を加ふ

乘繼驛

旅客は乘車券通用期限內に於ては左記各驛に下車し再び他の列車に乘繼がることご御隨意に御座候若し右乘繼驛以外の驛に下車せらるゝときは該乘車券は前途無効に有之候

本線　臭水子、金州、普蘭店、瓦房店、熊岳城、蓋平、大石橋、海城、湯崗子、鞍山站、馬伊屯遼陽、煙臺、蘇家屯、渾河、奉天、鐵嶺、開原、昌圖、雙廟子、四平街、郭家店、公主嶺范家屯、撫安

安奉線　本溪湖、橋頭、南坟、連山關、草河口、鷄冠山、鳳凰城、五龍背

列車內物品販賣

本線及安奉線の直行列車內には當社取締の下に物品販賣人を乘込ましめ各種飲料、辨當、麵麭菓子、果物、煙草、新聞、雜誌等販賣致させ居候に付御買求の際は賣子又は列車給仕に御申聞相成度候

停車場構內食堂

當社監督の下に左記各驛構內に食堂を設け御手輕料理の御需に應ぜしめ候

瓦房店、大石橋、遼陽、奉天、鐵嶺、昌圖、公主嶺

右の內鐵嶺及大石橋には簡單なる宿泊所の設けあり寢具料として單に金五十錢を申受け候

鐵道辨當料

	滿鐵	鮮鐵
上等	四十錢	三十錢
並等	二十五錢	二十錢
茶	六錢	五錢
入替	二錢	二錢

携帶品一時預り

左記各驛に於て旅客御携帶品の一時預りを致し一箇一日に付金五錢を申受け候但重量百斤以上

のもの、腐敗し易きもの、又は危險品等は御依賴に應じ兼ね候

大連、瓦房店、熊岳城、大石橋、湯崗子、遼陽、蘇家屯、奉天、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、長春

旅順、營口、撫順、本溪湖、橋頭、鷄冠山、五龍背、安東

手荷物

旅客の携帶せらるゝ旅行用具は手荷物として旅客御一人に付一等百斤、二等六十斤、三等三十斤迄は無賃にて運送致候尤も半賃金に依る小兒の無賃手荷物は前記斤量の半に有之又右斤量を超過する手荷物に對しては超過斤に對し後記通常小荷物運賃を可申受候

小荷物

一般貨物中手荷物車にて運送するに適するものは小荷物として取扱ひ旅客列車便に依り運送致候普通小荷物運賃は左表の通りに有之候

	五十哩迄	五十一哩以上百哩迄	百一哩以上二百哩迄	二百一哩以上三百哩迄	三百一哩以上
重量一斤に付	金一錢	金一錢五厘	金二錢	金二錢五厘	金三錢

又特種小荷物中人力車は一輛一哩に付金四錢、自轉車及小兒車は金二錢を申受け候但し自轉車又は小兒車は他に託送手荷物なきときは一輛を限り無賃にて御取扱致候

手、小荷物保管料

旅客の託送せられたる手荷物は驛到著後、又小荷物は到著通知後夫々二十四時間内に御引取相成度此期間を經過するときは以後二十四時間若くは其未滿每に一箇に付大小により金二錢乃至五錢の保管料を可申受候

手、小荷物配達

左記各驛著の手荷物（御携帶品共）及小荷物は御託送の際又は驛御到著の上驛員に其旨御申聞被下候はゞ配達方御取扱可申候但し荷造又は鎖錠の不完全なるもの及動物等二三配達を取扱はざるものも有之候

大連　旅順

手小荷物配達賃は左の通りに有之候

手荷物	一箇に付	金八錢
小荷物	同	金五錢

朝鮮聯絡旅客手荷物及携帶品通關

朝鮮聯絡旅客は其携帶品、手荷物及附隨小荷物に對し安東驛に於て滿鮮直通急行列車に在りては停車中列車內に於て、安東驛止りの列車に在りては停車塲內の稅關檢查塲に於て夫々朝鮮總督府及支那稅關吏の檢查を受けられたく荷物中課稅品あるときは關吏直接旅客より稅金を徵收致候

右稅關檢查の際は必ず旅客自ら御立會相成度御立會なきときは該荷物は安東稅關に留め置かれ候に付旅客安東驛に著せられたるときは自己鐵道荷物の著否を驛員に確められ度若し荷物不著の際は到著後に於ける通關手續に就き安東驛長に御協議の上適宜の方法を定められ度候

旅客及手荷物聯絡運輸

當社鐵道は長春に於て東淸鐵道線及吉長鐵道線と、奉天に於て京奉鐵道線と、安東に於て朝鮮鐵道線と接續し又營口に於ては遼河を隔てゝ京奉鐵道の營口支線と、大連又は靑島に於ては大連汽船株式會社汽船を或は當社上海航路汽船を經由して山東鐵道線と聯絡致候尙船舶との聯絡には大連靑島上海間に一週二回の當社直營航路あり又大連、長崎、門司、神戶、橫濱、仁川、鎭南浦各港との間には日本郵船會社又は大阪商船會社の定期船有之候左に旅客及手荷物聯絡運輸の行はるゝ區間を列記致候

●鐵道院線との聯絡

一、朝鮮總督府鐵道局線經由は當社線大連、旅順、營口、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、長春、安東及本溪湖各驛と鐵道院線(東海道線)東京、新橋、品川、横濱、横須賀、國府津、靜岡、濱松、豐橋、名古屋、岐阜、大垣、米原、大津、京都、大阪、三ノ宮、神戸(北陸線)敦賀、福井、金澤、富山、(關西線)山田、奈良、(山陽線及九州線)各驛竝に嚴島棧橋相互間

一、大阪商船會社大連航路經由は當社線旅順、營口、海城、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺、開原、公主嶺及長春各驛と鐵道院線東京、新橋、横濱、名古屋、京都、大阪、神戸、廣島、博多、長崎、熊本及鹿兒島各驛相互間

外に往復割引の連絡あり詳細は割引乘車賃金の部に掲載致候

●大阪商船會社大連航路諸港との聯絡

當社線海城、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、長春、公主嶺、旅順、營口及撫順各驛と大阪商船會社線大阪、門司、下關、宇品、仁川及鎭南浦各港相互間

外に往復割引の連絡あり詳細は割引乘車賃金の部に掲載致候

●朝鮮總督府鐵道局線との聯絡

一、安奉線經由は當社線本線、安奉線各驛及旅順、營口、撫順各驛と朝鮮總督府鐵道局線各驛相互間

一、大阪商船會社線經由は當社線旅順、營口、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、長春及撫順各驛と朝鮮總督府

鐵道局線釜山、大邱、南大門、平壤及新義州各驛相互間

●山東鐵道線及上海との聯絡

當社線旅順、營口、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺、開原、長春、本溪湖、安東各驛及大連埠頭事務所竝上海埠頭支所と山東鐵道線膠州、高密、坊子、濰縣、青州、張店、周村、濟南、淄川、博山各驛相互間

●京奉線との聯絡

當社線大連、旅順、遼陽、長春及安東各驛と京奉線新民府、山海關、天津及北京各驛相互間

●京張線との聯絡

當社線大連、旅順、遼陽、長春及安東各驛と京張線南口及張家口各驛相互間

●京漢線との聯絡

當社線大連、旅順、遼陽、長春及安東各驛と京漢線漢口驛相互間

●津浦線との聯絡

當社線大連、旅順、遼陽、長春及安東各驛と津浦線濟南府及浦口各驛相互間

●滬寧線との聯絡

當社線大連、旅順、遼陽、長春及安東各驛と滬寧線南京及上海各驛相互間

●東淸線との聯絡

當社線大連、旅順、營口、遼陽、撫順、奉天、鐵嶺及安東各驛と東淸線滿洲里、海拉爾、齊々哈爾、哈

爾賓、雙城堡、陶賚昭、寛門、阿什河、ポグラニーチナヤ、ニコリスクウスリースキー、浦鹽斯徳及ハバロフスク各驛相互間

●露國鐵道との聯絡
當社線大連、旅順、營口、奉天及長春各驛とワルシヤウ、イルクーツク、莫斯科、オデッサ、彼得倶羅土(ウヤーツカ又は莫斯科經由)各驛相互間

●西伯利經由　西歐重要都市との聯絡
當社線大連、旅順、營口、奉天、長春各驛及上海と伯林、巴里(以上アレキサンドローブオ又はウエルジボロウオ經由)倫敦(アレキサンドローブオ又はウエルジボロウオ經由及フツクバンホーランド又はオステンド經由、維納(グラニーツア經由但し當社線發の場合は大連、奉天驛及上海に限る)相互間

●蘇土及西伯利經由周遊
當社線大連、營口、奉天、長春各驛及上海とアレキサンドローブオ、オステンド經由倫敦を經て發地に歸るもの

市內營業所

驛の出張所として奉天及營口には市內營業所を設け乘車券の發賣竝に手小荷物の取扱を致し候

標準時

當社標準時は關東都督府管內標準時即ち我帝國西部標準時に據る、重なる地方との時差は左の通りに御座候

當社標準時	正午十二時	京奉線	正午十二時
日本內地及朝鮮	午後一時	哈爾賓	午後十二時二十三分
彼得俱羅土	午後六時一分	伯林	午前五時
巴里	午前四時四分	倫敦	午前四時

貨幣

滿洲に流通する貨幣は本邦通貨の外橫濱正金銀行の兌換金券及橫濱正金銀行の兌換券並に圓銀支那小銀貨、中國銀行券等其種類極めて多く就中其流通の遍きは支那小銀貨、墨西哥、香港、北洋の各弗銀・中國銀行券(弗銀小銀貨を本位とする二種あり)、東三省官銀號券(小銀貨を本位とす)及露貨等にして此等貨幣は時々の相場に從ひ常に兩替價格に變動を來たし候に付其計算法頗る繁雜に御座候

度量衡

滿洲に於ける度量衡は地方に依りて異なり加ふるに同一地方に於ても二三の種類ありて之を我

國と比較して示さんは極めて繁雜にして又至難に有之候因て大約各地を通じ稍〻近きものを掲げ以て參考に供し候

滿洲	日本
裁尺（反物を度るに用ふ）	曲尺一尺一寸五分內外
一里	六町弱
一畝	六畝
一斗	一斗四升內外
一斤	百四十五匁內外
一擔	百斤

又露國との度量衡比較

露國	日本
一「アルシン」	二尺三寸四分六厘九毛强
一「アルシン」（平方）	五平方尺五〇三
一「サーゼン」（「三アルシン」）	七尺〇四分〇八毛弱
一「ヴェルスト」（一露里）	九町四十六間五尺强
一「ヴェドロ」	六斗八合餘
一「ゾロトニーク」	一匁一分三厘八毛

一「フンド」　百九匁二分強
一「プード」　四貫三百六十八匁二分九厘六毛弱
一「デシアチン」（五百平方「サーゼン」）　一町八畝二十六步

滿洲の氣候

滿洲の地勢は概して廣漠たる平原にして只瀕海の地方は多少海洋の關係を受け申候も漸く內地に進めば全然大陸的氣候の特性を現はし殊に冬季に於ては乾燥强烈なる北風吹き荒みて連日に亘り嚴冬に際しては北部內陸に於て零下三十度以上に及ぶこと少なからず候比較的溫暖なるべき南部沿海の地に於ても零下十七八度乃至二十度前後に下降すること有之候此期間は年に依り多少の遲速有之候も概して十一月より翌年三月に涉り就中一月中旬より二月中旬に至る間は寒氣酷烈に候間適當なる防寒衣帽の必要有之候但し此期間內と雖も所謂三寒四溫なるもの有之四溫の際は風穩に天氣晴朗比較的溫和の日も少なからず候寒候漸く終りて四月中旬より五月中旬に至る間は輕暖最も肌に心地宜敷以後急に氣溫上昇し八月に至りて最暑の時期に達し南部沿海の地に於ては華氏九十度前後に上り內陸に於ては同九十五度位に昇ること有之候も概して晝間の少時間に止まり中旬以後に及びては最早盛暑の時期を超え朝夕漸く淸凉を覺え九月中旬に至

れば既に秋氣を催し天高氣澄の好季節と相成候然れども又時には强烈なる高氣壓出現して不意に冷氣を感ぜしめ北部内陸に於ては氣温零度以下に降り結霜を見ること有之候中秋以後に及べば往々瀬戸内海附近嚴寒の候よりも尙ほ一層の寒氣を來たすこと有之候此時に至れは旅客は冬季の著衣を準備せらるゝの必要有之候御參考の爲め左に大正三年に終る最近五箇年間を平均したる平均最高最低氣温表掲載致し候

月＼地名	旅順		大連		營口		奉天	
氣温	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
一月	(一)〇・三	(一)八・〇	(一)〇・七	(一)八・四	(一)四・三	(一)一五・一	(一)六・五	(一)一九・二
二月	〇・八	(一)七・一	〇・〇	(一)七・六	(一)二・三	(一)一三・七	(一)三・六	(一)一七・二
三月	五・二	(一)二・二	五・五	(一)二・〇	四・二	(一)五・五	四・〇	(一)七・六
四月	一三・四	四・三	一三・七	五・〇	一三・七	三・一	一五・二	一・七
五月	一八・九	一〇・一	一九・七	一〇・九	二〇・七	一〇・一	二三・二	八・三
六月	二三・五	一五・八	二四・六	一六・五	二五・八	一六・五	二七・五	一五・一
七月	二六・一	一九・八	二六・五	二〇・四	二八・二	二〇・二	二九・六	一九・二
八月	二七・四	二一・〇	二七・八	二一・四	二八・六	一九・九	二八・八	一八・四
九月	二四・一	一六・二	二四・一	一六・二	二三・六	一三・九	二三・七	一〇・二
十月	一八・三	九・八	一八・〇	九・五	一五・八	五・四	一五・六	二・九
十一月	九・五	一・二	八・八	〇・八	五・七	(一)四・三	四・二	(一)七・三
十二月	二・八	(一)五・三	二・三	(一)五・九	(一)一・七	(一)一二・三	(一)三・七	(一)一六・一

長春 最高	(−)一〇・六	(−)六・〇	〇・三	一二・五	二〇・五	二四・七	二七・七	二七・〇	二一・二	一一・九	一・六	(−)九・〇
長春 最低	(−)二三・九	(−)一九・〇	(−)一一・二	(−)〇・二	六・七	一三・〇	一七・七	一六・七	七・九	(−)〇・二	(−)九・六	(−)二〇・三

（攝氏 (−)を附するは零度以下なり）

日支西曆對照

支那曆	日本曆	西曆
民國元年	大正元年	一九一二年
宣統元年	明治四十二年	一九〇九年
光緒元年	明治八年	一八七五年
同治元年	文久二年	一八六二年
咸豐元年	嘉永四年	一八五一年
道光元年	文政四年	一八二一年
嘉慶元年	寛政八年	一七九六年

日本曆と露曆とは一ヶ年に十三日の差あり則ち日本曆一月十四日は露曆一月一日なり

本書は大連市大山通り滿書堂書籍部に
定價金六拾錢にて發賣せしむることゝ
致候に付御希望の方は同店又は一般書
店に於て御購求被成下度候

大正六年一月十五日印刷
大正六年一月十八日發行
（非賣品）

南滿洲鐵道株式會社

大連市東公園町十七號地
印刷者　嶺田嘉三

大連市東公園町十七號地
印刷所　株式會社滿洲日日新聞社

Carbaroi

寫眞版表題中正誤

誤	正
大連歌舞技座	大連歌舞伎座
西本願寺關東別院	西本願寺關東別院
大石檣停車場	大石橋停車場
滿洲土人ノ高梁酒釀造	滿洲土人ノ高粱酒釀造
營口居留民市街	營口居留地市街
鈎魚臺ノ高勝	鈎魚臺ノ奇勝
鷄冠山墜道	鷄冠山隧道